
新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査 報告書

平成23年(2011年)3月
新宿区

【目次】

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
(1) 一般高齢者調査	3
(2) 居宅サービス利用者調査	5
(3) 第2号被保険者(40歳～64歳の方)調査	7
(4) ケアマネジャー調査	9
(5) 介護保険サービス事業所調査	10
(6) 回収結果	11
第2章 調査結果	13
I. 一般高齢者調査	14
1. ご本人のこと	14
(1) 性別	14
(2) 年齢	15
(3) 居住地	16
(4) 世帯構成	17
(4-1) 同居者の年齢	17
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況	18
(5) 職業	20
(6) 収入源	21
(7) 暮らし向き	21
(8) 世帯収入	22
2. 住まいのこと	23
(1) 居住年数・住居形態	23
(2) 住み替え意向	24
(3) 住まいで不便や不安を感じること	26
3. 健康状態	27
(1) 健康に関する認識	27
(2) 治療中の病気	27
(3) 受診している医療機関	29
(4) かかりつけ医	30
(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医	32
(6) 在宅療養等	34

4. 日ごろの生活	37
(1) 活動能力指標	37
(2) こころの健康状況	38
(3) 健康な生活を送るために心がけていること	40
(4) 外出	40
(5) 日常生活での困りごと	44
(6) 近所づきあいの程度	45
5. いきがいづくりや社会参加	46
(1) いきがい	46
(2) 地域活動やボランティア活動等の状況	48
6. 介護予防	54
(1) 介護予防についての関心	54
(2) 介護予防のために通ってみたい教室	55
7. 介護が必要になったときのこと	56
(1) 高齢者総合相談センターについての認知度	56
(2) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか	57
8. 介護保険制度	63
9. 認知症	65
(1) 記憶力等の変化	65
(2) 若年性認知症の認知度	68
(3) 認知症サポーター	68
(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと	70
10. 権利擁護	71
(1) 成年後見制度の認知度	71
(2) 新宿区成年後見センターの認知度	71
(3) 新宿区成年後見センターの利用意向	72
11. 緊急時の避難など	73
(1) 災害時にひとりで避難できるか	73
(2) 災害時要援護者登録名簿について	74
12. 情報入手	75
自由記述から	76
(参考) 地域別集計表	81

Ⅱ. 居宅サービス利用者調査	97
1. ご本人のこと	97
(1) 性別	97
(2) 年齢	97
(3) 居住地	98
(4) 世帯構成	99
(4-1) 同居者の年齢	99
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況	100
(5) 収入源	102
(6) 暮らし向き	102
(7) 世帯収入	103
2. 住まいのこと	104
(1) 居住年数・住居形態	104
(2) 住まいで不便や不安を感じる事	106
3. 日ごろの生活	107
(1) 近所づきあいの程度	107
4. いきがいづくりや社会参加	108
(1) いきがい	108
5. 要介護認定	109
(1) 要介護度	109
(2) 介護を要する要因	109
(3) 要介護認定申請の動機	111
6. 医療機関の受診等	112
(1) 治療中の病気	112
(2) 受診している医療機関	113
(3) 在宅医療に関する困りごと	114
(4) かかりつけ医	115
(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医	116
(6) こころの健康状況	118
7. 認知症	119
(1) 記憶力等の変化	119
(2) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと	122
8. 権利擁護	123
(1) 成年後見制度の認知度	123
(2) 新宿区成年後見センターの認知度	123
(3) 新宿区成年後見センターの利用意向	124

9. 介護保険サービスの利用状況と利用意向	125
(1) 介護保険サービスの利用状況等	125
(2) 現在利用しているサービス・満足度、今後新たに利用したいサービス	129
(3) 今後、今の住まいで暮らしたいか	132
(4) 在宅で暮らし続けるために必要なこと	135
(5) 高齢者総合相談センターについての認知度	137
10. 介護保険制度	138
11. 緊急時の避難など	140
(1) 災害時にひとりで避難できるか	140
(2) 災害時要援護者登録名簿について	141
12. 情報入手	142
13. 介護者のこと	143
(1) 性別	143
(2) 調査対象者（ご本人）との関係	143
(3) 年齢	144
(4) 介護期間	145
(5) 介護をされていて感じたこと	146
(6) 介護保険サービスを利用して良かったこと	149
(7) 介護者への支援として新宿区に力を入れてほしいこと	150
(8) ころの健康状況	151
(9) 調査対象者（ご本人）の認知症の有無、相談先	151
自由記述から	155
Ⅲ. 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査	159
1. ご本人のこと	159
(1) 性別	159
(2) 年齢	160
(3) 居住地	161
(4) 世帯構成	162
(5) 職業	163
(5-1) 勤務地	163
(6) 職業継続意向	164
(7) 暮らし向き	164
(8) 世帯収入	165
(9) 介護経験（身内）	165
(9-1) 介護をされていて感じたこと	166
2. 住まいのこと	167
(1) 居住年数	167
(2) 住居形態	167

3. 健康状態	168
(1) 健康に関する認識	168
(2) 健康な生活を送るために心がけていること	169
(3) 治療中の病気	170
(4) 受診している医療機関	172
(5) かかりつけ医	173
(6) 歯の状況・かかりつけ歯科医	175
(7) 在宅療養等	177
4. いきがいづくりや社会参加	180
(1) いきがい	180
(2) 地域活動やボランティア活動等の状況	181
5. 認知症	188
(1) 記憶力等の変化	188
(2) 若年性認知症の認知度	192
(3) 認知症サポーター	193
(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと	196
6. 権利擁護	197
(1) 成年後見制度の認知度	197
(2) 新宿区成年後見センターの認知度	197
(3) 新宿区成年後見センターの利用意向	198
7. 介護が必要になったときのこと	199
(1) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか	199
8. 介護保険制度	202
9. 情報や相談	204
(1) 区のホームページの閲覧状況	204
(2) 高齢者総合相談センターについての認知度	204
(3) 福祉や健康に関する情報入手手段	205
(4) 福祉に関する相談先	206
(5) 健康管理や病気に関する相談先	207
(6) 介護が必要になった場合に望む相談体制	208
自由記述から	209
IV. ケアマネジャー調査	213
1. 勤務先の事業所の概要	213
(1) 法人格	213
(2) 運営事業	213
(3) ケアマネジャー数	215

2. あなた（ケアマネジャー）ご本人のこと	216
(1) 性別	216
(2) 年齢	216
(3) 勤務形態	217
(4) 経験年数	217
(5) 資格	218
3. ケアマネジメントの状況について	219
(1) 担当利用者数	219
(2) アセスメントについて	220
(3) 高齢者総合相談センターとの連携	221
(4) 医療との連携	222
(5) 負担になっている業務	223
(6) 特養への入所申し込みケースについて、入所申し込みの理由	224
(7) ケアプランに組み込みにくいと思う介護保険のサービス	225
(8) 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと	227
4. ケアマネジャーの仕事について	228
5. スキルアップについて（研修）	229
6. 今後の意向について	231
7. 新宿区への要望について	234
V. 介護保険サービス事業所調査	241
1. 事業所の概要	241
(1) 指定を取得しているサービス	241
(2) 現在の事業体制での利用申込者への対応状況	242
(3) 経営状況	243
(4) 今後4年間（平成26年度まで）の新宿区内での事業規模の意向	244
(5) 法人格	245
(6) 法人の事業エリア	245
2. 今後の参入意向	246
(1) 小規模多機能型居宅介護への参入意向	246
(2) 「宿泊付デイサービス」への参入意向	247
(3) 「24時間地域巡回型訪問サービス」への参入意向	247
3. 新規人材の確保について	248
4. 人材の定着・育成（離職の防止）について	250

5. 収支状況・処遇改善	252
(1) 本年度（見込み）	252
(2) 昨年度との比較	252
(3) 処遇改善の取り組み	253
(4) 平成 21 年度介護職員処遇改善交付金の申請状況	254
(5) 平成 22 年度介護職員処遇改善交付金の申請状況	255
(6) 事業所の収支の向上や改善についての考え方	256
(7) 事業所の収支の向上や改善の取り組み	257
6. 高齢者総合相談センターとの連携	259
7. 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと	260
8. 新宿区への要望について	261

(参考資料) 調査票

<図表のみかた>

- ・ 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、N（Number of case）と表示しています。
- ・ %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合（例えば99.9%、100.1%）があります。
- ・ 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 複数回答の集計表については、全体結果の多い順に並んでいます。
- ・ 複数回答の集計表及びクロス集計表からは、無回答を除いています。

第1章

調査の概要

1. 調査の目的

2. 調査の概要

(1) 一般高齢者調査

(2) 居宅サービス利用者調査

(3) 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査

(4) ケアマネジャー調査

(5) 介護保険サービス事業所調査

(6) 回収結果

1 調査の目的

本調査は、平成24年度を初年度とする「新宿区高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画(平成24年度～26年度)」の策定にあたり、区民の健康や日ごろの生活状態、介護保険サービスの利用状況や利用意向等の実態を把握し計画策定のための基礎資料とする。

2 調査の概要

(1) 一般高齢者調査

- ① 調査対象
新宿区に居住する要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者 3,500人
- ② 抽出方法
無作為抽出
- ③ 調査方法
郵送法(郵送配布一郵送回収)/督促礼状1回送付
- ④ 調査期間
平成22年11月18日(木)～12月6日(月)
- ⑤ 調査項目

見出し	考え方	設問番号	設問項目
ご本人のこと	回答者の基本属性を把握する。	1～3	○性別 ○年齢 ○居住地域
	高齢者の社会的な孤立の状況を把握する。	4～4-4	○世帯構成および世帯人数(付問:同居者の年齢、家族との連絡頻度、手助けを頼める人の有無、手助けを頼める人は誰か)
	就労の状況や意欲を把握する。	5～5-1	○職業(付問:仕事についていない理由)
	収入源および世帯の年間収入を把握する。	6、8	○本人の収入源 ○世帯の年収
	暮らしの状況を把握する。	7	○暮らし向き
住まいのこと	住まいの状況を把握するとともに、住まいでの不便などから課題を探る。	9～13	○居住年数 ○住居形態 ○居住階数(付問:エレベータの有無) ○住み替え意向(付問:住み替え先) ○住まいで不便や不安を感じること
健康状態	健康状態を把握する。	14～15-3	○健康に関する認識(主観的健康観) ○治療中の病気の有無(付問:治療中の病気の種類、受診している医療機関、大学病院等を受診している理由)
	かかりつけ医やかかりつけ歯科医に関する状況把握とともに普及・啓発を図る。	16～20	○かかりつけ医の有無 ○かかりつけ医の必要性 ○1年以内の歯科受診(付問:受診している歯科医療機関) ○歯や口、入れ歯の状態 ○かかりつけ歯科医の有無
	在宅療養の意向や実現の可能性、不安なこと等を詳細に把握する。	21～24	○在宅療養の希望 ○在宅療養を難しくする要因 ○緩和ケアの認知度 ○療養が必要になった場合の療養場所
日ごろの生活	高齢者の心身機能を点数化して評価し、高齢者の活動能力を把握する。	25、26	○活動能力指標(老研式13項目) こころの健康状況 ○健康意識、行動

日ごろの生活	外出回数や外出に際して不便に感じることを把握する	27~30	<ul style="list-style-type: none"> ○外出回数 ○外出回数の増減（対昨年） ○外出理由 ○外出の際不便に感じることを
	日常生活における困りごとや地域とのつながりに関する意識を把握する。	31~33	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活での困りごと ○近所づきあいの程度 ○地域とのつながりの必要性
いきがいくつくりや社会参加	興味のある地域活動やボランティア活動など参加の有無等を把握する。	34~35-5	<ul style="list-style-type: none"> ○いきがいを感ずること ○地域活動等の状況（付問：現在していない理由、したことがない理由） ○興味のある地域活動等 ○地域活動等への取り組み意向 ○参加しやすい地域活動等の形態
介護予防	介護予防への関心や区が実施している介護予防教室への参加意向を把握する。	36、37	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防に関する関心 ○参加したい介護予防教室
介護が必要になったときのこと	高齢者総合相談センターの認知度や機能などを知っているか把握する。	38-1~ 38-3	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者総合相談センターの名称の認知度 ○高齢者総合相談センターの機能の認知度 ○高齢者総合相談センターの場所の認知度
	在宅で暮らし続けることの希望および在宅で暮らし続けるために必要なことを把握する。	39~40	<ul style="list-style-type: none"> ○介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか（付問：施設等に入居したい理由） ○在宅で暮らし続けるために必要なこと
介護保険制度	保険サービスと保険料の負担についての考えを把握する。	41	<ul style="list-style-type: none"> ○保険サービスと保険料についての考え
認知症	認知症に関する理解の促進や、認知症サポーターの普及・啓発を図る。	42~46	<ul style="list-style-type: none"> ○記憶力等の変化（付問：記憶力等の低下についての相談有無、相談先、相談しない理由） ○若年性認知症の認知度 ○認知症サポーターの認知度 ○認知症サポーター養成講座の受講意向 ○認知症の早期発見、対応に必要なこと
権利擁護	成年後見制度の認知度や区の成年後見センターの認知度と利用意向を把握する。	47~49	<ul style="list-style-type: none"> ○成年後見制度の認知度 ○新宿区成年後見センターの認知度 ○新宿区成年後見センターの利用意向
緊急時の避難など	安心して生活を送るために、防災は重要な視点であることから、区の制度の周知を図るとともに、災害発生時の意識等を把握する。	50~52	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時にひとりで避難できるか（付問：避難できない理由） ○災害時要援護者登録名簿の認知度 ○災害時の対応として事前の情報登録への意向
情報入手	健康や福祉サービスに関する情報入手手段を把握する。	53	<ul style="list-style-type: none"> ○健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

(2) 居宅サービス利用者調査

- ① 調査対象
要支援・要介護認定を受けている居宅サービス利用者 1,500人
- ② 抽出方法
無作為抽出
- ③ 調査方法
郵送法（郵送配布—郵送回収）/督促礼状1回送付
- ④ 調査期間
平成22年11月18日(木)～12月6日(月)
- ⑤ 調査項目

見出し	考え方	設問番号	設問項目
ご本人のこと	回答者の基本属性を把握する。	1～3	○性別 ○年齢 ○居住地域
	居宅サービス利用者の社会的な孤立の状況を把握する。	4～4-4	○世帯構成および世帯人数(付問：同居者の年齢、家族との連絡頻度、手助けを頼める人の有無、手助けを頼める人は誰か)
	収入源および世帯の年間収入を把握する。	5、7	○本人の収入源 ○世帯の年収
	暮らしの状況を把握する。	6	○暮らし向き
住まいのこと	住まいの状況を把握するとともに、住まいでの不便などから課題を探る。	8～11	○居住年数 ○住居形態 ○居住階数（付問：エレベータの有無） ○住まいで不便や不安を感じる事
日ごろの生活	地域とのつながりに関する意識を把握する。	12、13	○近所づきあいの程度 ○地域とのつながりの必要性
いきがいきづくりや社会参加	いきがいをしていることを把握する。	14	○いきがいを感ずること
要介護認定	介護認定申請の動機について把握する。	15～17	○要介護度 ○介護を要する要因 ○要介護認定申請の動機
医療機関の受診等	健康状態を把握する。	18～18-4	○治療中の病気の有無（付問：治療中の病気の種類、受診している医療機関、大病院等を受診している理由、在宅医療に関する困りごと）
	かかりつけ医やかかりつけ歯科医に関する状況把握とともに普及・啓発を図る。	19～23	○かかりつけ医の有無 ○かかりつけ医の必要性 ○1年以内の歯科受診（付問：受診している歯科医療機関） ○歯や口、入れ歯の状態 ○かかりつけ歯科医の有無
	こころの健康状況を把握する。	24	○こころの健康状況
認知症	認知症に関する理解の促進を図る。	25～26	○記憶力の変化（付問：記憶力等の低下についての相談有無、相談先、相談していない理由） ○認知症の早期発見・早期対応に必要なこと
権利擁護	成年後見制度の認知度や区の成年後見センターの認知度と利用意向を把握する。	27～29	○成年後見制度の認知度 ○新宿区成年後見センターの認知度 ○新宿区成年後見センターの利用意向

介護サービスの利用状況と利用意向など	介護保険サービス利用の状況と意向を把握する。	30～30-3	<input type="checkbox"/> 介護保険サービスの利用有無 <input type="checkbox"/> サービス利用後の状況の変化 <input type="checkbox"/> サービスを利用していない理由 <input type="checkbox"/> 利用しているサービス、満足度、新たに利用したいサービス
	在宅で暮らし続けることの希望および在宅で暮らし続けるために必要なことを把握する。	31～32	<input type="checkbox"/> これからも今の住まいで暮らしたいか（付問：施設等に入居したい理由） <input type="checkbox"/> 在宅で暮らし続けるために必要なこと
	高齢者総合相談センターの認知度や機能などを知っているか把握する。	33-1～ 33-3	<input type="checkbox"/> 高齢者総合相談センターの名称の認知度 <input type="checkbox"/> 高齢者総合相談センターの機能の認知度 <input type="checkbox"/> 高齢者総合相談センターの場所の認知度
介護保険制度	保険サービスと保険料の負担についての考えを把握する。	34	<input type="checkbox"/> 保険サービスと保険料についての考え
緊急時の避難など	安心して生活を送るために、防災は重要な視点であることから、区の制度の周知を図るとともに、災害発生時の意識等を把握する。	35～37	<input type="checkbox"/> 災害時にひとりで避難できるか（付問：避難できない理由） <input type="checkbox"/> 災害時要援護者登録名簿の認知度 <input type="checkbox"/> 災害時の対応として事前の情報登録への意向
情報入手	健康や福祉サービスに関する情報入手手段を把握する。	38	<input type="checkbox"/> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段
介護者	介護者の基本属性を把握する。	39～42	<input type="checkbox"/> 介護者の性別 <input type="checkbox"/> 介護者と調査対象者との関係 <input type="checkbox"/> 介護者の年齢 <input type="checkbox"/> 介護期間
	介護を通じて感じた事項を把握する。	43～45	<input type="checkbox"/> 介護をしていて感じたこと <input type="checkbox"/> サービスを利用して良かったこと（付問：相談相手） <input type="checkbox"/> 介護者への支援として新宿区に力を入れてほしいこと
	介護者のこころの健康状況を把握する。	46	<input type="checkbox"/> こころの健康状況
	認知症に関する理解促進を図る。	47、47-1	<input type="checkbox"/> 調査対象者の認知症の有無（付問：認知症介護での相談相手）

(3) 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査

- ① 調査対象
新宿区に居住する第2号被保険者（40歳以上 65歳未満） 1,500人
- ② 抽出方法
無作為抽出
- ③ 調査方法
郵送法（郵送配布—郵送回収）/督促礼状1回送付
- ④ 調査期間
平成22年11月18日(木)～12月6日(月)
- ⑤ 調査項目

見出し	考え方	設問番号	設問項目
ご本人のこと	回答者の基本属性を把握する。	1～4	○性別 ○年齢 ○居住地域 ○世帯構成および世帯人数
	就労の状況や意欲を把握する。	5～6	○職業（付問：勤務地） ○職業継続意向
	暮らしの状況を把握する。	7、8	○暮らし向き ○世帯の年収
	介護の経験を把握する。	9、9-1	○高齢者の介護経験の有無（付問： 介護をしていて感じたこと
住まいのこと	現在の住まいの状況を把握する。	10、11	○居住年数 ○居住形態
健康状態	健康状態を把握する。	12～14-3	○健康に関する認識（主観的健康観） ○健康な生活を送るため心がけていること ○治療中の病気の有無（付問：治療中の病 気の種類、受診している医療機関、大学 病院等を受診している理由）
	かかりつけ医やかかりつけ歯科医に関する状況把握とともに普及・啓発を図る。	15～19	○かかりつけ医の有無 ○かかりつけ医の必要性 ○1年以内の歯科受診（付問：受診してい る歯科医療機関） ○歯や口、入れ歯の状態 ○かかりつけ歯科医の有無
	在宅療養の意向や実現の可能性、不安なこと等を詳細に把握する。	20～23	○在宅療養の希望 ○在宅療養を難しくする要因 ○緩和ケアの認知度 ○療養が必要になった場合の療養場所
いきがいつくりや社会参加	いきがい、興味のある地域活動やボランティア活動など参加の有無等、特技や資格を把握する。	24～26	○いきがいを感じること ○地域活動の状況（付問：現在していない理由、したことがない理由） ○興味のある地域活動等 ○地域活動等への取り組み意向 ○参加しやすい地域活動等の形態 ○地域活動等に活かしたい特技、資格等
認知症	認知症に関する理解の促進や、認知症サポーターの普及・啓発を図る。	27～31	○記憶力等の変化（付問：記憶力等の低下 についての相談有無、相談先、相談して いない理由） ○若年性認知症の認知度 ○認知症サポーターの認知度 ○認知症サポーター養成講座の受講意向 ○認知症の早期発見、対応に必要なこと
権利擁護	成年後見制度の認知度や区の成年後見センターの認知度と利用意向を把握する。	32～34	○成年後見制度の認知度 ○新宿区成年後見センターの認知度 ○新宿区成年後見センターの利用意向
介護が必要になったときのこと	在宅で暮らし続けることの希望および在宅で暮らし続けるために必要なことを把握する。	35～36	○介護が必要になった場合、今の住まいで 暮らしたいか（付問：施設等に入居した い理由） ○在宅で暮らし続けるために必要なこと

介護保険制度	保険サービスと保険料の負担についての考えを把握する。	37	○保険サービスと保険料についての考え
情報や相談	新宿区のホームページの閲覧状況を把握する。	38	○新宿区のホームページ閲覧の有無
	高齢者総合相談センターの認知度や機能などを知っているか把握する。	39-1～ 39-3	○高齢者総合相談センターの名称の認知度 ○高齢者総合相談センターの機能の認知度 ○高齢者総合相談センターの場所の認知度
	福祉サービスや健康に関する情報入手手段を把握する。	40～43	○福祉や健康に関する情報入手手段 ○福祉に関する相談先 ○健康管理や病気に関する相談先 ○介護が必要になった場合に望む相談体制

(4) ケアマネジャー調査

- ① 調査対象
新宿区内の居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー 213人
- ② 抽出方法
悉皆
- ③ 調査方法
郵送法（郵送配布—郵送回収）
- ④ 調査期間
平成22年11月18日(木)～12月6日(月)
- ⑤ 調査項目

見出し	考え方	設問番号	設問項目
勤務先の事業所の概要	勤務先の事業所の実施している介護保険サービス内容等を把握する。	1～3	○事業所の組織 ○居宅介護支援事業以外の運営の有無 ○運営している介護保険サービス ○ケアマネジャーの人数
ご本人のこと	ケアマネジャーの基本属性を把握する。	4～8	○性別 ○年齢 ○勤務形態 ○ケアマネジャーの経験年数 ○介護支援専門員以外に取得している資格
ケアマネジメントの状況	ケアマネジメント業務を行うなかでの課題等を把握する。	9～16	○担当している利用者数 ○アセスメントの実施状況（付問：十分に実施できなかった理由） ○高齢者総合相談センターとの連携状況（付問：連携がとれない理由） ○医療との連携状況（付問：連携がとれない理由） ○ケアマネジメントで負担になっている業務 ○特養への入所申込みをしたケース ○ケアプランに組み込みにくい介護保険サービス ○要介護者が在宅で暮らし続けるために必要なこと
ケアマネジャーの仕事	ケアマネジャーの仕事についての考えを把握する。	17	○やりがい ○専門知識・技能の必要性 ○業務量 ○精神的ストレスの大きさ ○社会的評価 ○報酬と業務の釣り合い ○介護福祉士や社会福祉士の資格 ○独立性・中立性・公平性の確保
スキルアップ（研修）	スキルアップのための研修への参加状況を把握する。	18～18-3	○研修への参加有無（付問：スキルアップにつながった研修、研修の主催者、研修に参加しない理由）
今後の意向	ケアマネジャーの仕事に関する今後の継続意向等を把握する。	19～19-4	○ケアマネジャーの継続意向（付問：主任ケアマネジャーの資格取得希望、独立化の意向、ケアマネジャーを継続したくない理由）
新宿区への要望	保険者である新宿区への要望を把握する。	20	○新宿区への要望
	新宿区の高齢者支援策についての考えを把握する。	21	○新宿区の高齢者支援策に対する評価

(5)介護保険サービス事業所調査

- ① 調査対象
新宿区内の介護保険サービス事業所 191 所
- ② 抽出方法
悉皆
- ③ 調査方法
郵送法（郵送配布—郵送回収）
- ④ 調査期間
平成 22 年 11 月 18 日(木)～12 月 6 日(月)
- ⑤ 調査項目

見出し	考え方	設問番号	設問項目
事業所の概要	指定を受けている介護保険サービスの経営状況や今後の事業展開の意向等を把握する。	1、20、21	○指定を受けている介護保険サービス（付問：現在の事業体制での利用申込者への対応状況、経営状況、今後4年間の事業展開の意向） ○法人格 ○法人の事業エリア
今後の参入意向		2～4	○小規模多機能型居宅介護への参入意向（付問：参入の際の課題） ○宿泊付デイサービスへの参入意向 ○24時間地域巡回型訪問サービスへの参入意向
新規人材の確保について	人材の新規確保のための取り組みを把握する。	5	○新規人材確保のための取り組み
人材の定着、育成について	人材の育成等のための取り組みを把握する。	6	○人材の定着・育成のための取り組み
収支状況・処遇改善	収支状況および処遇改善に向けた取り組み等を把握する。	7～13	○本年度の収支見込み ○昨年度と比較した収支状況 ○介護従事者の処遇改善に向けた取り組みの実施有無（付問：実施後の効果） ○平成21年度介護職員処遇改善交付金の申請有無（付問：申請しない理由） ○平成22年度介護職員処遇改善交付金の申請有無（付問：申請しない理由） ○収支向上に関する考え ○収支向上等に向けた取り組み
高齢者総合相談センターとの連携	高齢者総合相談センターとの連携状況を把握する。	14	○高齢者総合相談センターとの連携状況（付問：連携がとれていない理由）
要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと	介護保険サービス事業所の立場から、要介護者が在宅で暮らし続けるために必要なことを把握する。	15	○要介護者が在宅で暮らし続けるために必要なこと
新宿区への要望	保険者である新宿区への要望を把握する。	16	○新宿区への要望
	新宿区の高齢者支援策についての考えを把握する。	17	○新宿区の高齢者支援策に対する評価

(6)回収結果

調査名	調査対象者数(配布数)	回収数	回収率(%)	
			今回	前回 (平成19年度)
一般高齢者調査	3,500	2,727	77.9	73.7
居宅サービス利用者調査	1,500	1,091	72.7	68.9
第2号被保険者調査	1,500	835	55.7	53.9
ケアマネジャー調査	213	151	70.9	55.0
介護保険サービス事業所調査	191	121	63.4	49.5
合計	6,904	4,925	71.3	64.4

第2章 調査結果

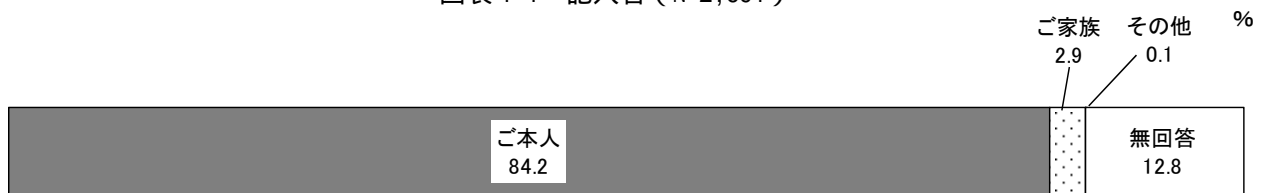
- I. 一般高齢者調査
- II. 居宅サービス利用者調査
- III. 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査
- IV. ケアマネジャー調査
- V. 介護保険サービス事業所調査

I. 一般高齢者調査

【調査票の記入者】

記入者は、「ご本人」が84.2%、「ご家族」が2.9%であった（図表 1-1）。

図表 1-1 記入者（N=2,691）



1. ご本人のこと

(1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性」が41.1%、「女性」が58.3%であった（図表 1-2）。

図表 1-2 性別（N=2,691）



(2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、「65歳～69歳（30.1%）」と「70歳～74歳（27.7%）」を合わせた前期高齢者が約6割、75歳以上の後期高齢者が約4割であった（図表1-3）（図表1-4）。

図表1-3 年齢（N=2,691）



図表1-4 年齢（性別）

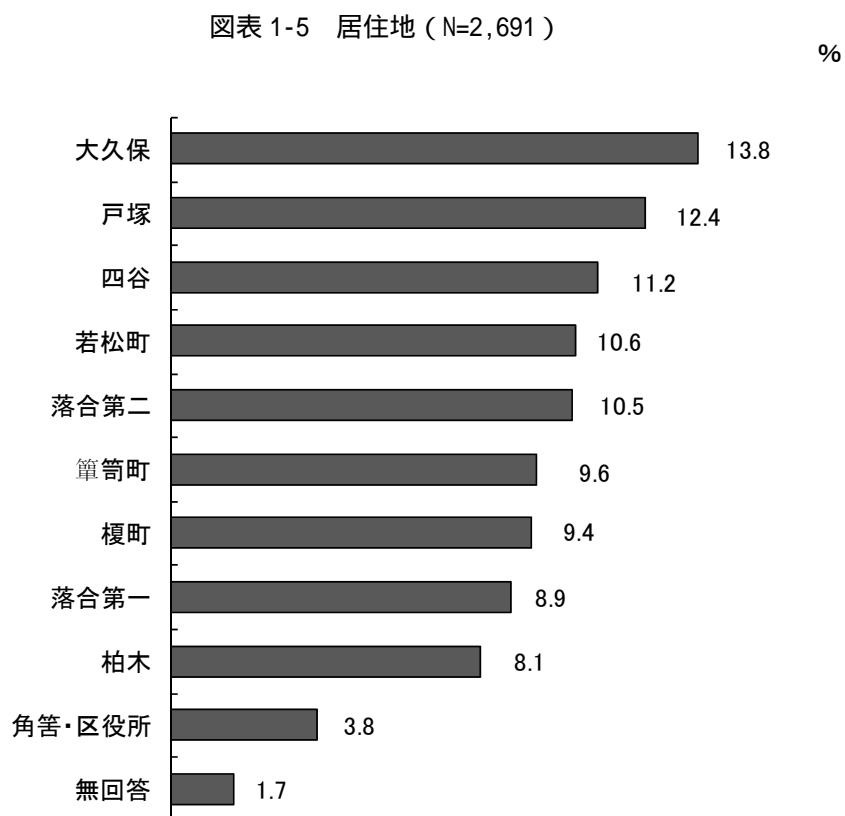
								(%)
		65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	合計
性別	男性 (N=1,102)	30.0	28.8	22.5	13.2	5.4	0.1	100.0
	女性 (N=1,553)	30.8	27.5	22.9	13.1	5.6	0.1	100.0

(3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「大久保（13.8%）」が最も多く、続いて「戸塚（12.4%）」、「四谷（11.2%）」の順であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（3.8%）」であった（図表 1-5）。



(4) 世帯構成

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

(あてはまる番号に1つ)

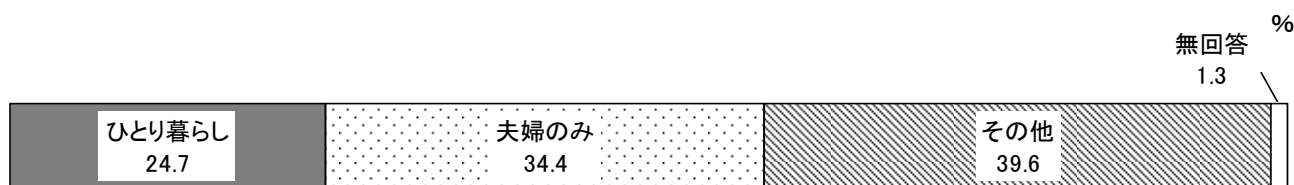
また、あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

世帯構成は、「ひとり暮らし」が24.7%、「夫婦のみ」が34.4%、「その他」が39.6%であった(図表1-6)。

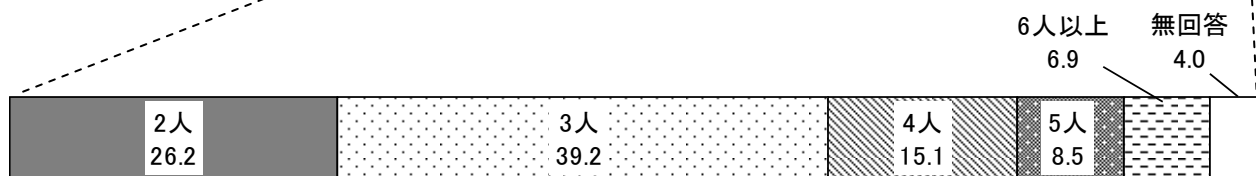
また、「その他」と答えた人に世帯の人数をたずねた。

「その他」の世帯人数は「3人(39.2%)」が最も多く、次いで「2人(26.2%)」であった(図表1-7)。

図表 1-6 世帯構成 (N=2,691)



図表 1-7 世帯人数 (N=1,022)



(4-1) 同居者の年齢

問4-1 同居されている方はおいくつですか？ (あてはまる番号に1つ)

「ひとり暮らし」以外の世帯における同居者の年齢について、「全員65歳以上である」世帯は、44.7%であった(図表1-8)。

(※ひとり暮らしと合わせた高齢者のみ世帯は、全体で57.7%であった)

図表 1-8 同居者の年齢 (N=1,992)



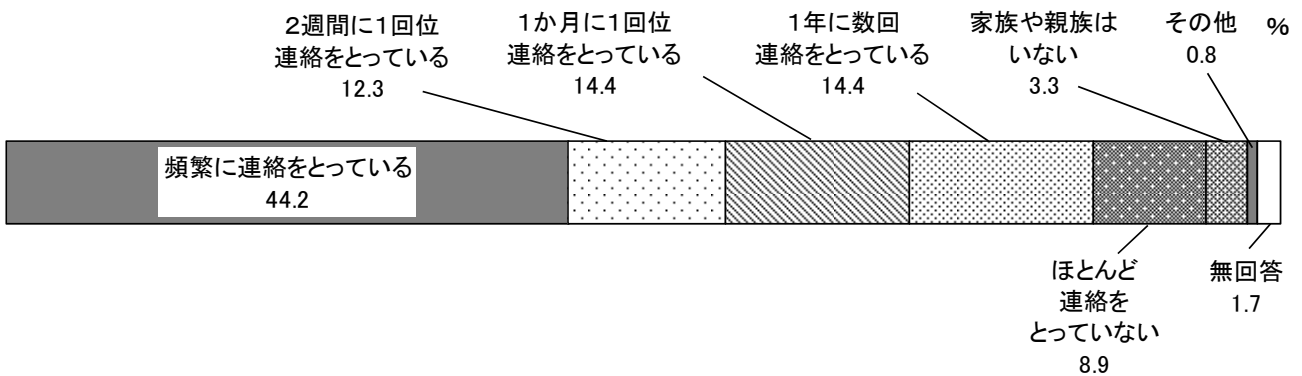
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況

問 4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？（あてはまる番号に1つ）

問4で「ひとり暮らし」と答えた人にたずねた。

家族や親族との連絡頻度についてみると、「頻繁に連絡をとっている（44.2%）」「2週間に1回位連絡をとっている（12.3%）」と回答した人を合わせると約6割であった。一方で「ほとんど連絡をとっていない」は8.9%、「家族や親族はいない」は3.3%であった（図表 1-9）。

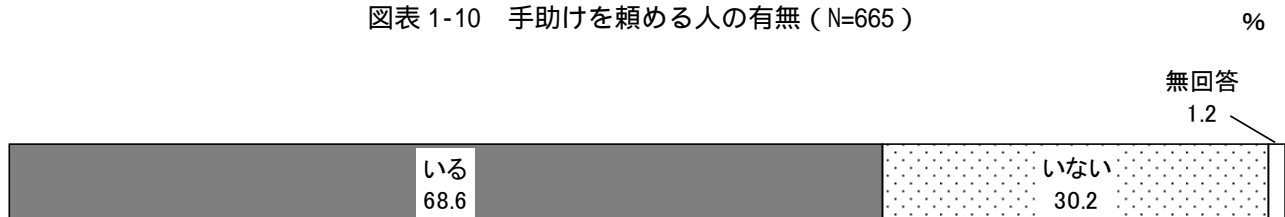
図表 1-9 家族や親族との連絡頻度（N=665）



問 4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所（30分以内程度の距離）に手助けを頼める人がいますか？（あてはまる番号に1つ）

ひとり暮らしの方で、普段の生活で困った時に近所に手助けを頼める人が「いる（68.6%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-10）。

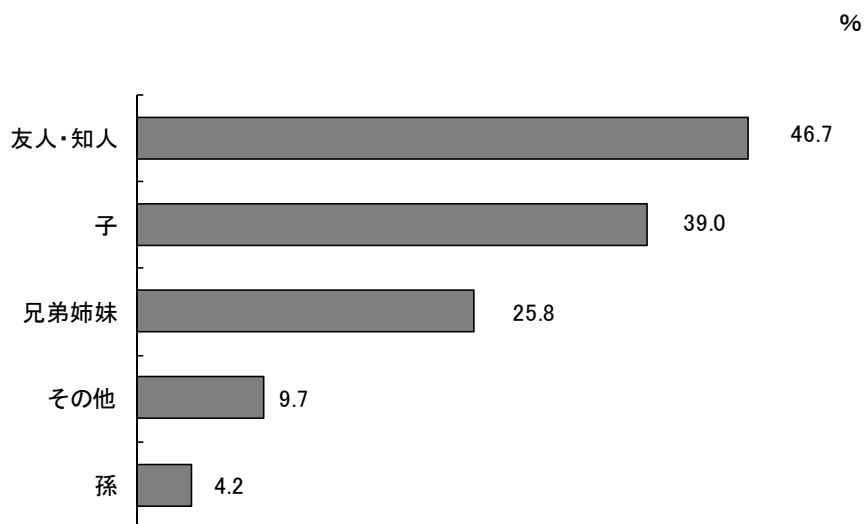
図表 1-10 手助けを頼める人の有無（N=665）



問 4-4 手助けを頼める人はどなたですか？（あてはまる番号すべてに）

手助けを頼める人は、「友人・知人（46.7%）」が最も多く、続いて「子（39.0%）」、「兄弟姉妹（25.8%）」の順であった（図表 1-11）。

図表 1-11 手助けを頼める人（複数回答）(N=454)

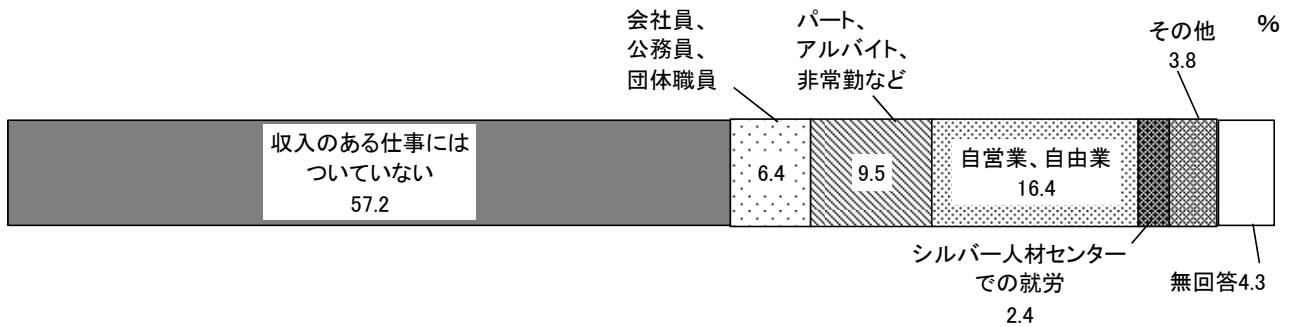


(5) 職業

問5 あなたは、収入のある仕事についていますか？（あてはまる番号に1つ）

職業について、「収入のある仕事にはついていない（57.2%）」と回答した人が約6割であった。一方収入のある仕事についている人では、「自営業・自由業（16.4%）」が最も多く、次いで「パート、アルバイト、非常勤など（9.5%）」であった（図表 1-12）。

図表 1-12 就労状況（N=2,691）



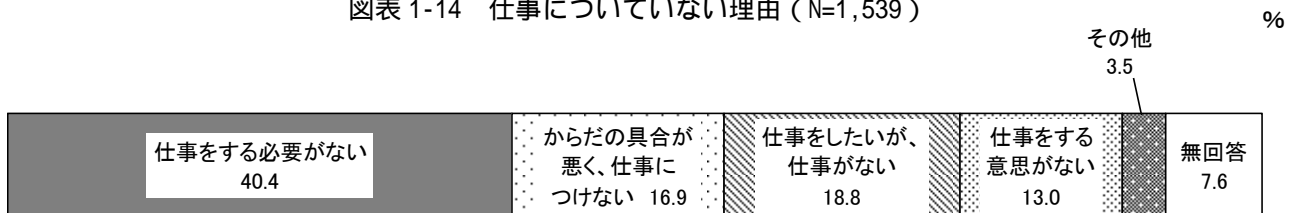
図表 1-13 就労状況（年齢別）

		収入のある仕事には	会社員・公務員・団体職員	パート・アルバイト・非常勤など	自営業・自由業	シルバー人材センターでの就労	その他	合計 (%)
年齢	65歳～69歳 (N=793)	46.3	10.7	16.9	21.1	2.0	3.0	100.0
	70歳～74歳 (N=723)	57.0	6.8	10.8	18.1	2.9	4.4	100.0
	75歳～79歳 (N=574)	71.3	4.0	4.7	13.6	3.1	3.3	100.0
	80歳～84歳 (N=325)	73.5	2.5	3.4	13.8	1.8	4.9	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	73.3	3.7	3.7	13.3	0.7	5.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問5-1 仕事についていない理由は何ですか？（あてはまる番号に1つ）

仕事についていない人にその理由をたずねたところ、「仕事をする必要がない（40.4%）」が最も多かった。一方「仕事をしたいが、仕事がない（18.8%）」という人は、約2割であった（図表 1-14）。

図表 1-14 仕事についていない理由（N=1,539）

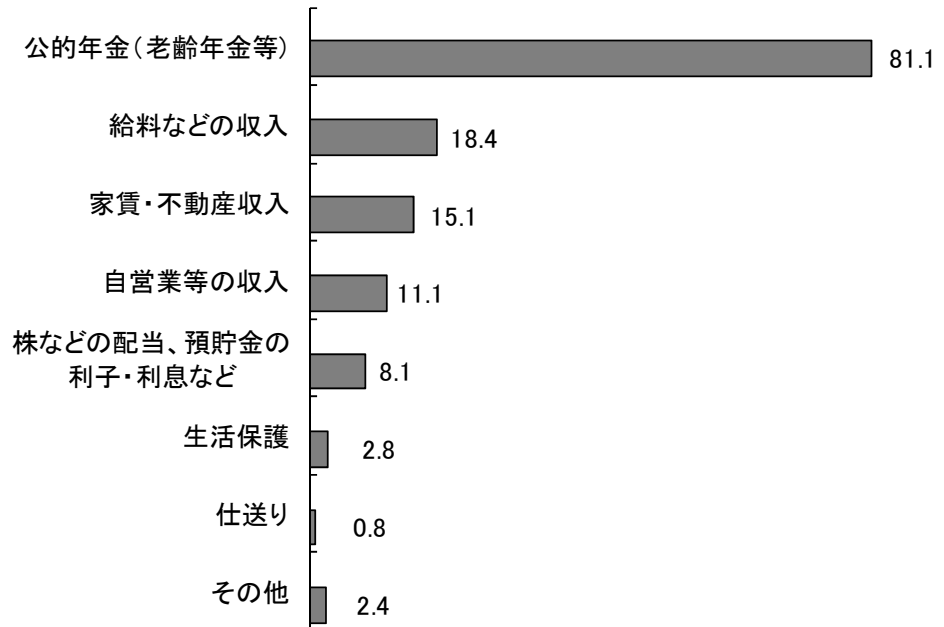


(6) 収入源

問6 あなたご本人の収入源はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

本人の収入源は、「公的年金（老齢年金等）（81.1%）」が約8割であった（図表1-15）。

図表1-15 収入源（複数回答）(N=2,620)

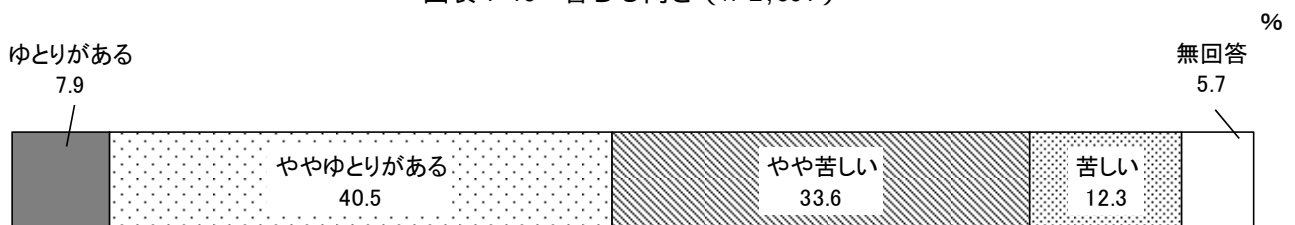


(7) 暮らし向き

問7 現在の暮らし向きはどうか？（あてはまる番号に1つ）

現在の暮らし向きは、「ややゆとりがある（40.5%）」と回答した人が最も多く、次いで「やや苦しい（33.6%）」であった（図表1-16）。

図表1-16 暮らし向き (N=2,691)

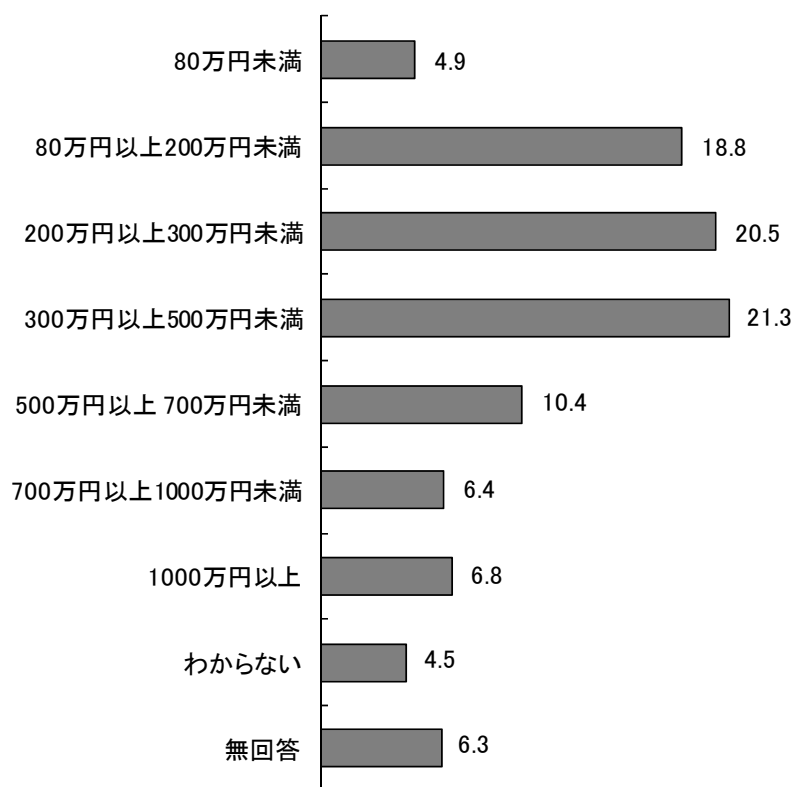


(8) 世帯収入

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか？
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は、「300万円以上500万円未満(21.3%)」が最も多く、次いで「200万円以上300万円未満(20.5%)」であった。また「80万円未満」は4.9%であった(図表1-17)。

図表 1-17 世帯年収 (N=2,691)



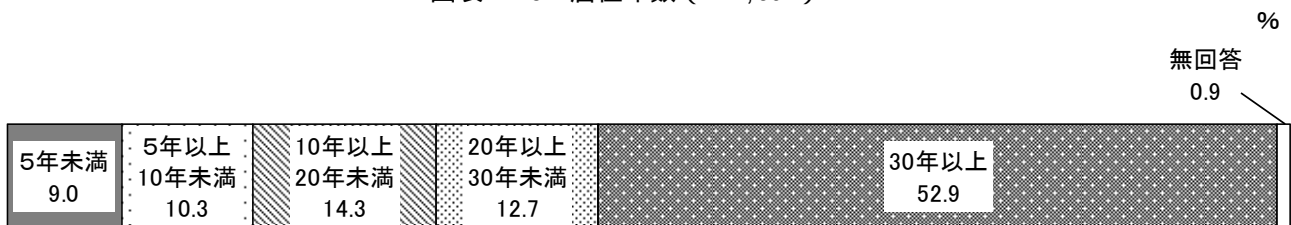
2. 住まいのこと

(1) 居住年数・住居形態

問9 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

居住年数は、「30年以上（52.9%）」が5割以上であった。一方「5年未満」は9.0%であった（図表1-18）。

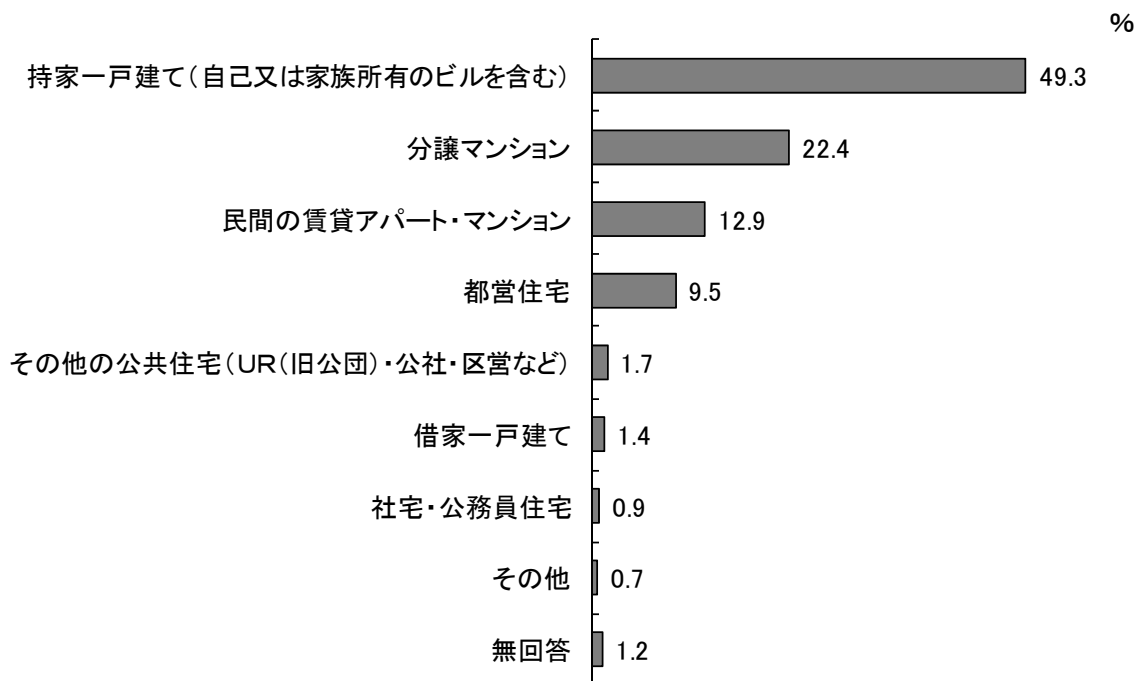
図表1-18 居住年数（N=2,691）



問10 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（49.3%）」と「分譲マンション（22.4%）」を合わせると、約7割であった。また「民間の賃貸アパート・マンション」は12.9%、「都営住宅」は9.5%であった（図表1-19）。

図表1-19 住居形態（N=2,691）

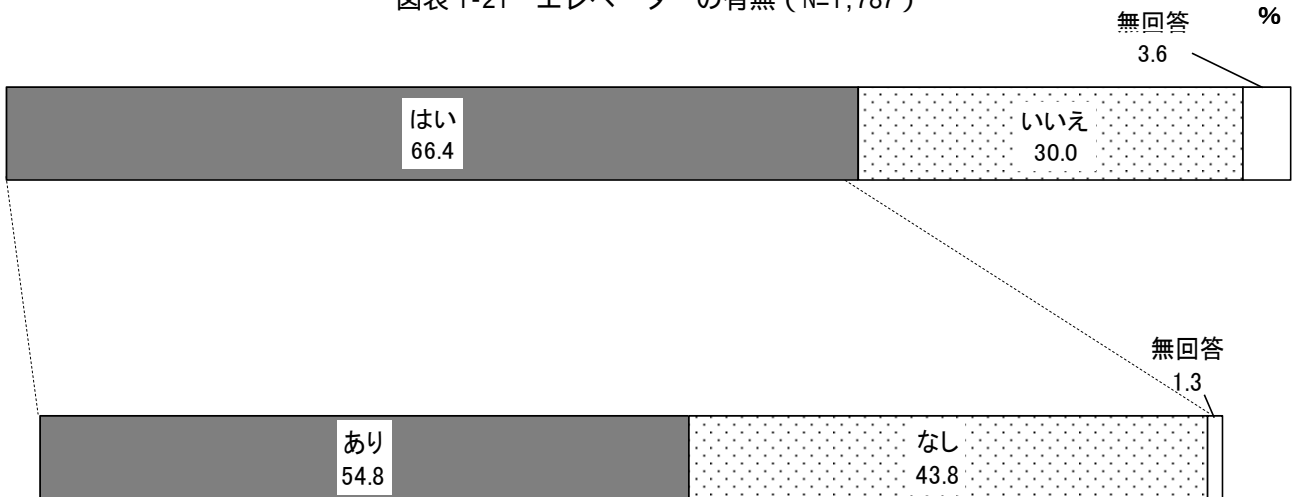


問 11 お住まい(主に生活する部屋)は、2階以上にありますか？(あてはまる番号に1つ)

住まいが「2階以上にある(66.4%)」と回答した人は約7割であった(図表1-20)。また2階以上に生活している人のうち「エレベーターがある」と回答した人は54.8%であった(図表1-21)。

図表 1-20 居室階数(2階以上にあるか)(N=2,691)

図表 1-21 エレベーターの有無(N=1,787)



(2) 住み替え意向

問 12 あなたは、現在のお住まいから住み替え(引っ越しを含む)をお考えですか？(あてはまる番号に1つ)

住み替えの意向について、「住み替えは考えていない(71.6%)」と回答した人は約7割であった。一方、「今すぐにも、住み替えをしたいと考えている(6.7%)」と回答した人は約7%であった(図表1-22)。

図表 1-22 住み替え意向(N=2,691)

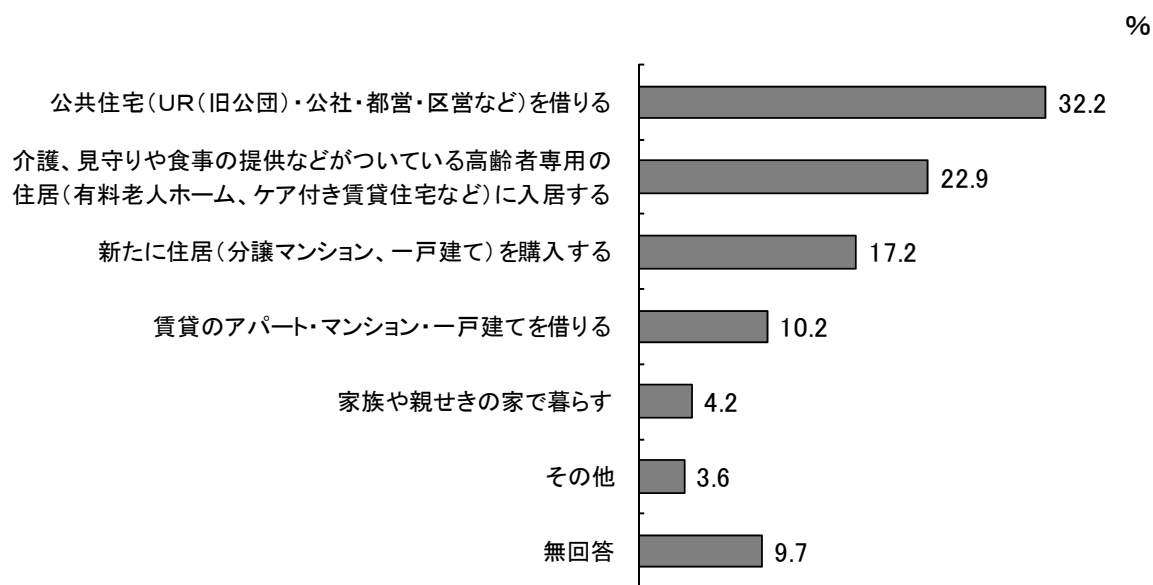


問 12-1 住み替え先として、どちらをお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

問 12 で、「今すぐにも、住み替えをしたいと考えている」「今のところ必要ないが、将来は住み替えを検討したいと思っている」と回答した人に、住み替え先をたずねた。

「公共住宅（32.2%）」が最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（22.9%）」であった。また、「新たに住居を購入する」は 17.2%であった（図表 1-23）。

図表 1-23 住み替え先（N=668）



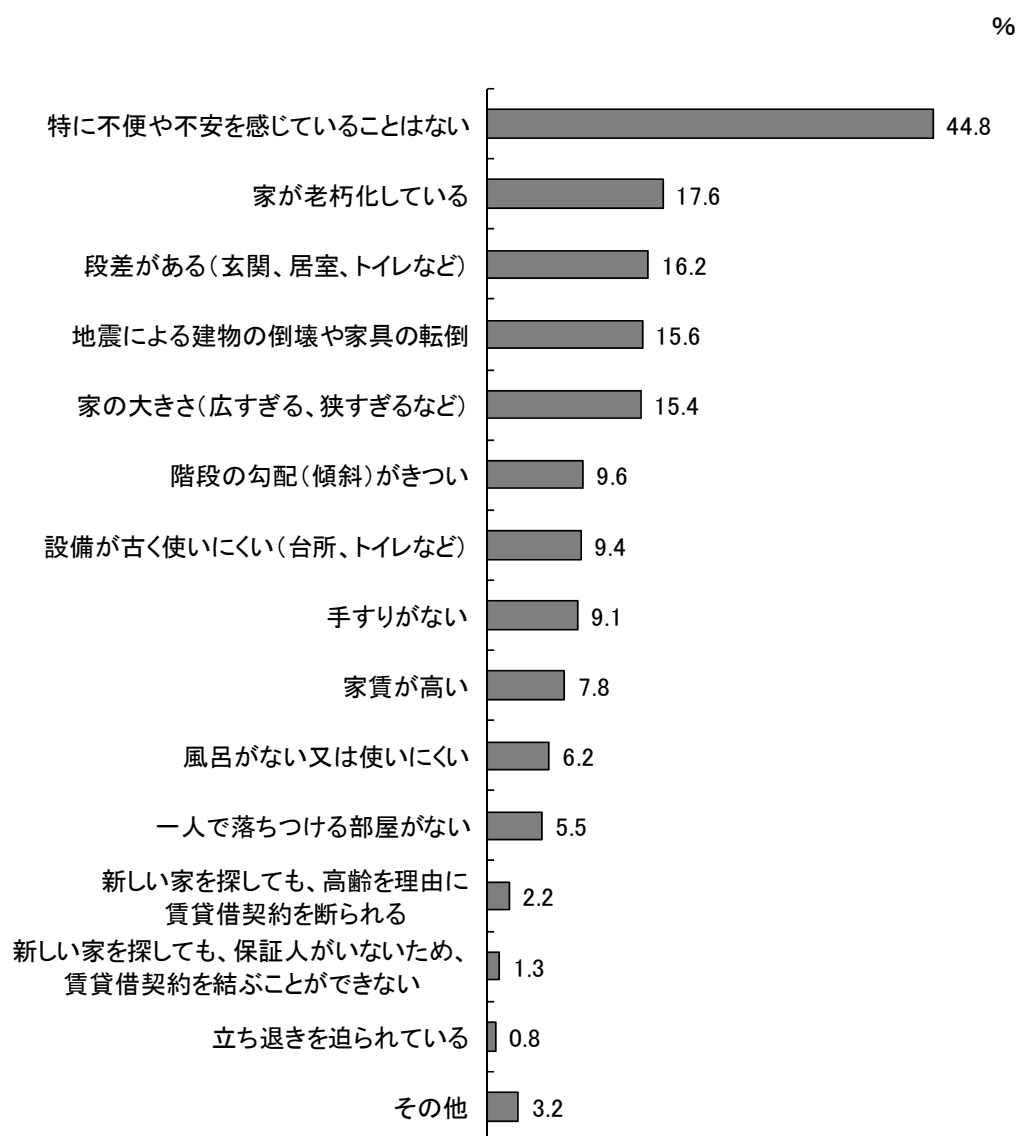
(3) 住まいで不便や不安を感じること

問 13 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

現在の住まいで不便や不安を感じていることをたずねた。

「特に不便や不安を感じていることはない(44.8%)」と回答した人は約 4 割であった。一方、不便や不安を感じることは、「家が老朽化している(17.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「段差がある(16.2%)」「地震による建物の倒壊や家具の転倒(15.6%)」「家の大きさ(15.4%)」の順であった。また、「新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる(2.2%)」「新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない(1.3%)」「立ち退きを迫られている(0.8%)」といった賃貸借の問題も、少数ながらあげられている(図表 1-24)。

図表 1-24 住まいで不便や不安を感じること(複数回答)(N=2,373)

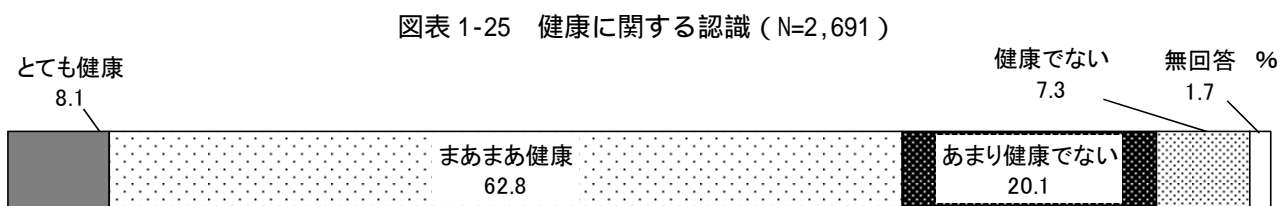


3. 健康状態

(1) 健康に関する認識

問 14 あなたは健康だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

自分が健康と思うか（主観的健康観）についてたずねた。「とても健康（8.1%）」「まあまあ健康（62.8%）」と回答した人は、合わせて約7割であった。一方、「あまり健康でない（20.1%）」「健康でない（7.3%）」と回答した人は、合わせて約3割であった（図表 1-25）。



(2) 治療中の病気

問 15 現在治療中の病気がありますか？（あてはまる番号に1つ）

治療中の病気が「ある（73.7%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-26）。

図表 1-26 治療中の病気の有無 (N=2,691)

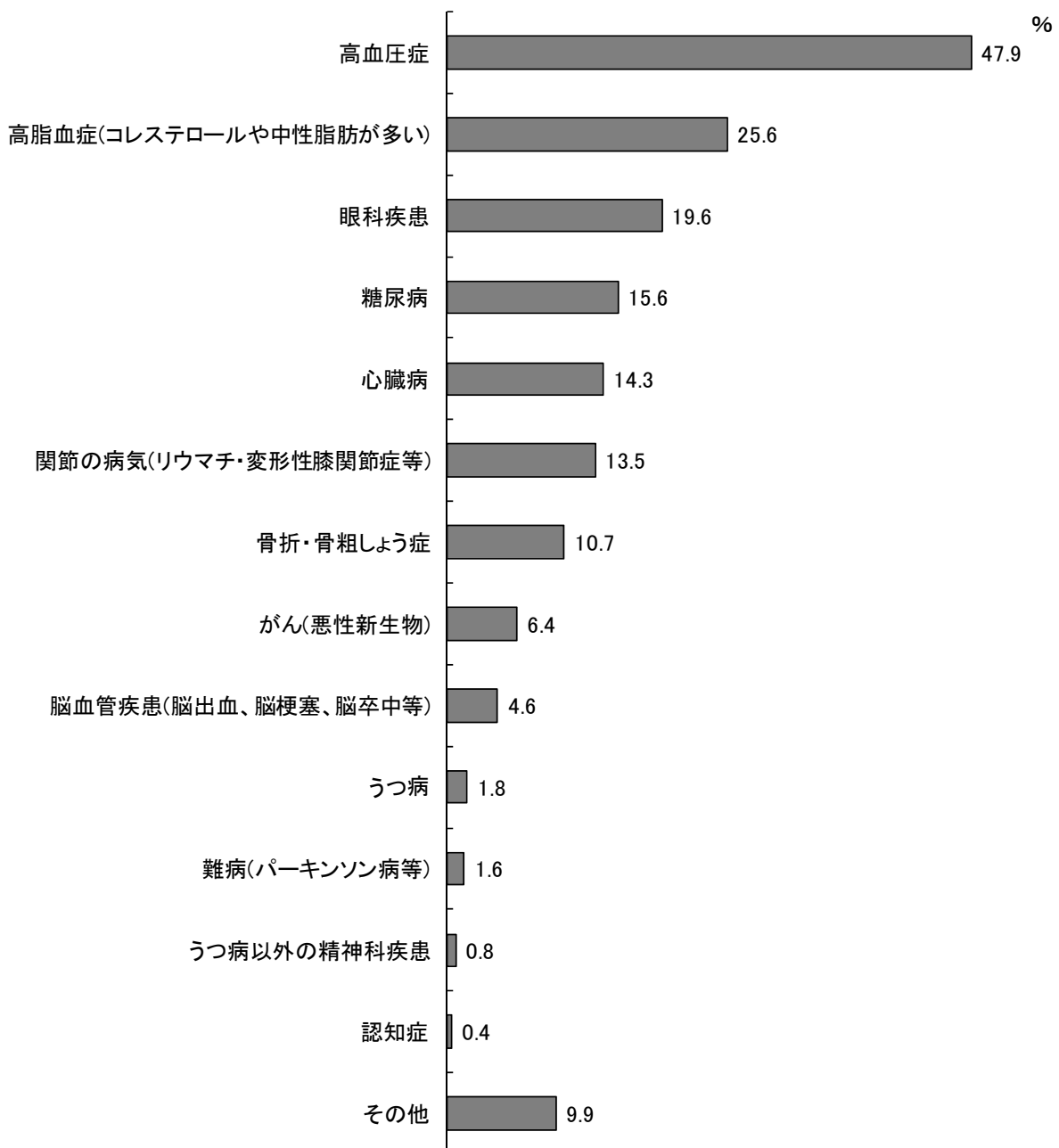


問 15-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 15 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

治療中の病気では、「高血圧症（47.9%）」が最も多く、続いて「高脂血症（コレステロールや中性脂肪が多い）（25.6%）」「眼科疾患（19.6%）」「糖尿病（15.6%）」「心臓病（14.3%）」「関節の病気（リウマチ・変形性膝関節症等）（13.5%）」「骨折・骨粗しょう症（10.7%）」の順であった（図表 1-27）。

図表 1-27 治療中の病気の種類（複数回答）(N=1,968)

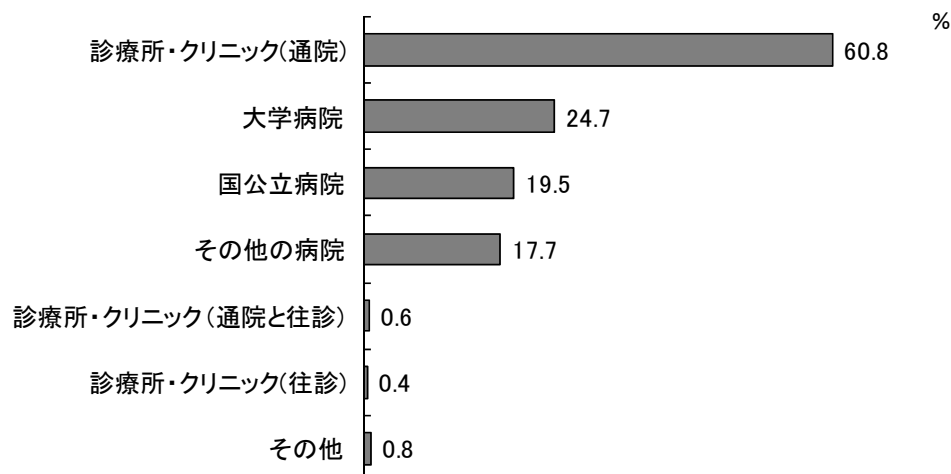


(3) 受診している医療機関

問 15-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 15 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。受診している医療機関では、「診療所・クリニック（通院）（60.8%）」が最も多く、続いて「大学病院（24.7%）」「国公立病院（19.5%）」の順であった（図表 1-28）。

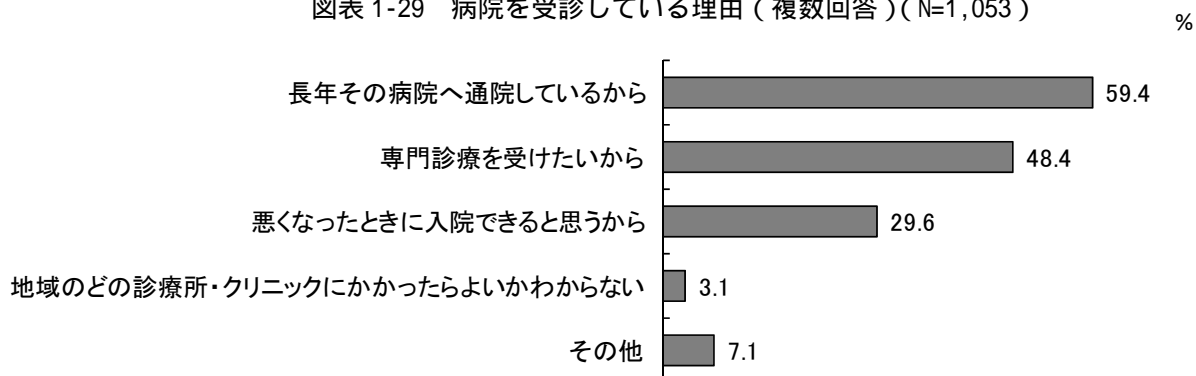
図表 1-28 受診している医療機関（複数回答）(N=1,947)



問 15-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

大学病院等を受診している理由では、「長年その病院へ通院しているから（59.4%）」と回答した人が最も多く、続いて「専門診療を受けたいから（48.4%）」「悪くなったときに入院できると思うから（29.6%）」の順であった（図表 1-29）。

図表 1-29 病院を受診している理由（複数回答）(N=1,053)



(4) かかりつけ医

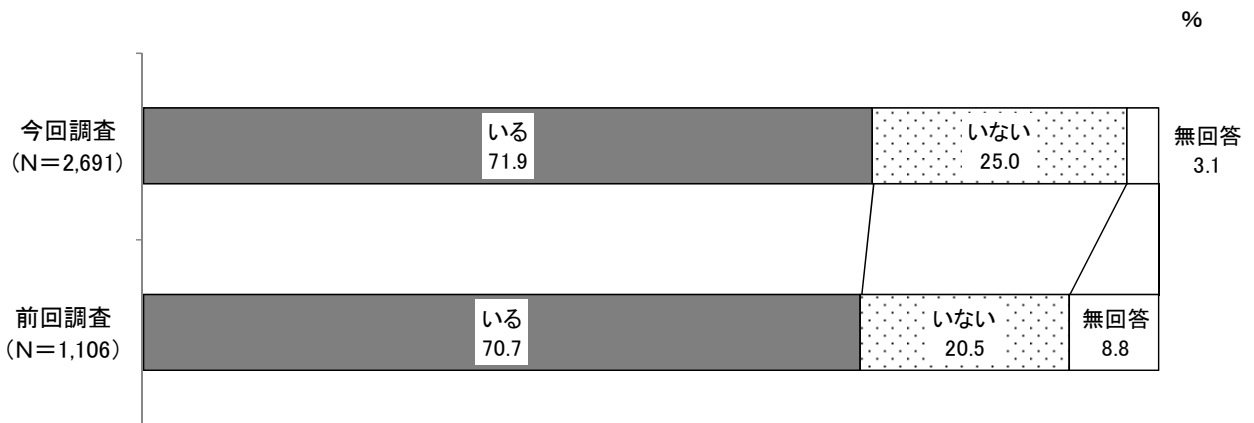
問 16 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医が「いる（71.9%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-30）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査時めかかりつけ医が「いる」と回答した人は 7 割を超えており、今回調査は平成 19 年度調査と比較し、1.2 ポイント増加した（図表 1-30）。

図表 1-30 かかりつけ医の有無



※ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。

年齢層別に平成 19 年度調査と比較すると、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、「70 歳から 74 歳（1.8 ポイント増）」、「80 歳から 84 歳（8.5 ポイント増）」、「85 歳から 89 歳（2.1 ポイント増）」で増加した。一方、かかりつけ医が「いない」と回答した人では、「65 歳から 69 歳（5.8 ポイント増）」と「70 歳から 74 歳（6.9 ポイント増）」の年齢層で大きく増加した。

また「75 歳から 79 歳（6.9 ポイント増）」の層では、「いる」と答えた方、「いない」と答えた方ともに数値に大きな変化は見られない（図表 1-31）。

図表 1-31 かかりつけ医の有無（年齢別・平成 19 年度調査との比較）

今回調査				平成19年度調査			
	いる	いない	無回答		いる	いない	無回答
65歳～69歳 (N=809)	63.8	34.7	1.5	65歳～69歳 (N=329)	65.3	28.9	5.8
70歳～74歳 (N=744)	70.2	28.2	1.6	70歳～74歳 (N=329)	68.4	21.3	10.3
75歳～79歳 (N=603)	78.9	17.1	4.0	75歳～79歳 (N=240)	78.8	15.0	6.3
80歳～84歳 (N=350)	80.6	14.0	5.4	80歳～84歳 (N=140)	72.1	13.6	14.3
85歳～89歳 (N=146)	80.8	12.3	6.8	85歳～89歳 (N=47)	78.7	14.9	6.4
90歳以上 (N=3)	66.7	33.3	0.0	90歳以上 (N=9)	88.9	0.0	11.1

図表 1-32 かかりつけ医の有無（年齢別 / 受診している医療機関別）

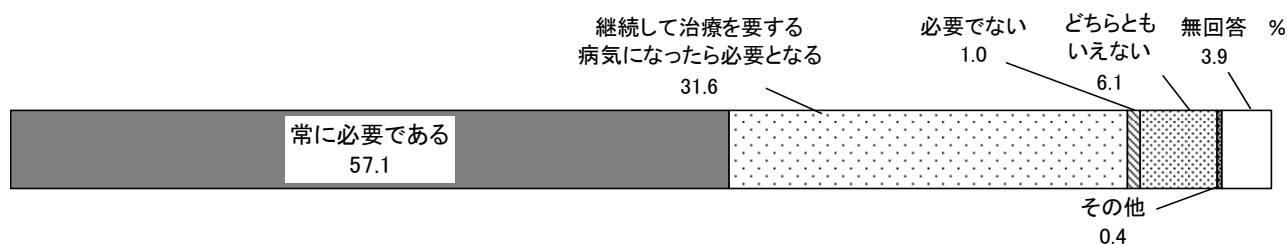
(%)

		いる	いない	合計
年 齢	65歳～69歳 (N=797)	64.7	35.3	100.0
	70歳～74歳 (N=732)	71.3	28.7	100.0
	75歳～79歳 (N=579)	82.2	17.8	100.0
	80歳～84歳 (N=331)	85.2	14.8	100.0
	85歳～89歳 (N=136)	86.8	13.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	66.7	33.3	100.0
受診している 医療機関	その他 (N=15)	80.0	20.0	100.0
	診療所・クリニック(通院) (N=1,166)	92.2	7.8	100.0
	診療所・クリニック(往診) (N=7)	100.0	0.0	100.0
	診療所・クリニック(通院と往診) (N=12)	91.7	8.3	100.0
	国公立病院 (N=371)	75.5	24.5	100.0
	大学病院 (N=464)	69.2	30.8	100.0
	その他の病院 (N=330)	73.6	26.4	100.0

問 17 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性では、「常に必要である（57.1%）」と回答した人が約6割、「継続して治療を要する病気になったら必要となる」と回答した人が31.6%であった（図表 1-33）。

図表 1-33 かかりつけ医の必要性（N=2,691）



(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 18 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内に歯科を「受診した（67.1%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-34）。

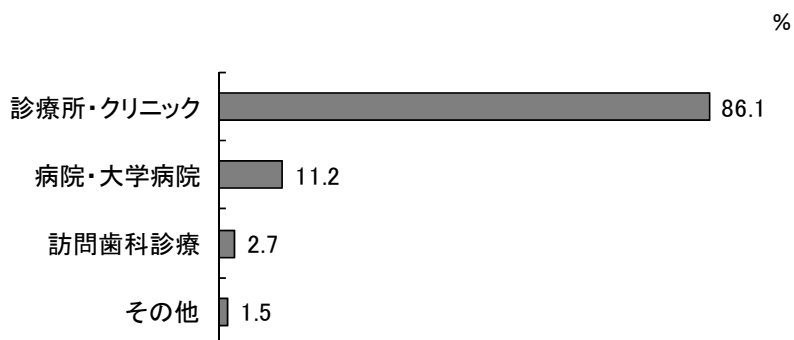
図表 1-34 1年以内の歯科受診の有無（N=2,691）



問 18-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1年以内に歯科を受診した人に、歯科医療機関の種類をたずねたところ、「診療所・クリニック（86.1%）」が約9割と最も多く、次に「病院・大学病院（11.2%）」であった（図表 1-35）。

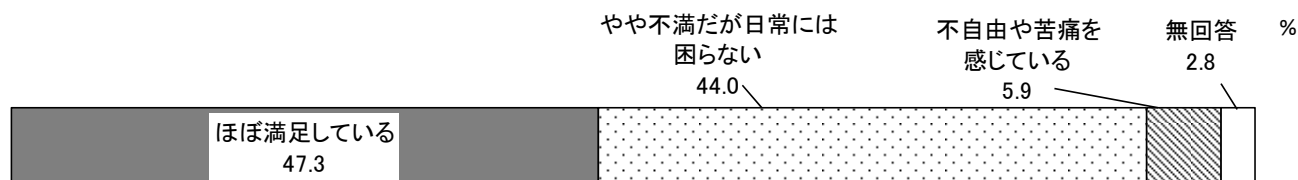
図表 1-35 受診した歯科医療機関（複数回答）（N=1,788）



問 19 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？
（あてはまる番号に1つ）

自分の歯や口、入れ歯の状態についてたずねたところ、「ほぼ満足している」と回答した人は47.3%、「やや不満だが日常生活には困らない」は44.0%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」と回答した人は5.9%であった（図表 1-36）。

図表 1-36 歯や口、入れ歯の状態（N=2,691）



問 20 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ歯科医の有無についてたずねたところ、「いる」と回答した人は75.2%、「いない」と回答した人は23.0%であった（図表 1-37）。

図表 1-37 かかりつけ歯科医の有無（N=2,691）



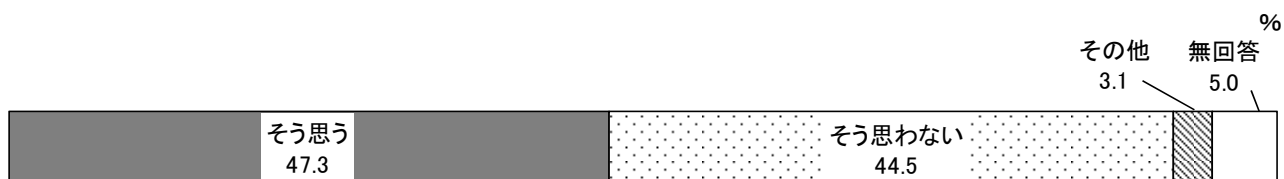
※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(6) 在宅療養等

問 21 「在宅療養」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいかについて、「そう思う（47.3%）」と回答した人と「そう思わない（44.5%）」と回答した人は、ほぼ半数の割合であった（図表 1-38）。

図表 1-38 在宅療養の希望（N=2,691）



図表 1-39 在宅療養の希望（年齢別）

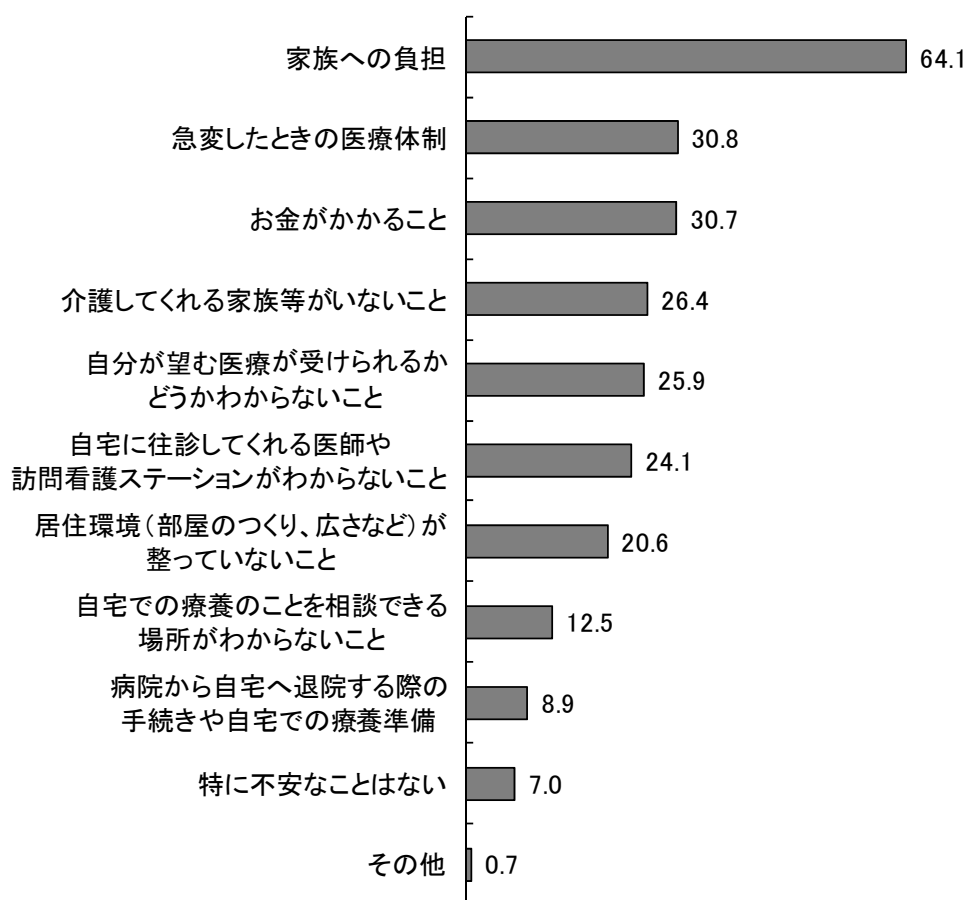
		そう思う	そう思わない	その他	合計
年齢	65歳～69歳 (N=787)	46.0	51.5	2.5	100.0
	70歳～74歳 (N=715)	48.5	48.3	3.2	100.0
	75歳～79歳 (N=569)	50.6	45.3	4.0	100.0
	80歳～84歳 (N=329)	56.5	38.9	4.6	100.0
	85歳～89歳 (N=128)	54.7	43.0	2.3	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	66.7	0.0	100.0

問 22 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか？
 (あてはまる番号すべてに)

在宅療養を難しくする要因では、「家族への負担(64.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「急変したときの医療体制(30.8%)」「お金がかかること(30.7%)」の順となっている(図表 1-40)。

図表 1-40 在宅療養の実現を難しくする要因(複数回答)(N=2,461)

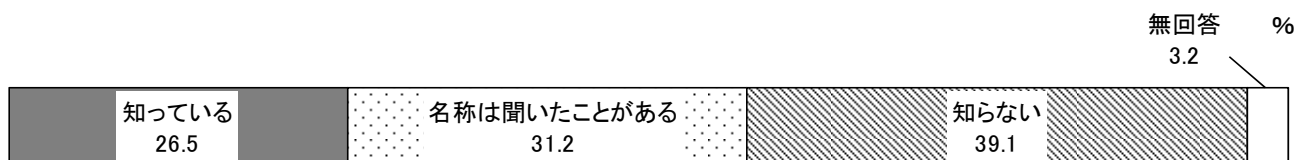
%



問 23 あなたは、「緩和ケア」について知っていますか？（あてはまる番号に1つ）

緩和ケアについて、「知っている」と回答した人は26.5%、「知らない」と回答した人は39.1%であった（図表 1-41）。

図表 1-41 緩和ケアの認知度（N=2,691）

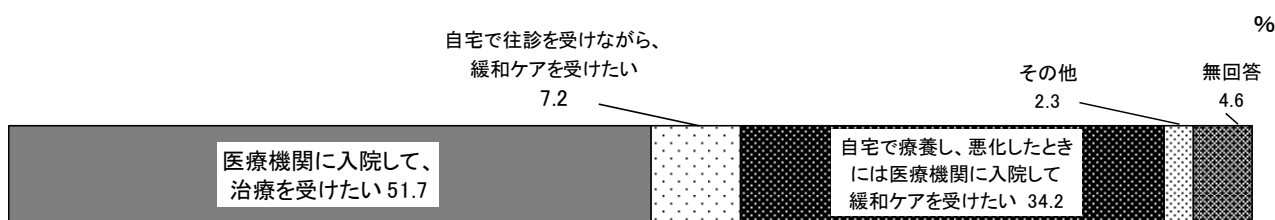


問 24 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどこがいいですか？（あてはまる番号に1つ）

末期がんなどで療養が必要になった場合に、希望する療養場所をたずねた。

「医療機関に入院して、治療を受けたい（51.7%）」と回答した人が5割を超えて最も多く、次いで「自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい（34.2%）」であった（図表 1-42）。

図表 1-42 療養場所（N=2,691）



4. 日ごろの生活

問 25 あなたの毎日の生活についておたずねします。

(あてはまる番号 1. はい 2. いいえ にそれぞれ をつけてください。)(N=2,691)

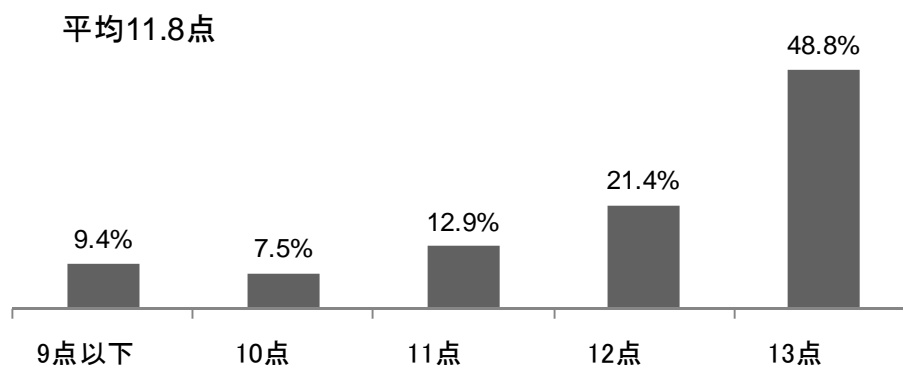
(1) 活動能力指標 (老研式 ※注)

	はい	いいえ	無回答
1. バスや電車を使って一人で外出できますか (自分で車を運転することも可)	93.6%	3.6%	2.7%
2. 日用品の買い物ができますか	95.8%	2.3%	1.9%
3. 自分で食事の用意ができますか	91.3%	6.8%	1.9%
4. 請求書の支払いができますか	95.2%	2.5%	2.2%
5. 預貯金の出し入れができますか	94.0%	3.9%	2.1%
6. 年金などの書類が書けますか	90.4%	5.4%	4.1%
7. 新聞を読んでいますか	89.5%	7.9%	2.6%
8. 本や雑誌を読んでいますか	83.8%	12.6%	3.5%
9. 健康についての記事や番組に関心がありますか	91.4%	6.0%	2.6%
10. 友人の家を訪ねることがありますか	63.7%	32.9%	3.4%
11. 家族や友人の相談にのることがありますか	81.0%	15.3%	3.7%
12. 病人を見舞うことができますか	89.0%	7.7%	3.3%
13. 若い人に自分から話しかけることができますか	80.5%	16.1%	3.5%

(※注) 東京都老人総合研究所において開発された、定評ある高齢者の活動能力指標です。老研式活動能力指標は、高齢者の高次の生活機能(IADL)を13項目から測定し、いわば、高齢者が地域で自立した生活を営んでいくための能力を把握するための「ものさし」です。

老研式活動能力指標にて心身機能について全国平均と比較してみると、新宿区の平均点は11.8点と全国平均10.8点を上回っており、日常生活機能の高い人が相対的に多いといえる(図表1-43)。

図表 1-43 活動能力指標 (老研式)(N=2,691)



※合計得点(「はい」を1点、「いいえ」を0点とする。13点満点)

(2) こころの健康状況

	はい	いいえ	無回答
14. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	16.6%	79.5%	3.9%
15. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが、 楽しめなくなった	13.8%	82.6%	3.6%
16. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今では おっくうに感じられる	37.3%	59.7%	3.0%
17. (ここ2週間) 自分は役に立つ人間だと思えない	17.8%	78.4%	3.8%
18. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	29.3%	67.4%	3.3%

5つの質問からこころの健康状況をみたところ、すべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が0個）は48.5%であった（図表1-44）。

図表1-44 こころの健康状況（14～18の項目で「はい」と答えた数の合計）

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	48.5	19.6	14.4	7.6	5.2	4.7

図表 1-45 こころの健康状況（14～18 全てに答えた「はい」の数）

（性別／年齢別／世帯構成別／暮らし向き別／健康に関する認識別／治療中の病気別／記憶力等の変化別）

(%)

		0個	1個	2個	3個	4個	5個	合計
性別	男性 (N=1,049)	47.1	21.2	13.0	7.6	5.9	5.2	100.0
	女性 (N=1,446)	49.7	18.4	15.4	7.7	4.6	4.2	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=782)	56.8	16.0	12.9	5.6	4.3	4.3	100.0
	70歳～74歳 (N=704)	51.7	17.5	13.6	8.1	5.1	4.0	100.0
	75歳～79歳 (N=559)	44.2	24.5	14.7	7.7	5.0	3.9	100.0
	80歳～84歳 (N=306)	37.9	21.6	17.3	9.2	7.5	6.5	100.0
	85歳～89歳 (N=125)	27.2	27.2	18.4	12.8	6.4	8.0	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	100.0
世帯構成	ひとり暮らし (N=607)	43.8	18.0	12.9	9.9	7.2	8.2	100.0
	夫婦のみ (N=867)	51.3	20.3	13.0	7.6	5.1	2.7	100.0
	その他 (N=1,006)	49.1	19.9	16.4	6.3	4.1	4.3	100.0
暮らし向き	ゆとりがある (N=209)	58.9	23.9	7.2	7.2	1.9	1.0	100.0
	ややゆとりがある (N=1,030)	56.4	20.8	12.6	5.2	3.0	1.9	100.0
	やや苦しい (N=848)	42.3	18.5	18.4	8.6	6.5	5.7	100.0
	苦しい (N=299)	31.1	16.7	14.7	13.4	10.7	13.4	100.0
健康に関する認識 (主観的健康観)	とても健康 (N=214)	80.8	9.8	6.5	0.9	1.4	0.5	100.0
	まあまあ健康 (N=1,588)	55.9	21.0	12.4	5.7	2.9	2.1	100.0
	あまり健康でない (N=492)	23.6	21.7	22.2	13.2	9.1	10.2	100.0
	健康でない (N=175)	14.3	13.1	20.6	15.4	20.0	16.6	100.0
治療中の病気	高血圧症 (N=876)	40.6	23.1	15.9	9.4	5.4	5.7	100.0
	高脂血症 (N=478)	41.0	24.1	15.5	6.9	7.1	5.4	100.0
	脳血管疾患 (N=80)	28.8	22.5	20.0	15.0	7.5	6.3	100.0
	心臓病 (N=258)	34.9	22.5	19.0	8.1	7.4	8.1	100.0
	がん(悪性新生物) (N=119)	27.7	14.3	25.2	10.9	13.4	8.4	100.0
	糖尿病 (N=287)	42.9	17.4	18.1	7.7	6.3	7.7	100.0
	骨折・骨粗しょう症 (N=198)	32.3	18.7	19.2	9.1	9.1	11.6	100.0
	関節の病気 (N=245)	31.4	20.8	20.4	11.4	9.0	6.9	100.0
	難病(パーキンソン病等) (N=30)	30.0	30.0	13.3	10.0	10.0	6.7	100.0
	眼科疾患 (N=361)	32.4	21.6	18.8	9.7	10.0	7.5	100.0
	認知症 (N=8)	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	100.0
	うつ病 (N=34)	11.8	8.8	20.6	20.6	11.8	26.5	100.0
	うつ病以外の精神科疾患 (N=14)	7.1	28.6	42.9	7.1	7.1	7.1	100.0
	その他 (N=185)	47.6	16.2	18.4	6.5	6.5	4.9	100.0
記憶力等の変化	ある (N=910)	29.3	21.5	18.8	12.7	9.6	8.0	100.0
	ない (N=1,537)	60.5	18.4	11.7	4.4	2.5	2.4	100.0

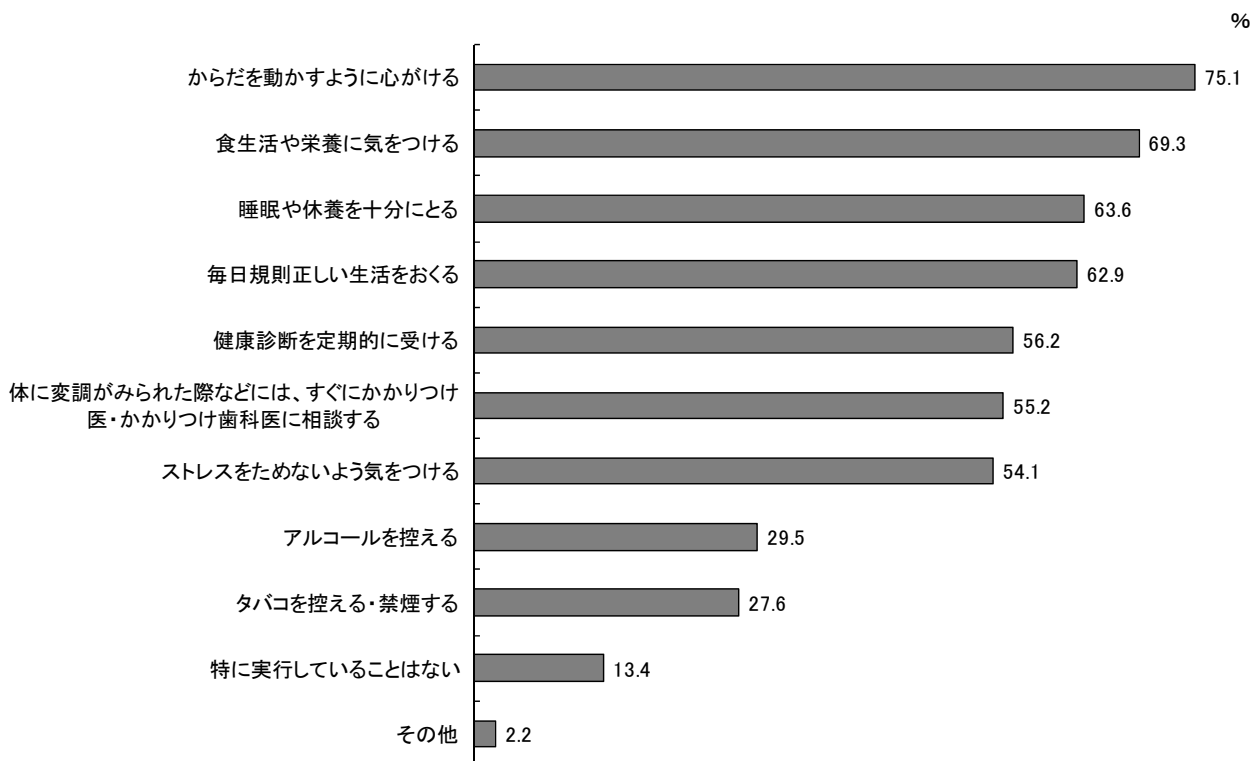
(3) 健康な生活を送るために心がけていること

問 26 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることでは、「からだを動かすように心がける (75.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「食生活や栄養に気をつける (69.3%)」「睡眠や休養を十分にとる (63.6%)」の順であった。

一方、「特に実行していることはない」という人は、13.4%であった (図表 1-46)。

図表 1-46 健康な生活を送るために心がけていること (複数回答) (N=2,666)

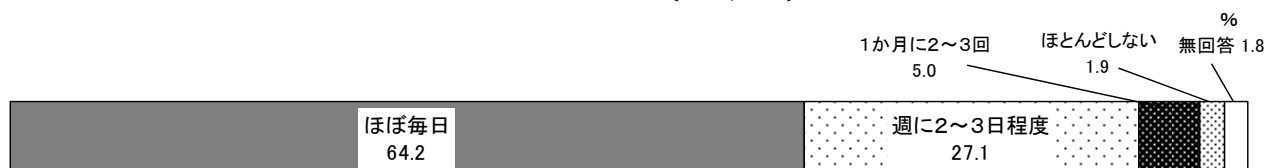


(4) 外出

問 27 あなたは、どの程度外出しますか？ (あてはまる番号に1つ)

外出の頻度について、「ほぼ毎日 (64.2%)」と回答した人は約 6 割であった。一方「1 か月に 2~3 回」という人は 5.0%、「ほとんどしない」という人は 1.9%であった (図表 1-47)。

図表 1-47 外出の頻度 (N=2,691)



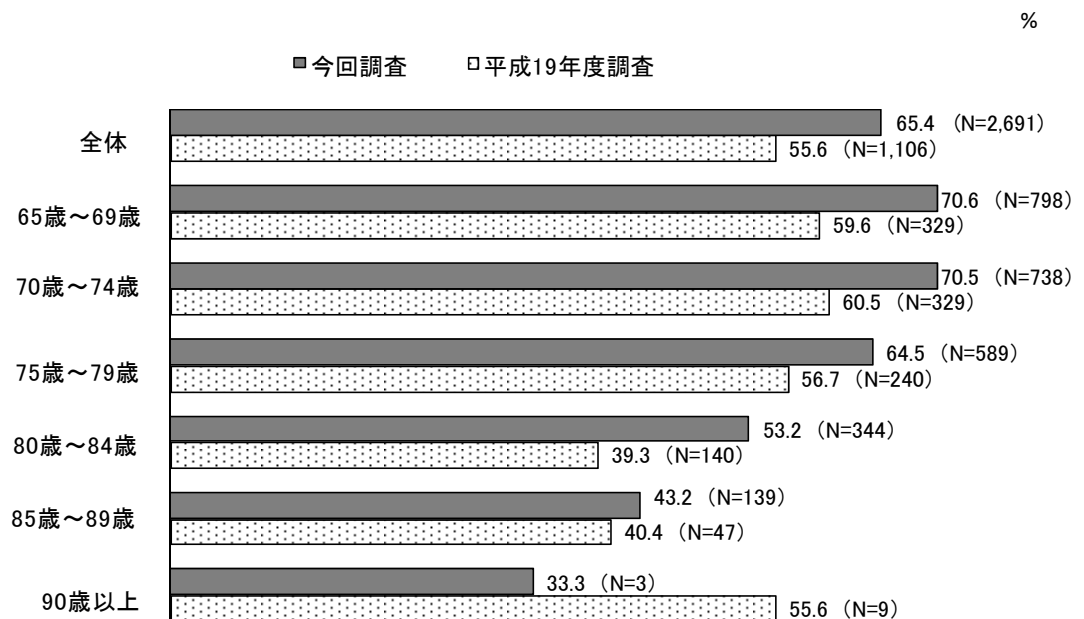
図表 1-48 外出の頻度（性別・年齢別）

		ほぼ毎日	週に2～3日程度	1か月に2～3回	ほとんどしない	合計
性別	男性 (N=1,087)	69.5	23.3	5.0	2.3	100.0
	女性 (N=1,540)	62.3	30.8	5.1	1.8	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=798)	70.6	24.2	4.3	1.0	100.0
	70歳～74歳 (N=738)	70.5	24.0	4.2	1.4	100.0
	75歳～79歳 (N=589)	64.5	29.7	4.6	1.2	100.0
	80歳～84歳 (N=344)	53.2	34.6	7.8	4.4	100.0
	85～89歳 (N=139)	43.2	41.7	7.9	7.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	100.0

（平成 19 年度調査との比較）

年齢別で平成 19 年度調査と比較すると、今回の調査では、90 歳以上を除くどの年齢層を見ても、平成 19 年度調査より「ほぼ毎日」が増加している（図表 1-49）。

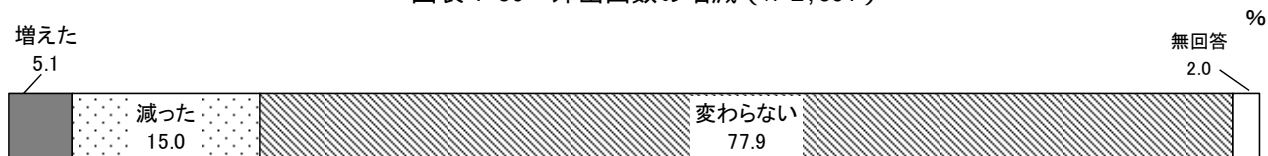
図表 1-49 外出の頻度（ほぼ毎日外出する）（年齢別 / 平成 19 年度調査との比較）



問 28 昨年と比べて、あなたの外出の回数は変わりましたか？（あてはまる番号に1つ）

昨年と比較した外出の回数では、「増えた（5.1%）」「変わらない（77.9%）」と回答した人が8割を超え、「減った」が15.0%であった（図表 1-50）。

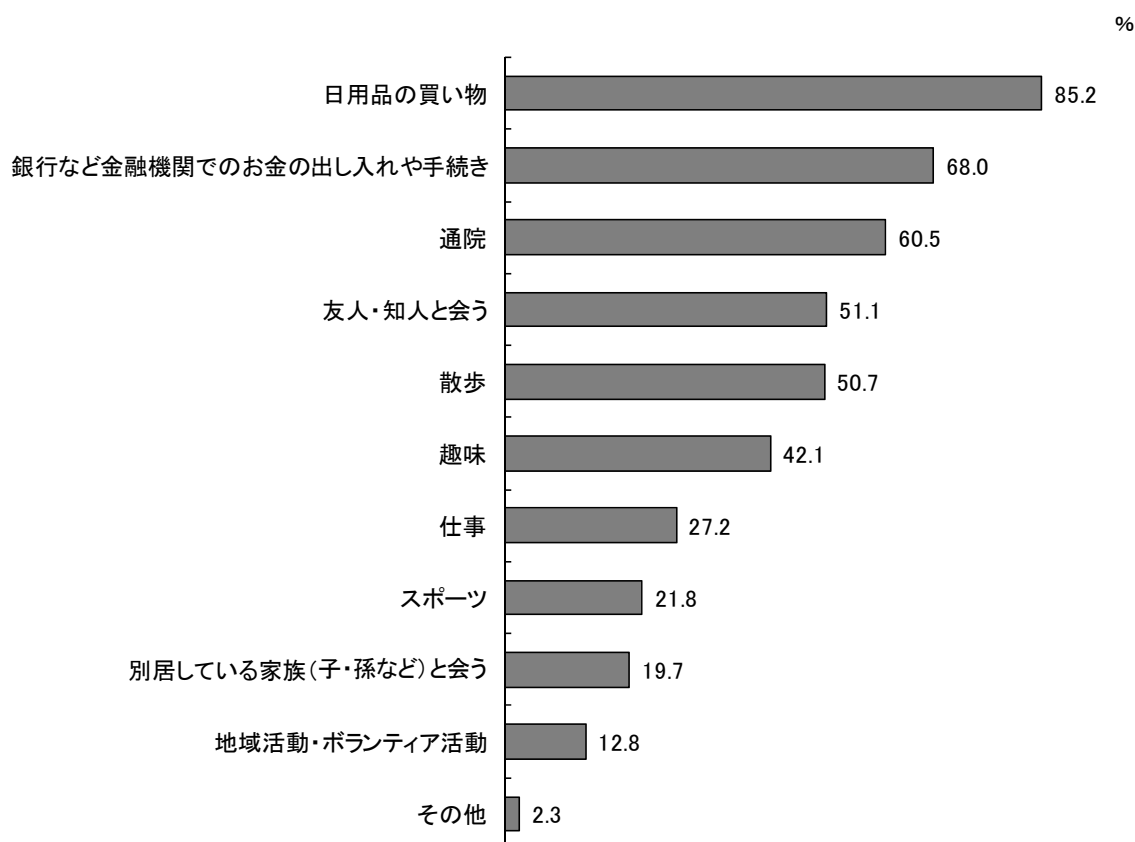
図表 1-50 外出回数の増減（N=2,691）



問 29 どのようなときに、外出しますか？（あてはまる番号すべてに）

「日用品の買い物（85.2%）」と回答した人が最も多く、続いて「銀行など金融機関でのお金の出し入れや手続き（68.0%）」「通院（60.5%）」の順であった（図表 1-51）。

図表 1-51 外出の理由（複数回答）(N=2,651)

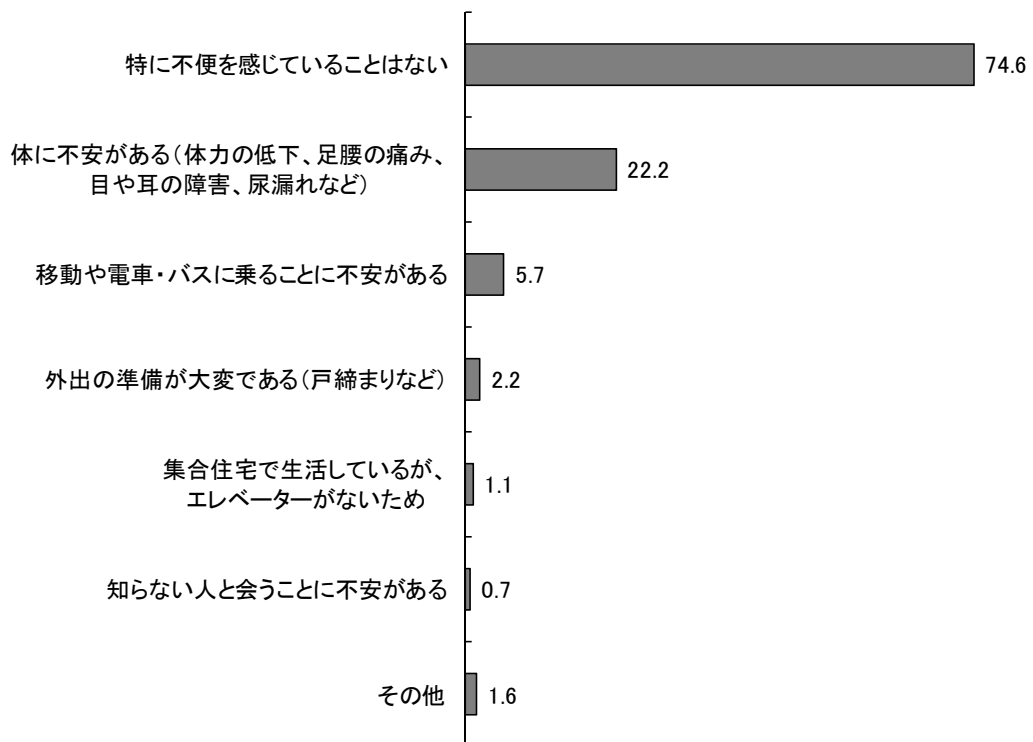


問 30 外出の際に不便に感じることや外出を控えることがあるとしたらその理由は何ですか？
(あてはまる番号すべてに)

「特に不便を感じていることはない (74.6%)」と回答した人は、約 7 割であった。

一方、不便に感じることや外出を控える理由では、「体に不安がある (体力の低下、足腰の痛み、目や耳の障害、尿漏れなど) (22.2%)」が最も多く、次いで「移動や電車・バスに乗ることに不安がある (5.7%)」であった (図表 1-52)。

図表 1-52 外出の際に不便に感じること、外出を控える理由 (複数回答) %
(N=2,369)

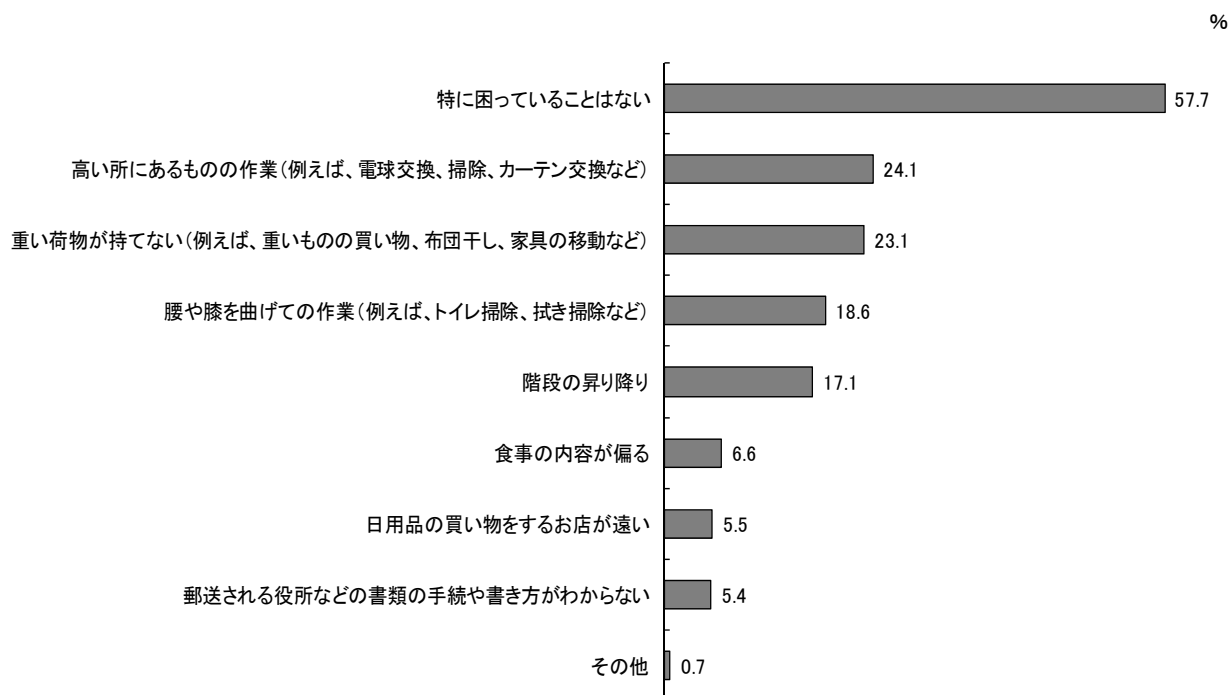


(5) 日常生活での困りごと

問 31 あなたは、日常生活の場面において、以下のような困りごとがありますか？
(あてはまる番号すべてに)

「特に困っていることはない (57.7%)」と回答した人は約 6 割であった。一方、困っていることでは、「高い所にあるものの作業 (24.1%)」が最も多く、続いて「重い荷物が持てない (23.1%)」「腰や膝を曲げての作業 (18.6%)」の順であった (図表 1-53)。

図表 1-53 日常生活での困りごと (複数回答)(N=2,527)



図表 1-54 日常生活での困りごと (年齢別 / 複数回答)

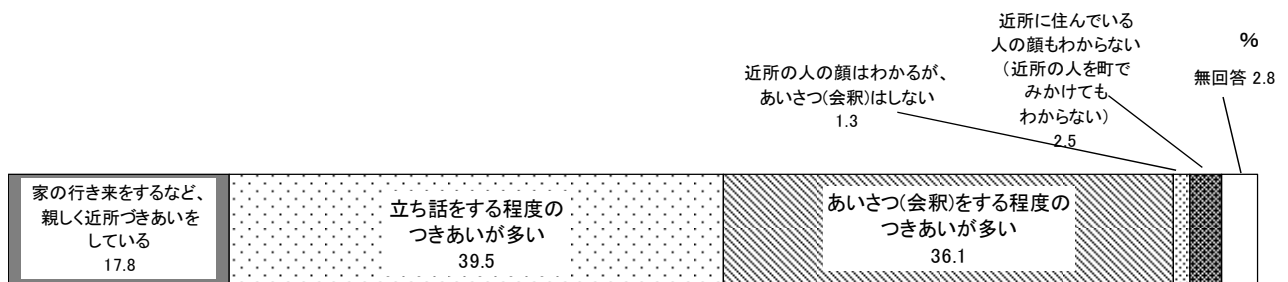
年齢	N	お日用品の遠い買い物をする	重い荷物が持てない	食事の内容が偏る	い郵便の手続や書き方がわからない	高い所にあるものの作業	腰や膝を曲げての作業	階段の昇り降り	特に困っていることはない	その他
		65歳～69歳	(N=753)	4.2	13.9	6.8	2.7	12.4	10.5	9.3
70歳～74歳	(N=701)	3.1	17.4	5.1	3.9	17.5	15.3	16.0	64.3	0.1
75歳～79歳	(N=567)	6.3	27.3	6.5	8.5	30.3	21.5	19.9	50.3	1.8
80歳～84歳	(N=338)	9.8	42.0	8.6	8.3	42.9	30.5	26.9	37.0	0.0
85歳～89歳	(N=136)	11.8	37.5	8.1	8.1	49.3	39.0	30.9	33.8	1.5
90歳以上	(N=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0

(6) 近所づきあいの程度

問 32 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

近所付き合いの程度では、「立ち話をする程度のつきあいが多い(39.5%)」と回答した人が最も多く、次いで「あいさつ(会釈)をする程度のつきあいが多い(36.1%)」であった。一方、「近所の人の顔はわかるが、あいさつ(会釈)はしない」は1.3%、「近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからない)」は2.5%、「近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからない)」は2.5%であった(図表 1-55)。

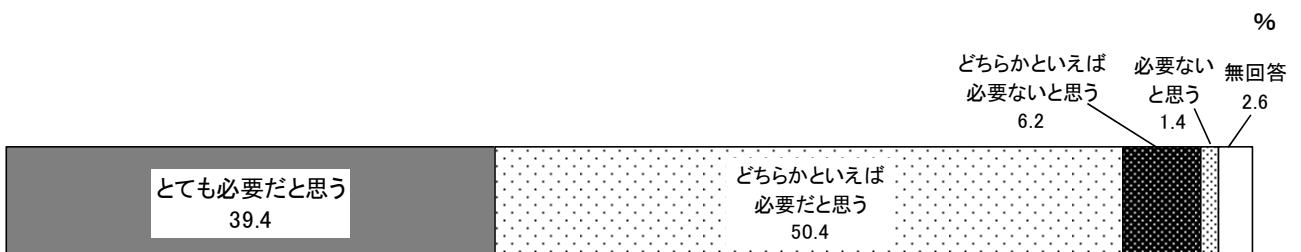
図表 1-55 近所づきあいの程度 (N=2,691)



問 33 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)は必要だと思いますか？ (あてはまる番号に1つ)

近所のつながりの必要性では、「とても必要だと思う(39.4%)」「どちらかといえば必要だと思う(50.4%)」と回答した人を合わせると、約9割であった(図表 1-56)。

図表 1-56 地域のつながりの必要性 (N=2,691)



5. いきがいづくりや社会参加

(1) いきがい

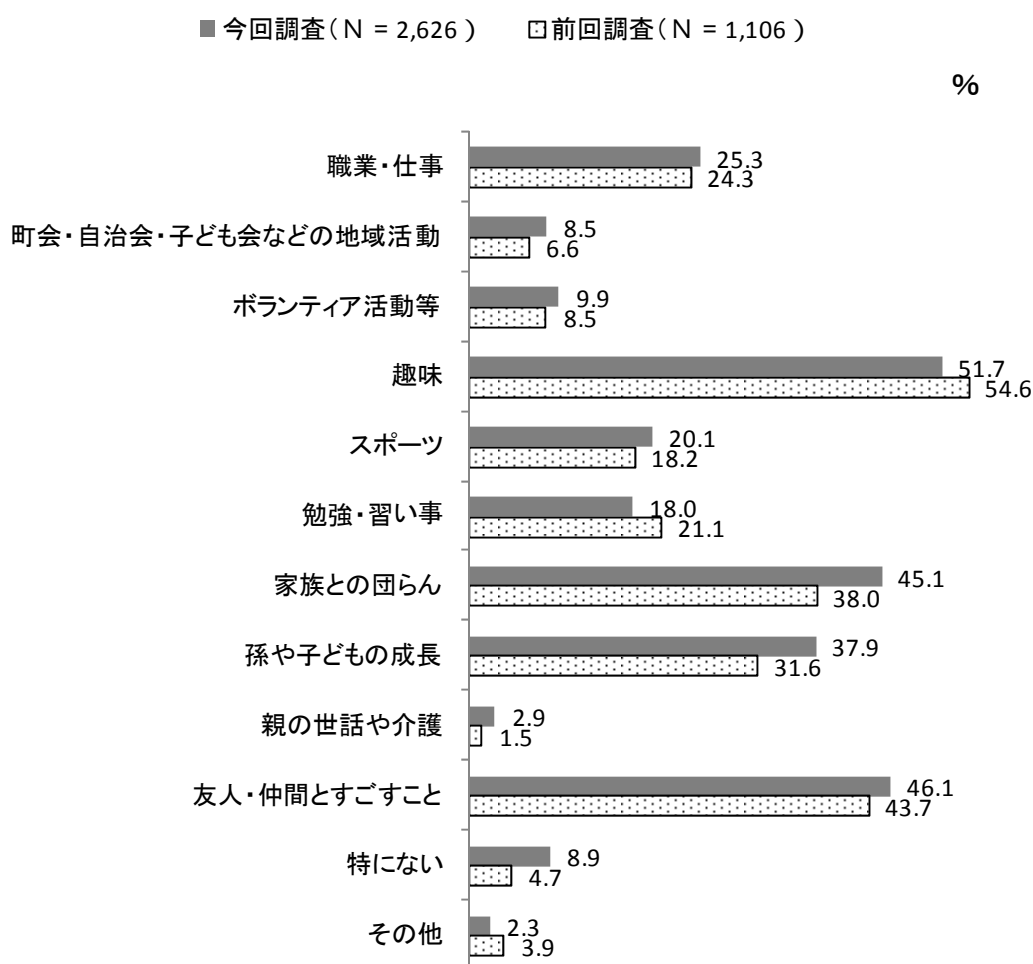
問 34 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに ）

いきがいを感ずることについてたずねた。「趣味（51.7%）」と回答した人が最も多く、続いて「友人・仲間とすごすこと（46.1%）」「家族との団らん（45.1%）」の順であった（図表 1-57）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較すると、今回調査では、「家族との団らん」が 38.0%から 45.1%に、「孫や子どもの成長」が 31.6%から 37.9%に、それぞれ大きく増加した（図表 1-57）。

図表 1-57 いきがいを感ずること（平成 19 年度調査との比較/複数回答）



図表 1-58 いきがいを感じること（性別／複数回答）

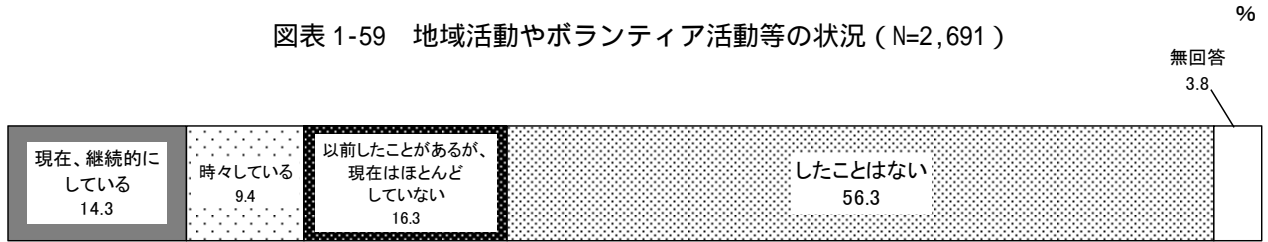
		職業・仕事	町会・自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間とすごすこと	家族との団らん	孫や子どももの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=1,081)	37.6	10.4	8.7	53.1	22.0	12.4	36.1	42.5	36.5	1.9	10.1	2.1
	女性 (N=1,531)	16.7	7.2	10.9	50.8	18.6	22.1	53.2	47.0	38.8	3.5	8.0	2.5

(2) 地域活動やボランティア活動等の状況

問 35 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子供会など、以下同様）やボランティア活動等を行っていますか？（あてはまる番号に1つ）

地域活動やボランティア活動等の状況をたずねた。「現在、継続的にしている（14.3%）」「時々している（9.4%）」と回答した人を合わせると、約2割であった。一方、「したことはない」と回答した人は56.3%であった（図表 1-59）。

図表 1-59 地域活動やボランティア活動等の状況（N=2,691）



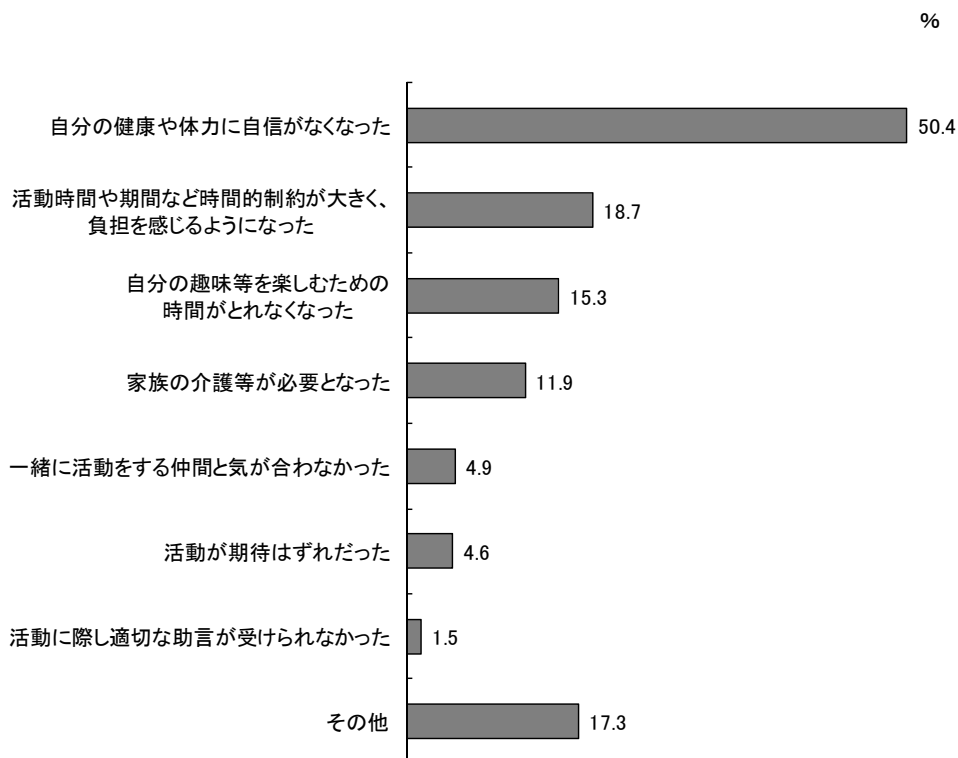
図表 1-60 地域活動やボランティア活動等の状況（性別）

		現在、継続的にしている	時々している	以前したことがあるが、現在はほとんどしていない	したことはない	合計
性別	男性 (N=1,082)	14.5	8.5	14.9	62.1	100.0
	女性 (N=1,492)	15.1	10.6	18.4	55.9	100.0

問 35-1 現在、していない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で、以前したことがあるが、現在はほとんどしていないと回答した人に、現在していない理由をたずねた。「自分の健康や体力に自信がなくなった（50.4%）」が約 5 割であった（図表 1-61）。

図表 1-61 現在、していない理由（複数回答）(N=411)



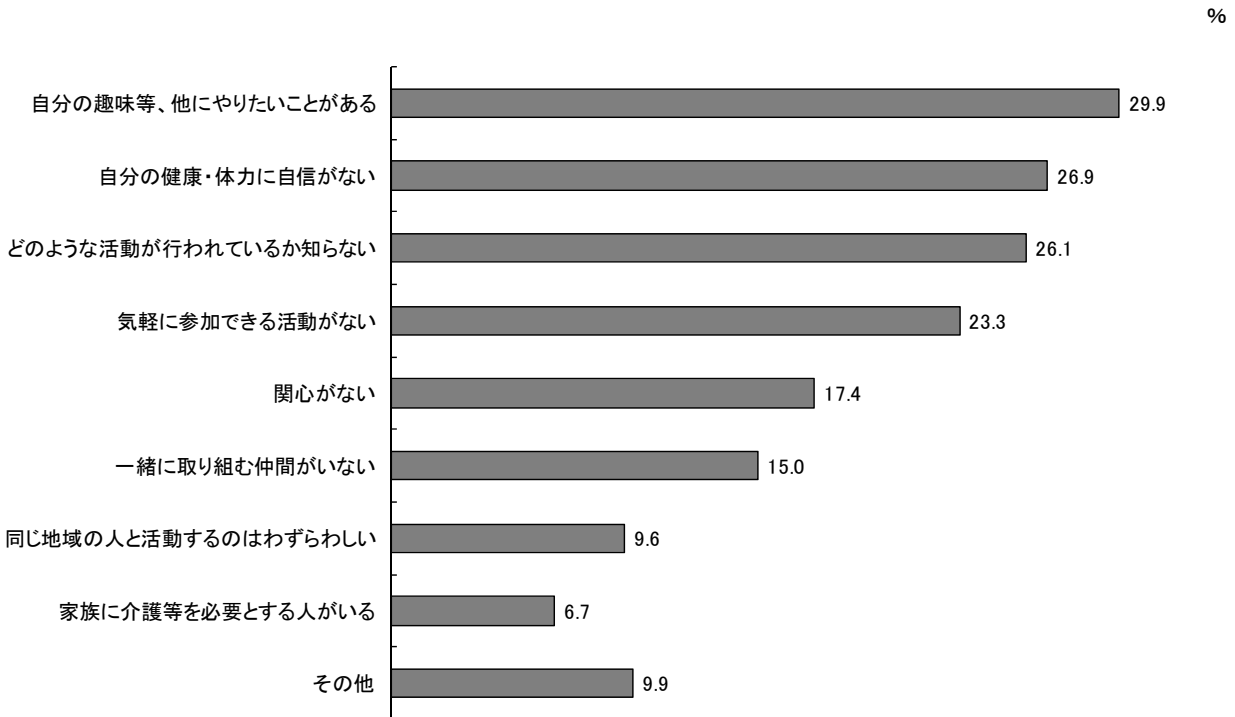
図表 1-62 現在、していない理由（性別 / 複数回答）

		自分の健康や体力に自信がなくなった	家族の介護等が必要となった	自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった	活動に際し適切な助言が受けられなかった	一緒に活動をする仲間と気が合わなかった	活動が期待はずれだった	活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった	その他
性別	男性 (N=151)	47.0	9.3	15.2	1.3	5.3	7.9	21.9	15.9
	女性 (N=258)	51.9	13.6	15.5	1.6	4.7	2.7	17.1	18.2

問 35-2 したことがない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で、したことはないと回答した人に、その理由をたずねた。「自分の趣味等、他にやりたいことがある（29.9%）」が最も多く、続いて「自分の健康・体力に自信がない（26.9%）」「どのような活動が行われているか知らない（26.1%）」の順であった（図表 1-63）。

図表 1-63 したことがない理由（複数回答）(N=1,462)



図表 1-64 したことがない理由（性別 / 複数回答）

		関心がない	気軽に参加できない	一緒に取り組む仲間がいない	自分の趣味等、他にやりたいことがある	自分の健康・体力に自信がない	家族に介護等を必要とする人がいる	同じ地域の人と活動するのはわずらわしい	どのような活動が行われているか知らない	その他
性別	男性 (N=656)	22.7	26.5	17.4	30.3	22.1	4.9	9.1	27.3	8.8
	女性 (N=797)	12.9	20.7	12.9	29.6	31.1	8.3	9.9	24.8	10.8

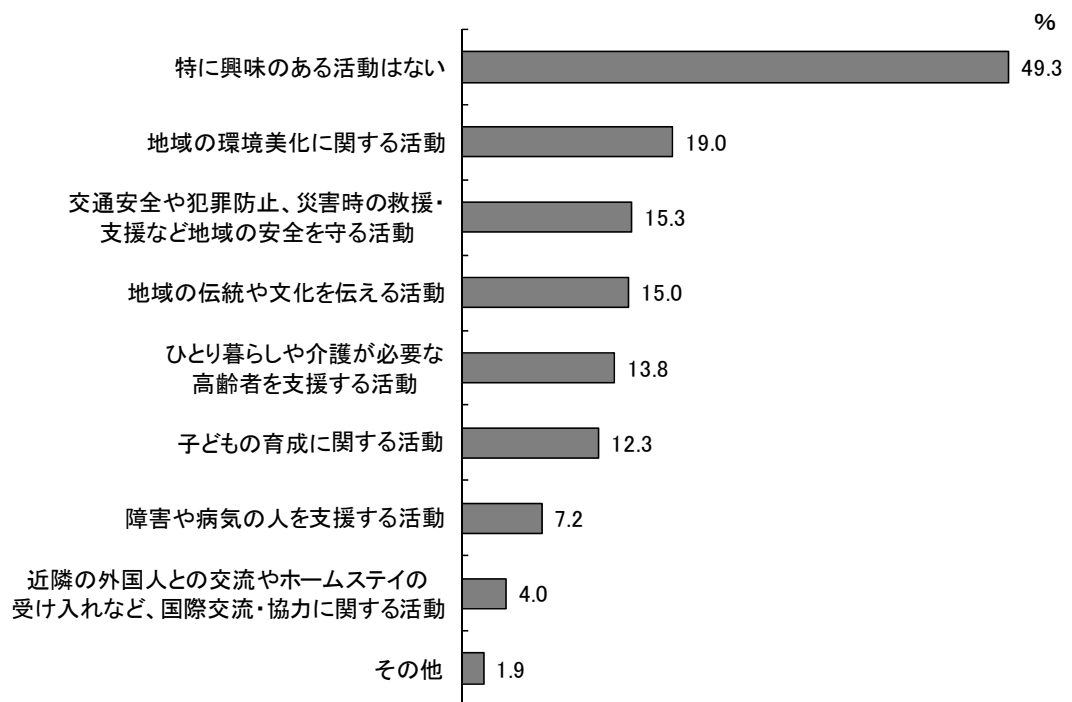
問35-3 興味のある地域活動やボランティア活動等(実際に取り組んでいるものも含む)はありますか？
(あてはまる番号すべてに)

興味のある地域活動やボランティア活動をたずねた。

「特に興味のある活動はない(49.3%)」と回答した人が、約5割であった。

興味のある活動では、「地域の環境美化に関する活動(19.0%)」が最も多く、続いて「交通安全や犯罪防止、災害時の救援・支援など地域の安全を守る活動(15.3%)」「地域の伝統や文化を伝える活動(15.0%)」の順であった(図表1-65)。

図表 1-65 興味のある地域活動・ボランティア活動等(複数回答)(N=2,010)



図表 1-66 興味のある地域活動・ボランティア活動等(性別/複数回答)

		子どもの育成に関する活動	ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動	障害や病気の人を支援する活動	守る活動 救援・安全を	交通安全や犯罪防止、災害時の	地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化に関する活動	流ス近 ・テ隣の 協力外国人 にの受 関入れ するな 活動ど、 国際交	特に興味のある活動はない	その他
性別	男性 (N=888)	11.9	7.5	5.5	20.3	16.3	20.0	3.8	52.7	1.7	
	女性 (N=1,115)	12.6	18.8	8.5	11.5	14.1	18.2	4.1	46.4	2.2	

問 35-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか？
 (あてはまる番号に1つ)

「積極的にしてみたい (4.7%)」「してみたい (22.8%)」と回答した人を合わせると、約 3 割であった (図表 1-67)。

積極的に
 してみたい
 4.7

図表 1-67 地域活動やボランティア活動等の意向 (N=2,691)

%



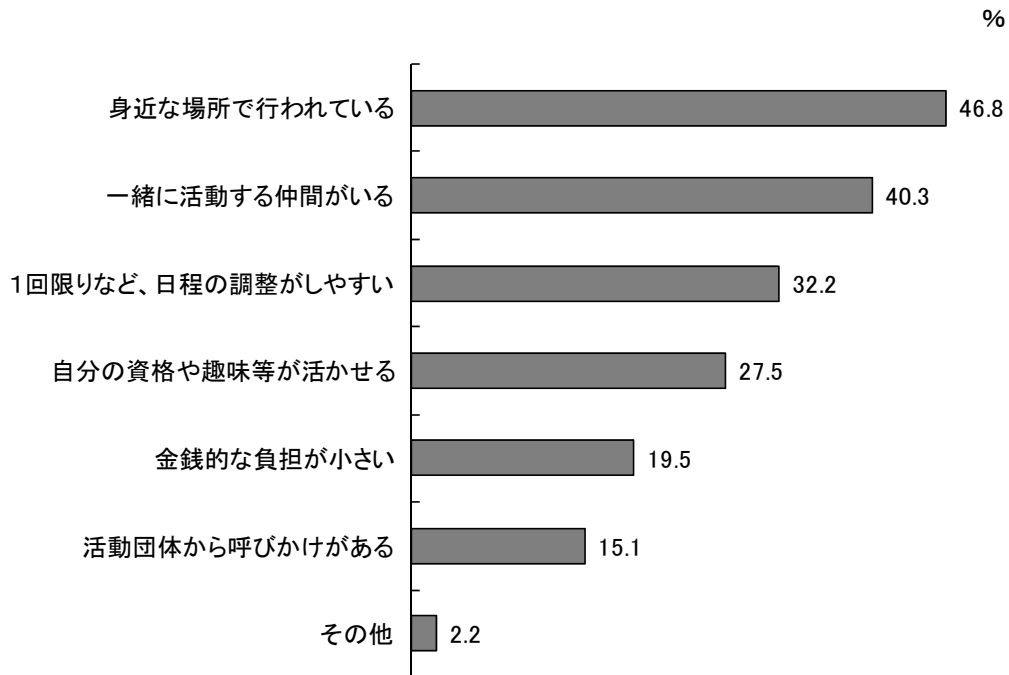
図表 1-68 地域活動やボランティア活動等の意向 (性別)

							(%)
		積極的にしてみたい	してみたい	あまりしたくない	したくない	わからない	合計
性別	男性 (N=1,048)	5.8	27.6	26.5	19.4	20.7	100.0
	女性 (N=1,403)	4.7	23.0	25.3	20.4	26.7	100.0

問 35-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

参加しやすい、地域活動やボランティア活動等についてたずねた。「身近な場所で行われている (46.8%)」と回答した人が最も多く、続いて「一緒に活動する仲間がいる (40.3%)」「1 回限りなど、日程の調整がしやすい (32.2%)」「自分の資格や趣味等が活かせる (27.5%)」の順であった (図表 1-69)。

図表 1-69 参加しやすい活動の形態 (複数回答) (N=1,901)



図表 1-70 参加しやすい活動の形態 (性別 / 複数回答)

		身近な場所で行われている	一緒に活動する仲間がいる	自分の資格や趣味等が活かせる	活動団体から呼びかけがある	金銭的な負担が小さい	1回限りなど、日程の調整がしやすい	その他
性別	男性 (N=823)	47.1	38.6	30.1	18.7	21.1	25.2	2.1
	女性 (N=1,070)	46.5	41.5	25.6	12.5	18.2	37.7	2.2

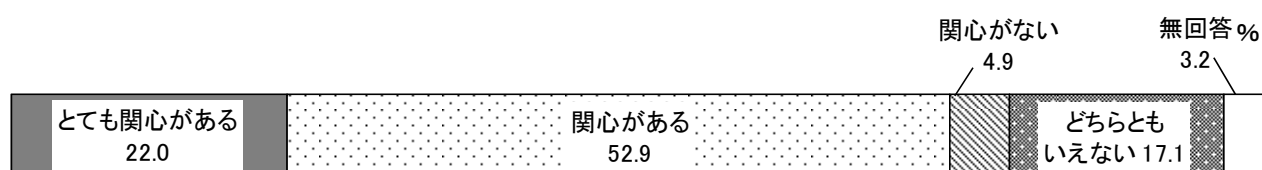
6. 介護予防

(1) 介護予防についての関心

問 36 あなたは、「介護予防」について関心がありますか？（あてはまる番号に1つ）

介護予防についての関心では、「とても関心がある（22.0%）」「関心がある（52.9%）」と回答した人を合わせると、約7割であった。一方、「関心がない」という人は4.9%であった（図表 1-71）。

図表 1-71 介護予防についての関心（N=2,691）



図表 1-72 介護予防についての関心（性別 / 年齢別）

(%)

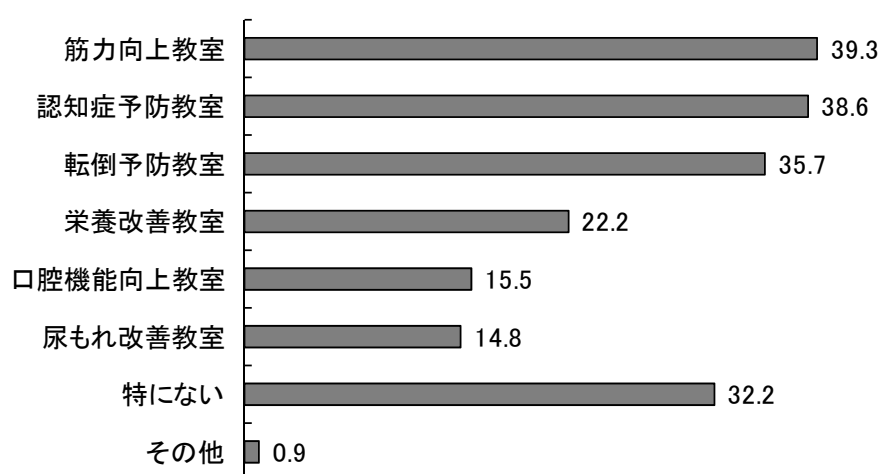
		とても関心がある	関心がある	関心がない	どちらともいえない	合計
性別	男性 (N=1,083)	19.0	54.3	7.6	19.1	100.0
	女性 (N=1,510)	25.3	55.0	3.1	16.6	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=798)	23.9	52.4	5.8	17.9	100.0
	70歳～74歳 (N=728)	22.8	55.4	5.6	16.2	100.0
	75歳～79歳 (N=581)	21.2	58.5	2.2	18.1	100.0
	80歳～84歳 (N=335)	21.5	54.6	5.1	18.8	100.0
	85歳～89歳 (N=134)	26.1	46.3	9.0	18.7	100.0
	90歳以上 (N=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0

(2) 介護予防のために通ってみたい教室

問 37 以下の介護予防のための教室で、通ってみたいものはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

介護予防のために通ってみたい教室では、「筋力向上教室 (39.3%)」と回答した人が最も多く、続いて「認知症予防教室 (38.6%)」「転倒予防教室 (35.7%)」の順であった。一方、「特にない」と回答した人は 32.2%であった (図表 1-73)。

図表 1-73 介護予防のために通ってみたい教室(複数回答)(N=2,423) %



(参考)

教室名	内容
筋力向上教室	眠っている筋肉と神経を覚まし、日常生活に必要な身体能力を向上させる教室
転倒予防教室	筋力、バランス、柔軟性、歩行能力を改善し、転倒しにくい体をつくる教室
栄養改善教室	食事の工夫を学び、それを実践するプログラムを通して栄養の改善を図る教室
口腔機能向上教室	いつまでも美味しく安全に食べられるために、口腔ケアや顔面体操等を行い、お口の健康度を高める教室
尿もれ改善教室	くしゃみや咳、走った時など腹圧がかかったときに尿が漏れる腹圧性尿失禁を予防・改善する教室(女性対象)
認知症予防教室	認知機能を高めるプログラムと脳の血流を良くする運動プログラム等を通じて、脳の活性化を図る教室

7. 介護が必要になったときのこと

(1) 高齢者総合相談センターについての認知度

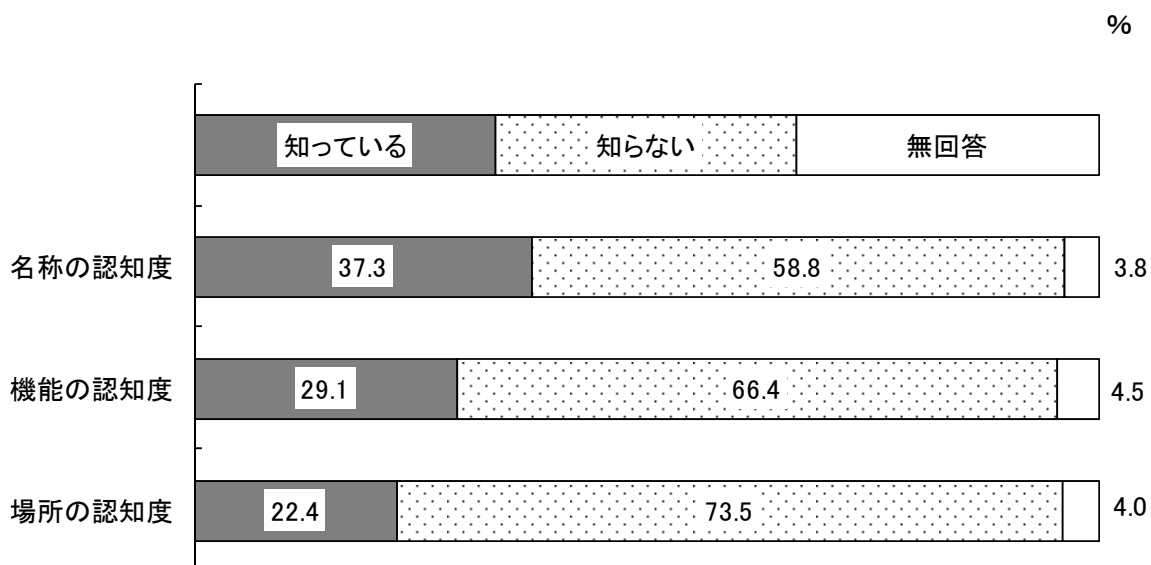
問 38-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 38-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 38-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所についてそれぞれ「知らない」と回答した人は、58.8%、66.4%、73.5%であった（図表 1-74）。

図表 1-74 高齢者総合相談センターの認知度（名称・機能・場所）(N=2,691)



(2) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか

問 39 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

介護が必要になったときの住まい方について、「ずっと自宅で生活を続けたい (17.8%)」「可能な限り自宅で生活を続けたい (49.1%)」と回答した人を合わせると、約7割であった。一方、「施設へ入居したい」という人は12.7%であった (図表 1-75)。

(平成 19 年度調査との比較)

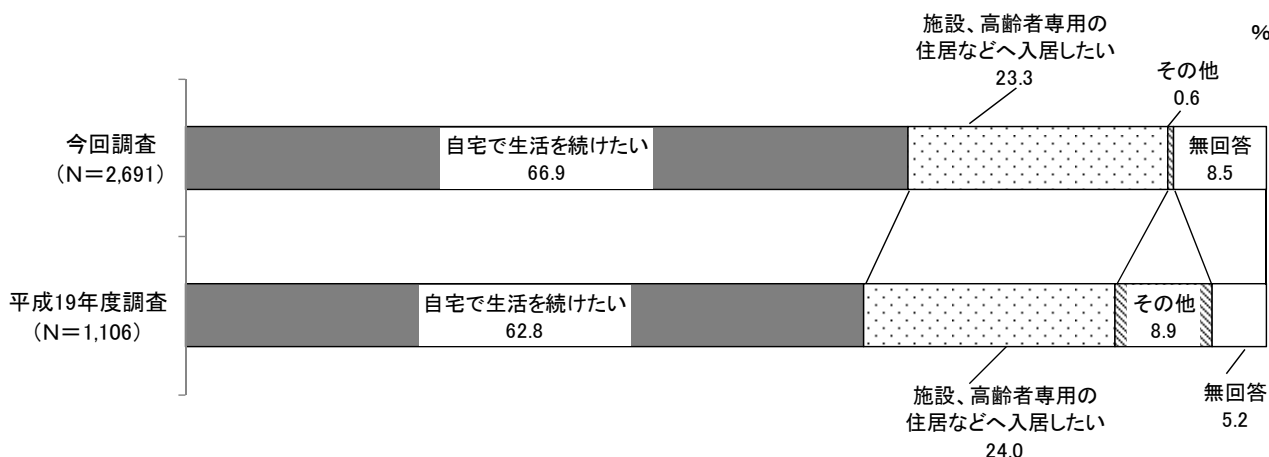
平成 19 年度調査では、自宅での生活を望む人は、「介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい (38.9%)」「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい (19.7%)」「主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい (4.2%)」を合わせて、62.8%であった。

今回調査では、「ずっと自宅で生活を続けたい (17.8%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい (49.1%)」を合わせると66.9%と、自宅での生活を望む人は増加する傾向となった (図表 1-75) (図表 1-76)。

図表 1-75 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか (平成 19 年度調査との比較)

今回調査 (N=2,691)	%	平成19年度調査 (N=1,106)	%
ずっと自宅で生活を続けたい	17.8	介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい	38.9
可能な限り自宅で生活を続けたい	49.1	介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい	19.7
施設 (特別養護老人ホームなど) へ入居したい	12.7	主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい	4.2
介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居 (有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など) に入居したい	11.3	特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい	17.3
その他	0.6	有料老人ホームなどを利用したい	6.0
無回答	8.5	わからない	8.9
		無回答	5.2

図表 1-76 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか (平成 19 年度調査との比較)



図表 1-77 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか（年齢別）

(%)

		ずっと自宅で生活を続けたい	可能な限り自宅で生活を続けたい	施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい	介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい	その他	合計
年齢	65歳～69歳 (N=761)	17.0	53.2	15.1	14.1	0.7	100.0
	70歳～74歳 (N=687)	19.1	54.4	12.1	13.4	1.0	100.0
	75歳～79歳 (N=544)	18.6	54.8	14.5	11.8	0.4	100.0
	80歳～84歳 (N=310)	24.5	49.7	15.8	9.4	0.6	100.0
	85歳～89歳 (N=128)	28.9	52.3	11.7	7.0	0.0	100.0
	90歳以上 (N=3)	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	100.0

問 39-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 39 で施設や高齢者専用の住居に入居したい、と回答した人にその理由をたずねた。

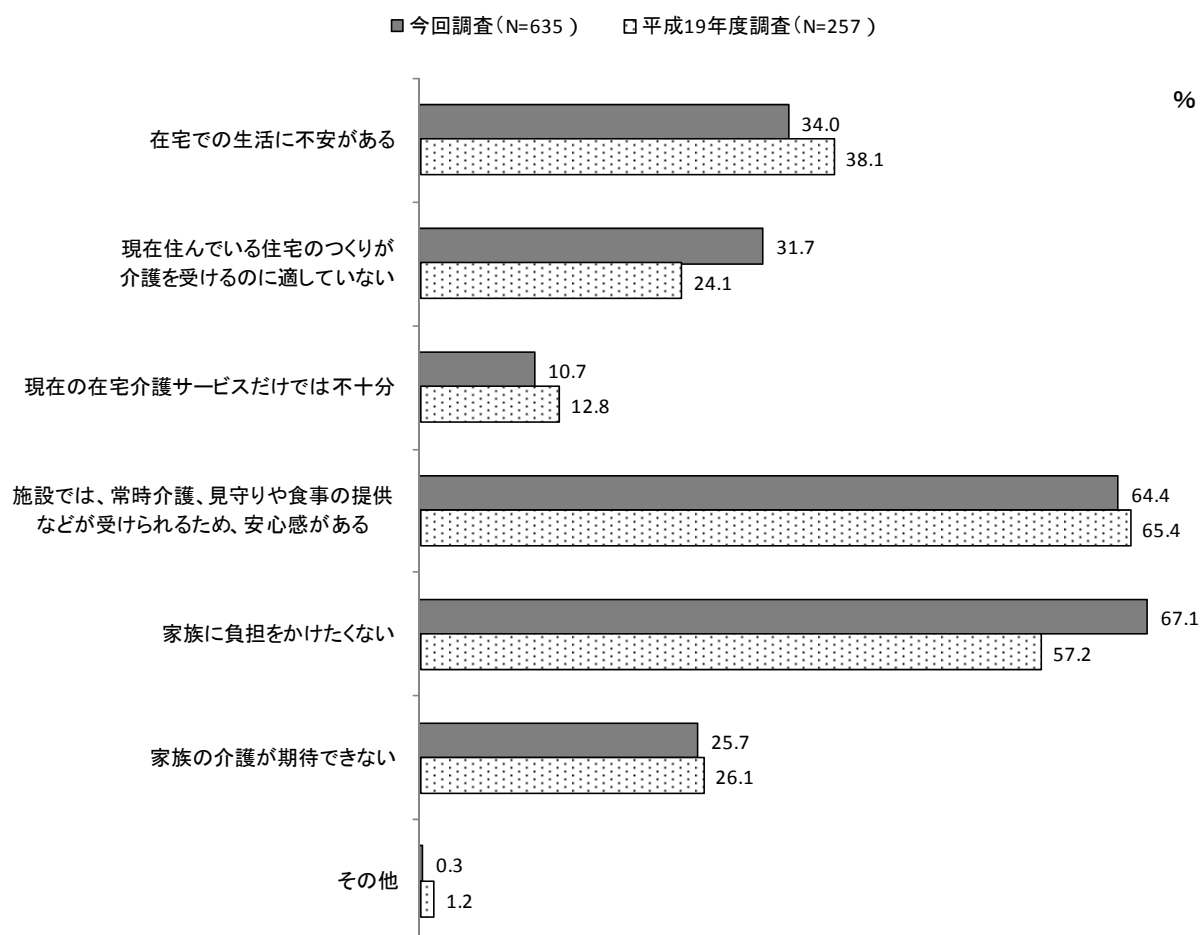
「家族に負担をかけたくない（67.1%）」が最も多く、次いで「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（64.4%）」であった（図表 1-78）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較すると、「家族に負担をかけたくない」が、57.2%から 67.1%に大きく増加した。

また、「現在住んでいる住宅のつくりが介護を受けるのに適していない」が、24.1%から 31.7%に増加したが、「在宅での生活に不安がある」は、38.1%から 34.0%と減少した（図表 1-78）。

図表 1-78 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（平成 19 年度調査との比較/複数回答）



図表 1-79 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（年齢別／複数回答）

(%)

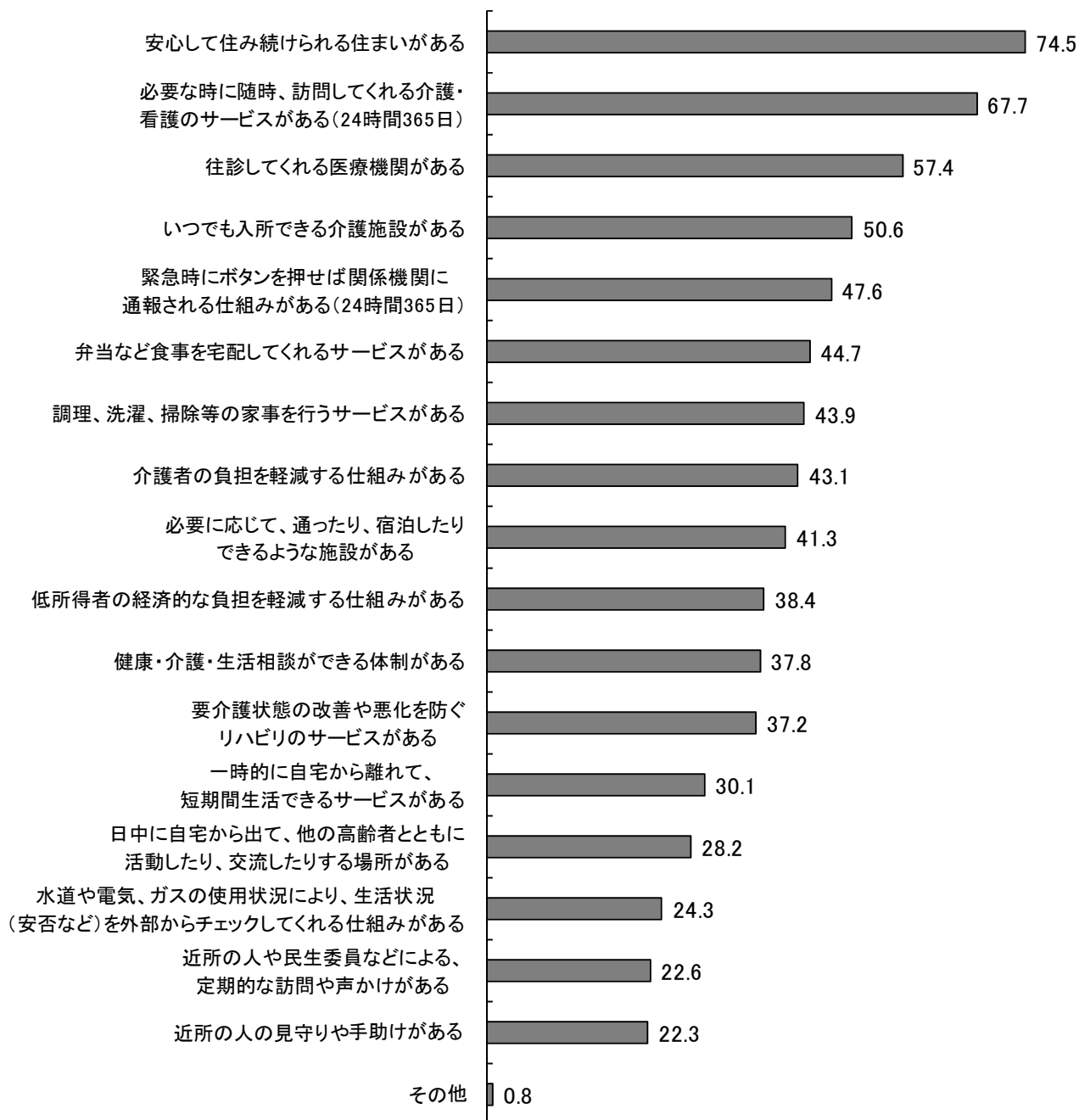
		在宅での生活に不安がある	現在住んでいる住宅のつくりが、介護を受けるのに適していない	現在の在宅介護サービスだけでは不十分	施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられないため、安心感がある	家族に負担をかけたくない	家族の介護が期待できない	その他
年齢	65歳～69歳 (N=216)	31.9	31.0	9.7	63.4	69.0	25.0	0.0
	70歳～74歳 (N=175)	34.3	38.3	15.4	64.0	68.6	28.6	0.0
	75歳～79歳 (N=140)	34.3	27.9	8.6	67.9	64.3	25.7	1.4
	80歳～84歳 (N=77)	32.5	27.3	7.8	64.9	64.9	20.8	0.0
	85歳～89歳 (N=24)	54.2	20.8	8.3	62.5	62.5	29.2	0.0
	90歳以上 (N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 40 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるための必要なことをたずねた。「安心して住み続けられる住まいがある(74.5%)」と回答した人が最も多く、次いで「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)(67.7%)」「往診してくれる医療機関がある(57.4%)」の順であった(図表 1-80)。

図表 1-80 在宅で暮らし続けるために必要なこと(複数回答)(N=2,451)

%



図表 1-81 在宅で暮らし続けるために必要なこと（年齢別／複数回答）

(%)

		安心して住み続けられる住まいがある	近所の人の見守りや手助けがある	（24時間365日） 必要な時に随時、訪問してくれる 介護・看護のサービスがある	場にも活動したり、交流したりする 場所がある	日中に自宅から出て、他の高齢者とも もに活動したり、交流したりする	リ要的介護状態の改善や悪化を防ぐリハビ リのサービスがある	生一時的に自宅から離れて、短期間 活できるサービスがある	必要に応じて、通ったり、宿泊したり できるような施設がある	いつでも入所できる介護施設がある	往診してくれる医療機関がある
年齢	65歳～69歳 (N=765)	72.0	20.8	73.9	30.2	40.0	31.8	45.5	54.9	58.7	
	70歳～74歳 (N=676)	76.8	22.6	66.6	32.1	38.8	32.2	44.1	50.3	57.5	
	75歳～79歳 (N=544)	73.5	22.6	67.3	28.5	36.9	27.2	38.4	51.3	57.2	
	80歳～84歳 (N=311)	77.8	25.7	64.0	21.5	30.5	30.2	36.0	45.3	56.9	
	85歳～89歳 (N=124)	74.2	19.4	54.0	12.9	30.6	21.8	29.0	37.9	54.0	
	90歳以上 (N=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

		弁当など食事を宅配してくれる サービスがある	調理、洗濯、掃除等の家事を行う サービスがある	健康・介護・生活相談ができる体制が ある	近所の人や民生委員などによる、 定期的な訪問や声かけがある	生活や電気、ガスの使用状況により、 水道や状況（安否など）を外部から チェックしてくる仕組みがある	（24時間365日） 通報される仕組みがある	緊急時にボタンを押せば関係機関に 連絡される仕組みがある	介護者の負担を軽減する 仕組みがある	低所得者の経済的な負担を 軽減する仕組みがある	その他
年齢	65歳～69歳 (N=765)	46.7	45.9	40.1	22.0	24.3	49.9	45.9	44.4	0.8	
	70歳～74歳 (N=676)	46.2	44.1	38.5	21.2	24.4	49.1	43.8	38.9	0.4	
	75歳～79歳 (N=544)	43.8	43.8	37.5	26.1	26.1	47.8	42.3	39.3	1.3	
	80歳～84歳 (N=311)	42.1	42.1	34.7	23.8	24.4	43.1	40.2	27.7	0.6	
	85歳～89歳 (N=124)	37.1	41.1	30.6	17.7	16.9	37.1	34.7	24.2	0.8	
	90歳以上 (N=3)	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	

8. 介護保険制度

問 41 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

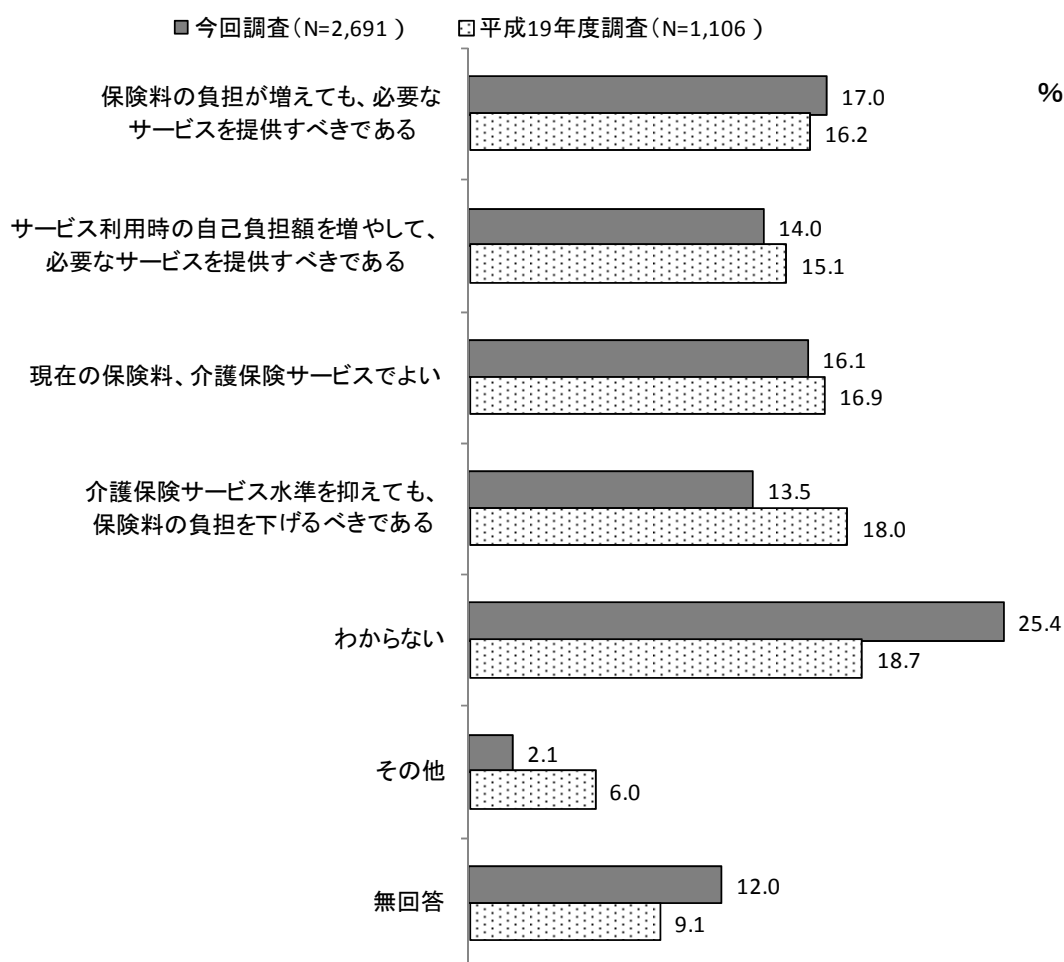
介護保険サービスと保険料についての考えでは、「わからない(25.4%)」と回答した人が最も多かった。また「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである」は17.0%、「介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」は13.5%であった(図表1-82)。

(平成19年度調査との比較)

平成19年度調査と比較すると、「介護サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」が、18.0%から13.5%と減少した。

一方、「わからない」は18.7%から25.4%に増加した(図表1-82)。

図表1-82 介護保険サービスと保険料についての考え(平成19年度調査との比較)



図表 1-83 介護保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		必要なサービスを提供すべき	サービスを利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである	現在の保険料、介護保険サービスでよい	介護保険サービス水準を下げても、保険料の負担を下げなければならない	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=118)	5.9	5.1	22.0	22.9	42.4	1.7	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=448)	12.9	9.8	22.8	20.1	33.3	1.1	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=499)	17.8	11.8	24.4	17.2	26.3	2.4	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=517)	24.0	19.1	14.9	12.2	26.1	3.7	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=250)	22.4	26.4	13.2	11.6	22.0	4.4	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=153)	26.8	28.1	15.7	9.2	19.0	1.3	100.0
	1000万円以上 (N=160)	28.1	27.5	11.9	6.9	23.1	2.5	100.0
	わからない (N=106)	15.1	7.5	13.2	18.9	44.3	0.9	100.0

9. 認知症

(1) 記憶力等の変化

問 42 あなたは、ここ6か月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる
ことがありますか？（あてはまる番号に1つ）

ここ6か月から1年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じるものが「ある」と回答した人は37.4%であり、「ない」と回答した人は59.3%であった（図表 1-84）。

図表 1-84 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=2,691）



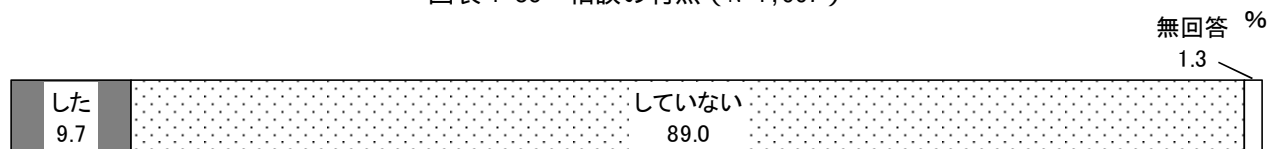
図表 1-85 物忘れ、理解・判断力等の低下の有無（年齢別）
(%)

		ある	ない	合計
年齢	65歳～69歳 (N=794)	30.5	69.5	100.0
	70歳～74歳 (N=721)	38.0	62.0	100.0
	75歳～79歳 (N=583)	42.4	57.6	100.0
	80歳～84歳 (N=339)	47.8	52.2	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	50.4	49.6	100.0
	90歳以上 (N=2)	50.0	50.0	100.0

**問 42-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
(あてはまる番号に1つ)**

問 42 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。
相談を「していない (89.0%)」と回答した人が、約 9 割であった (図表 1-86)。

図表 1-86 相談の有無 (N=1,007)



図表 1-87 相談の有無 (年齢別)

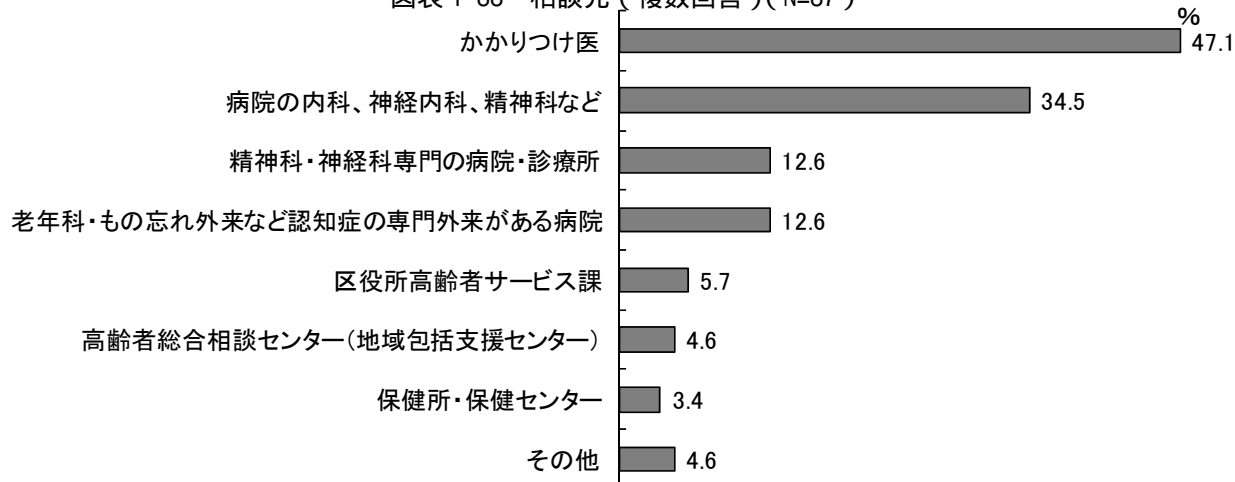
(%)

		した	していない	合計
年齢	65歳～69歳 (N=794)	5.4	94.6	100.0
	70歳～74歳 (N=721)	8.9	91.1	100.0
	75歳～79歳 (N=583)	18.3	81.7	100.0
	80歳～84歳 (N=339)	5.7	94.3	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	7.4	92.6	100.0
	90歳以上 (N=2)	0.0	100.0	100.0

問 42-2 どちらに相談しましたか？ (あてはまる番号すべてに)

問 42-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。「かかりつけ医 (47.1%)」が最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など (34.5%)」であった (図表 1-88)。

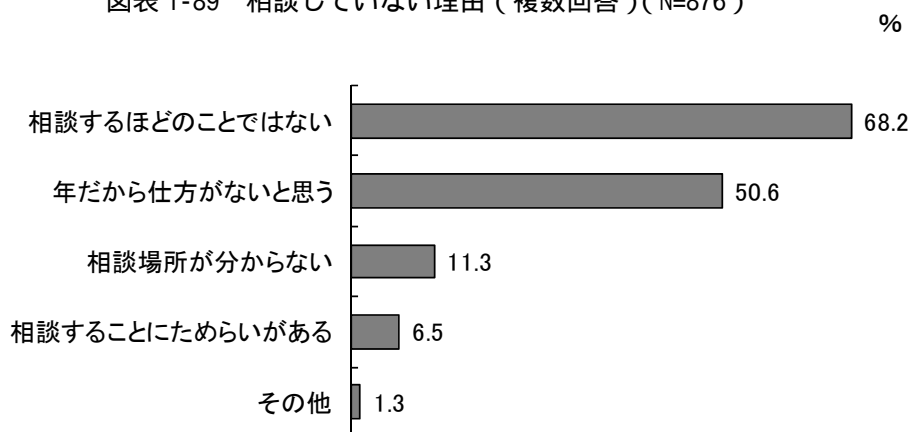
図表 1-88 相談先 (複数回答) (N=87)



問 42-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 42-1 で「相談していない」と回答した人に、その理由をたずねた。「相談するほどのことではない（68.2%）」が約 7 割と最も多く、次いで「年だから仕方がないと思う（50.6%）」であった（図表 1-89）。

図表 1-89 相談していない理由（複数回答）(N=876)



図表 1-90 相談していない理由（年齢別 / 複数回答）

		が年 なだ いから と思 仕 う方	こ相 と談 です はる なほ いど の	た相 め談 らす いる がこ あと るに	分相 か談 ら場 な所 いが	そ の 他
年 齢	65歳～69歳 (N=224)	44.2	72.8	7.1	12.9	2.2
	70歳～74歳 (N=239)	44.4	74.5	5.9	13.8	0.8
	75歳～79歳 (N=193)	53.4	65.3	6.2	10.9	0.5
	80歳～84歳 (N=146)	63.7	54.8	8.9	6.8	1.4
	85歳～89歳 (N=63)	61.9	68.3	1.6	9.5	1.6
	90歳以上 (N=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(2) 若年性認知症の認知度

問 43 あなたは、「若年性認知症」という病気をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

若年性認知症について、「知っている」という人は64.7%であり、「知らない」という人は9.8%であった（図表 1-91）。

図表 1-91 若年性認知症の認知度（N=2,691）

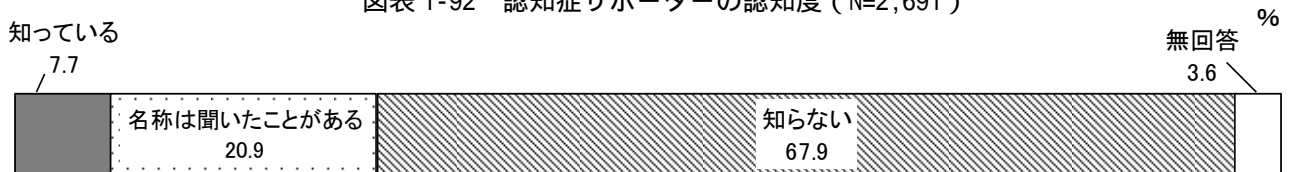


(3) 認知症サポーター

問 44 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーターについて、「知らない」という人は67.9%であり、「知っている」という人は7.7%であった（図表 1-92）。

図表 1-92 認知症サポーターの認知度（N=2,691）



問 45 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いませんか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーター養成講座について、「受講したい」と回答した人は33.0%、「受講したくない」は54.1%であった（図表 1-93）。

図表 1-93 認知症サポーター養成講座の受講意向（N=2,691）



図表 1-94 認知症サポーター養成講座の受講意向（年齢別）

(%)

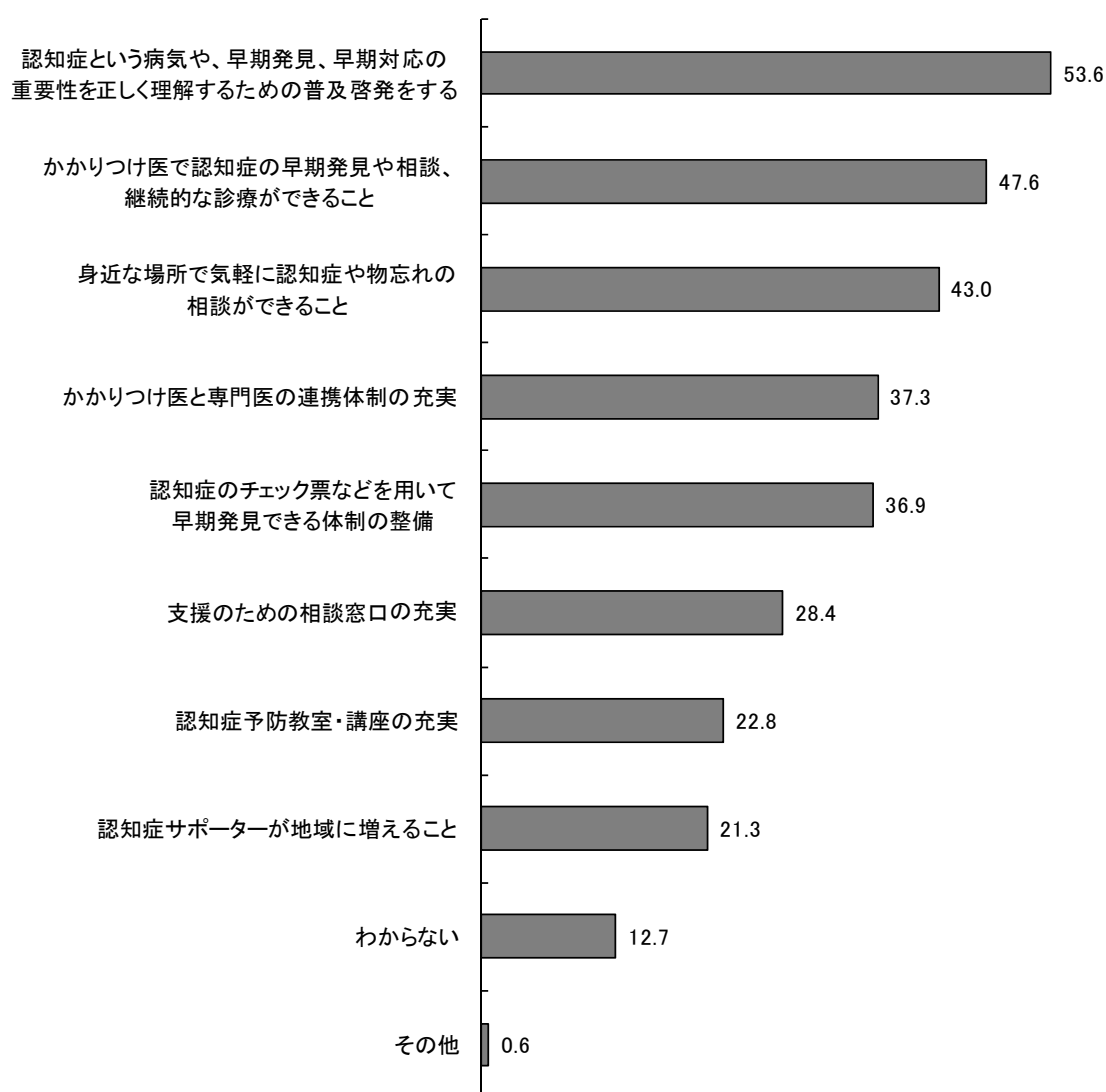
		受講したい	受講したくない	すでに受講した	合計
年齢	65歳～69歳 (N=741)	44.7	53.4	1.9	100.0
	70歳～74歳 (N=661)	40.5	57.3	2.1	100.0
	75歳～79歳 (N=539)	33.8	64.4	1.9	100.0
	80歳～84歳 (N=306)	24.2	73.5	2.3	100.0
	85歳～89歳 (N=116)	18.1	79.3	2.6	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	66.7	0.0	100.0

(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 46 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする (53.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること (47.6%)」「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること (43.0%)」の順であった (図表 1-95)。

図表 1-95 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと (複数回答)(N=2,458) %



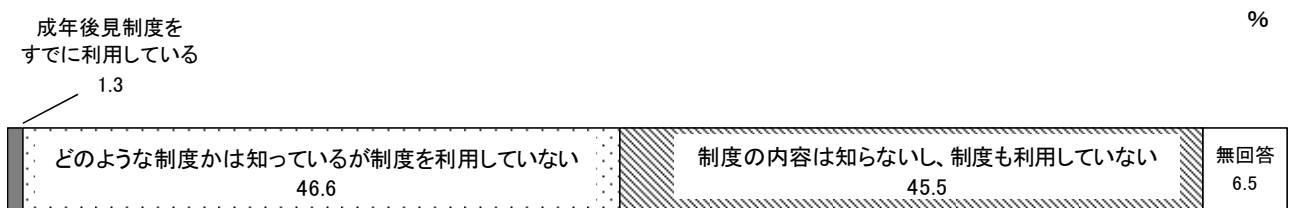
10. 権利擁護

(1) 成年後見制度の認知度

問 47 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「どのような制度かは知っているが、制度を利用していない（46.6%）」「制度の内容は知らないし、制度も利用していない（45.5%）」と回答した人が、それぞれ約半数であった（図表 1-96）。

図表 1-96 成年後見制度の認知度（N=2,691）

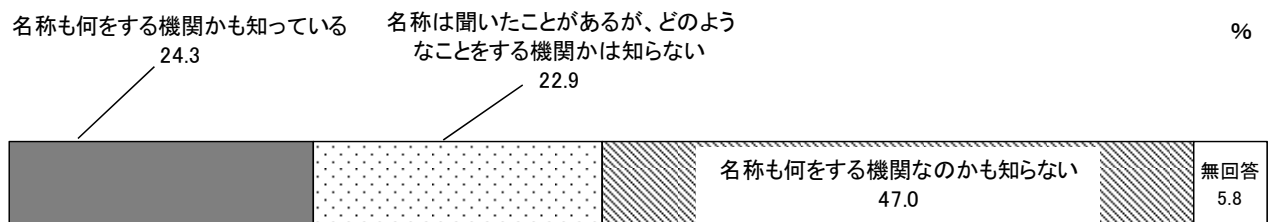


(2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 48 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も、何をする機関かも知っている」と回答した人は 24.3%であり、「名称も何をする機関なのかも知らない」と回答した人は 47.0%であった（図表 1-97）。

図表 1-97 新宿区成年後見センターの認知度（N=2,691）

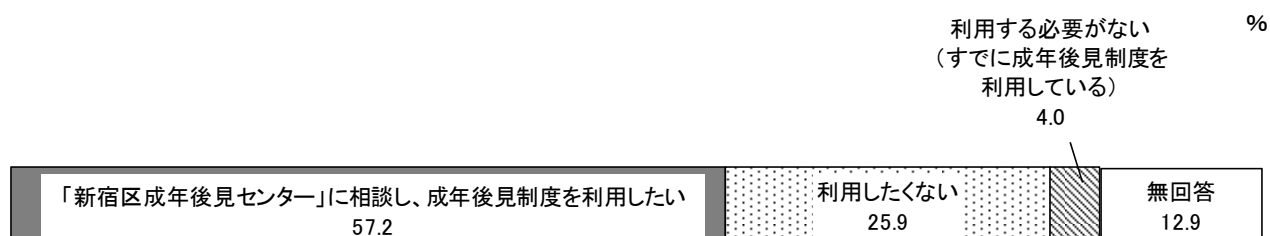


(3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 49 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業説明をしたうえで、利用意向をたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(57.2%)」と回答した人は、約6割であった(図表1-98)。

図表 1-98 新宿区成年後見センターの利用意向 (N=2,691)



1.1. 緊急時の避難など

(1) 災害時にひとりで避難できるか

問 50 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで避難できると思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

「できる」と回答した人は 82.7%、「できない」と回答した人は 12.5%であった(図表 1-99)。

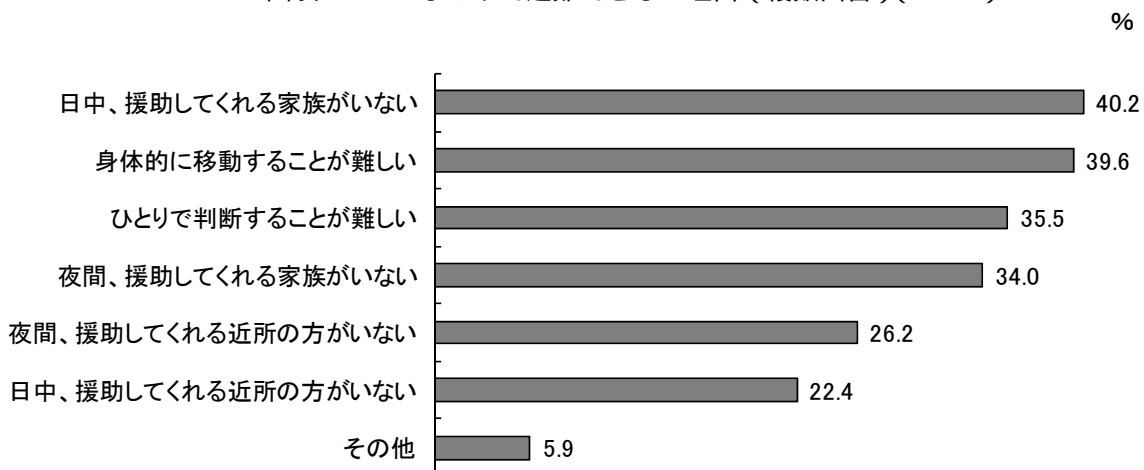
図表 1-99 ひとりで避難できるか (N=2,691)



問 50-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

問 50 で、ひとりで避難できないと回答した人に、その理由をたずねた。「日中、援助してくれる家族がいない (40.2%)」と回答した人が最も多く、次いで「身体的に移動することが難しい (39.6%)」であった (図表 1-100)。

図表 1-100 ひとりで避難できない理由 (複数回答) (N=321)

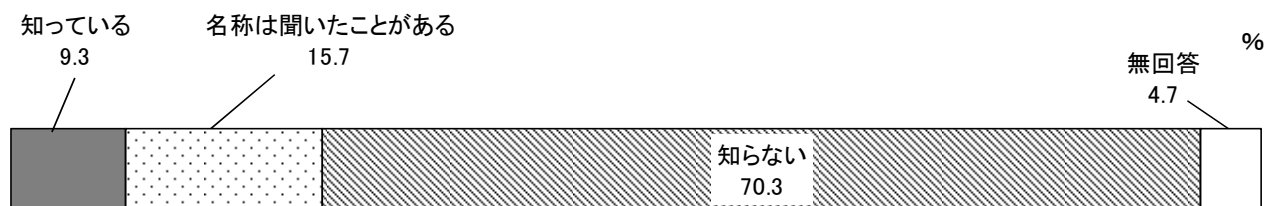


(2) 災害時要援護者登録名簿について

問 51 区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守ることが困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立てます。あなたは、このような制度をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

災害時要援護者登録名簿の認知度について、「知らない（70.3%）」と回答した人は、約 7 割であった（図表 1-101）。

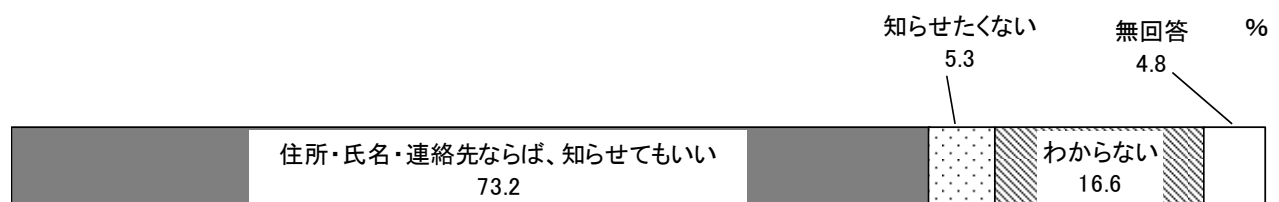
図表 1-101 災害時要援護者登録名簿の認知度（N=2,691）



問 52 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？（あてはまる番号に1つ）

災害などの緊急時に備えて、事前に情報を知らせておくことについて、「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい（73.2%）」と回答した人は、約 7 割であった（図表 1-102）

図表 1-102 災害など緊急時に備えて、事前の情報登録への意向（N=2,691）

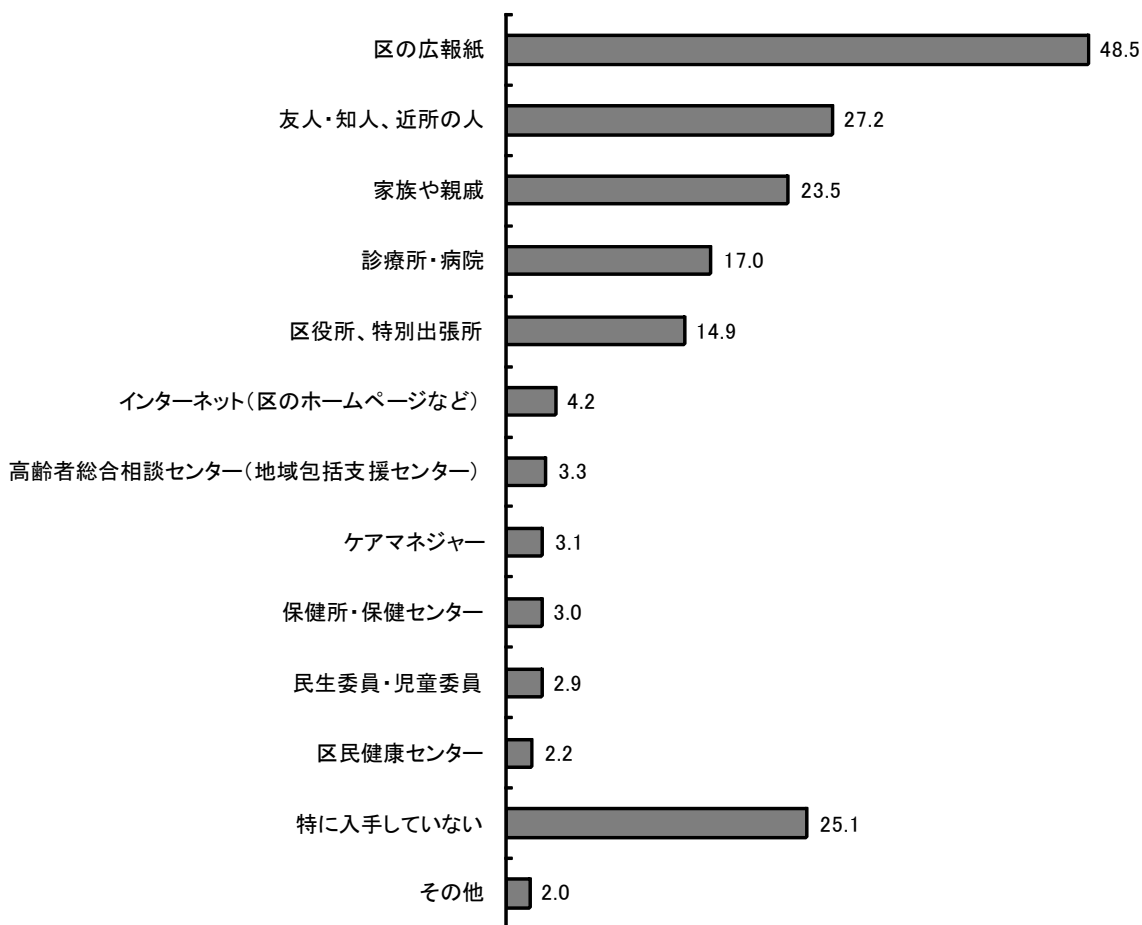


12. 情報入手

問 53 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか？
(あてはまる番号すべてに)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段では、「区の広報紙（48.5%）」と回答した人が、約5割と最も多く、続いて「友人・知人、近所の人（27.2%）」「家族や親戚（23.5%）」の順であった。一方「特に入手していない」と回答した人は25.1%であった（図表 1-103）。

図表 1-103 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=2,577) %



自由記述から（一般高齢者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が500件あった。主な内容は以下のとおりである。

住まいに関すること（22件）

- ・安心して住めるような貸借住宅があればいい。
- ・都営住宅等公共住宅になかなか入居できない。
- ・家賃の安い住宅（高齢者用）を充実して欲しいと思います。
- ・年齢で不動産契約を断られた。
- ・高齢者向けの住宅を多く提供できるようにして欲しい。
- ・不動産屋との間に入って話し合ってくれる人が欲しい。
- ・住みなれた所にできるだけいたい。

介護保険制度・介護保険サービスに関すること（243件）

- ・介護保険の収支がどの様に使われているか知りたい。
- ・介護を受ける側も判断、認定する側ももう少し現実的な実施をしないと、介護保険料をいくら上げても将来的に持続きしないのではないかと危惧している。
- ・要支援や要介護になったら在宅と施設を両方必要に応じて利用できる施策を望む。費用は消費税の増額。
- ・北欧なみの在宅介護の充実。
- ・利用したい時に望む通りに利用出来る介護体制が必要です。
- ・所得の低い人の保険料はあげるべきでない。
- ・介護保険、自己負担を増やし、利用していない者の保険料を下げたい。
- ・年金の中から介護保険料を引かれる事がつらい。
- ・介護保険を今まで一度も使っていません。ぎりぎり住民税を課税されているため保険料がきついです。70歳以上の者にはその年に保険を使わなかった場合、翌年の保険料は1割程度割引してもらいたいと思います。
- ・保険料についてもっと若年より開始して、70才で終了するような方法を提案したいと思います。
- ・充実した介護を受けられるなら保険料の上昇もやむを得ないと思う。
- ・介護を受ける際の費用が心配。
- ・介護保険料をおさめていても利用するとき金銭的な理由により利用をあきらめる事がない様にしたい。
- ・福祉施設はユニット型がいいと思う。命つきる日迄1人の自分で過ごしたいから。
- ・家族と同居している人には介護保険は冷たいと思う。
- ・介護を受ける立場になった時、どの程度のサービスが受けられるか情報提供をしっかりとしてほしい。
- ・今後、寝たきり病人を増やさないためにも、要支援の充実は不可欠なものである。老人が安心して現在の場での暮らしを続けていけるよう、打ち切りなど絶対にしないでいただきたい。
- ・介護者の負担の大きな要介護者のショートステイが思うようにとれない状況ときいています。
- ・希望する介護施設にタイムリーに入所できる体制の充実を希望。

ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること(7件)

- ・介護職の増加と報酬を考えて欲しい。
- ・介護して下さる人に対する報酬が少ない。仕事内容に見合った収入とすることで介護の質の向上につながれば望ましい。
- ・訪問医師の増加、訪問看護師の増加をお願いしたい。
- ・介護保険料を上げずに、介護分野で働く方の報酬を上げる方法を考えて欲しい。

介護者への支援に関すること(3件)

- ・介護家族をもっと手厚く保護した方が良いように思います。
- ・介護する高齢者に対しても考慮する必要があるのではないか。

医療などに関すること(45件)

- ・医療費を上げないでほしい。
- ・在宅療養が十分に実施出来るような施策を精力的に実行すべきものと思う。
- ・自宅での療養を希望した時に、具体的にどこの医療機関が対応してくれるのか、マップがあるとありがたい。
- ・救急車を呼んで病院さがすのにとっても時間がかかり、受け入れてくれる所がない。病院を出されても受け入れてくれる施設がない。
- ・長期に入院できる病院がない。
- ・うつ病に対する理解と支援が必要。
- ・認知症専門機関が少ない。
- ・かかりつけ医を紹介して欲しい。
- ・現在の制度では保証人がいないと治療に必要なお金を持っていても手術はおろか入院もさせてもらえない。国、区が保障してくれる制度ができる事を望む。
- ・往診していただける医療機関があったら区報でも是非教えていただきたい。往診のシステムづくりをしていただきたい。
- ・往診してくれる医師が少ない。
- ・今後ガンの病気で死亡する人が増える事が考えられます。緩和ケアの病棟・ベット数の増加を切に望みます。
- ・区の健康診断の充実化(項目の拡大・検査内容の高密度化)を要望します。

区に対するなど要望(56件)

- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・健康な人への表彰制度を考えてほしい。
- ・高齢でも元気で頑張っている人達の事を考えてくださるよう、よろしくお願いします。
- ・高齢者が利用出来る施設、相談窓口等の場所、電話番号等をまとめた小冊子が欲しい。
- ・高齢者にわかりやすくポスターか広報誌に簡単に書いてください。
- ・区報や申請書は大きめの文字とわかりやすい文章をお願いします。
- ・介護の方法を教えてください。
- ・新宿区という特質性を考えた施策が必要だと思う。他区と比べて流入流出が多い区の特質。そのための広報、教育等が必要なのではないか。反面オフィスの町という点も見ることがある。

- それらを新宿区の将来像と組み合わせる必要があるのではないか。
- 各部署が連携するシステムを強化することが重要だと思います。
- いきいき体操をもっと広めて欲しい。
- 体力づくりの場を作ってください。
- 救急車がスムーズに入れる様、道路の角切を徹底させて下さい。

施策全般に関すること（42件）

- 国とは別に新宿区として、福祉サービス方法等を考える必要がある。
- シビルミニマムの設定と自己負担原則のバランスが重要。
- 区の財政の中で今後高齢化に伴う費用が増大することは、はっきりしていることであるので費用が増大しても施設、介護に必要な財政を行っていただきたいと考えています。
- 区役所内でも不要となった仕事・事業をカットし、代わりにその人員や資金を高齢者のみならず弱い立場の人々の福祉向上にあてていただきたい。
- 高齢者の経験等を生かせる仕事の紹介をして欲しい。
- 毎日の安否確認をして頂けたら安心。
- 「ちょっと困りごと援助サービス」の業務範囲が判りづらく、結果は要望に沿った業務ができないことがある。何とか応えられるような体制を望みたい。
- ボランティア活動の参加者に対する介護保険サービス利用時の自己負担額の軽減制度の検討。
- 援助したり協力した人にスタンプなり点数を集め、自分が必要な時にサービスが受けられるような方式を取り入れれば介護保険料を値上げしなくてもすむのではないか。
- 成年後見制度は、手続きの簡素化。費用の軽減を望む。
- 認知症発症後の支援の充実。
- 「シニアスポーツチャレンジ事業」を増やして欲しい。
- 将来、要支援外でも手助けしていただけるような制度があったらよい。（体調不良の際の買物や高所の照明の取替など）

緊急時、災害時の対処（7件）

- 視力障害のため緊急時の避難に不安があります。ガイドヘルパー以外にも支援する人が必要と考えます。
- 地震、事故、火災等近くで起きた時が一番心配しています。
- 地震や広域火災などの場合に弱者たる高齢者の保護を重視してもらいたい。
- 夜間、健康状況が悪くなったり、災害があったりしたときの対応が不安。

その他のご意見（75件）

- 高齢者も自分の事は、自分で出来るように最大限努力すべき。
- 高齢者だからといって、公共の施設が過保護すぎる。
- 高齢者の保護も大切ですが、未来ある子供、若者のケアにお金をまわすべきだと思います。
- 高齢者よりも若い人により多くの区の予算を配分すべき。
- 年金生活では苦しい。
- 70才になると仕事もなし、これから不安いっぱいです。

- ・シルバーパスが有難い。
- ・インフルエンザ予防注射、お風呂、無料にて有難く思います。
- ・高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の対応が非常によかった。
- ・トータルリフレッシュ教室は良い制度だと感謝しています。
- ・自転車専用道路がふえればいい。
- ・日用品等の買い物を配達してくれる店名を、食事を含め知りたい。
- ・民生委員がどなたかわかりません。
- ・時々民生委員の方がたずねてきてくれますので、今後もそのようにして欲しい。
- ・介護保険サービスを利用しないで済むよう日々健康な生活するよう支援した方が良い。
- ・サラリーマンは、何か地域でかかわろうとしてもきっかけをつかめない。
- ・健康や福祉サービスの情報を知らなかったことに気付きました。
- ・「高齢者総合相談センター」の存在は今回初めて知りました。各人の価値観、死生観を尊重することが肝要であり、緩和ケアの充実や尊厳死への本格的な対応が望まれます。
- ・区の学校開放のおかげで毎土曜日に仲間と汗を流させて頂き感謝してます。

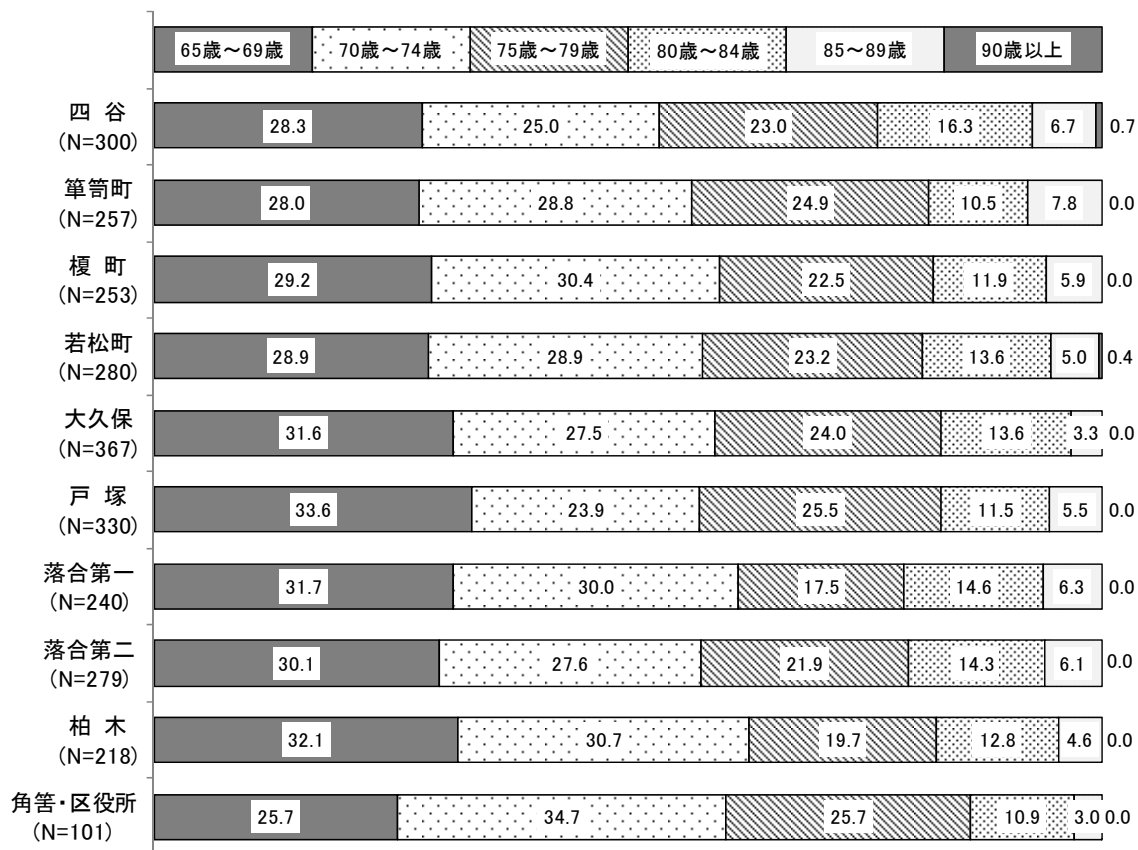
(参考) 地域別集計表

※以下は、一般高齢者調査の主な調査項目について、地域別のクロス集計表です。

(1) 年齢

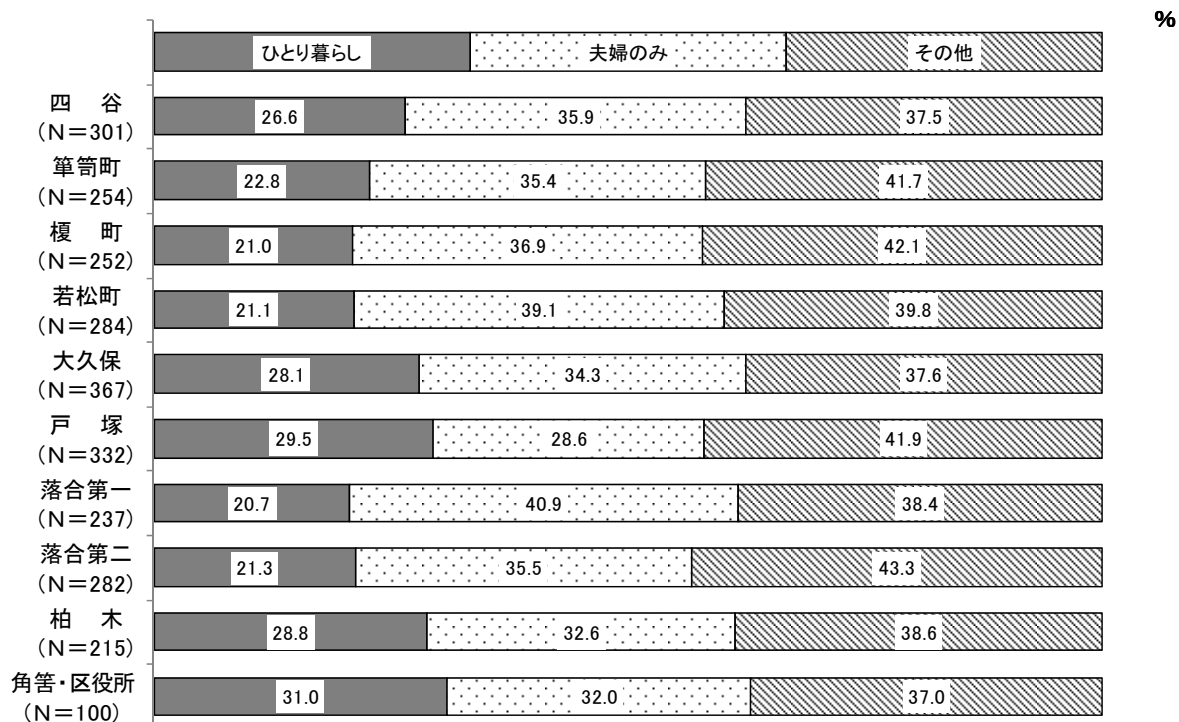
図表 1 年齢 (N=2,625)

%



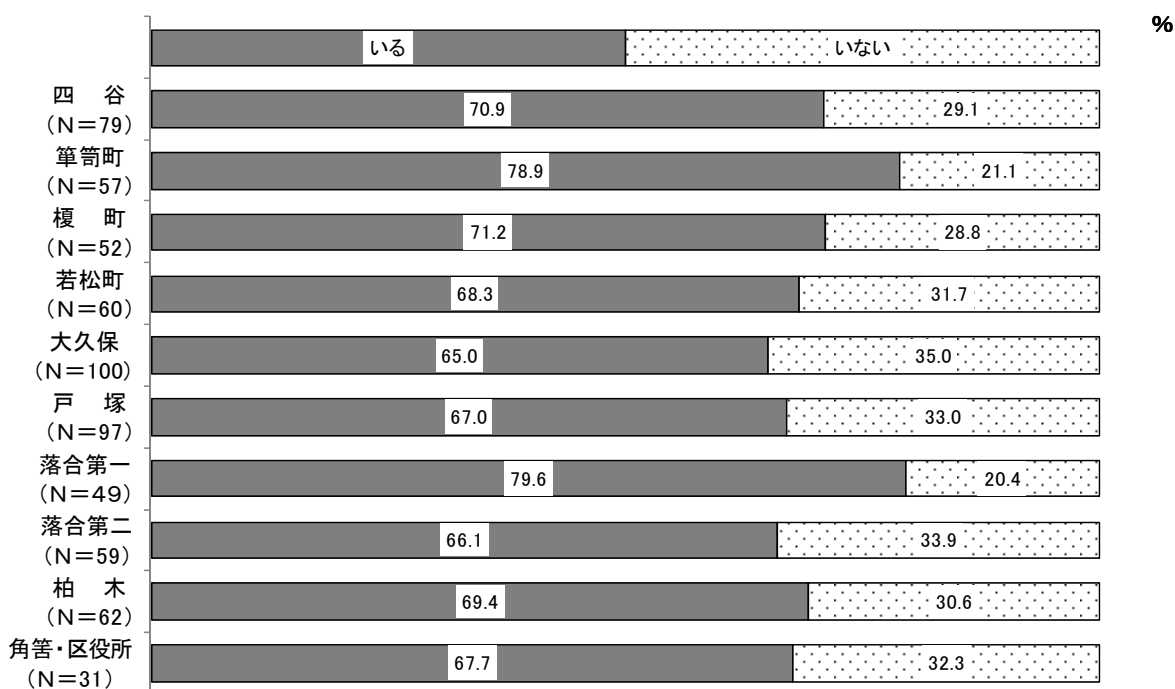
(2) 世帯構成

図表 2 世帯構成 (N=1,048)



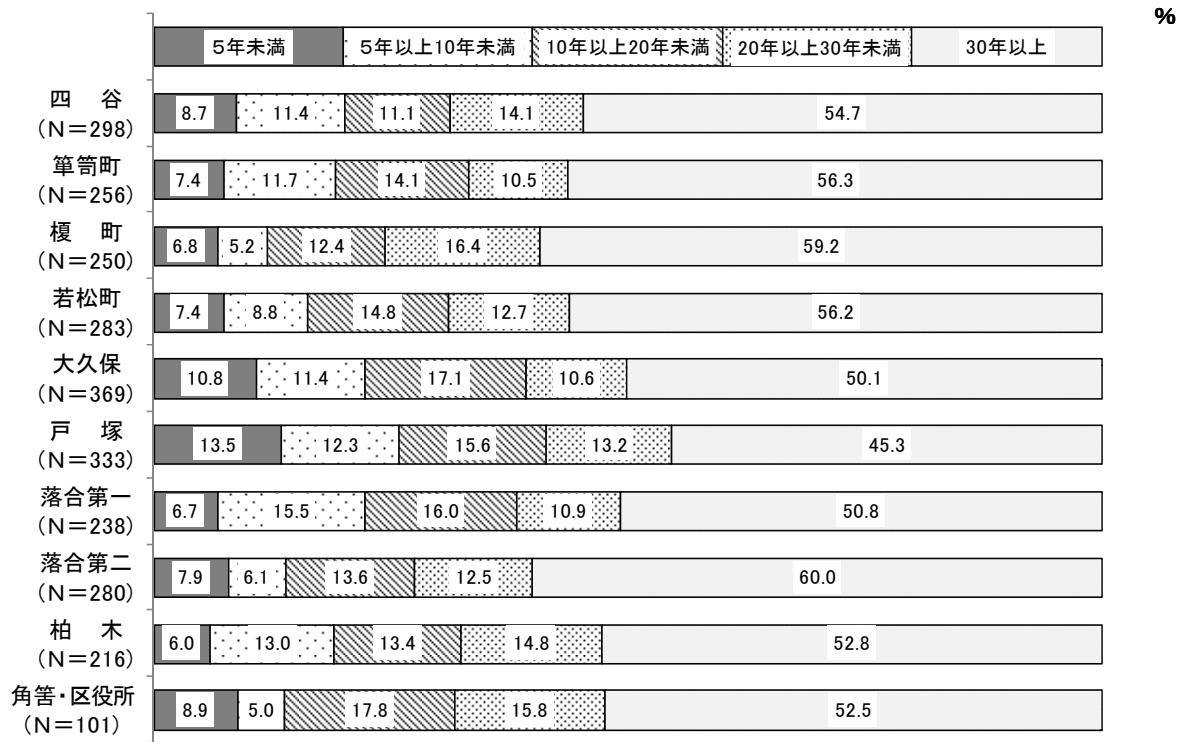
(3) ひとり暮らしの人について、近所に手助けを頼める人の有無

図表 3 ひとり暮らしの人について、近所に手助けを頼める人の有無 (N=646)



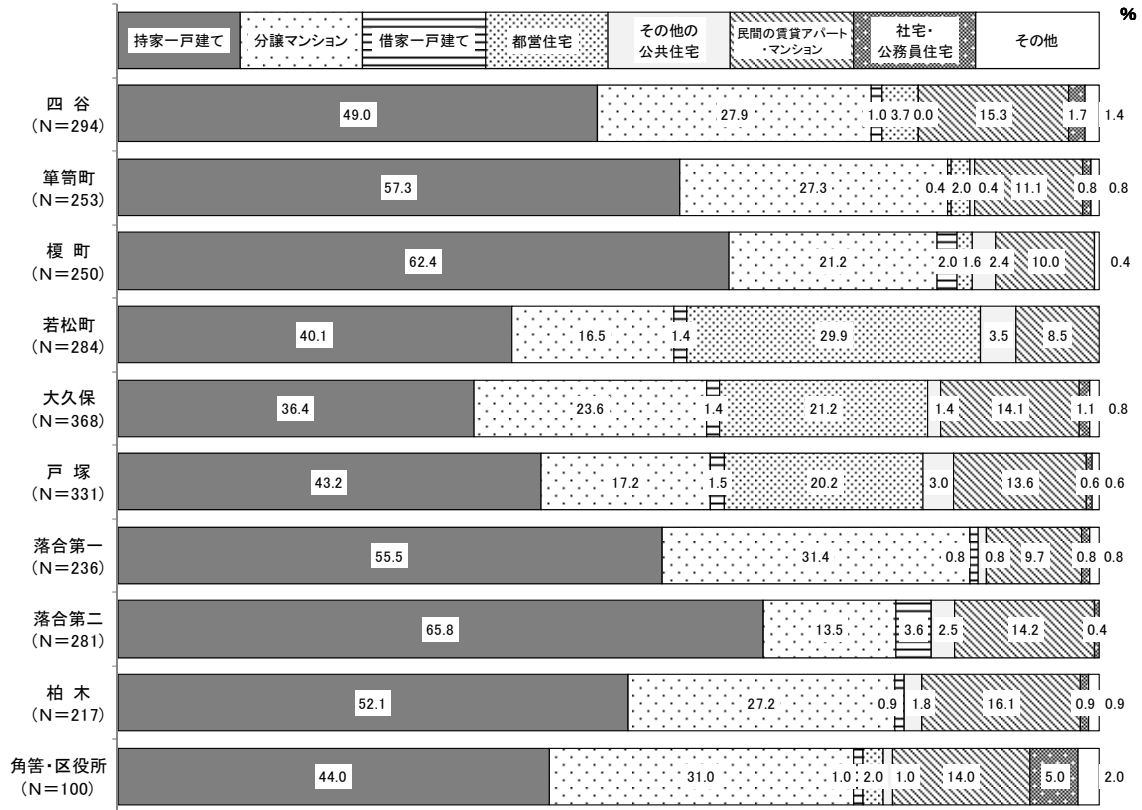
(4) 居住年数

図表4 居住年数 (N=2,624)



(5) 住居形態

図表5 住居形態 (N=2,624)



(6) 住まいの不安・不便

図表6 住まいの不安・不便 (複数回答)(N=2,334)

	家の大きさ (広すぎる、狭すぎるなど)	段差がある (玄関、居室、トイレなど)	階段の勾配 (傾斜) がきつい	手すりが無い	風呂がない又は使いにくい	設備が古く使いにくい (台所、トイレなど)	家が老朽化している	一人で落ちつける部屋がない	家賃が高い	地震による建物の倒壊や家具の転倒	立ち退きを迫られている	賃貸借契約を結ぶことができないため、新しい家を探しても、保証人がいないため、契約を断られる	新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる	特に不便や不安を感じていることはない	その他
四谷 (N=268)	12.7	16.4	7.8	6.7	4.5	7.1	19.8	3.4	10.4	16.4	0.4	2.2	3.7	44.0	4.9
箕箭町 (N=223)	15.2	17.5	8.5	8.1	4.5	6.7	18.8	4.9	5.4	14.3	0.9	0.9	1.3	49.3	3.1
榎町 (N=222)	14.9	17.6	11.7	10.8	4.1	6.3	17.1	5.4	6.3	14.9	0.9	0.0	1.8	43.7	2.3
若松町 (N=260)	18.1	18.5	9.6	11.9	6.2	11.5	16.9	6.5	8.5	16.2	1.2	0.8	1.5	41.5	2.3
大久保 (N=324)	18.2	14.2	7.7	6.8	8.0	12.0	13.9	7.1	7.4	15.1	0.3	1.9	2.2	46.0	4.3
戸塚 (N=292)	16.1	12.0	11.0	7.5	5.1	8.9	16.1	4.1	10.3	12.0	1.0	1.0	4.1	45.9	3.1
落合第一 (N=217)	13.4	14.7	7.4	7.8	4.6	11.1	12.4	3.7	5.5	15.7	0.5	1.8	1.4	52.1	3.2
落合第二 (N=248)	13.7	19.8	10.5	12.1	8.1	6.9	20.6	6.0	5.6	21.0	1.6	1.6	0.4	41.1	2.4
柏木 (N=190)	14.7	15.3	12.1	10.0	8.9	12.6	24.7	5.3	8.4	14.7	0.5	0.5	1.6	44.2	2.6
角筈・区役所 (N=90)	18.9	17.8	8.9	12.2	4.4	10.0	16.7	7.8	6.7	18.9	2.2	1.1	2.2	41.1	3.3

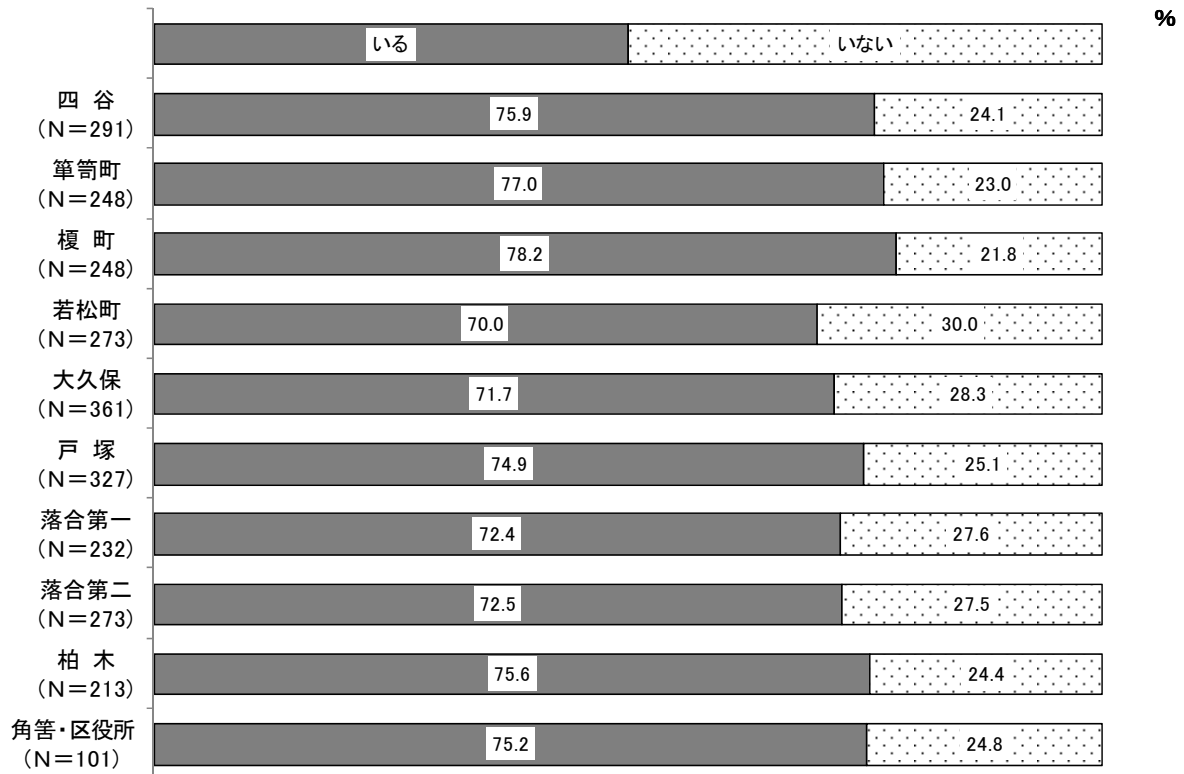
(7) 受診している医療機関

図表7 受診している医療機関(複数回答)(N=1,917)

	診療所・クリニック (通院)	診療所・クリニック (往診)	診療所・クリニック (通院と往診)	国公立病院	大学病院	その他の病院	その他
四谷 (N=214)	64.5	0.5	0.0	7.0	39.7	13.6	1.4
箆笥町 (N=182)	61.0	0.5	1.1	26.9	20.3	18.1	0.5
榎町 (N=185)	67.6	0.0	1.1	20.0	17.8	18.9	0.5
若松町 (N=203)	57.1	0.5	0.0	33.5	21.7	10.3	0.0
大久保 (N=270)	61.5	0.7	0.4	27.0	20.7	14.1	1.1
戸塚 (N=243)	63.0	0.0	0.8	22.6	20.6	16.5	0.8
落合第一 (N=170)	54.1	0.0	0.6	15.3	22.9	32.4	1.8
落合第二 (N=207)	57.5	0.0	0.5	9.2	26.1	25.6	0.5
柏木 (N=166)	63.3	1.2	1.8	15.1	26.5	11.4	0.6
角筈・区役所 (N=77)	50.6	0.0	0.0	9.1	40.3	19.5	1.3

(8) かかりつけ医の有無

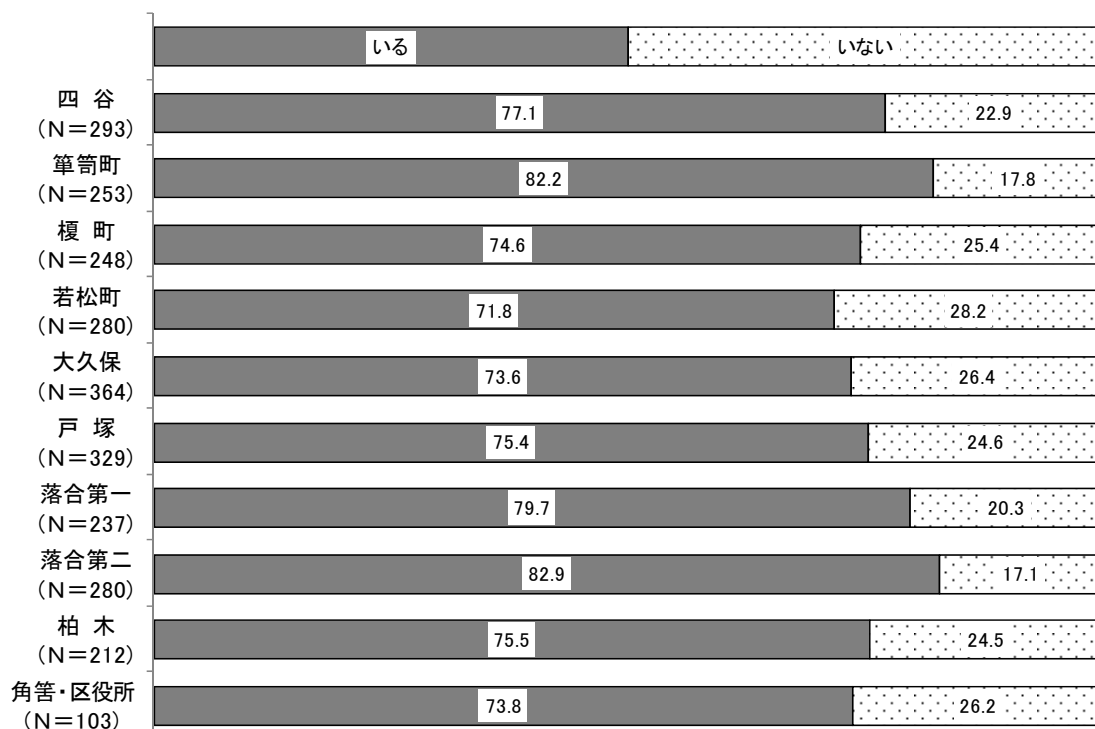
図表8 かかりつけ医の有無(N=2,567)



(9) かかりつけ歯科医の有無

図表9 かかりつけ歯科医の有無 (N=2,599)

%



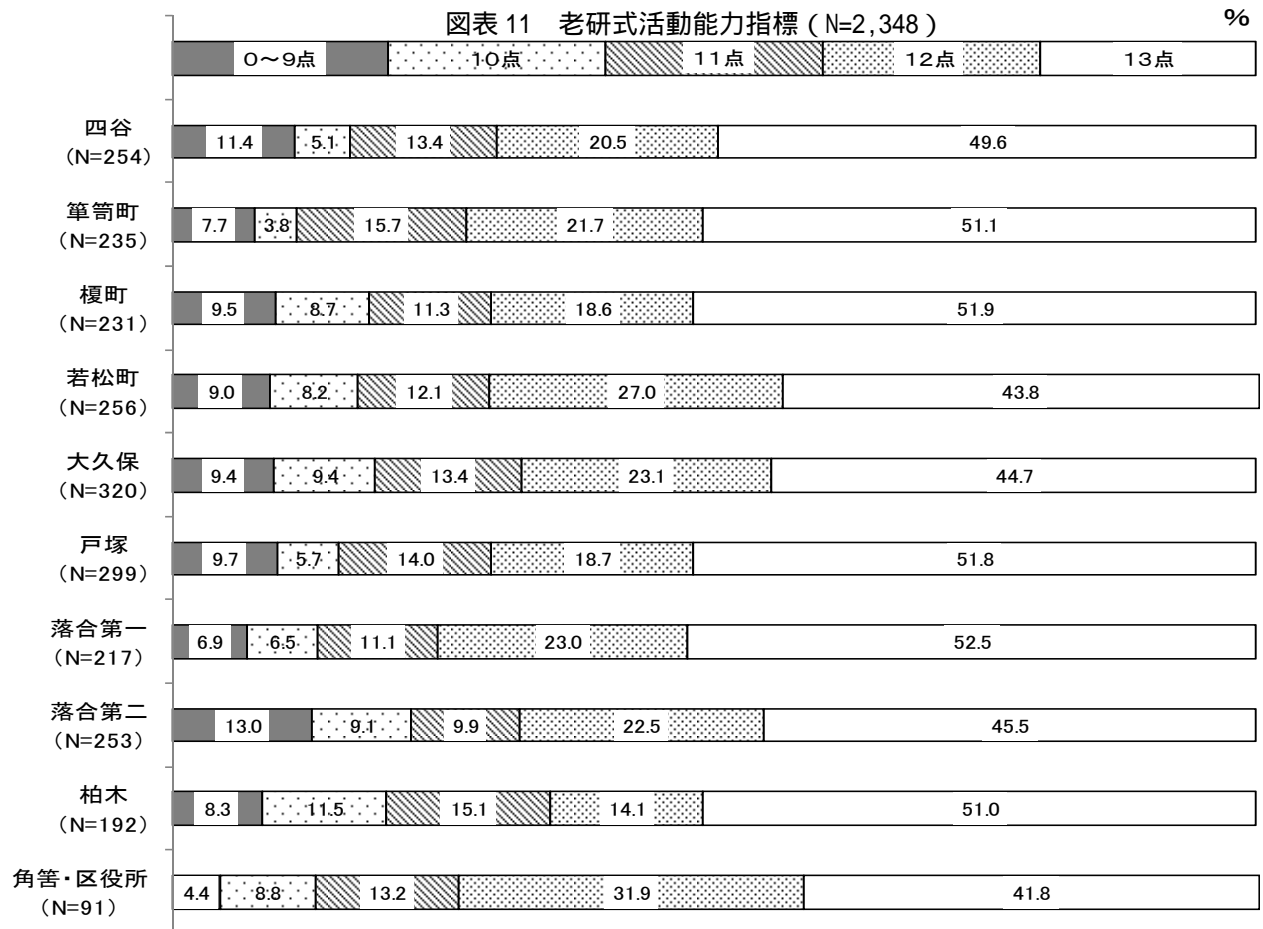
(10) 在宅療養を難しくする要因

図表10 在宅療養を難しくする要因 (複数回答)(N=2,426)

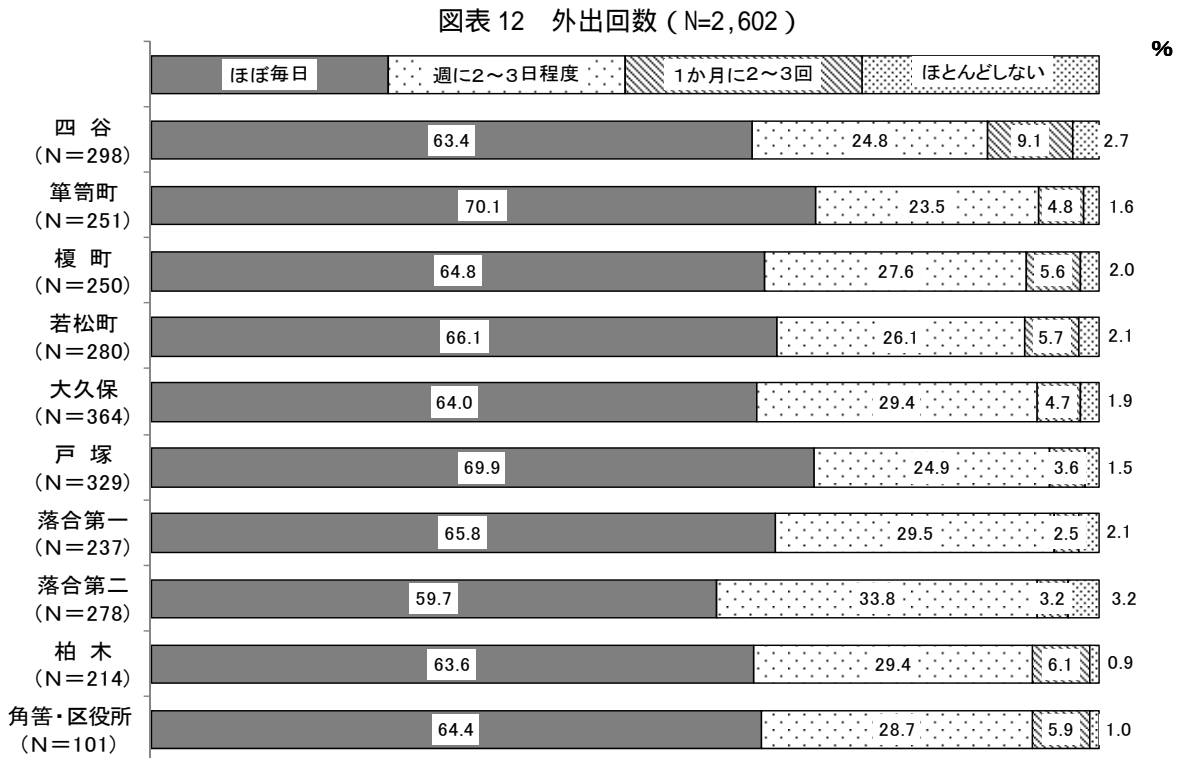
%

	介護してくれる家族等がないこと	家族への負担	自宅に往診してくれる医師や訪問看護ステーションがわからないこと	急変したときの医療体制	自分が望む医療が受けられるかどうかわからないこと	病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養準備	居住環境(部屋のつくり、広さなど)が整っていないこと	自宅での療養のことを相談できる場所がわからないこと	お金がかかること	特に不安なことはない	その他
四谷 (N=274)	27.4	63.9	24.1	27.7	27.7	9.5	20.4	13.5	29.2	6.6	0.7
箆笥町 (N=235)	21.7	71.5	23.8	28.9	25.1	9.8	17.4	10.6	25.5	7.7	0.9
榎町 (N=234)	24.4	67.1	25.2	28.6	24.4	7.3	16.7	8.5	33.8	4.7	0.4
若松町 (N=265)	25.3	68.3	25.7	32.5	27.9	9.4	22.6	13.2	31.3	5.7	1.1
大久保 (N=344)	28.5	60.2	24.1	32.8	26.2	7.3	19.8	14.8	31.4	8.1	0.3
戸塚 (N=305)	25.9	57.7	23.9	34.4	27.2	8.5	21.6	11.5	36.1	9.5	1.3
落合第一 (N=222)	28.4	63.5	25.7	31.5	25.7	8.1	17.1	14.4	27.9	6.3	1.4
落合第二 (N=258)	22.9	69.8	24.0	32.2	26.0	10.1	24.0	14.3	31.4	6.2	0.0
柏木 (N=198)	28.3	60.6	19.2	27.3	24.7	11.6	24.2	10.1	29.3	8.1	0.0
角筈・区役所 (N=91)	33.0	61.5	25.3	31.9	23.1	8.8	22.0	13.2	26.4	7.7	1.1

(11) 老研式活動能力指標



(12) 外出回数



(13) 外出の際に不便に感じること

図表 13 外出の際に不便に感じること (N=2,335)

		や(体)に不安がある 耳の力の低下、尿漏れなど)	移動や電車・バスにすることに不安がある	知らない人と会うことに不安がある	外出の準備が大変である (戸締まりなど)	集合住宅で生活しているが、エレベーターがないため	特に不便を感じていることはない	その他
四谷 (N=263)	25.1	7.6	0.0	1.1	1.1	71.5	1.1	
箆笥町 (N=232)	17.2	6.5	0.4	2.2	0.9	78.4	0.9	
榎町 (N=212)	20.3	6.6	0.5	2.4	1.9	75.9	1.4	
若松町 (N=249)	26.9	4.0	1.2	3.2	2.4	70.3	2.0	
大久保 (N=333)	22.2	6.3	0.0	0.9	1.2	76.3	0.9	
戸塚 (N=305)	23.3	3.3	2.0	0.3	0.7	73.4	2.6	
落合第一 (N=211)	19.0	6.6	0.9	3.3	0.5	77.3	2.4	
落合第二 (N=240)	25.0	6.7	0.4	3.3	0.4	72.1	1.7	
柏木 (N=195)	19.0	5.6	0.5	5.1	0.5	77.4	1.5	
角筈・区役所 (N=95)	18.9	3.2	1.1	1.1	1.1	76.8	2.1	

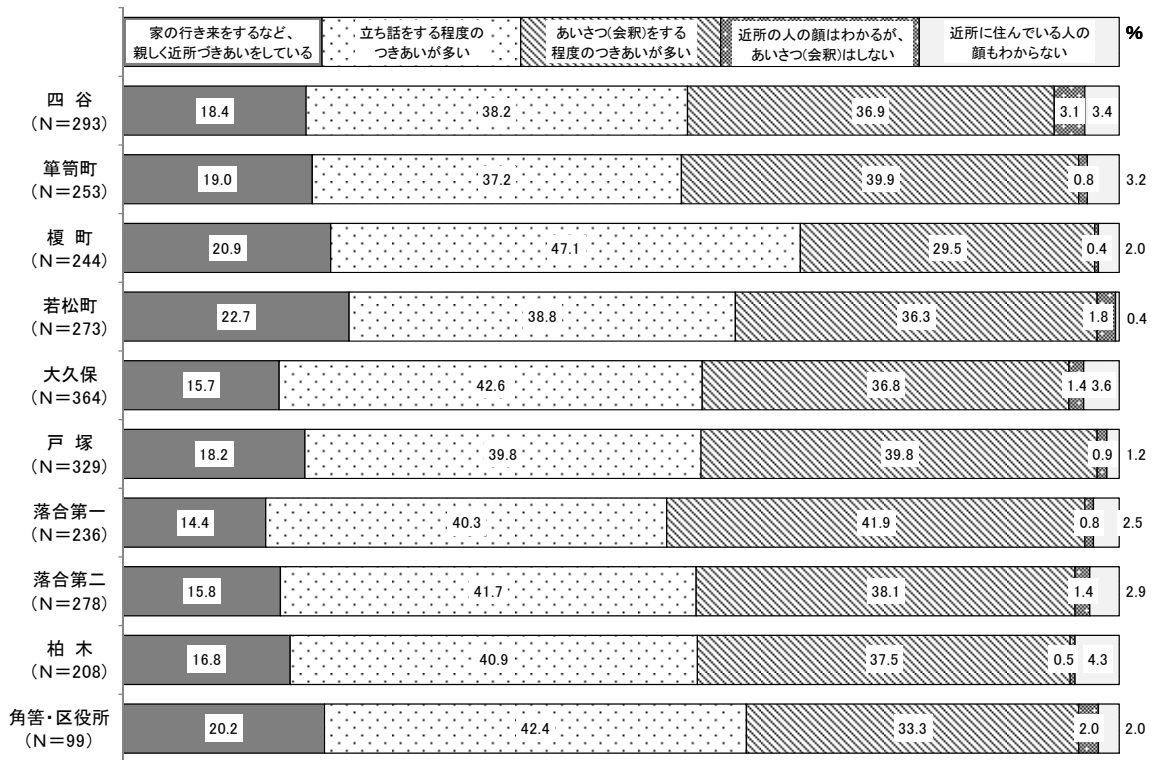
(14) 日常生活での困りごと

図表 14 日常生活での困りごと (N=2,490)

	日用品の買い物をするお店が遠い	布(例)えが荷物が持てないの買物、 団干し、家具の移動など)	食事の内容が偏る	や郵送される役所などの書類の手続 書き方がわからない	高い所にあるものの作業、 カーテン交換など)	腰や膝を曲げての作業、拭き掃除 など)	階段の昇り降り	特に困っていることはない	その他
四谷 (N=284)	6.3	27.8	6.0	5.3	26.8	21.1	20.4	53.9	1.1
箆笥町 (N=240)	8.3	22.1	6.7	2.5	22.1	15.8	16.7	60.0	0.8
榎町 (N=238)	5.5	19.7	4.6	5.9	21.0	15.5	18.9	63.9	0.4
若松町 (N=260)	3.5	23.1	5.4	6.2	23.1	23.1	20.8	56.9	0.4
大久保 (N=345)	4.6	27.0	7.8	7.2	26.4	19.7	18.3	54.2	0.6
戸塚 (N=319)	3.1	20.1	7.2	7.2	22.6	16.0	13.2	58.3	0.3
落合第一 (N=232)	6.9	22.8	9.1	3.4	27.6	14.2	14.7	58.2	0.9
落合第二 (N=263)	8.4	21.3	3.8	5.3	24.3	19.8	15.6	58.2	0.8
柏木 (N=208)	3.4	21.2	8.2	4.3	23.6	17.3	14.4	58.7	1.4
角筈・区役所 (N=101)	7.9	22.8	6.9	3.0	20.8	24.8	17.8	59.4	0.0

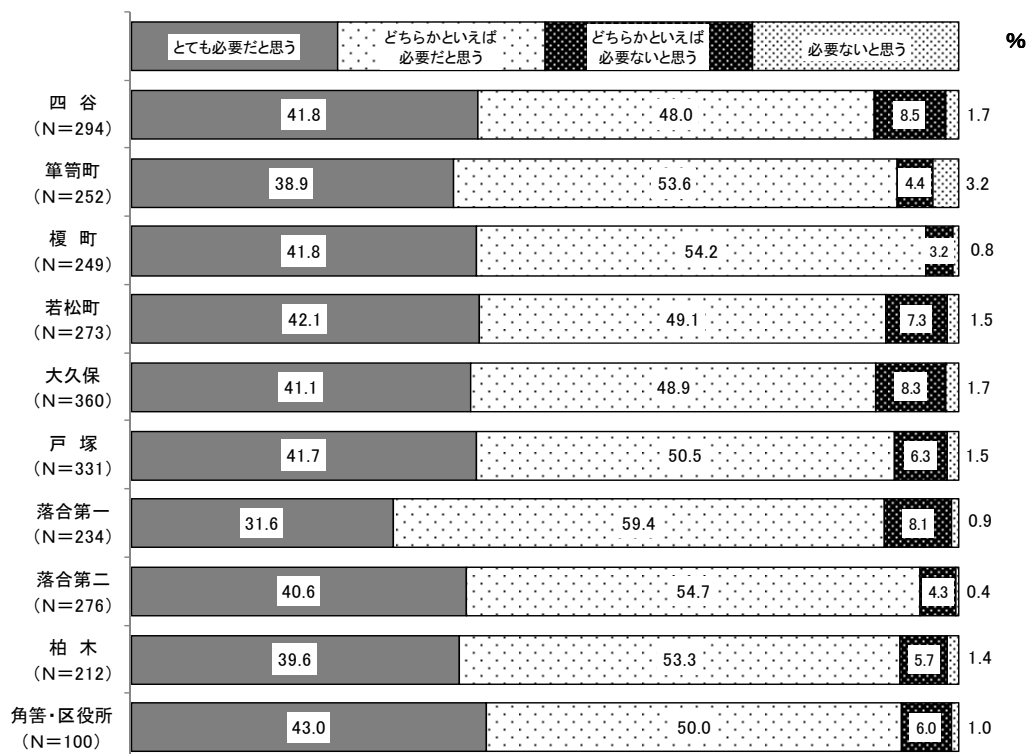
(15) 近所づきあいの程度

図表 15 近所づきあいの程度 (N=2,577)



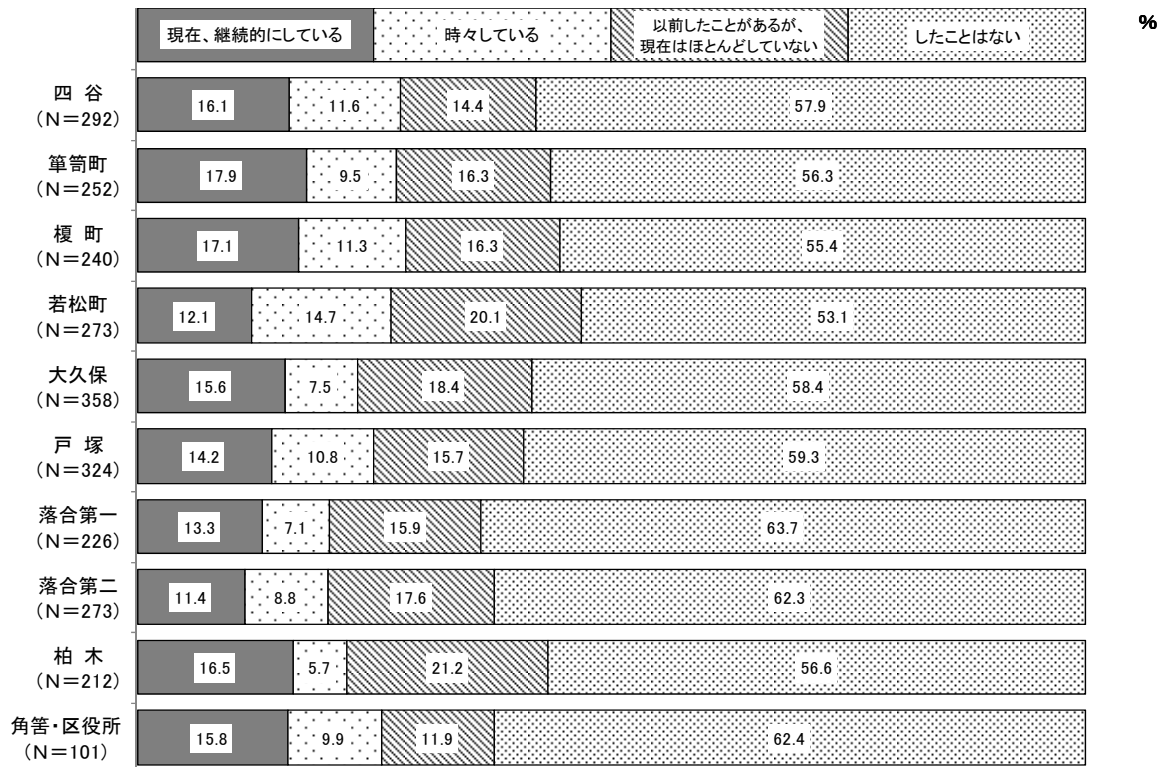
(16) 地域のつながりの必要性

図表 16 地域のつながりの必要性 (N=2,581)



(17) 地域活動やボランティア活動等の状況

図表 17 地域活動やボランティア活動等の状況 (N=2,551)



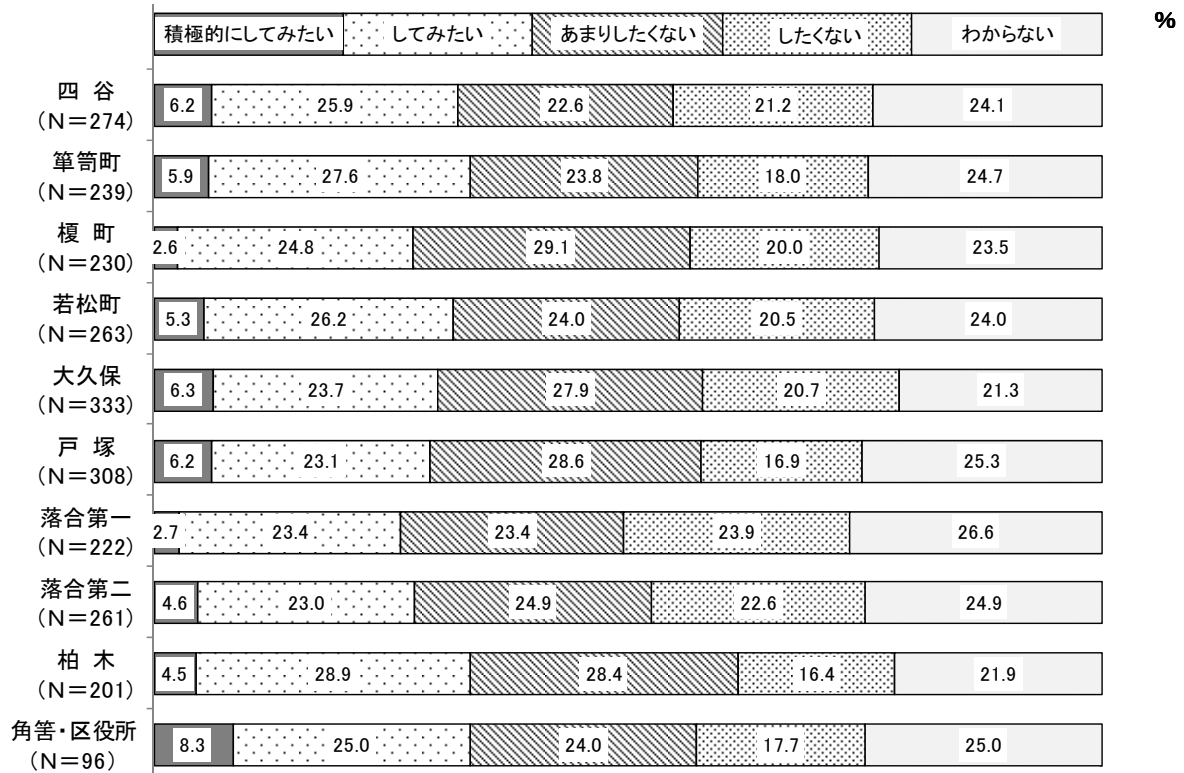
(18) 興味のある地域活動やボランティア活動等

図表 18 興味のある地域活動やボランティア活動等 (複数回答) (N=1,985)

自治体	子どもの育成に関する活動	ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動	障害や病気の人を支援する活動	救済・安全や犯罪防止、災害時の安全を守る活動	交通安全や犯罪防止、災害時の安全を守る活動	地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化に関する活動	近隣の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流・協力に関する活動	特に興味のある活動はない	その他
四谷 (N=212)	13.2	12.7	9.0	22.2	18.4	22.2	5.7	47.2	1.9	
箆笥町 (N=207)	13.5	15.0	6.8	15.9	18.4	18.4	7.7	44.0	1.4	
榎町 (N=180)	12.8	15.0	6.7	16.1	12.8	12.8	1.1	53.9	3.3	
若松町 (N=213)	12.7	15.0	7.0	15.5	13.1	22.1	3.3	47.9	1.4	
大久保 (N=276)	11.2	13.0	9.4	12.0	15.9	18.8	5.8	51.1	1.8	
戸塚 (N=268)	14.2	13.4	5.2	13.1	13.8	22.8	2.2	46.6	2.6	
落合第一 (N=185)	12.4	11.9	5.4	15.1	16.2	17.3	4.3	49.7	1.6	
落合第二 (N=199)	8.5	12.6	6.5	16.1	14.1	13.1	1.5	53.3	2.5	
柏木 (N=170)	10.6	15.3	8.2	17.6	12.9	22.9	4.1	45.9	1.8	
角筈・区役所 (N=75)	14.7	17.3	6.7	10.7	16.0	22.7	2.7	53.3	0.0	

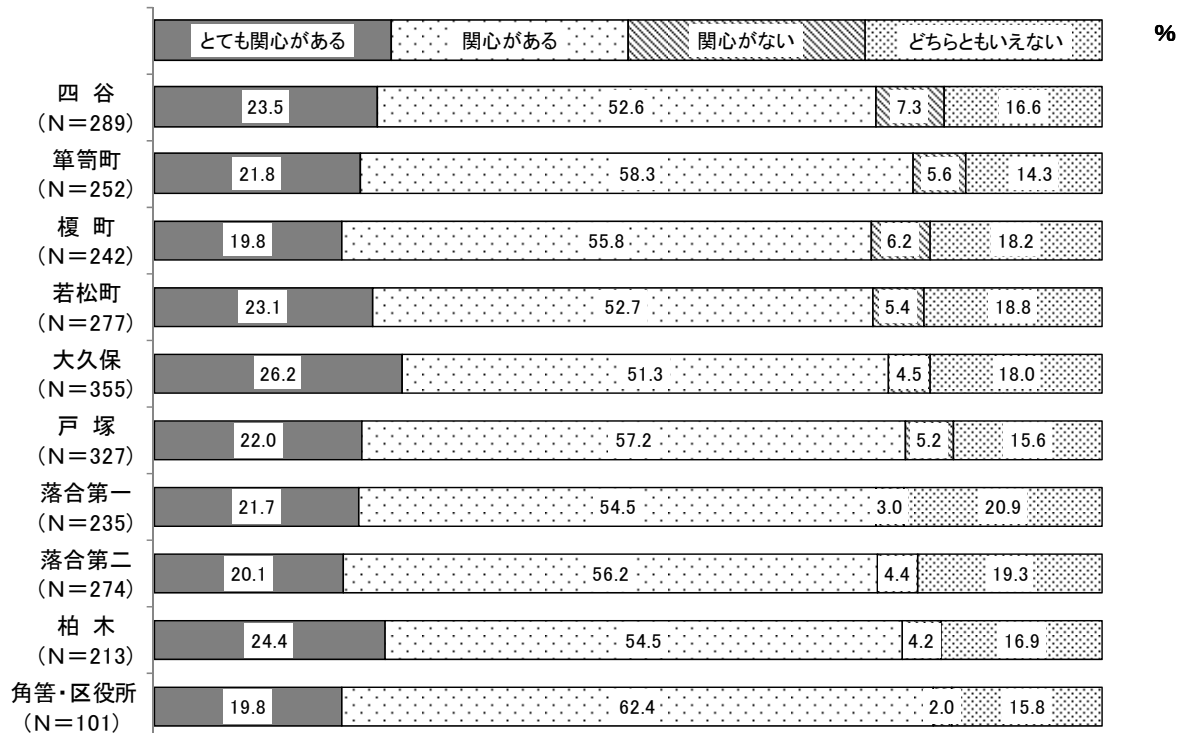
(19) 地域活動やボランティア活動等の意向

図表 19 地域活動やボランティア活動等の意向 (N=2,427)



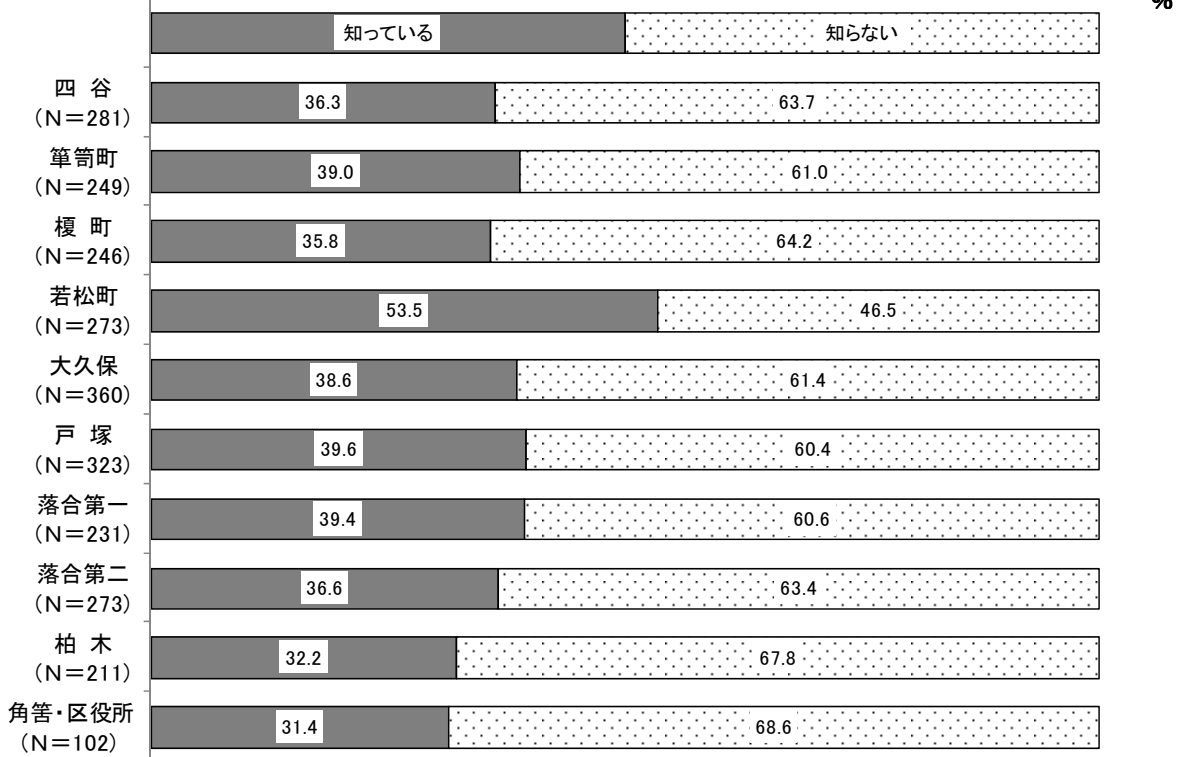
(20) 介護予防についての関心

図表 20 介護予防についての関心 (N=2,565)

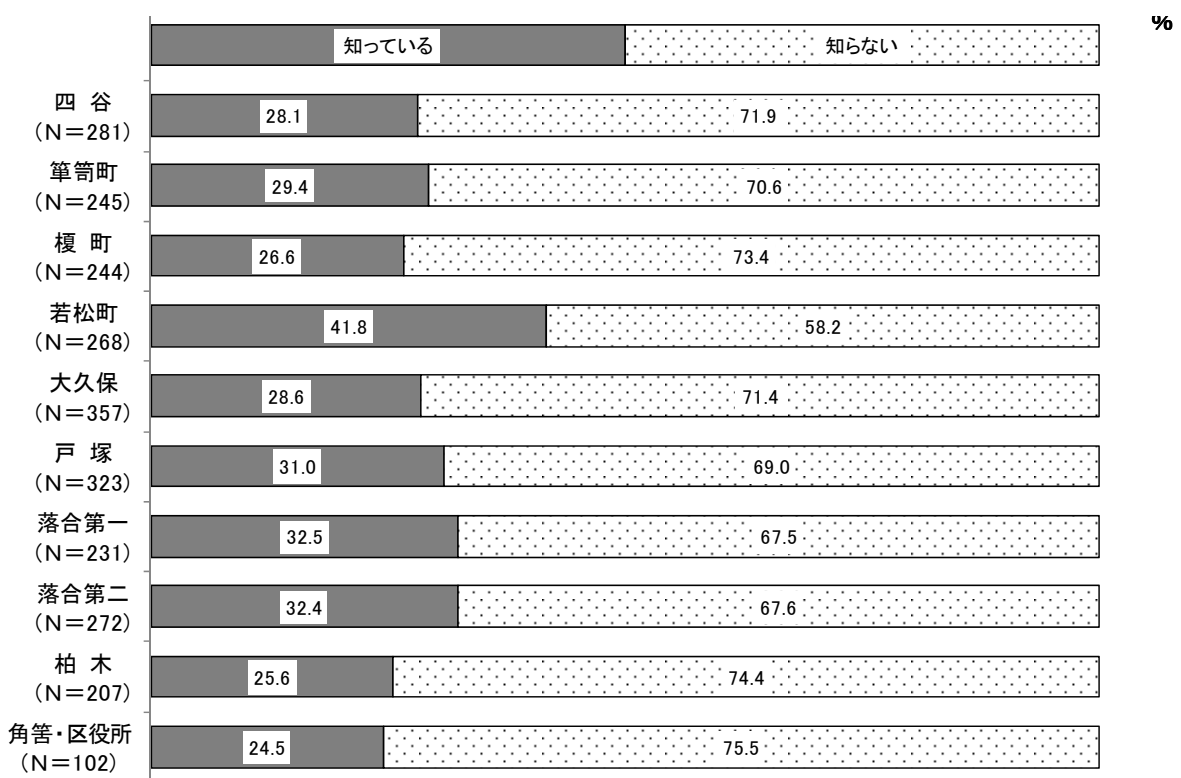


(21) 高齢者総合相談センターについて

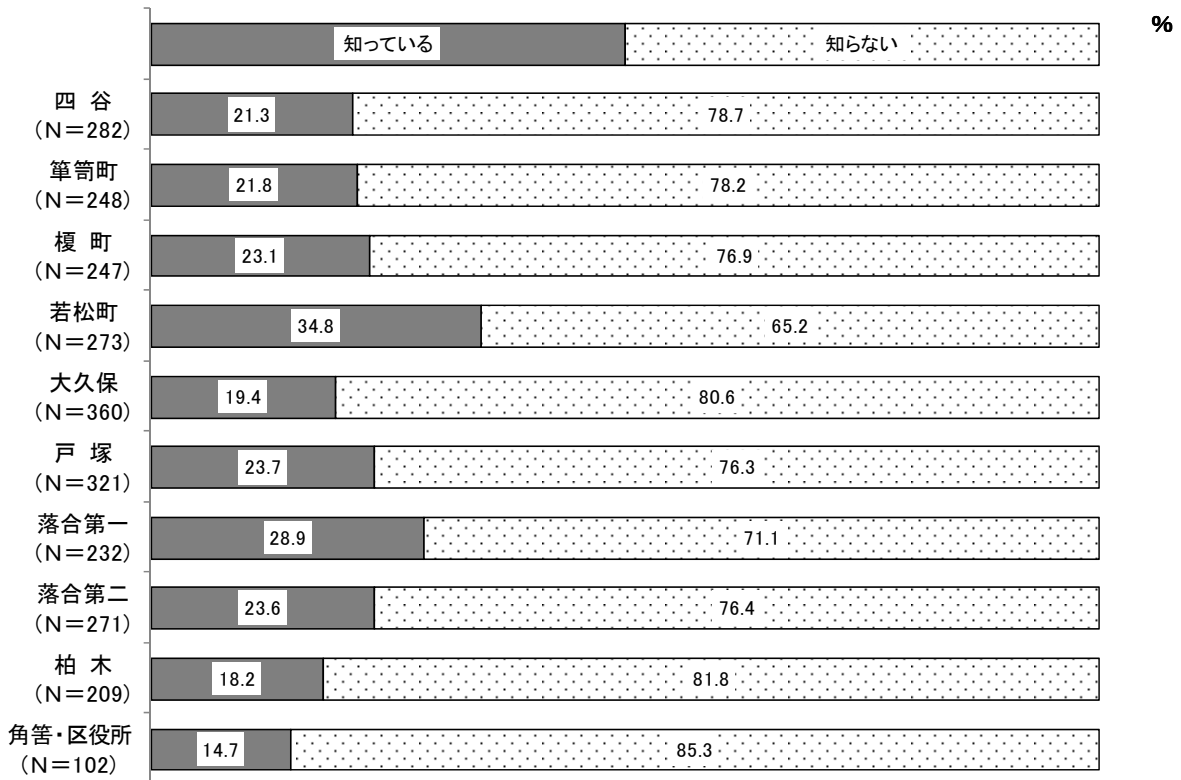
図表 21 高齢者総合相談センターについて (名称認知度) (N=2,549)



図表 22 高齢者総合相談センターについて (機能の認知度) (N=2,530)

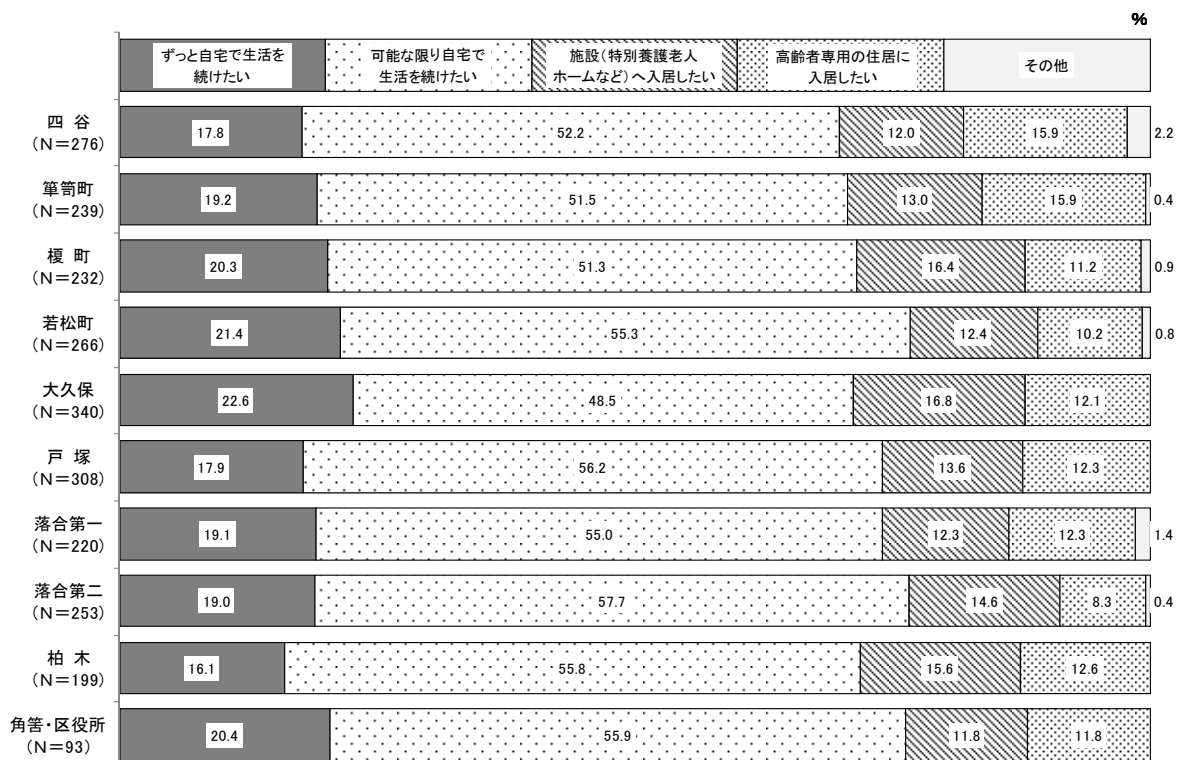


図表 23 高齢者総合相談センターについて（場所の認知度）(N=2,545)



(2.2) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか

図表 24 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか (N=2,426)



(23) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

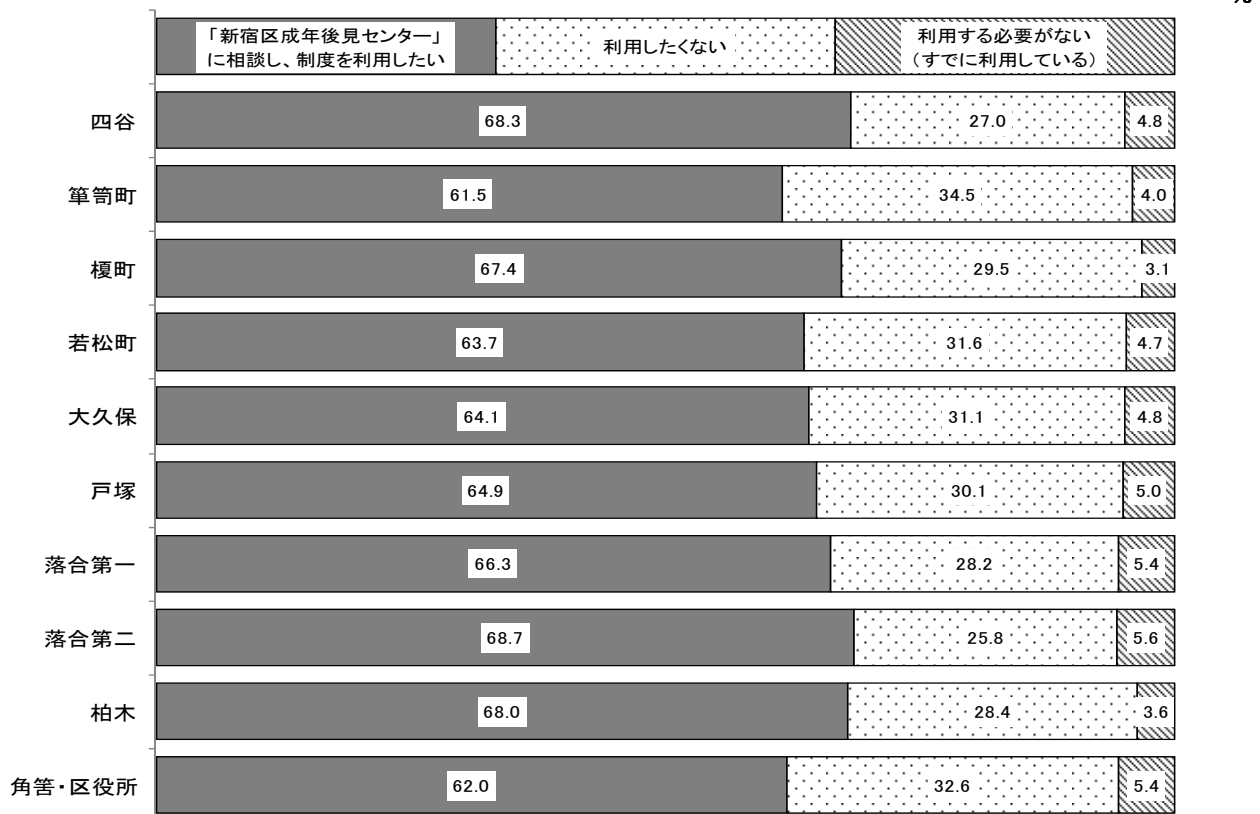
図表 25 在宅で暮らし続けるために必要なこと (N=2,418)

		安心して住み続けられる住まいがある	近所の人の見守りや手助けがある	必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)	活動したり、交流したりする場所がある	日中に自宅から出て、他の高齢者とともにサービスがある	要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある	一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある	必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある	いつでも入所できる介護施設がある	往診してくれる医療機関がある	弁当など食事を宅配してくれるサービスがある	調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある	健康・介護・生活相談ができる体制がある	声かけがある	近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある	水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況(安否など)を外都からチェックしてくれる仕組みがある	緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある(24時間365日)	介護者の負担を軽減する仕組みがある	低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある	その他
四谷 (N=265)	72.5	22.6	67.9	27.2	37.0	32.5	42.6	48.7	53.6	41.9	47.5	42.6	20.8	26.0	48.7	47.2	34.7	1.1			
筆筒町 (N=237)	79.7	20.3	75.5	29.5	38.0	35.9	43.9	53.2	58.2	46.4	47.3	40.9	19.8	24.5	47.7	43.9	35.4	0.4			
榎町 (N=234)	77.4	22.2	61.1	27.4	33.8	32.5	39.7	43.6	46.2	39.7	35.5	25.2	22.6	44.4	40.2	35.9	0.9				
若松町 (N=258)	70.9	23.6	70.5	31.8	36.0	29.5	43.8	52.7	63.6	46.9	45.3	39.9	26.0	26.4	48.4	43.4	42.6	0.4			
大久保 (N=339)	71.7	20.6	64.6	25.1	36.0	26.0	38.9	50.1	54.6	37.8	37.8	32.2	19.2	22.1	45.7	38.1	39.2	0.9			
戸塚 (N=309)	77.7	26.2	65.4	29.4	36.6	27.5	41.1	48.5	54.7	46.6	45.6	38.8	22.3	25.9	51.5	41.4	40.8	1.0			
落合第一 (N=224)	78.6	20.5	69.6	29.9	40.6	31.3	38.8	52.2	58.0	47.8	42.0	39.7	21.4	23.7	49.1	48.2	33.5	0.4			
落合第二 (N=257)	73.9	22.2	69.3	28.8	38.5	29.6	40.9	58.0	60.7	45.5	42.8	37.0	24.1	24.5	44.7	49.0	41.2	0.8			
柏木 (N=202)	71.3	19.3	69.8	25.2	41.6	26.7	42.1	48.5	58.4	43.6	49.0	35.6	25.7	23.8	47.5	41.6	37.6	0.5			
角筈・区役所 (N=93)	72.0	28.0	69.9	30.1	34.4	34.4	45.2	54.8	63.4	49.5	46.2	38.7	25.8	23.7	51.6	36.6	44.1	0.0			

(24) 新宿区成年後見センターの利用意向

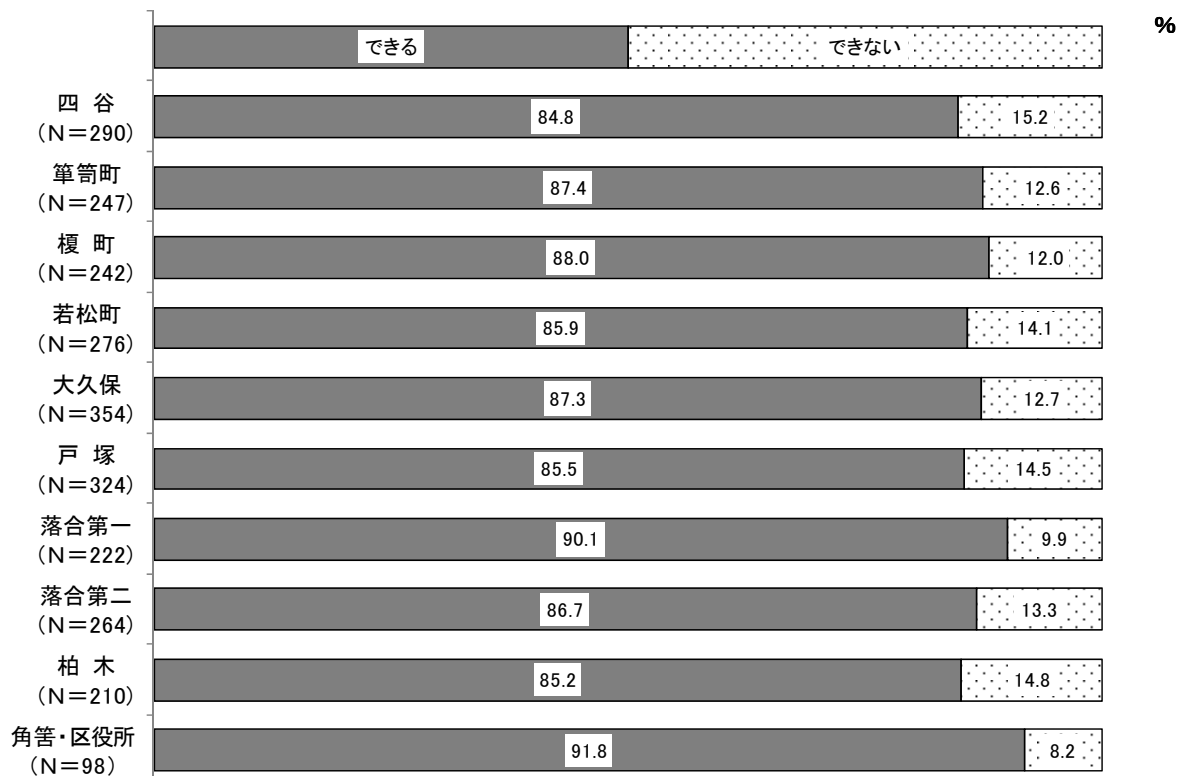
図表 26 新宿区成年後見センターの利用意向 (N=2,315)

住所(特別出張所)と新宿区成年後見センターの利用意向のクロス表



(25) 災害時にひとりで避難できるか

図表 27 災害時にひとりで避難できるか (N=2,527)



(26) 情報入手の手段

図表 28 情報入手の手段 (N=2,539)

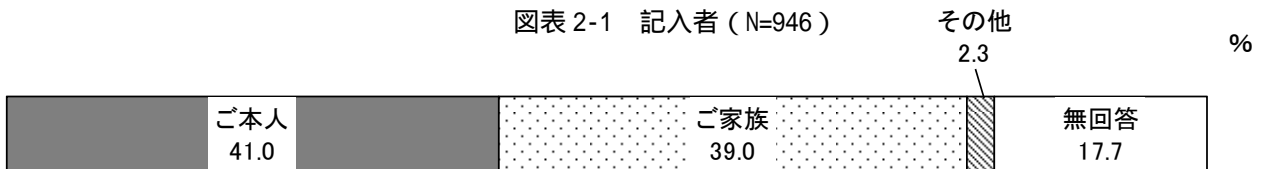
	家族や親戚	友人・知人、近所の人	民生委員・児童委員	区役所、特別出張所	保健所・保健センター	区民健康センター	診療所・病院	ケアマネジャー	高齢者総合相談センター (地域包括支援センター)	区の広報紙	インターネット (区のホームページなど)	特に入手していない	その他
四谷 (N=285)	21.4	25.6	3.2	11.2	2.8	1.1	20.7	2.5	3.2	44.9	2.5	28.8	3.2
筆筒町 (N=247)	17.8	25.1	3.2	15.8	2.4	2.0	16.6	4.0	2.4	53.0	5.7	23.5	3.2
榎町 (N=238)	22.3	27.3	2.5	12.2	3.4	2.1	17.2	3.8	2.9	46.6	3.8	26.5	2.1
若松町 (N=278)	25.2	32.4	1.4	19.1	2.5	4.7	20.1	5.0	4.7	47.5	2.9	23.4	1.8
大久保 (N=348)	24.4	26.1	4.0	15.2	4.6	2.3	14.7	2.3	3.4	48.0	4.3	25.3	1.4
戸塚 (N=324)	26.2	27.5	3.4	15.7	2.8	1.9	16.7	0.9	3.1	52.5	4.0	25.9	1.2
落合第一 (N=234)	23.1	26.5	3.4	15.4	3.4	1.3	16.2	3.8	5.1	48.7	5.6	25.6	1.7
落合第二 (N=272)	23.2	26.8	3.3	12.9	2.9	2.2	17.3	3.3	3.3	51.1	4.4	22.8	1.5
柏木 (N=212)	26.4	27.4	2.4	15.1	3.3	3.3	15.6	3.3	1.9	47.6	3.8	23.1	1.4
角筈・区役所 (N=101)	28.7	28.7	1.0	14.9	0.0	0.0	13.9	2.0	2.0	46.5	5.9	24.8	4.0

II. 居宅サービス利用者調査

【調査票の記入者】

ご回答者は「ご本人（41.0%）」と「ご家族（39.0%）」が、各々約4割であった（図表2-1）。

図表 2-1 記入者（N=946）



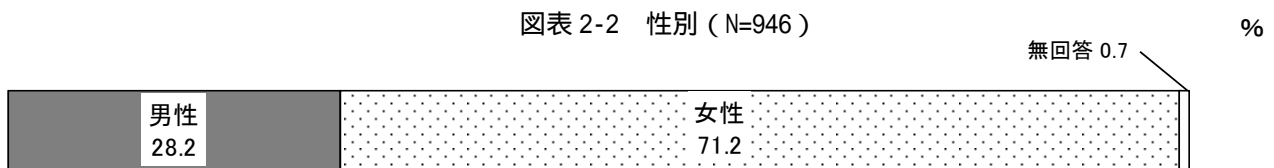
1. ご本人のこと

(1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性（28.2%）」が約3割で、「女性（71.2%）」が約7割であった。（図表2-2）。

図表 2-2 性別（N=946）



(2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、75歳以上の後期高齢者が約9割であった（図表2-3）。

図表 2-3 年齢（N=946）



図表 2-4 年齢（性別）

		40歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	合計
性別	男性 (N=265)	1.9	2.6	10.9	18.9	24.9	23.0	17.7	100.0
	女性 (N=668)	0.9	1.0	5.8	16.6	30.4	26.9	18.3	100.0

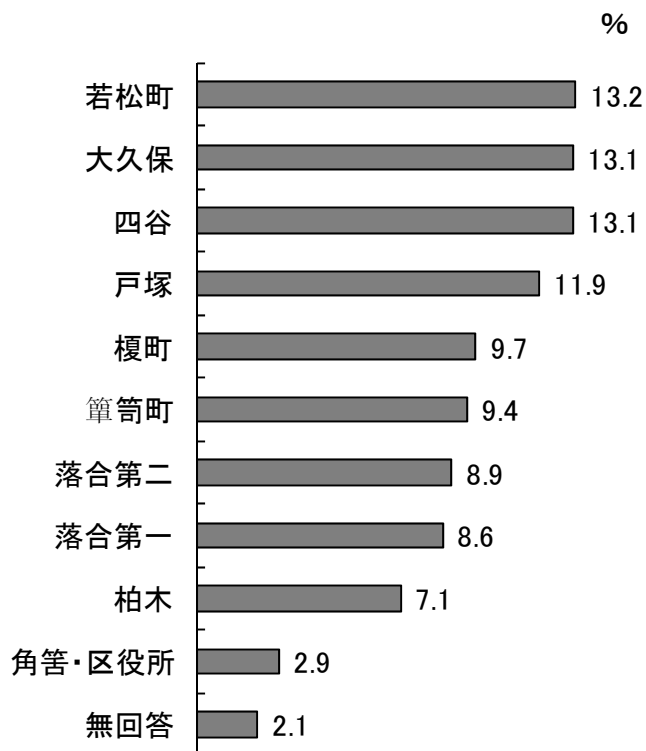
(3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「若松町（13.2%）」が最も多く、続いて「大久保（13.1%）」「四谷（13.1%）」であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（2.9%）」であった（図表 2-5）。

図表 2-5 居住地（N=946）



(4) 世帯構成

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？

(あてはまる番号に1つ)

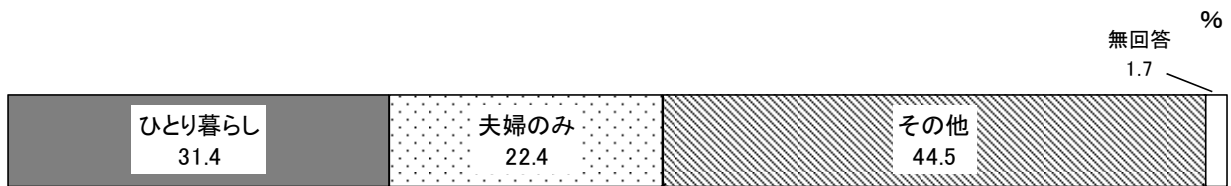
また、あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

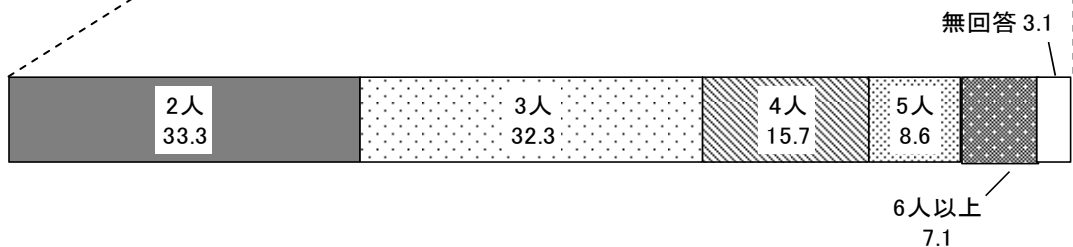
世帯構成は、「ひとり暮らし」が31.4%、「夫婦のみ」が22.4%、「その他」が44.5%であった(図表2-6)。

「その他」と答えた人の世帯人数は「2人(33.3%)」が、最も多く、続いて「3人(32.3%)」であった(図表2-7)。

図表 2-6 世帯構成 (N=946)



図表 2-7 世帯人数 (N=421)

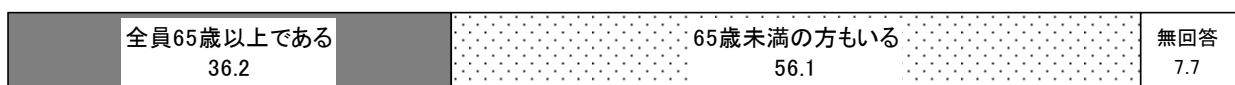


(4-1) 同居者の年齢

問 4-1 同居されている方はおいくつですか？ (あてはまる番号に1つ)

「ひとり暮らし」以外の世帯における同居者の年齢について、「全員 65 歳以上である」世帯は、36.2%であった(図表2-8)。(※ひとり暮らしと合わせて高齢者のみ世帯は、全体で55.6%である)。

図表 2-8 同居者の年齢 (N=633)



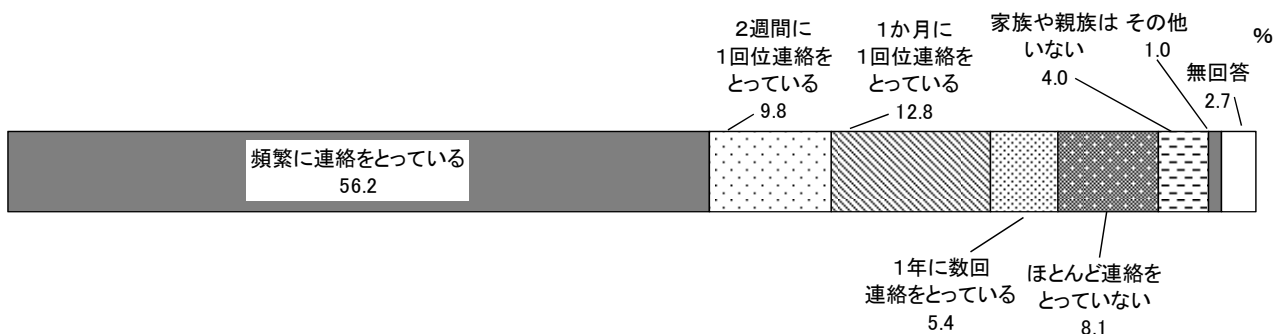
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況

問4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？（あてはまる番号に1つ）

問4で「1. ひとり暮らし」と答えた人にたずねた。

ひとり暮らしの方の、家族や親族との連絡状況についてみると、「頻繁に連絡をとっている」人は56.2%であった。一方「ほとんど連絡をとっていない」は8.1%、「家族や親族はいない」は4.0%であった（図表2-9）。

図表 2-9 家族や親族との連絡頻度



問4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所（30分以内程度の距離）に手助けを頼める人がいますか？（あてはまる番号に1つ）

ひとり暮らしの方で、近所に手助けを頼める人が「いる」は73.1%であった（図表2-10）。

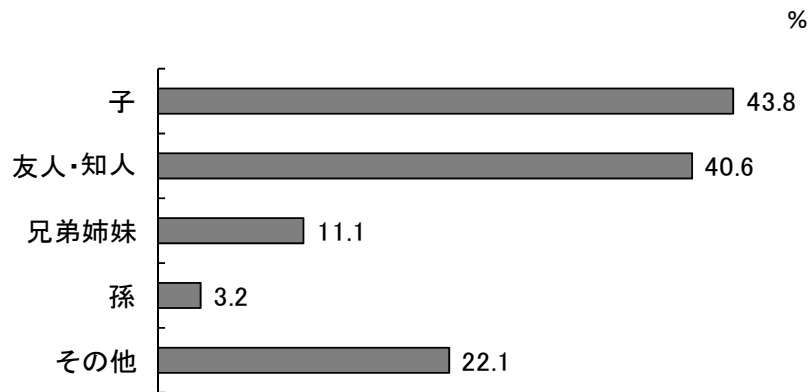
図表 2-10 近所に手助けを頼める人の有無 (N=297)



問 4-4 手助けを頼める人はどなたですか？（あてはまる番号すべてに）

手助けを頼める人は「子（43.8%）」が最も多く、次いで「友人・知人（40.6%）」であった（図表 2-11）。

図表 2-11 手助けを頼める人（複数回答）(N=217)

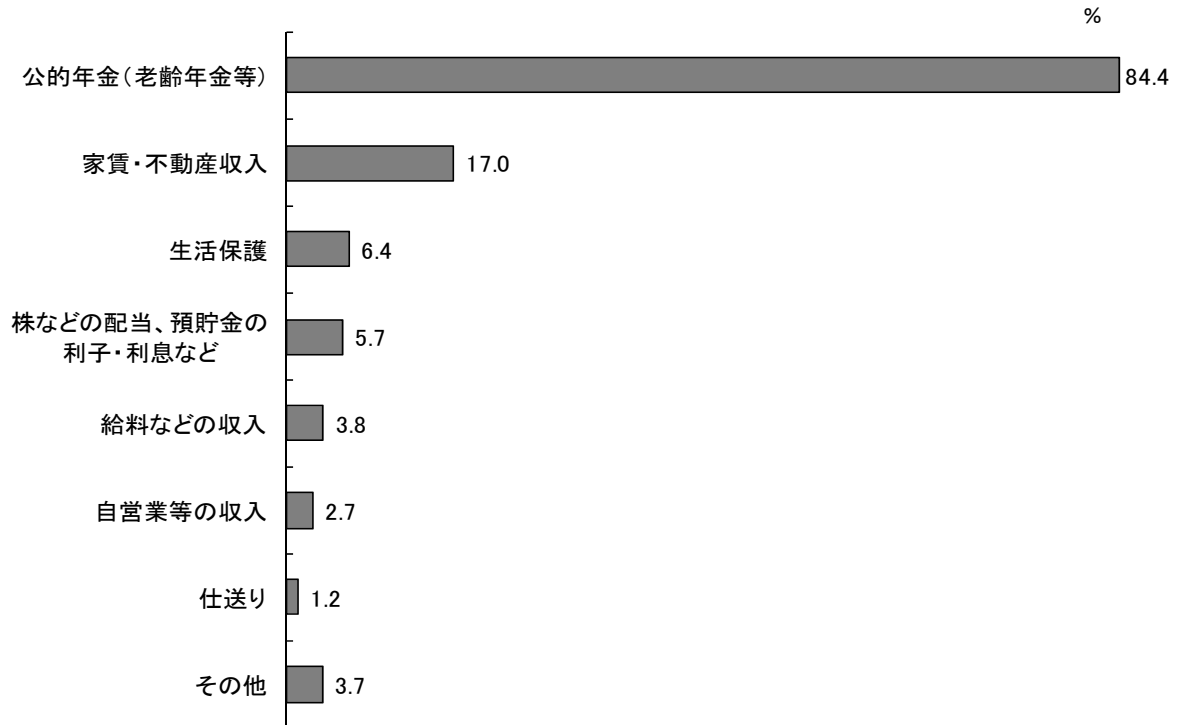


(5) 収入源

問5 あなたご本人の収入源はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

本人の収入源は、「公的年金（老齢年金等）（84.4%）」が約8割であった（図表2-12）。

図表 2-12 収入源（複数回答）(N=929)



(6) 暮らし向き

問6 現在の暮らし向きはどうですか？（あてはまる番号に1つ）

現在の暮らし向きでは、「ゆとりがある」（「ゆとりがある」「ややゆとりがある」）と回答した人は5割を超え、一方、「苦しい」（「苦しい」「やや苦しい」）と回答した人は47.2%であった（図表2-13）。

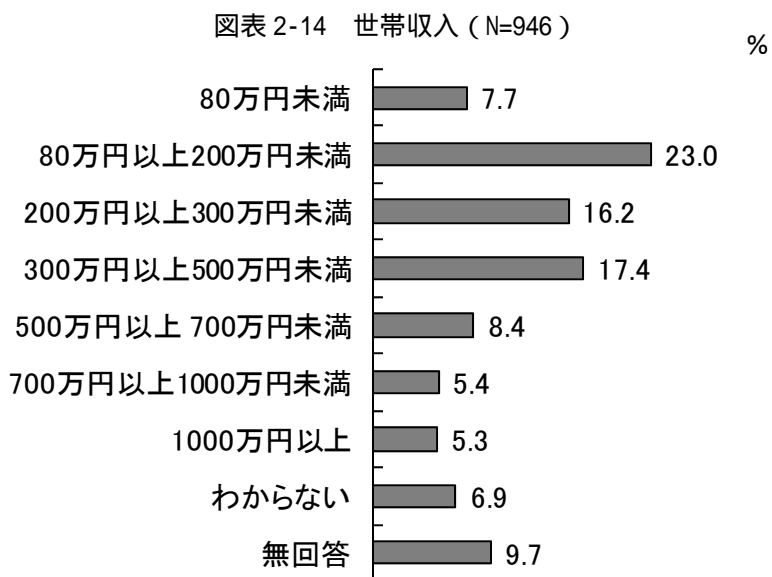
図表 2-13 暮らし向き (N=946)



(7) 世帯収入

問7 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか?
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は「80万円以上200万円未満」が23.0%と最も多かった。一方「500万円以上(19.1%)」は、約2割であった(図表2-14)。

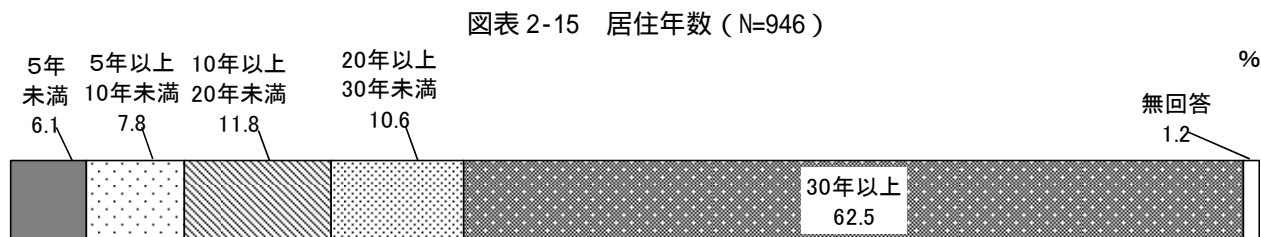


2. 住まいのこと

(1) 居住年数・住居形態

問8 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

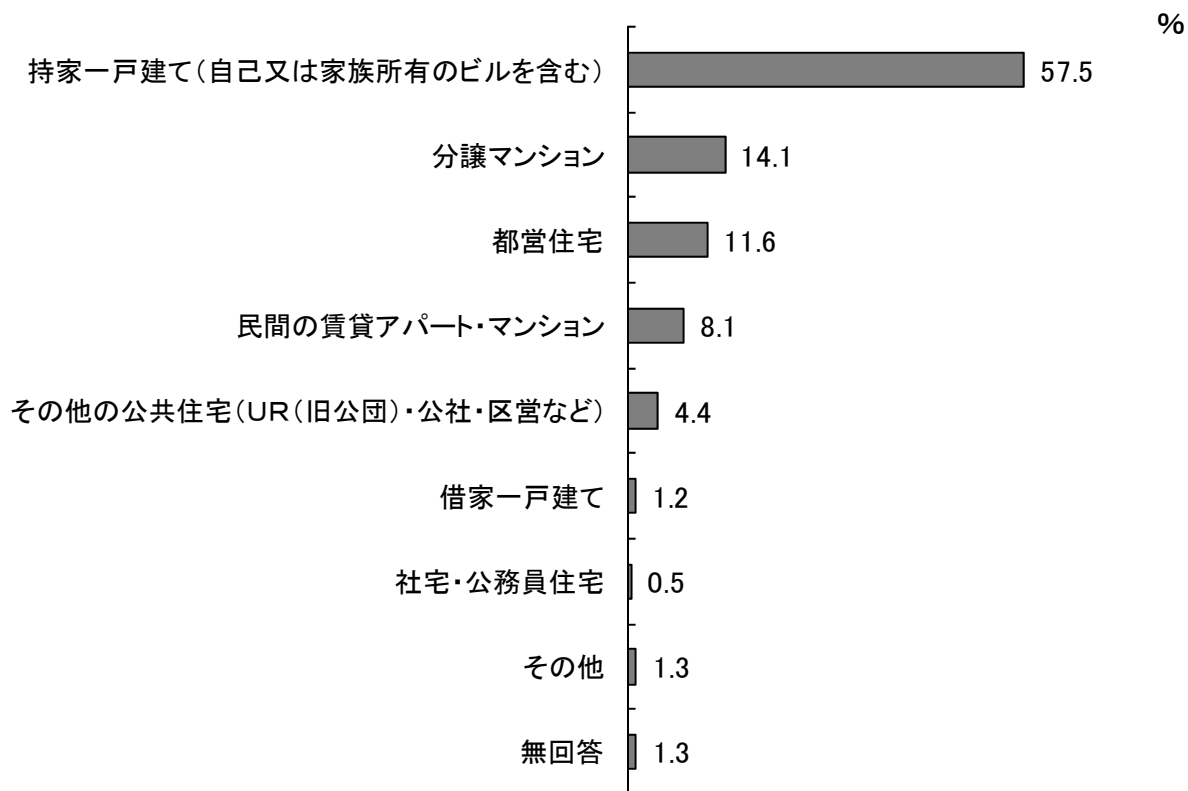
居住年数は、「30年以上（62.5%）」が6割以上を占め、一方「5年未満」は6.1%であった（図表2-15）。



問9 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（自己又は家族所有のビルを含む）（57.5%）」と「分譲マンション（14.1%）」を合わせて7割以上であった。一方「都営住宅」は11.6%、「民間の賃貸アパート・マンション」は8.1%であった（図表2-16）。

図表 2-16 住居形態 (N=946)



問 10 お住まい(主に生活する部屋)は、2 階以上にありますか？ (あてはまる番号に1つ)

住まいが「2 階以上にある (55.8%)」と回答した人は約 6 割であった (図表 2-17)。また、2階以上に生活している人のうち、「エレベータがある」と回答した人は 55.3%であった (図表 2-18)。

図表 2-17 居室階数 (2 階以上か) (N=946)



図表 2-18 エレベータの有無 (N=528)



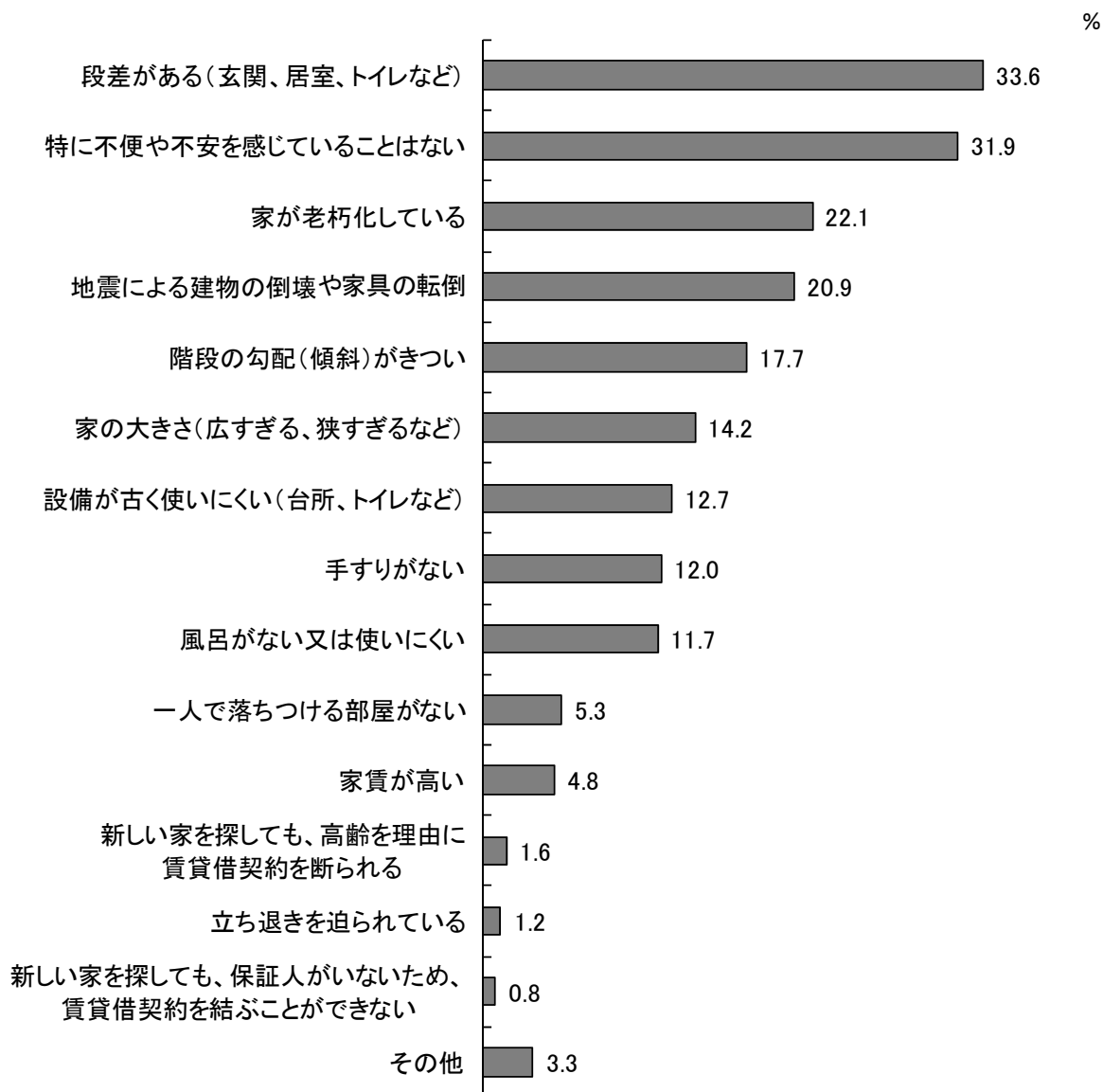
(2) 住まいで不便や不安を感じること

問 11 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

「特に不便や不安を感じていることはない」と回答した人は 31.9%であった。一方、不便や不安を感じていることでは、「段差がある(33.6%)」が最も多く、続いて「家が老朽化している(22.1%)」「地震による建物の倒壊や家具の転倒(20.9%)」「階段の勾配(傾斜)がきつい(17.7%)」の順であった。

また、賃貸借の問題も少数ながらあげられ、「新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる」が 1.6%、「立ち退きを迫られている」が 1.2%、「新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない」が 0.8%であった(図表 2-19)。

図表 2-19 住まいで不便や不安を感じること(複数回答)(N=836)



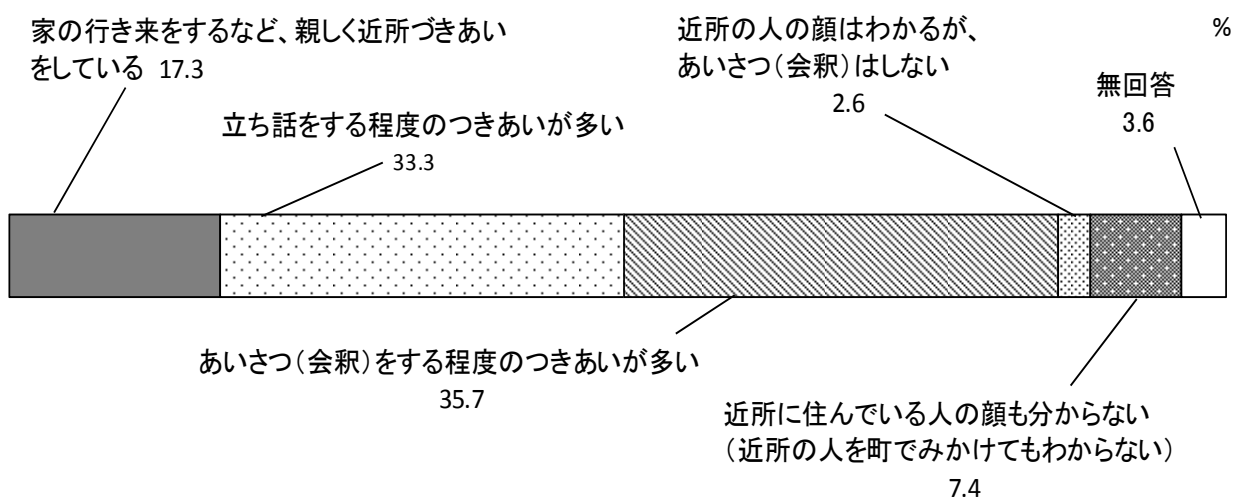
3. 日ごろの生活

(1) 近所づきあいの程度

問 12 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？（あてはまる番号に1つ）

近所づきあいの程度では、「あいさつ（会釈）をする程度のつきあいが多（35.7%）」と回答した人が最も多く、次いで「立ち話をする程度のつきあいが多（33.3%）」であった。一方「近所の人の顔はわかるが、あいさつ（会釈）はしない」は2.6%、「近所に住んでいる人の顔もわからない（近所の人を町でみかけてもわからない）」は7.4%であった（図表 2-20）。

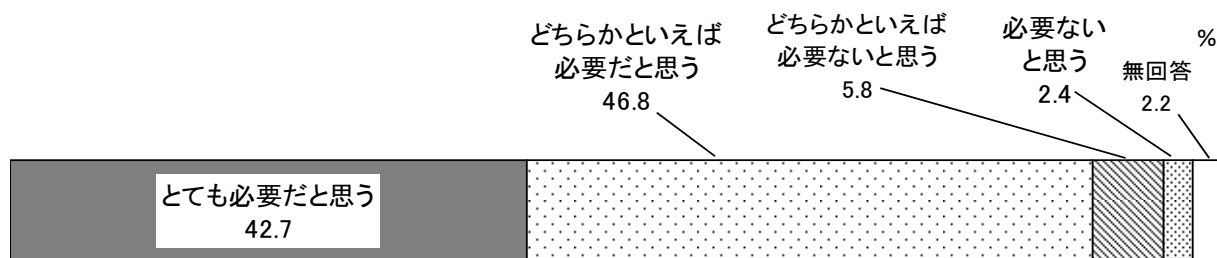
図表 2-20 近所づきあいの程度（N=946）



問 13 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

近所のつながりの必要について、「必要だと思う」（「とても必要だと思う（42.7%）」「どちらかといえば必要だと思う（46.8%）」）と回答した人は約9割であった（図表 2-21）。

図表 2-21 地域のつながりの必要性（N=946）



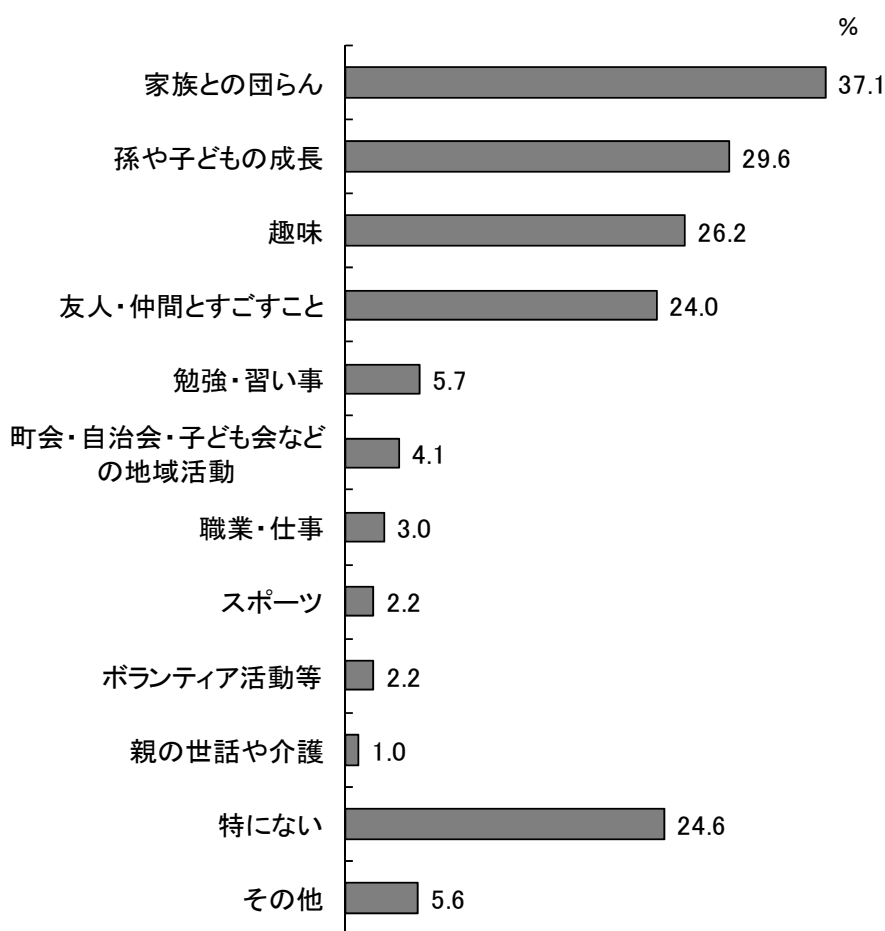
4. いきがいづくりや社会参加

(1) いきがい

問 14 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに）

いきがいを感ずることについてたずねた。「家族との団らん（37.1%）」が最も多く、次いで「孫や子どもの成長（29.6%）」「趣味（26.2%）」の順であった（図表 2-22）。

図表 2-22 いきがいを感ずること（複数回答）(N=874)



図表 2-23 いきがいを感ずること（複数回答）(男女別)

		職業・仕事	会などの自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間と過ごすこと	家族との団らん	孫や子どもの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=246)	5.7	4.1	1.2	28.9	4.1	3.3	14.2	35.4	35.0	1.6	24.4	4.5
	女性 (N=624)	1.9	4.2	2.6	25.2	1.4	6.6	27.6	37.8	27.7	0.8	24.7	6.1

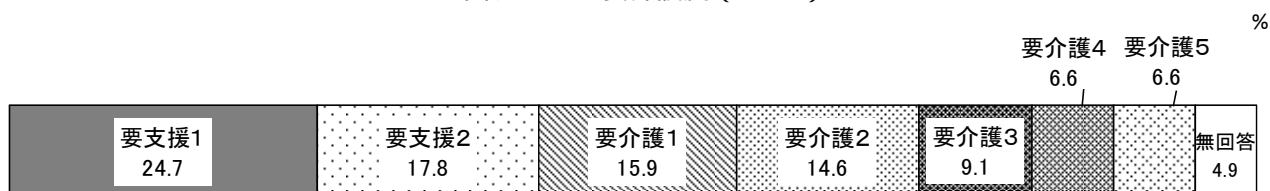
5. 要介護認定

(1) 要介護度

問 15 あなたの現在の要介護度はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

要介護度は、「要支援」（「要支援1」「要支援2」）が42.5%、「要介護度1」が15.9%であった（図表 2-24）。

図表 2-24 要介護度（N=946）

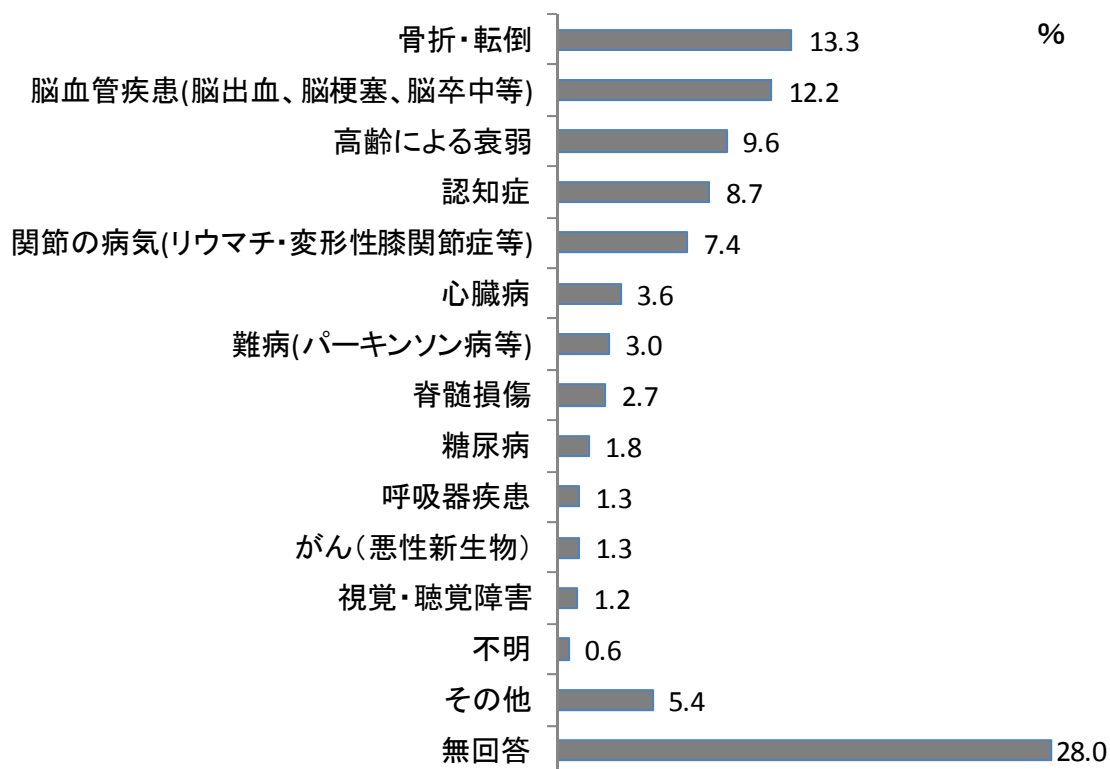


(2) 介護を要する要因

問 16 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

「骨折・転倒（13.3%）」が最も多く、次いで「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、脳卒中等）（12.2%）」「高齢による衰弱（9.6%）」「認知症（8.7%）」の順であった（図表 2-25）。

図表 2-25 介護を要する原因（N=946）



図表 2-26 介護を要する原因（要介護度別）

		脳血管疾患	骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	関節の病気	認知症	難病 （パーキンソン病等）	がん （悪性新生物）
要介護度	要支援1 (N=169)	5.3	18.9	18.3	7.1	18.3	2.4	1.2	1.8
	要支援2 (N=116)	23.3	17.2	14.7	6.9	13.8	2.6	5.2	3.4
	要介護1 (N=111)	18.0	20.7	11.7	4.5	6.3	21.6	1.8	0.0
	要介護2 (N=103)	14.6	19.4	12.6	3.9	6.8	13.6	6.8	1.9
	要介護3 (N=64)	21.9	14.1	6.3	0.0	3.1	26.6	7.8	3.1
	要介護4 (N=51)	23.5	19.6	5.9	2.0	3.9	19.6	5.9	2.0
	要介護5 (N=47)	36.2	12.8	12.8	4.3	2.1	19.1	6.4	0.0

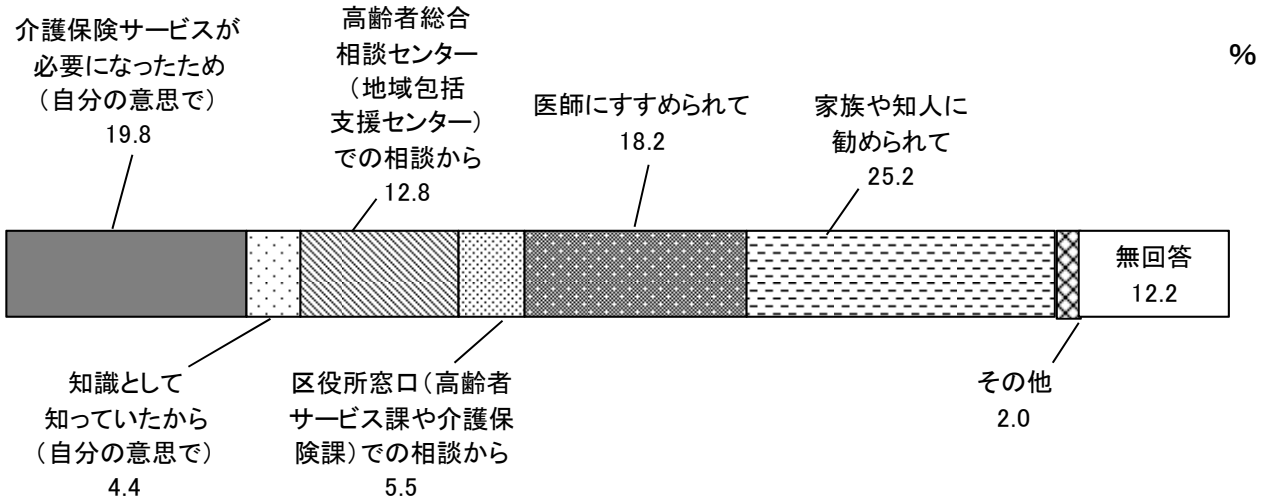
		呼吸器疾患	糖尿病	脊髄損傷	視覚・聴覚障害	不明	その他	合計
要介護度	要支援1 (N=169)	2.4	4.1	5.9	2.4	1.8	10.1	100.0
	要支援2 (N=116)	1.7	0.9	5.2	2.6	0.0	2.6	100.0
	要介護1 (N=111)	0.9	2.7	0.9	0.9	0.0	9.9	100.0
	要介護2 (N=103)	3.9	2.9	1.0	2.9	1.0	8.7	100.0
	要介護3 (N=64)	1.6	1.6	4.7	0.0	0.0	9.4	100.0
	要介護4 (N=51)	0.0	2.0	7.8	0.0	3.9	3.9	100.0
	要介護5 (N=47)	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	4.3	100.0

(3) 要介護認定申請の動機

問 17 あなたが、初めて要介護認定の申請をしたときの動機はどれですか？
(あてはまる番号に1つ)

「家族や知人に勧められて(25.2%)」が最も多く、次いで「介護保険サービスが必要になったため(19.8%)」「医師にすすめられて(18.2%)」の順であった(図表2-27)。

図表 2-27 要介護認定申請の動機 (N=946)



図表 2-28 要介護認定申請の動機 (要介護度別)

		介護保険サービスが必要になったため(自分の意思で)	知識として知っていたから(自分の意思で)	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)での相談から	区役所窓口での相談から	医師にすすめられて	家族や知人に勧められて	その他	合計
要介護度	要支援1 (N=202)	29.2	7.9	17.3	7.9	9.4	26.2	2.0	100.0
	要支援2 (N=148)	26.4	6.8	11.5	6.8	18.9	27.0	2.7	100.0
	要介護1 (N=130)	17.7	1.5	16.9	6.2	22.3	34.6	0.8	100.0
	要介護2 (N=129)	21.7	1.6	14.0	3.9	30.2	25.6	3.1	100.0
	要介護3 (N=81)	11.1	6.2	9.9	7.4	33.3	28.4	3.7	100.0
	要介護4 (N=59)	23.7	5.1	13.6	6.8	18.6	32.2	0.0	100.0
	要介護5 (N=57)	15.8	3.5	15.8	3.5	24.6	35.1	1.8	100.0

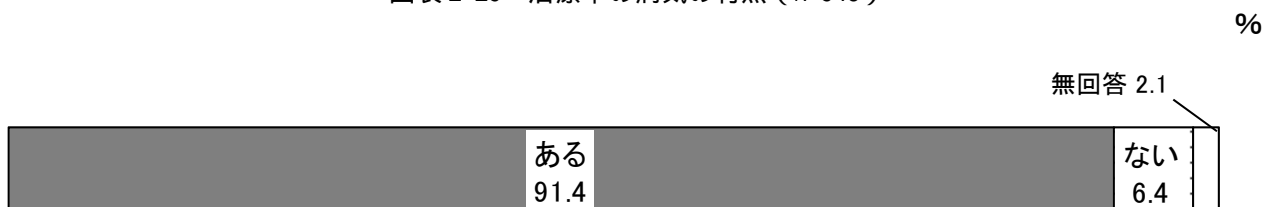
6. 医療機関の受診等

(1) 治療中の病気

問 18 現在治療中の病気がありますか？（あてはまる番号に1つ）

現在治療中の病気が「ある（91.4%）」と回答した人は、約9割であった（図表 2-29）。

図表 2-29 治療中の病気の有無（N=946）

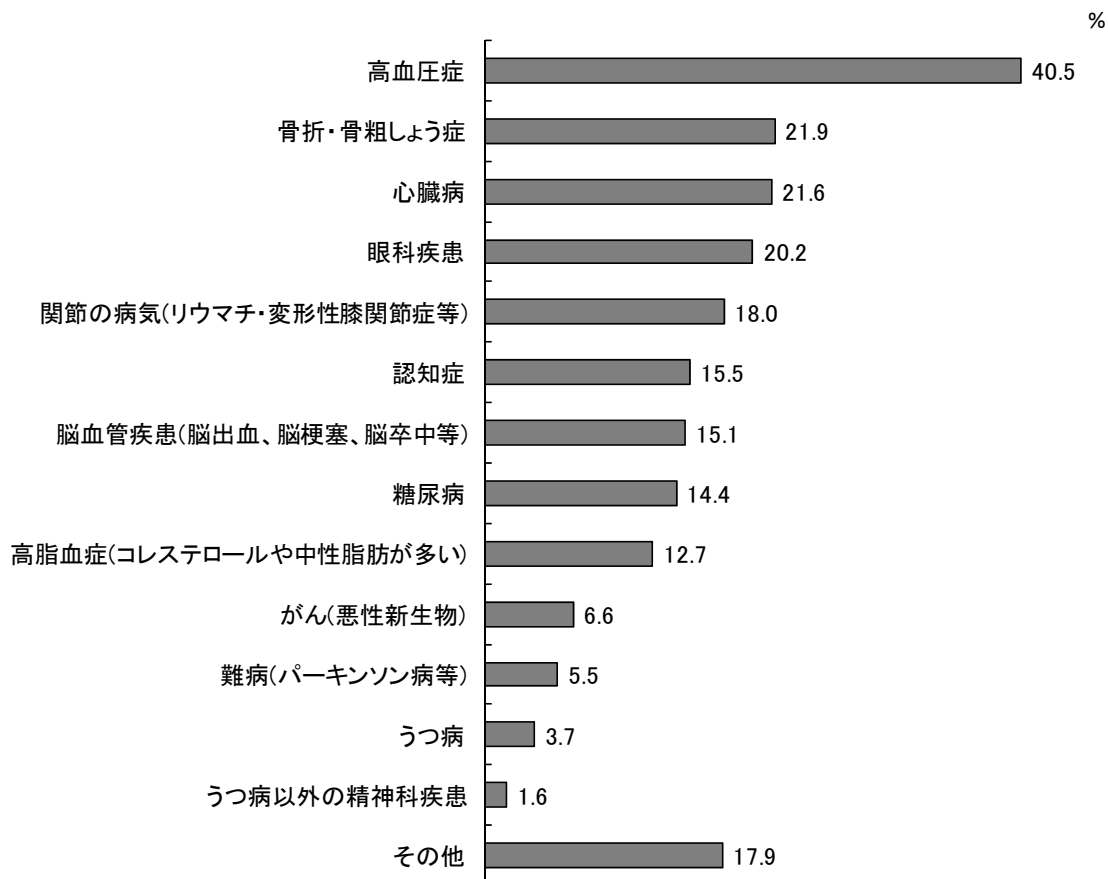


問 18-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 18 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

治療中の病気では、「高血圧症（40.5%）」が最も多く、次いで「骨折・骨粗しょう症（21.9%）」「心臓病（21.6%）」「眼科疾患（20.2%）」「関節の病気（リウマチ・変形性膝関節症等）（18.0%）」の順であった（図表 2-30）。

図表 2-30 治療中の病気の種類（複数回答）(N=860)

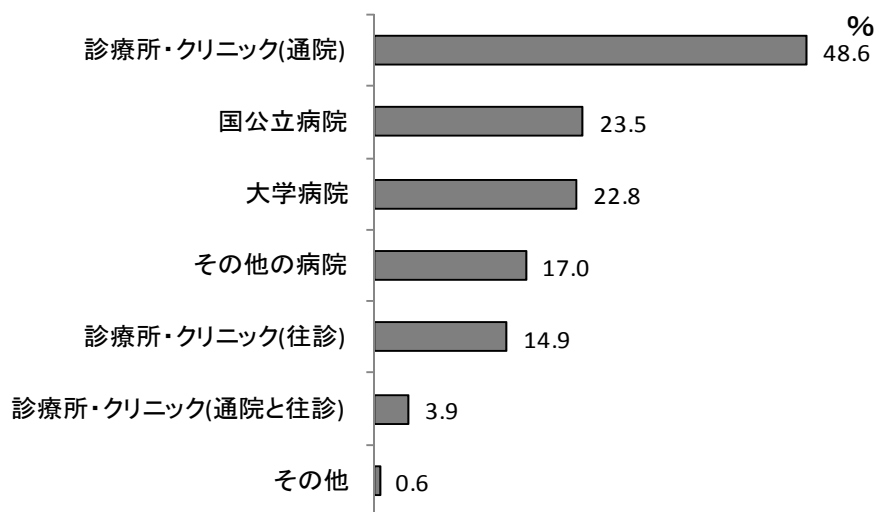


(2) 受診している医療機関

問 18-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 18 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。「診療所・クリニック（通院）（48.6%）」が最も多く、次いで「国公立病院（23.5%）」「大学病院（22.8%）」の順であった（図表 2-31）。

図表 2-31 受診している医療機関（複数回答）(N=848)

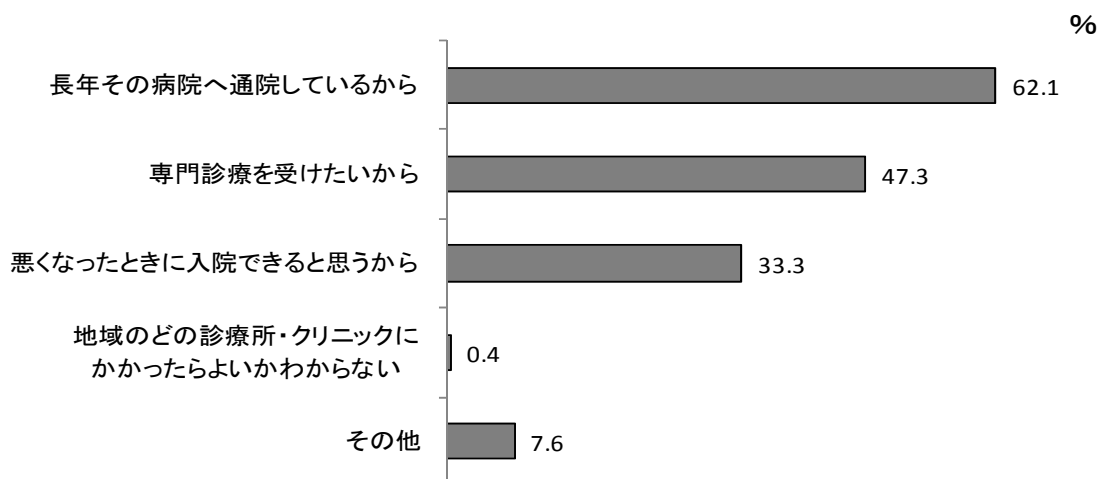


問 18-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？

問 18-2 で「国公立病院」、「大学病院」、「その他の病院」と答えた人にたずねた。

大学病院等を受診している理由では、「長年その病院へ通院しているから（62.1%）」が最も多く、次いで「専門診療を受けたいから（47.3%）」「悪くなったときに入院できると思うから（33.3%）」の順であった（図表 2-32）。

図表 2-32 病院を受診している理由（複数回答）(N=459)

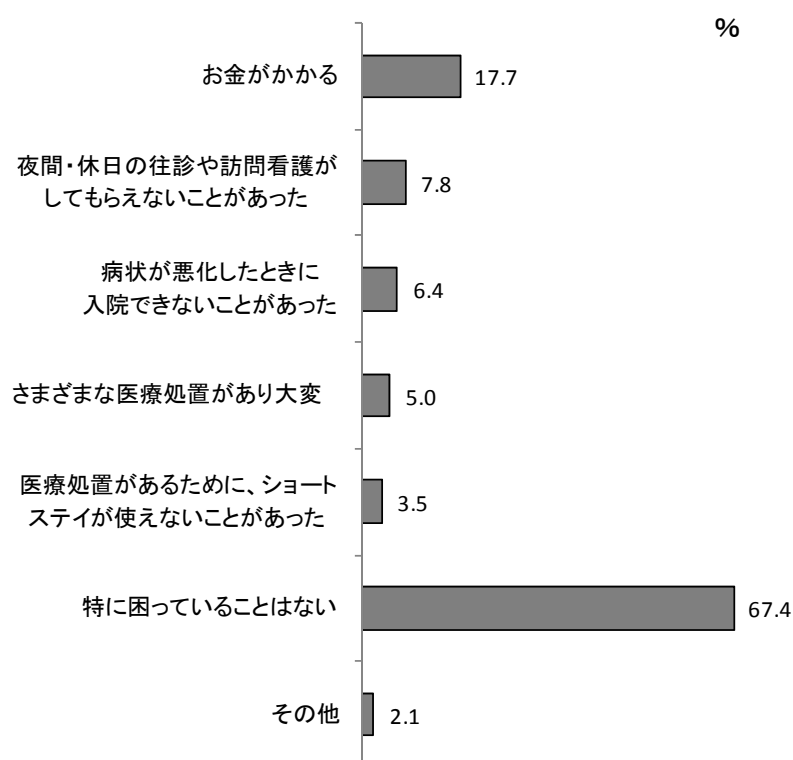


(3) 在宅医療に関する困りごと

問 18-4 在宅医療を受けている中で困っている（困った）ことがありますか？
（あてはまる番号すべてに）

問 18-2 で「2. 診療所・クリニック(往診)」「3. 診療所・クリニック(通院と往診)」と答えた人に在宅医療に関する困りごとをたずねたところ、「特に困っていることはない(67.4%)」と回答した人が約 7 割であった。一方、困っていることでは、「お金がかかる(17.7%)」と回答した人が最も多かった(図表 2-33)。

図表 2-33 在宅医療に関する困りごと(複数回答)(N=141)



(4) かかりつけ医

問 19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

「かかりつけ医がいる（82.5%）」と回答した人は約8割であった（図表 2-34）。

図表 2-34 かかりつけ医の有無（N=946）



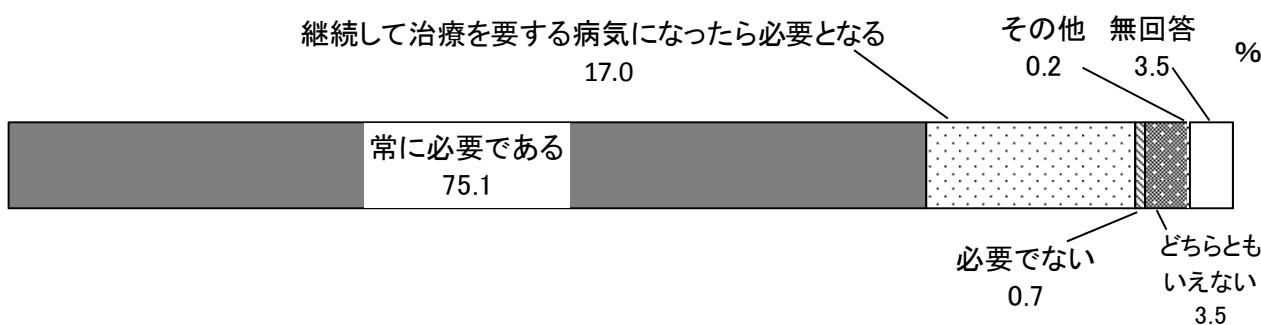
図表 2-35 かかりつけ医の有無（要介護度別）

		%		
		いる	いない	合計
要介護度	要支援1 (N=223)	89.2	10.8	100.0
	要支援2 (N=160)	86.9	13.1	100.0
	要介護1 (N=146)	80.8	19.2	100.0
	要介護2 (N=134)	85.1	14.9	100.0
	要介護3 (N=85)	85.9	14.1	100.0
	要介護4 (N=61)	83.6	16.4	100.0
	要介護5 (N=58)	94.8	5.2	100.0

問 20 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性では、「常に必要である（75.1%）」と回答した人が7割を超えて最も多く、次いで「継続して治療を要する病気になったら必要となる」が17.0%であった（図表 2-36）。

図表 2-36 かかりつけ医の必要性（N=946）



(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 21 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内に歯科を「受診した（50.8%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-37）。

図表 2-37 1年以内の歯科受診の有無（N=946）

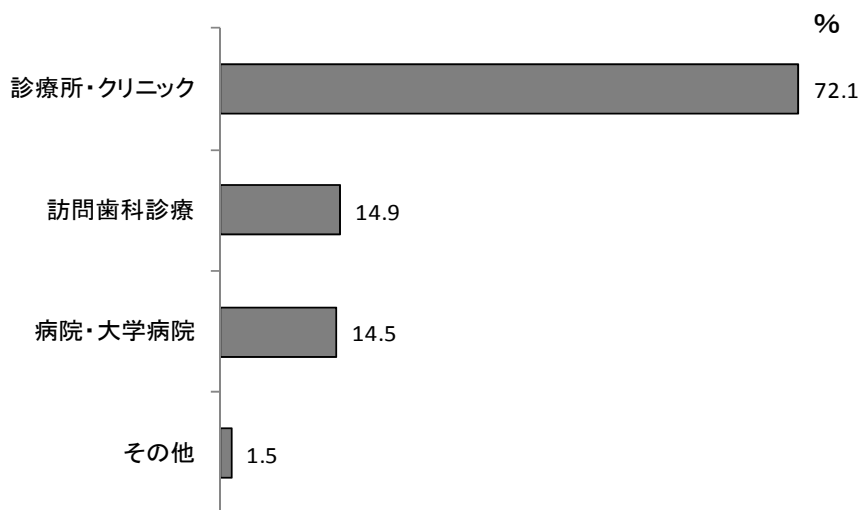


問 21-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 21 で「受診した」と答えた人にたずねた。

受診した歯科医療機関の種類では、「診療所・クリニック（72.1%）」が最も多く、約7割であった（図表2-38）。

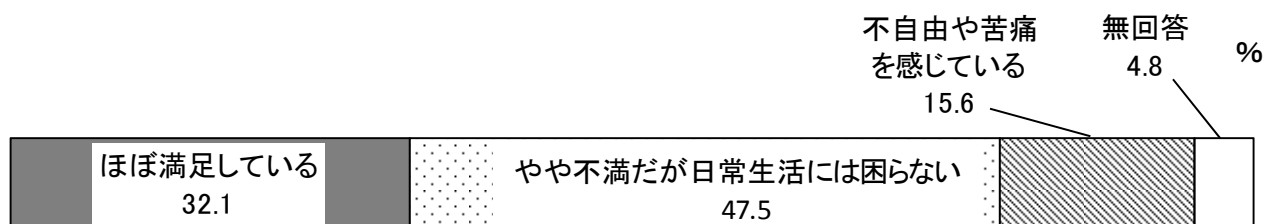
図表 2-38 受診した歯科医療機関（複数回答）（N=476）



問 22 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

自分の歯や口、入れ歯の状態について、「ほぼ満足している」が 32.1%、「やや不満だが日常生活には困らない」が 47.5%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」人は 15.6%であった(図表 2-39)。

図表 2-39 歯や口、入れ歯の状態 (N=946)



問 23 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

かかりつけ歯科医が「いる (59.3%)」と回答した人は約 6 割であった。一方「いない」と回答した人は 35.8%であった(図表 2-40)。

図表 2-40 かかりつけ歯科医の有無 (N=946)



※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(6) こころの健康状況

問 24 最近2週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？（あてはまる番号に1つ）

各項目に対する回答は次の通りであった。

こころの健康状態に関するすべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が0個）は、約1割であった（図表2-41）。

	1. はい	2. いいえ	無回答
①毎日の生活に充実感がない。(N=946)	45.2%	45.7%	9.1%
②これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。(N=946)	52.0%	39.7%	8.2%
③以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(N=946)	79.7%	15.0%	5.3%
④自分は役に立つ人間だと思えない。(N=946)	49.0%	42.1%	8.9%
⑤わけもなく疲れたような感じがする。(N=946)	62.1%	31.4%	6.6%

図表 2-41 こころの健康状況（5項目に「はい」と回答した数の合計）(N=802)

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	9.6	11.2	14.2	18.5	19.6	26.9

図表 2-42 こころの健康状況（5項目全てに答えた「はい」の数）
（要介護度別 / 記憶力等の変化別）

(%)

		0個	1個	2個	3個	4個	5個	合計
要介護度	要支援1 (N=204)	11.8	15.7	16.7	18.1	17.2	20.6	100.0
	要支援2 (N=145)	10.3	11.0	9.7	20.7	24.1	24.1	100.0
	要介護1 (N=134)	7.5	11.9	14.9	20.9	20.1	24.6	100.0
	要介護2 (N=120)	9.2	10.8	15.8	20.0	12.5	31.7	100.0
	要介護3 (N=78)	6.4	7.7	16.7	12.8	23.1	33.3	100.0
	要介護4 (N=54)	7.4	9.3	18.5	16.7	16.7	31.5	100.0
	要介護5 (N=37)	8.1	0.0	5.4	13.5	27.0	45.9	100.0
記憶力等の変化	ある (N=529)	5.1	7.4	13.0	20.6	20.4	33.5	100.0
	ない (N=254)	18.1	18.9	17.3	14.6	17.7	13.4	100.0

7. 認知症

(1) 記憶力等の変化

問 25 あなたは、ここ6か月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる
ことがありますか？（あてはまる番号に1つ）

ここ6か月から1年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じる人が「ある」と回答した人は65.3%であり、「ない」と回答した人は30.2%であった（図表2-43）。

図表 2-43 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=946）



図表 2-44 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（介護を要する原因別）
(%)

		ある	ない	合計
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=110)	49.1	50.9	100.0
	骨折・転倒 (N=124)	71.8	28.2	100.0
	高齢による衰弱 (N=88)	78.4	21.6	100.0
	心臓病 (N=33)	72.7	27.3	100.0
	関節の病気 (N=65)	67.7	32.3	100.0
	認知症 (N=80)	96.3	3.8	100.0
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	48.0	52.0	100.0
	がん(悪性新生物) (N=11)	72.7	27.3	100.0
	呼吸器疾患 (N=12)	50.0	50.0	100.0
	糖尿病 (N=17)	58.8	41.2	100.0
	脊髄損傷 (N=26)	65.4	34.6	100.0
	視覚・聴覚障害 (N=10)	50.0	50.0	100.0
	不明 (N=5)	60.0	40.0	100.0
	その他 (N=49)	59.2	40.8	100.0

問 25-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
 (あてはまる番号に1つ)

問 25 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。
 相談を「していない (63.1%)」と回答した人は、約 6 割であった (図表 2-45)。

図表 2-45 相談の有無 (N=618)



図表 2-46 相談の有無 (要介護度別)

(%)

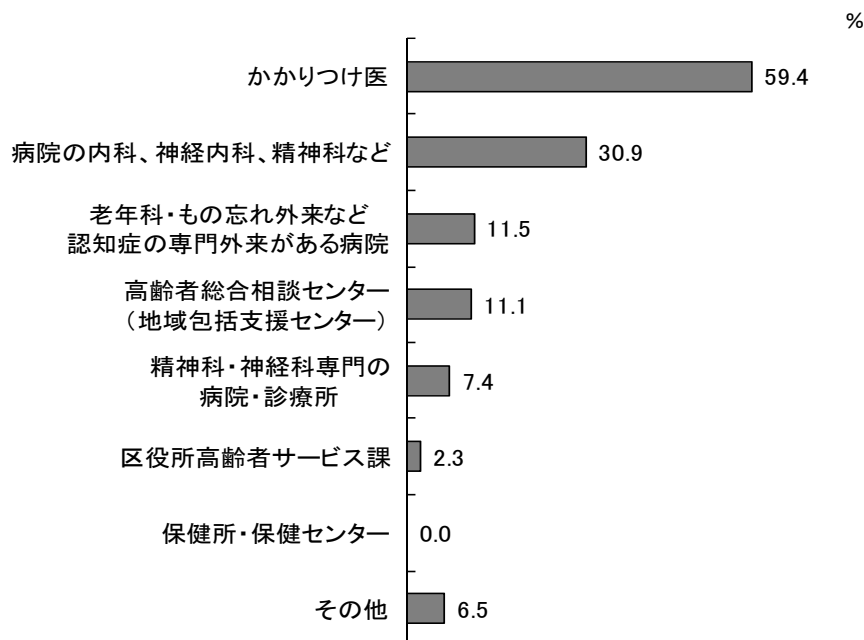
		した	していない	合計
要 介 護 度	要支援1 (N=144)	18.1	81.9	100.0
	要支援2 (N=97)	23.7	76.3	100.0
	要介護1 (N=109)	51.4	48.6	100.0
	要介護2 (N=92)	46.7	53.3	100.0
	要介護3 (N=58)	46.6	53.4	100.0
	要介護4 (N=43)	58.1	41.9	100.0
	要介護5 (N=40)	37.5	62.5	100.0

問 25-2 どちらに相談しましたか？（あてはまる番号すべてに）

問 25-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。

「かかりつけ医（59.4%）」が最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など（30.9%）」であった（図表 2-47）。

図表 2-47 相談先（複数回答）(N=217)

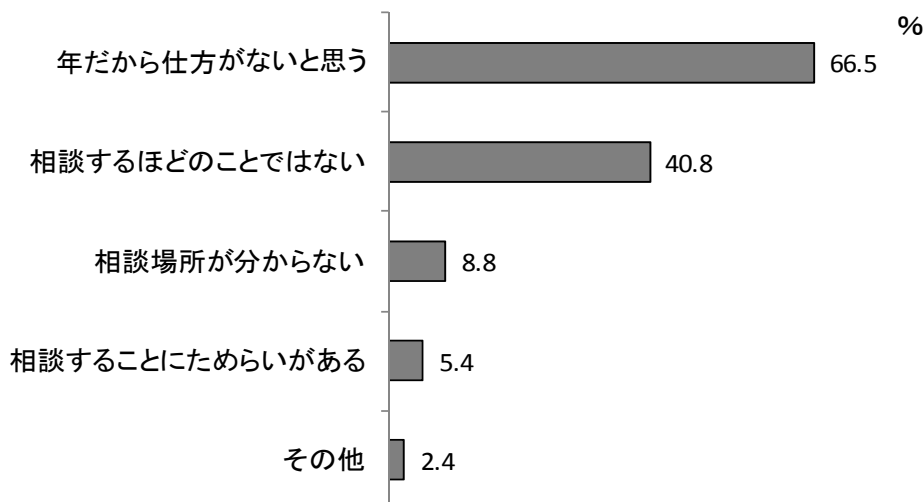


問 25-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 25-1 で「相談していない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「年だから仕方がないと思う（66.5%）」が最も多く、次いで「相談するほどのことではない（40.8%）」であった（図表 2-48）。

図表 2-48 相談していない理由（複数回答）(N=373)

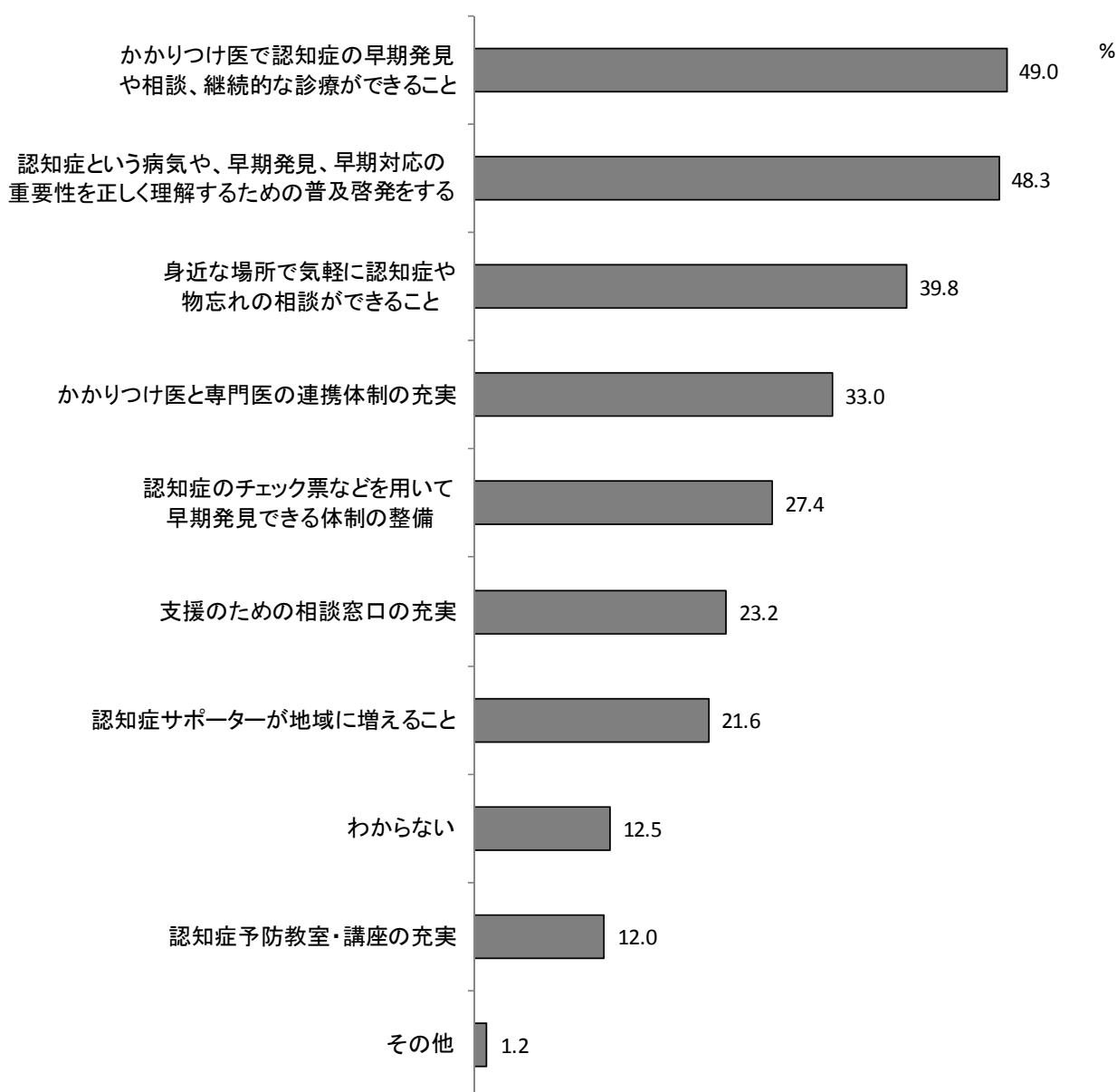


(2) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 26 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること(49.0%)」と回答した人が最も多く、次いで「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする(48.3%)」「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること(39.8%)」の順であった(図表2-49)。

図表 2-49 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと(複数回答)(N=849)



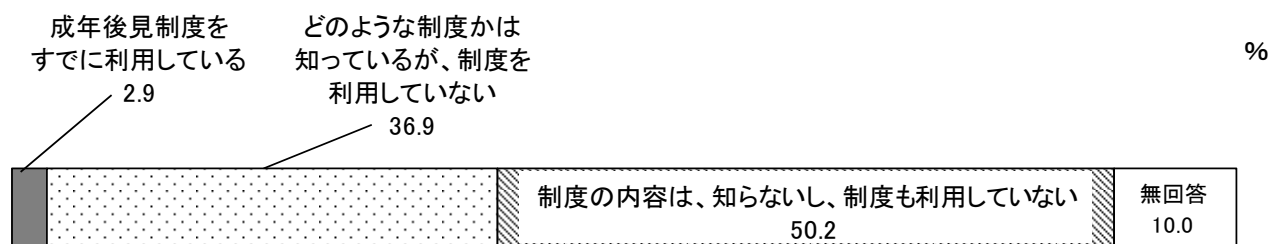
8. 権利擁護

(1) 成年後見制度の認知度

問 27 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「制度の内容は、知らないし、制度も利用していない（50.2%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-50）。

図表 2-50 成年後見制度の認知度（N=946）

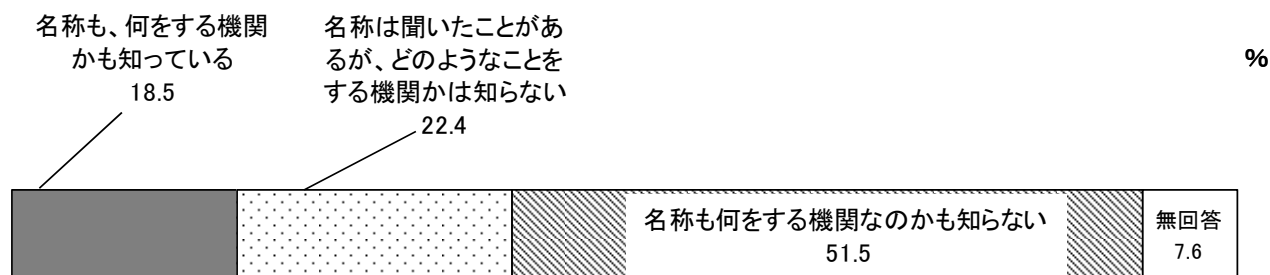


(2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 28 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も何をする機関なのかも知らない（51.5%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-51）。

図表 2-51 新宿区成年後見センターの認知度



(3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 29 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業説明をしたうえで、利用意向についてたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(50.4%)」と回答した人は約5割であった(図表2-52)。

図表 2-52 新宿区成年後見センターの利用意向 (N=946)



9. 介護保険サービスの利用状況と利用意向

(1) 介護保険サービスの利用状況等

問 30 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか？（あてはまる番号に1つ）

「利用している（73.9%）」と回答した人は約 7 割、「利用していない（22.8%）」と回答した人は約 2 割であった（図表 2-53）。

図表 2-53 介護保険サービスの利用状況



図表 2-54 介護保険サービスの利用状況（要介護度別）

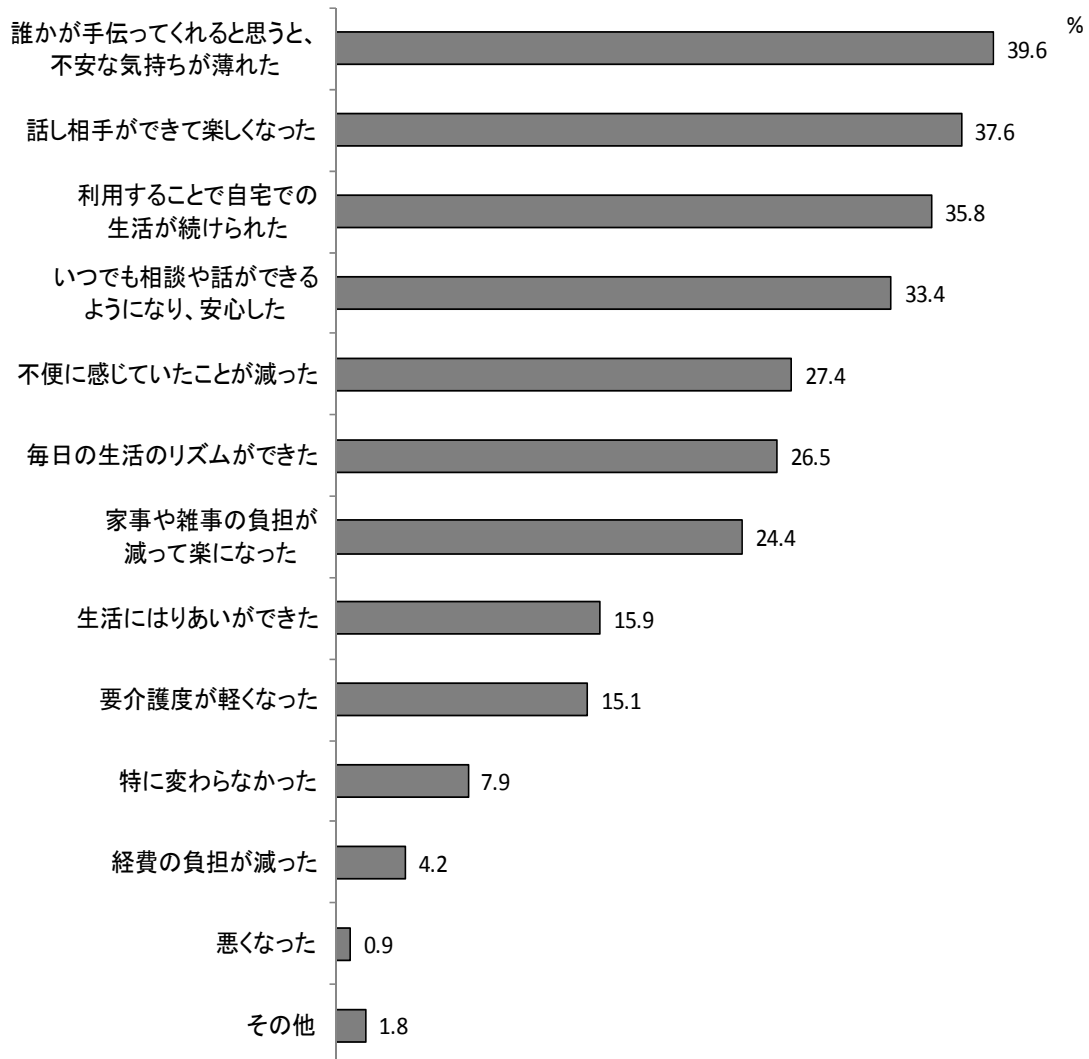
(%)

		利用している	利用していない	合計
要介護度	要支援1 (N=225)	58.2	41.8	100.0
	要支援2 (N=166)	74.1	25.9	100.0
	要介護1 (N=144)	81.3	18.8	100.0
	要介護2 (N=135)	88.9	11.1	100.0
	要介護3 (N=84)	88.1	11.9	100.0
	要介護4 (N=62)	95.2	4.8	100.0
	要介護5 (N=60)	91.7	8.3	100.0

問 30-1 介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの状況は変わりましたか？
 (あてはまる番号すべてに)

問 30 で「利用している」と回答した人に、サービス利用後の状況の変化についてたずねた。「誰かが手伝ってくれると思うと、不安な気持ちが薄れた (39.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「話し相手ができるようになった(37.6%)」、「利用することで自宅での生活が続けられた(35.8%)」、「いつでも相談や話ができるようになり、安心した (33.4%)」の順であった (図表 2-55)。

図表 2-55 介護保険サービス利用後の状況変化 (複数回答) (N=667)



図表 2-56 介護保険サービス利用後の状況変化（要介護度別 / 複数回答）

(%)

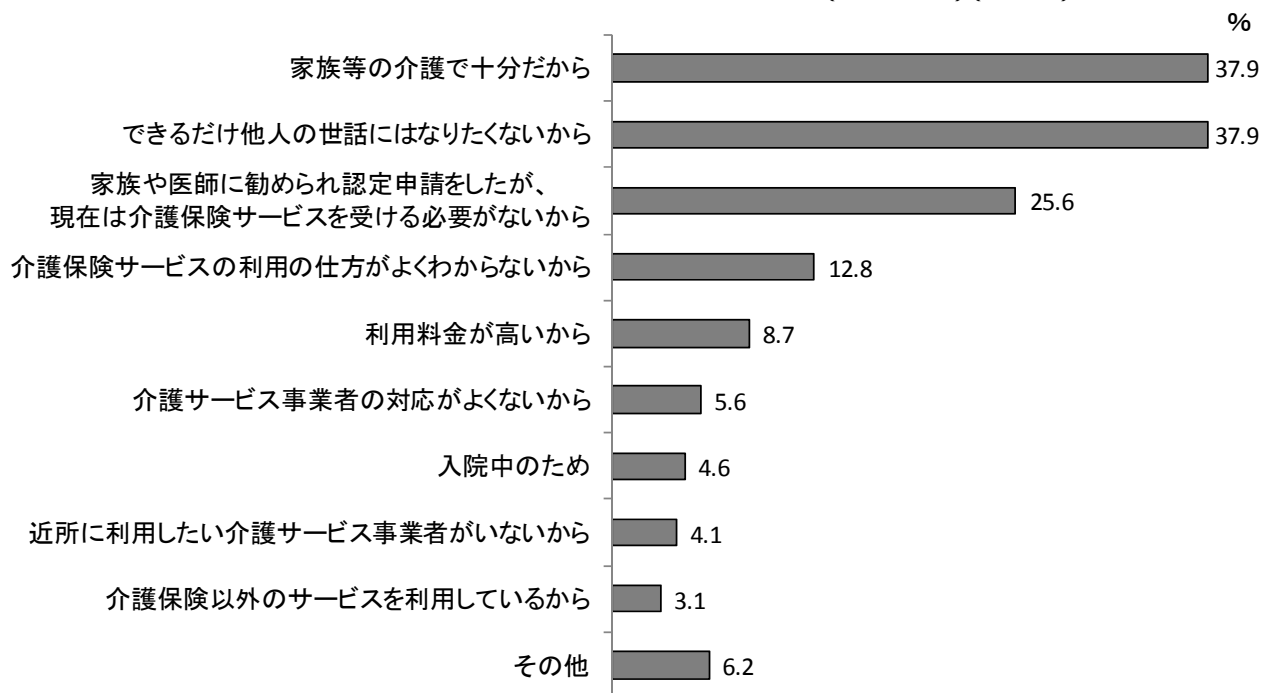
		要介護度が軽くなった	誰かが不安な気持ちや薄れ	いつでも相談や話ができるようになった	話し相手ができ楽しくなった	毎日の生活のリズムができ	生活にはりあいができた	不便に感じていたことが減った
要介護度	要支援1 (N=122)	14.8	35.2	26.2	35.2	17.2	13.9	27.0
	要支援2 (N=118)	25.4	41.5	35.6	35.6	22.0	16.1	24.6
	要介護1 (N=115)	11.3	46.1	40.9	47.8	33.0	20.0	27.0
	要介護2 (N=114)	11.4	40.4	32.5	36.8	25.4	13.2	28.1
	要介護3 (N=71)	12.7	35.2	28.2	33.8	29.6	15.5	28.2
	要介護4 (N=59)	16.9	39.0	40.7	37.3	35.6	20.3	33.9
	要介護5 (N=50)	10.0	36.0	26.0	28.0	34.0	14.0	26.0

		活利用が続けることで自宅での生	家事や雑事の負担が減った	経費の負担が減った	特に変わらなかった	悪くなった	その他
要介護度	要支援1 (N=122)	24.6	39.3	3.3	9.8	0.0	0.0
	要支援2 (N=118)	29.7	28.0	2.5	11.0	0.8	2.5
	要介護1 (N=115)	29.6	21.7	1.7	7.8	0.0	2.6
	要介護2 (N=114)	35.1	24.6	4.4	7.0	1.8	0.0
	要介護3 (N=71)	50.7	14.1	5.6	2.8	2.8	2.8
	要介護4 (N=59)	45.8	16.9	6.8	8.5	0.0	0.0
	要介護5 (N=50)	66.0	8.0	10.0	8.0	2.0	6.0

問 30-2 介護保険サービスを利用していない、または利用をやめた理由は次のうちどれですか？
 (あてはまる番号すべてに)

問 30 で「利用していない」と回答した人に、サービスを利用していない理由をたずねた。「家族等の介護で十分だから (37.9%)」「できるだけ他人の世話にはなりたくないから (37.9%)」と回答した人がともに約 4 割と最も多く、次いで「家族や医師に勧められ認定申請をしたが、現在は介護保険サービスを受ける必要がないから (25.6%)」であった (図表 2-57)。

図表 2-57 介護保険サービスを利用していない理由 (複数回答) (N=195)



図表 2-58 介護保険サービスを利用していない理由 (要介護度別 / 複数回答)

		できるだけ他人の世話には	家族等の介護で十分だから	利用料金が高いから	介護サービス事業者の対応がよくないから	近所に利用したい介護サービス事業者がないから	介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから	介護保険以外のサービスを利用しているから	入院中のため	家族や医師に勧められ認定申請をしたが、現在は介護保険サービスを受ける必要がないから	その他
要介護度	要支援1 (N=84)	38.1	35.7	4.8	2.4	4.8	16.7	6.0	1.2	25.0	6.0
	要支援2 (N=37)	40.5	54.1	8.1	10.8	2.7	5.4	2.7	2.7	18.9	5.4
	要介護1 (N=26)	50.0	30.8	0.0	3.8	3.8	7.7	0.0	3.8	42.3	7.7
	要介護2 (N=14)	35.7	50.0	28.6	28.6	7.1	21.4	0.0	7.1	14.3	0.0
	要介護3 (N=9)	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	22.2
	要介護4 (N=3)	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	要介護5 (N=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0

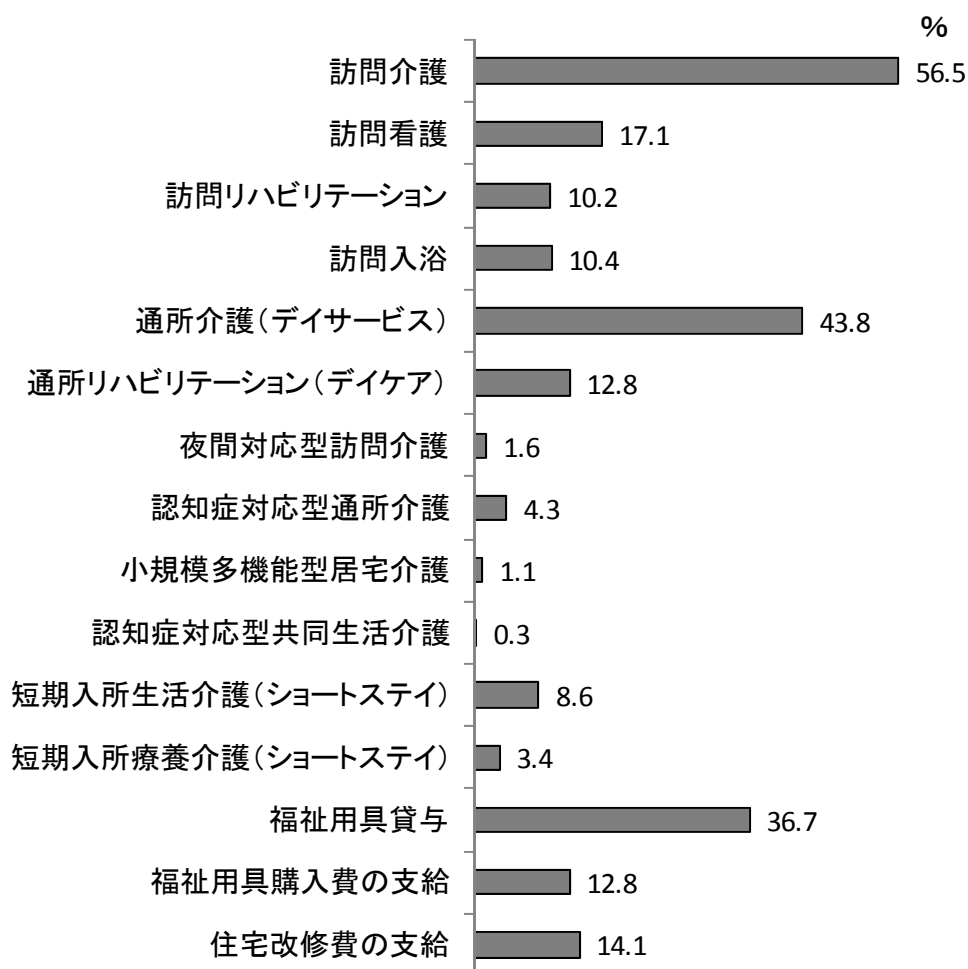
(2) 現在利用しているサービス・満足度、今後新たに利用したいサービス

問 30-3 介護保険サービスについておたずねします。下表の ~ の設問についてお答えください。

現在利用しているサービス

現在利用している介護保険サービスでは、「訪問介護（56.5%）」が最も多く、続いて「通所介護（43.8%）」「福祉用具貸与（36.7%）」の順であった（図表 2-59）。

図表 2-59 現在利用しているサービス（複数回答）(N=626)

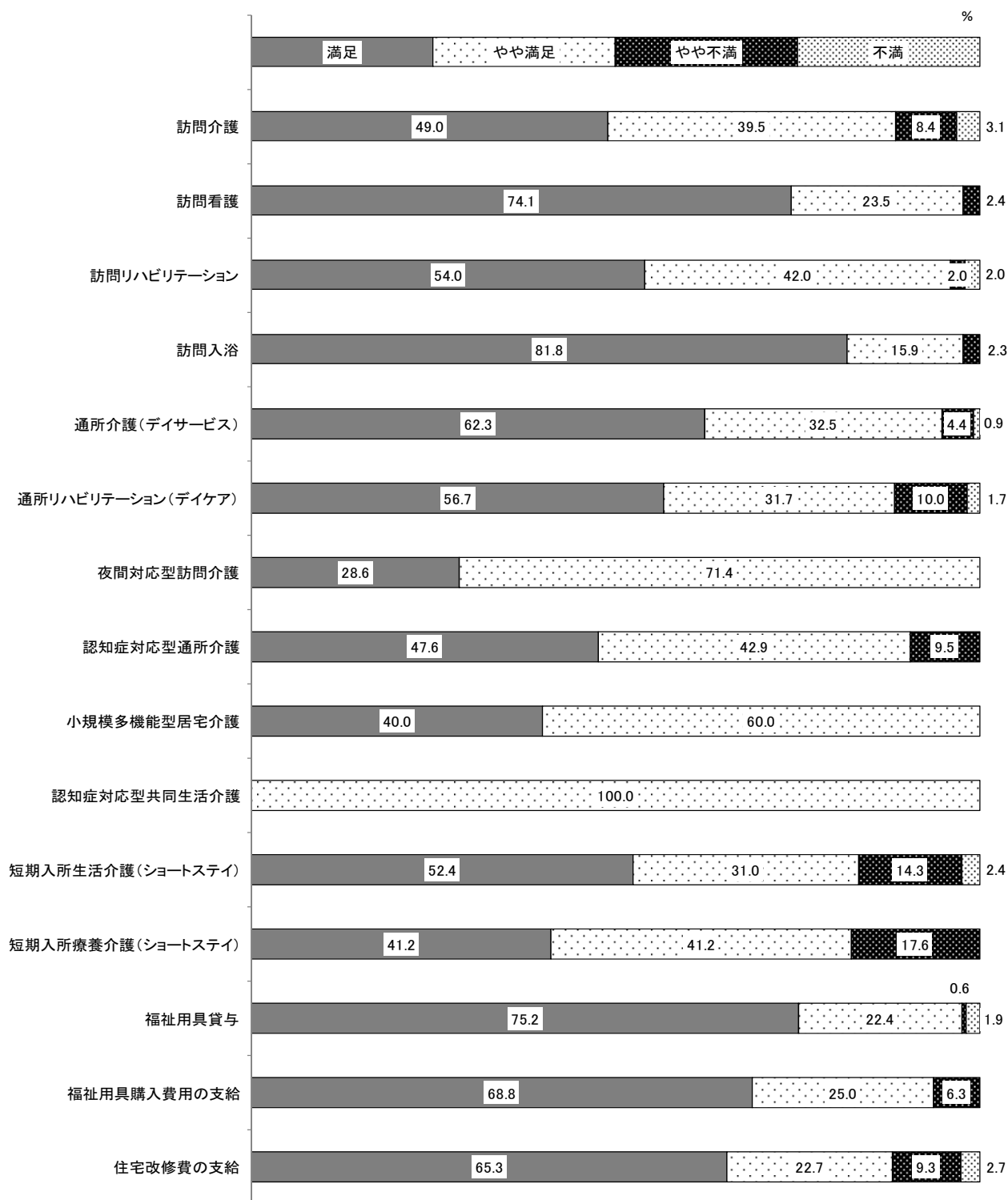


※上記のサービスは介護予防も含む

現在利用しているサービスの満足度

全般的にみれば、いずれの介護保険サービスについても、「満足」（「満足」もしくは「やや満足」）と回答した人が9割以上であった。一方「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」では「不満」（「不満」もしくは「やや不満」）と回答した人が約2割であった（図表2-60）。

図表2-60 現在利用しているサービスの満足度（N=626）

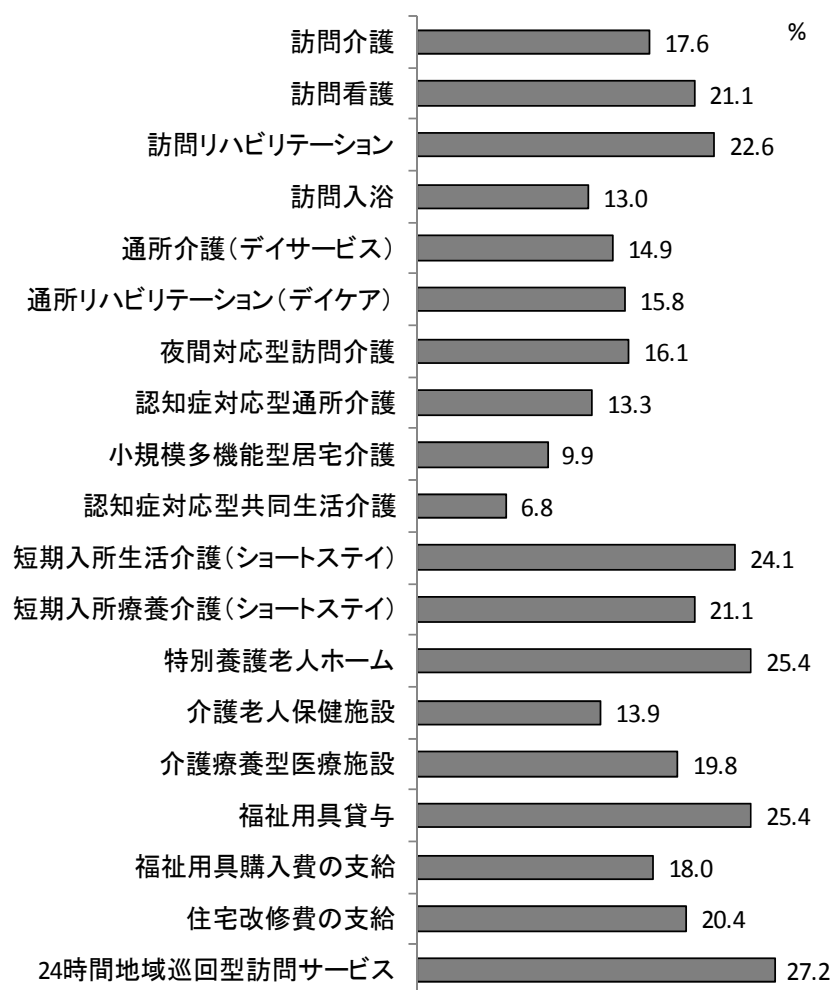


※上記のサービスは介護予防も含む

今後新たに利用してみたいサービス

今後新たに利用してみたいサービスでは、「24 時間地域巡回型訪問サービス (27.2%)」と回答した人が最も多く、続いて「特別養護老人ホーム (25.4%)」「福祉用具貸与 (25.4%)」の順であった (図表 2-61)。

図表 2-61 今後新たに利用してみたいサービス (複数回答) (N=323)



※上記のサービスは介護予防も含む

(3) 今後、今の住まいで暮らしたいか

問31 あなたは、これからも、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

今の自宅での生活の継続意向では、「ずっと自宅で生活を続けたい(48.6%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい(33.7%)」を合わせれば、「自宅で生活を続けたい」と回答した人は約8割であった(図表2-62)(図表2-63)。

(平成19年度との比較)

平成19年度調査では、自宅での生活を望む方は、「介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい(46.4%)」「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい(16.1%)」「主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい(2.9%)」を合わせて、65.4%であった。

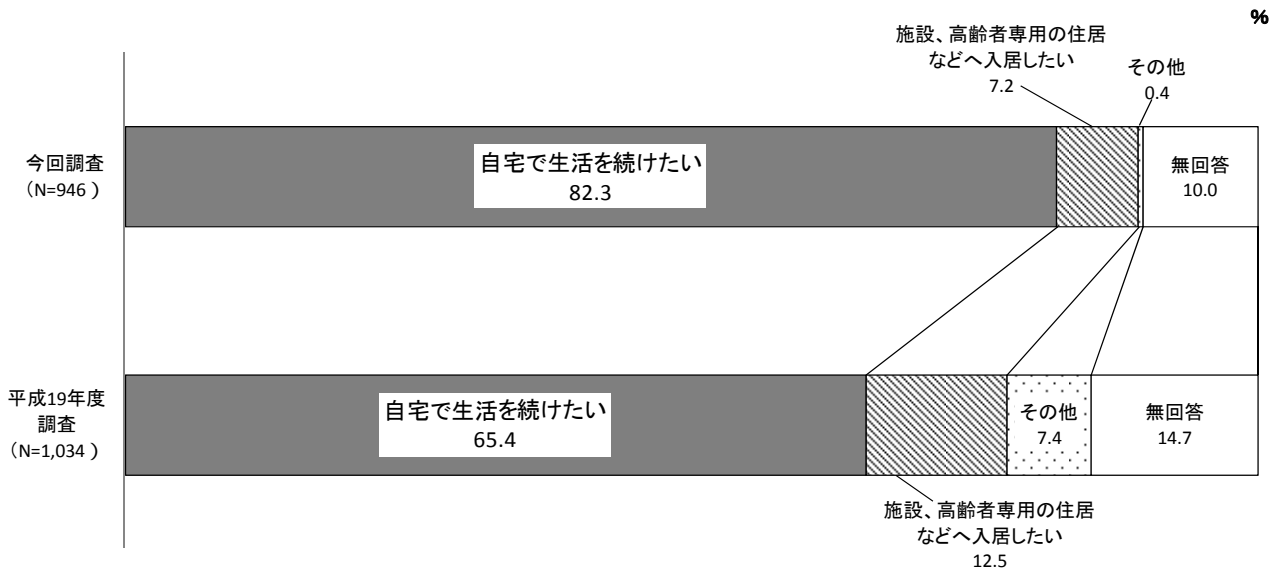
今回調査では、「ずっと自宅で生活を続けたい(48.6%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい(33.7%)」を合わせると82.3%と自宅での生活を望む方は、大幅に増加した(図表2-61)(図表2-63)。

図表2-62 これからも今の住まいで暮らしたいか(平成19年度調査との比較)

今回調査 (N=946)	%
ずっと自宅で生活を続けたい	48.6
可能な限り自宅で生活を続けたい	33.7
施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい	4.7
介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい	2.5
その他	0.4
無回答	10.0

平成19年度調査 (N=1,034)	%
介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい	46.4
介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい	16.1
主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい	2.9
特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい	9.7
有料老人ホームなどを利用したい	2.8
わからない	7.4
無回答	14.8

図表 2-63 これからも今の住まいで暮らしたいか（平成 19 年度調査との比較）



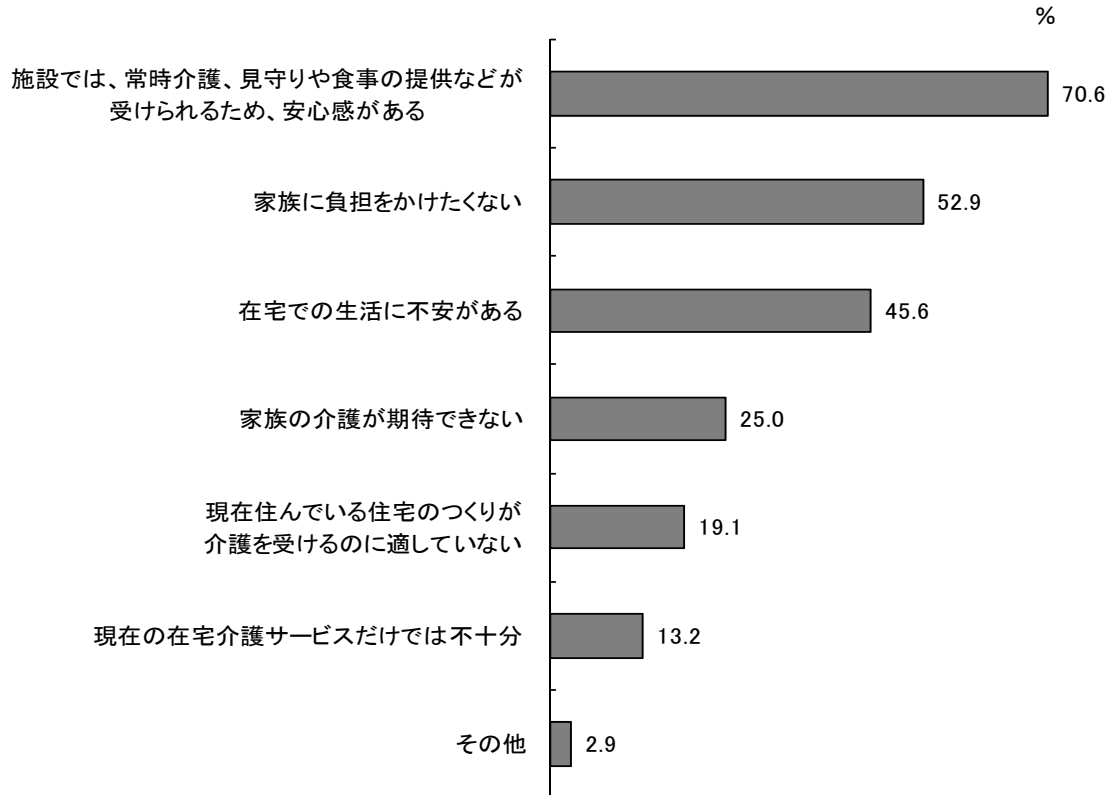
図表 2-64 これからも今の住まいで暮らしたいか（要介護度別）

		ずっと自宅で生活を続けたい	可能な限り自宅で生活を続けたい	施設へ入居したい（特別養護老人ホームなど）	介護（見守りや食事の提供などがついていない高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい	その他	合計 (%)
要介護度	要支援1 (N=209)	54.1	38.3	1.9	5.3	0.5	100.0
	要支援2 (N=151)	51.7	40.4	4.0	4.0	0.0	100.0
	要介護1 (N=141)	54.6	36.2	5.0	4.3	0.0	100.0
	要介護2 (N=131)	50.4	42.7	5.3	0.0	1.5	100.0
	要介護3 (N=78)	59.0	32.1	7.7	1.3	0.0	100.0
	要介護4 (N=58)	55.2	32.8	12.1	0.0	0.0	100.0
	要介護5 (N=54)	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0	100.0

問 31-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

施設や高齢者専用の住居に入居したい理由では、「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（70.6%）」と回答した人が約7割と最も多く、次いで「家族に負担をかけたくない（52.9%）」であった（図表 2-65）。

図表 2-65 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（複数回答）(N=68)

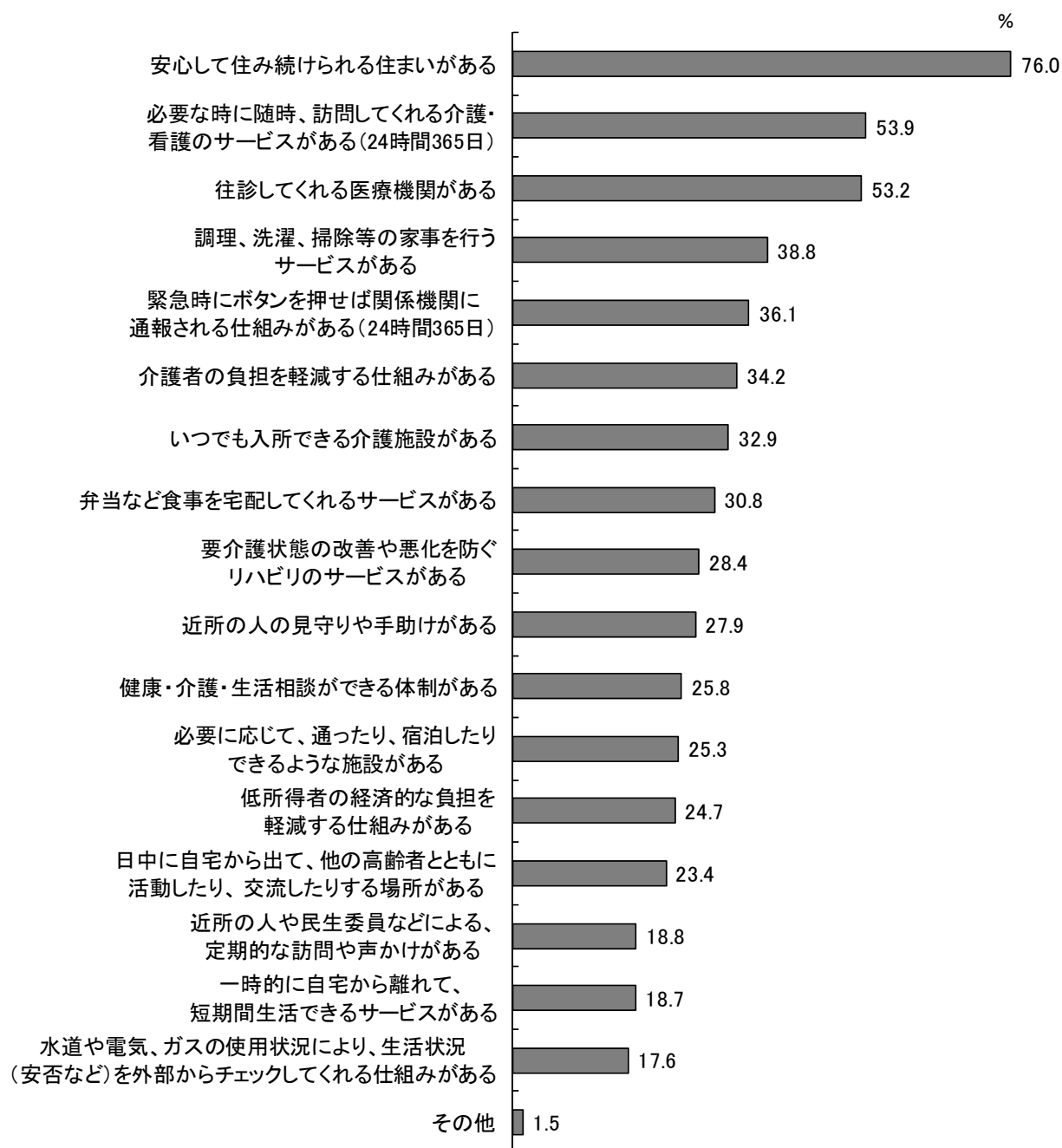


(4) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

問 32 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

介護が必要になった場合、在宅で暮らし続けるために必要なことでは、「安心して住み続けられる住まいがある(76.0%)」と回答した人が約8割と最も多く、続いて「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)(53.9%)」「往診してくれる医療機関がある(53.2%)」の順であった(図表2-66)。

図表 2-66 在宅で暮らし続けるために必要なこと(複数回答)(N=865)



図表 2-67 在宅で暮らし続けるために必要なこと（要介護度別／複数回答）

(%)

		安心して住み続けられる住まいがある	近所の人の見守りや手助けがある	（24時間365日） 看護のサービスがある	必要な時に随時、訪問してくれる介護・場所がある	日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする	要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある	一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある	必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある	いつでも入所できる介護施設がある	往診してくれる医療機関がある
要介護度	要支援1 (N=209)	75.1	27.3	52.2	27.8	24.4	15.8	23.9	30.1	47.4	
	要支援2 (N=155)	75.5	24.5	44.5	25.8	24.5	12.9	16.8	27.1	48.4	
	要介護1 (N=141)	71.6	29.8	54.6	24.1	31.2	19.1	26.2	34.8	47.5	
	要介護2 (N=130)	78.5	32.3	56.9	24.6	40.8	23.1	28.5	38.5	56.9	
	要介護3 (N=82)	81.7	29.3	59.8	19.5	32.9	25.6	37.8	40.2	62.2	
	要介護4 (N=59)	74.6	25.4	66.1	16.9	25.4	23.7	30.5	35.6	67.8	
	要介護5 (N=55)	80.0	25.5	67.3	12.7	27.3	27.3	34.5	38.2	80.0	
		弁当など食事を宅配してくれるサービスがある	調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある	健康・介護・生活相談ができる体制がある	近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある	水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況（安否など）を外部からチェックしてくれる仕組みがある	（24時間365日） 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある	介護者の負担を軽減する仕組みがある	低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある	その他	
要介護度	要支援1 (N=209)	35.4	45.5	23.9	23.9	21.5	38.3	25.4	21.1	0.5	
	要支援2 (N=155)	25.8	31.6	20.6	22.6	16.8	35.5	23.2	16.8	1.3	
	要介護1 (N=141)	29.1	39.0	27.0	15.6	12.1	31.9	35.5	25.5	1.4	
	要介護2 (N=130)	33.8	43.8	33.8	16.2	17.7	37.7	36.9	29.2	0.8	
	要介護3 (N=82)	29.3	39.0	26.8	18.3	24.4	43.9	53.7	31.7	4.9	
	要介護4 (N=59)	32.2	40.7	32.2	18.6	16.9	37.3	50.8	39.0	1.7	
	要介護5 (N=55)	21.8	29.1	25.5	12.7	12.7	27.3	52.7	29.1	3.6	

(5) 高齢者総合相談センターについての認知度

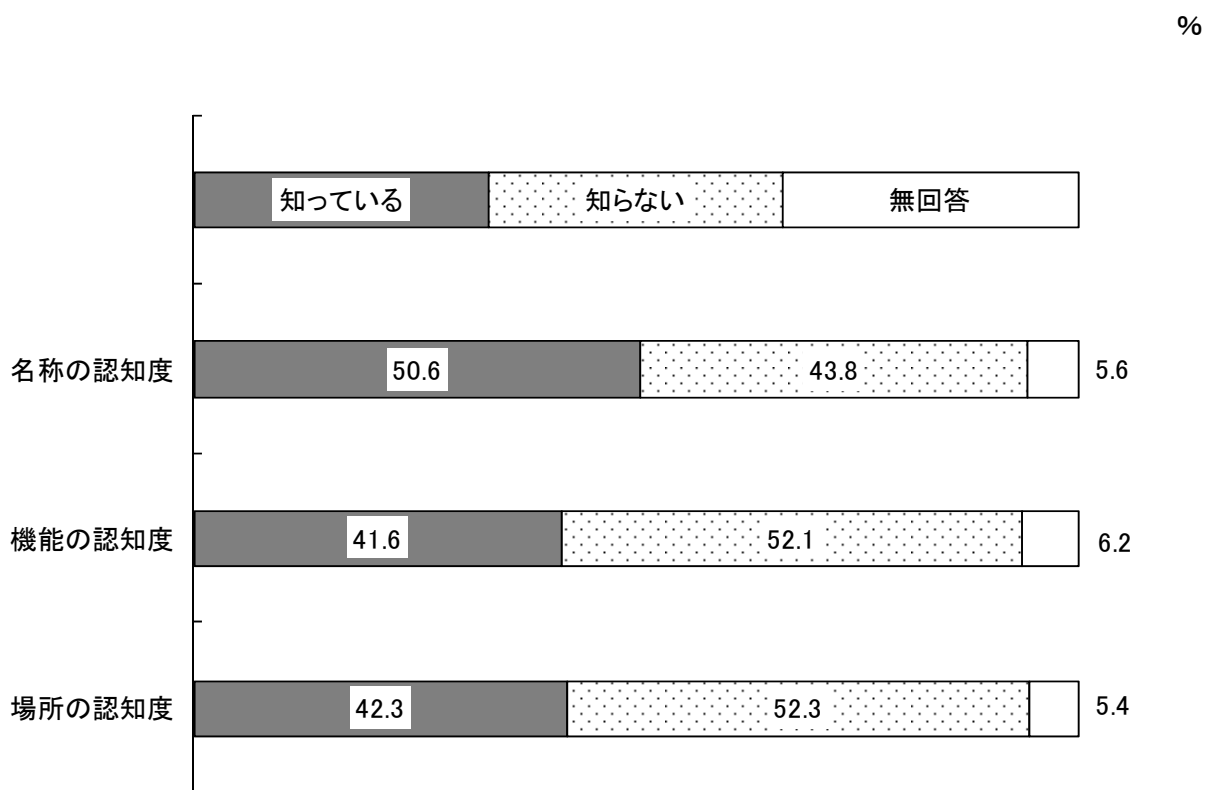
問 33-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 33-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 33-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所について「知らない」と回答した人は、それぞれ43.8%、52.1%、52.3%であった（図表 2-68）。

図表 2-68 高齢者総合相談センターの認知度（N=946）



10. 介護保険制度

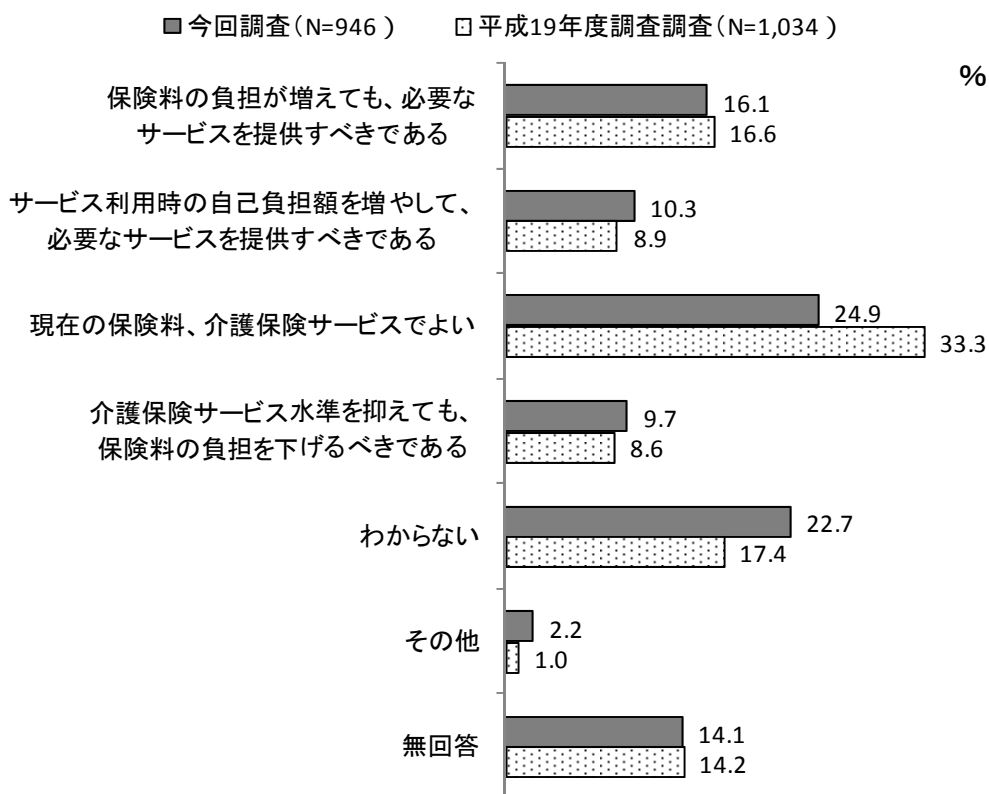
問 34 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
(あてはまる番号に1つ)

介護保険のサービスと保険料についての考えでは、「現在の保険料、介護保険サービスでよい(24.9%)」と回答した人が最も多く、続いて「わからない(22.7%)」「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである(16.1%)」の順であった(図表 2-69)。

(平成 19 年度調査との比較)

今回も平成 19 年度調査と同じく「現在の保険料、介護保険サービスでよい」が、最も多い回答ではあったが、平成 19 年度調査と比較すると、占率は 33.3%から 24.9%と大きく減少した。一方で、「わからない」が、17.4%から 22.7%に増加している(図表 2-69)。

図表 2-69 介護保険のサービスと保険料についての考え(平成 19 年度調査との比較)



図表 2-70 介護保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		保険料の負担が増えるべきである	サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである	現在の保険料、介護保険サービスでよい	介護保険サービスの水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=66)	16.7	1.5	31.8	15.2	30.3	4.5	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=185)	15.7	8.6	25.9	15.1	33.0	1.6	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=129)	19.4	10.1	25.6	15.5	24.8	4.7	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=150)	22.7	13.3	33.3	8.0	20.7	2.0	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=70)	18.6	22.9	24.3	8.6	20.0	5.7	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=45)	24.4	13.3	28.9	4.4	24.4	4.4	100.0
	1000万円以上 (N=47)	23.4	19.1	42.6	4.3	10.6	0.0	100.0
	わからない (N=53)	11.3	15.1	35.8	9.4	28.3	0.0	100.0

11. 緊急時の避難など

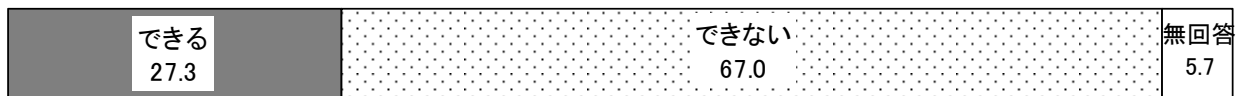
(1) 災害時にひとりで避難できるか

問 35 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで、避難できると思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

「できる」という人は27.3%であり、「できない」という人は67.0%であった(図表2-71)。

図表 2-71 ひとりで避難できるか (N=946)

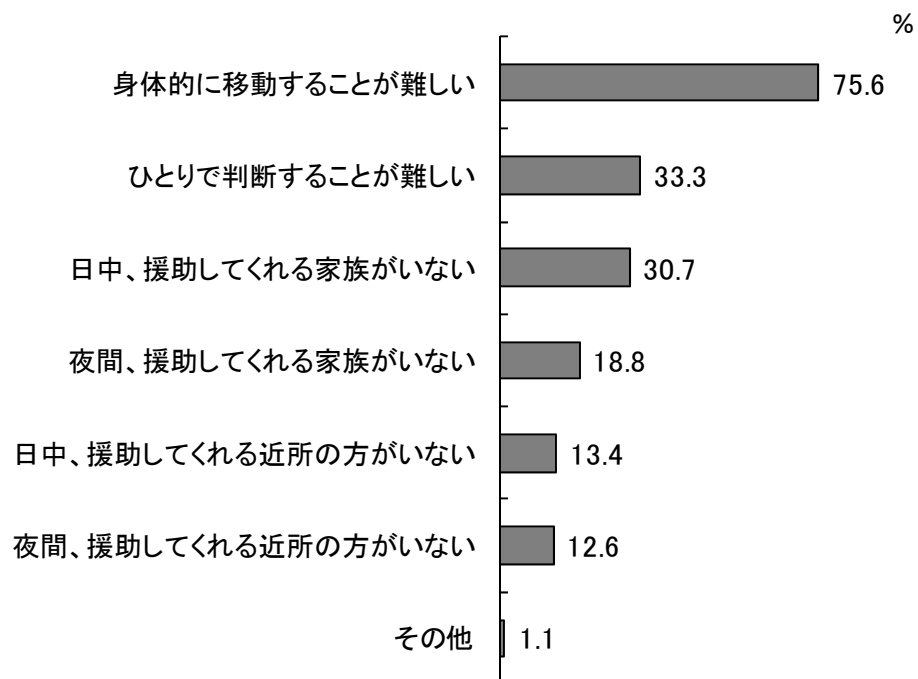
%



問 35-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

問 35 で、ひとりで避難できないと回答した人に、その理由をたずねた。「身体的に移動することが難しい(75.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「ひとりで判断することが難しい(33.3%)」「日中、援助してくれる家族がいない(30.7%)」の順であった(図表2-72)。

図表 2-72 ひとりで避難できない理由(複数回答)(N=618)

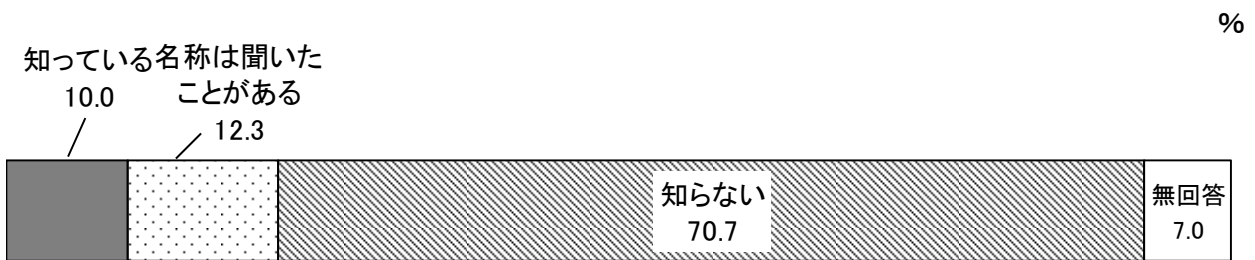


(2) 災害時要援護者登録名簿について

問 36 区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守ることが困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立てます。あなたは、このような制度をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

災害時要援護者登録名簿について、「知らない(70.7%)」という人が約7割であった(図表2-73)。

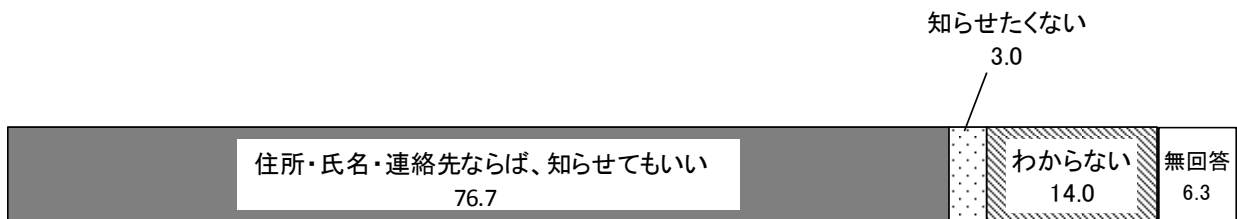
図表 2-73 災害時要援護者登録名簿の認知度 (N=946)



問 37 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？（あてはまる番号に1つ）

災害などの緊急時に備えて、事前に情報を知らせておくことについて、「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい (76.7%)」と回答した人は、約8割であった(図表2-74)。

図表 2-74 災害時など緊急時に備えて、事前の情報登録への意向 (N=946)

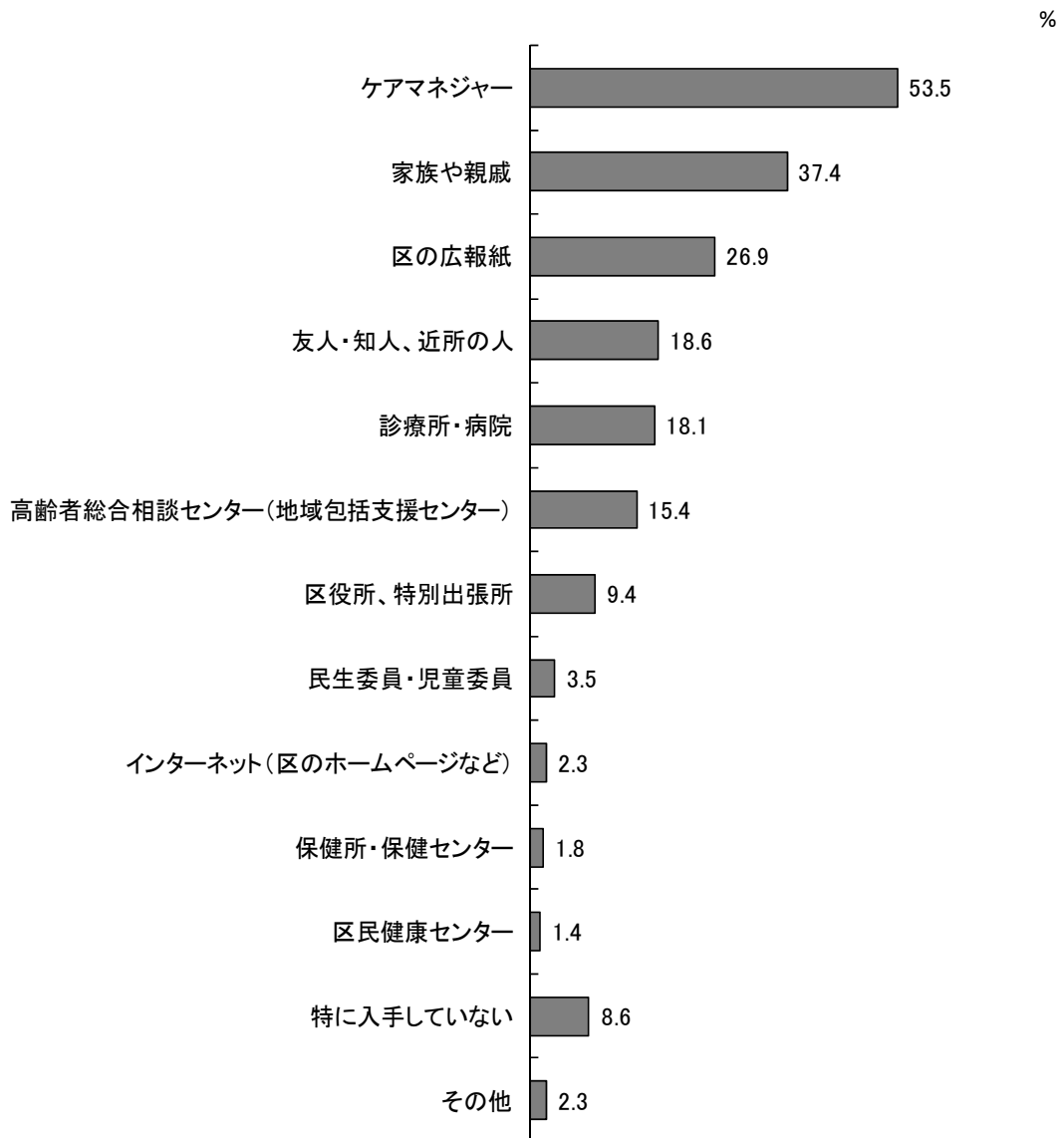


12. 情報入手

問 38 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか？
(あてはまる番号すべてに)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段では、「ケアマネジャー（53.5%）」が最も高く、続いて「家族や親戚（37.4%）」「区の広報紙（26.9%）」「友人・知人、近所の人（18.6%）」の順であった。一方「特に入手していない」と回答した人は8.6%であった（図表2-75）。

図表 2-75 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=875)



13. 介護者のこと

介護者の方におたずねします

(1) 性別

問 39 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性（31.9%）」が約3割、「女性（68.1%）」が約7割であった（図表2-76）。

図表 2-76 介護者の性別（N=496）

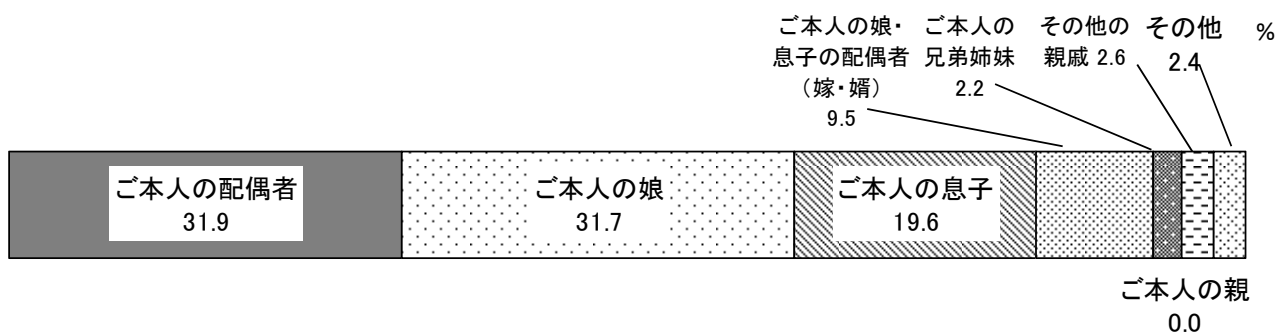


(2) 調査対象者（ご本人）との関係

問 40 あなたと調査対象者(ご本人)との関係はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

調査対象者（ご本人）との関係をたずねたところ、「ご本人の配偶者（31.9%）」、「ご本人の娘（31.7%）」、「ご本人の息子（19.6%）」、「ご本人の娘・息子の配偶者（9.5%）」の順であった（図表2-77）。

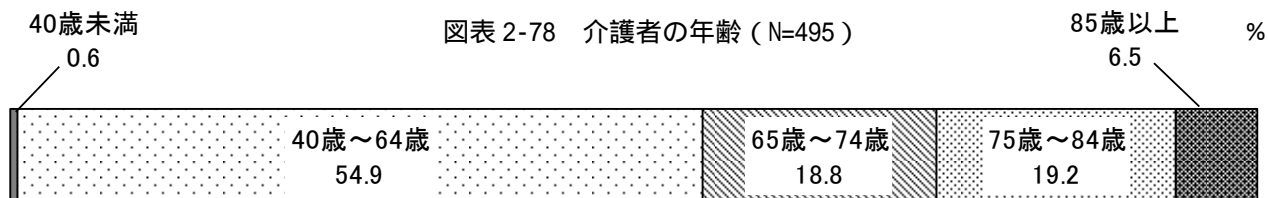
図表 2-77 調査対象者との関係（N=495）



(3) 年齢

問 41 あなたはおいくつですか？ 平成 22 年 11 月 1 日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成を見ると、「40 歳～64 歳（54.9%）」が 5 割以上であるが、「75 歳以上」も 25.7%であった（図表 2-78）。



図表 2-79 介護者の年齢（調査対象者との続柄別）

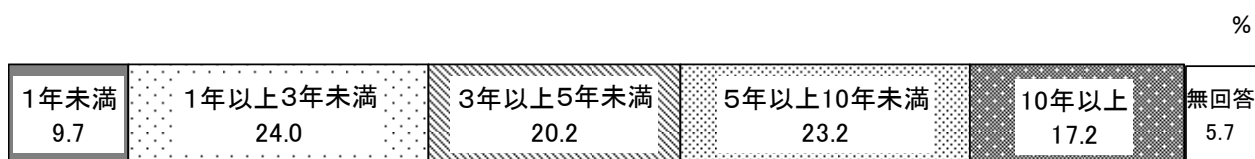
		40歳未満	40歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上	合計
調査対象者との続柄	ご本人の配偶者 (N=158)	0.0	5.7	24.1	51.9	18.4	100.0
	ご本人の娘 (N=157)	0.6	84.7	14.0	0.6	0.0	100.0
	ご本人の息子 (N=97)	1.0	81.4	17.5	0.0	0.0	100.0
	ご本人の娘・息子の配偶者(嫁・婿) (N=47)	0.0	66.0	25.5	6.4	2.1	100.0
	ご本人の兄弟姉妹 (N=11)	0.0	9.1	18.2	63.6	9.1	100.0
	その他の親戚 (N=13)	0.0	84.6	0.0	7.7	7.7	100.0
	その他 (N=12)	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0	100.0

(4) 介護期間

問 42 あなたは、調査対象者（ご本人）を、何年介護していますか？（あてはまる番号に1つ）

介護期間は、「1年以上3年未満（24.0%）」「5年以上10年未満（23.2%）」「3年以上5年未満（20.2%）」がそれぞれ2割を超えて多いが、「10年以上」と回答した人も17.2%であった（図表2-80）。

図表 2-80 介護期間（N=495）



図表 2-81 介護期間（要介護度別）

(%)

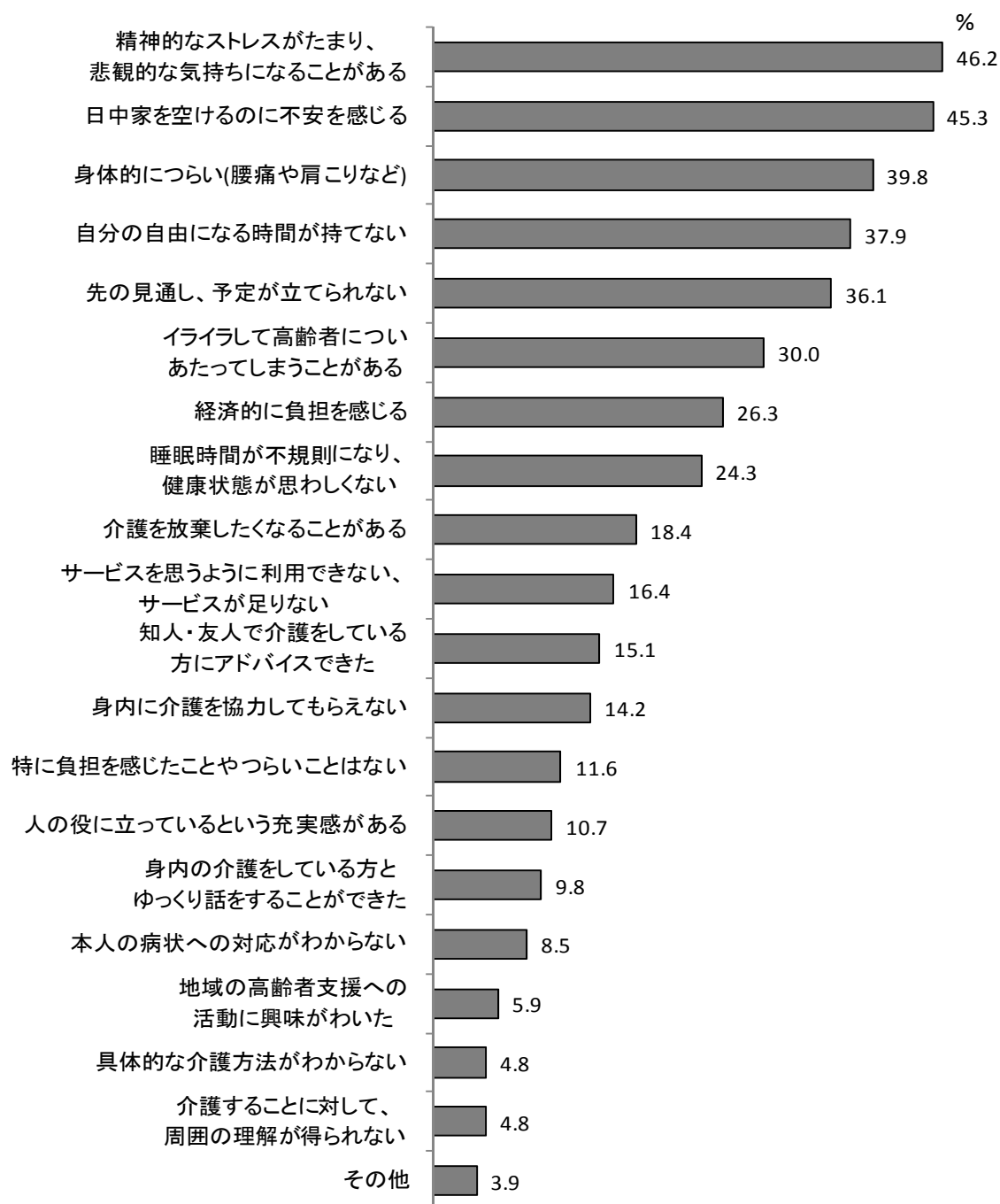
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	合計
要 介 護 度	要支援1 (N=48)	12.5	29.2	29.2	18.8	10.4	100.0
	要支援2 (N=58)	13.8	25.9	25.9	17.2	17.2	100.0
	要介護1 (N=91)	12.1	38.5	24.2	13.2	12.1	100.0
	要介護2 (N=87)	12.6	20.7	25.3	31.0	10.3	100.0
	要介護3 (N=68)	7.4	16.2	16.2	32.4	27.9	100.0
	要介護4 (N=55)	1.8	25.5	14.5	27.3	30.9	100.0
	要介護5 (N=55)	5.5	21.8	12.7	36.4	23.6	100.0

(5) 介護をしていて感じたこと

問 43 あなたが、介護をしていて感じたことは何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

「精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある（46.2%）」が最も多く、続いて「日中家を空けるのに不安を感じる（45.3%）」「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）（39.8%）」「自分の自由になる時間が持てない（37.9%）」「先の見通し、予定が立てられない（36.1%）」「イライラして高齢者についあたってしまうことがある（30.0%）」の順であった（図表 2-82）。

図表 2-82 介護をしていて感じたこと（複数回答）(N=457)



図表 2-83 介護をされていて感じたこと（介護を要する原因別）

(%)

		人の役に立っているという充実感がある	身の回り介護をしている方がゆとり話をする事ができた	友人・友人で介護をしている方にアドバイスできた	地域の高齢者支援への活動に興味があった	身体的につらい（腰痛や肩こりなど）	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない	しまうことがあがある	介護を放棄したくなることもある	日中家を空けるのに不安を感じる
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=77)	14.3	10.4	18.2	6.5	44.2	36.4	20.8	27.3	18.2	45.5
	骨折・転倒 (N=52)	3.8	5.8	23.1	9.6	48.1	40.4	32.7	30.8	17.3	40.4
	高齢による衰弱 (N=43)	16.3	14.0	14.0	9.3	34.9	41.9	20.9	18.6	11.6	32.6
	心臓病 (N=15)	26.7	20.0	26.7	6.7	53.3	26.7	33.3	6.7	26.7	66.7
	関節の病気 (N=14)	7.1	14.3	7.1	14.3	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1	21.4
	認知症 (N=75)	8.0	9.3	24.0	8.0	42.7	64.0	30.7	38.7	22.7	52.0
	難病(パーキンソン病等) (N=13)	7.7	0.0	0.0	0.0	53.8	38.5	23.1	46.2	7.7	38.5
	がん(悪性新生物) (N=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	呼吸器疾患 (N=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	糖尿病 (N=7)	14.3	14.3	14.3	0.0	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6
	脊髄損傷 (N=11)	9.1	9.1	18.2	0.0	54.5	54.5	36.4	54.5	36.4	63.6
	視覚・聴覚障害 (N=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0
	不明 (N=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0
その他 (N=23)	8.7	13.0	26.1	4.3	34.8	52.2	13.0	39.1	26.1	56.5	

		自分の自由になる時間が持てない	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	介護することに対して、周囲の理解が得られない	身内に介護を協力してもらえない	具体的な介護方法がわからない	本人の病状への対応がわからない	先の見通し、予定が立てられない	経済的に負担を感じる	特に負担を感じたことやつらいことはない	その他
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=77)	36.4	18.2	3.9	11.7	6.5	13.0	36.4	33.8	16.9	2.6
	骨折・転倒 (N=52)	38.5	19.2	3.8	19.2	9.6	7.7	32.7	25.0	13.5	1.9
	高齢による衰弱 (N=43)	44.2	7.0	0.0	14.0	0.0	2.3	20.9	11.6	18.6	7.0
	心臓病 (N=15)	40.0	13.3	6.7	13.3	0.0	6.7	26.7	40.0	6.7	0.0
	関節の病気 (N=14)	14.3	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	21.4	0.0	21.4	0.0
	認知症 (N=75)	42.7	18.7	9.3	20.0	5.3	5.3	41.3	24.0	6.7	8.0
	難病(パーキンソン病等) (N=13)	30.8	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	53.8	0.0	7.7	7.7
	がん(悪性新生物) (N=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	呼吸器疾患 (N=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	糖尿病 (N=7)	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0
	脊髄損傷 (N=11)	54.5	27.3	9.1	27.3	9.1	9.1	45.5	27.3	0.0	0.0
	視覚・聴覚障害 (N=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0
	不明 (N=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
その他 (N=23)	43.5	21.7	4.3	4.3	8.7	13.0	34.8	30.4	4.3	0.0	

図表 2-84 介護をしていて感じたこと（治療中の病気別）

(%)

		人の役に立っているという充実感がある	身の回り介護をしている方ができた	友人・友人で介護をしている方にアドバイスできた	地域の高齢者支援への活動に興味があった	身体的につらい（腰痛や肩こりなど）	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない	しまうことがあがる	介護を放棄したくなることもある	日中家を空けるのに不安を感じる
治療中の病気	高血圧症 (N=162)	8.6	9.3	14.2	5.6	31.5	43.2	23.5	29.6	16.0	43.2
	高脂血症 (N=43)	11.6	16.3	18.6	2.3	39.5	46.5	32.6	30.2	23.3	39.5
	脳血管疾患 (N=79)	15.2	11.4	15.2	3.8	45.6	40.5	26.6	25.3	20.3	50.6
	心臓病 (N=83)	14.5	13.3	15.7	7.2	38.6	41.0	31.3	24.1	22.9	49.4
	がん(悪性新生物) (N=29)	13.8	24.1	17.2	6.9	44.8	51.7	27.6	31.0	20.7	44.8
	糖尿病 (N=64)	9.4	14.1	15.6	3.1	37.5	50.0	26.6	31.3	23.4	46.9
	骨折・骨粗しょう症 (N=74)	8.1	9.5	12.2	5.4	32.4	39.2	16.2	29.7	16.2	40.5
	関節の病気 (N=48)	12.5	10.4	10.4	4.2	37.5	41.7	18.8	33.3	16.7	39.6
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	12.0	8.0	0.0	0.0	52.0	52.0	24.0	36.0	12.0	52.0
	眼科疾患 (N=72)	11.1	11.1	6.9	2.8	47.2	45.8	18.1	29.2	12.5	44.4
	認知症 (N=118)	8.5	13.6	16.9	6.8	49.2	59.3	32.2	38.1	26.3	52.5
	うつ病 (N=20)	0.0	10.0	5.0	0.0	20.0	45.0	10.0	30.0	15.0	40.0
	うつ病以外の精神科疾患 (N=6)	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	66.7	16.7	33.3	50.0	33.3
その他 (N=74)	12.2	2.7	14.9	4.1	39.2	50.0	20.3	43.2	17.6	54.1	

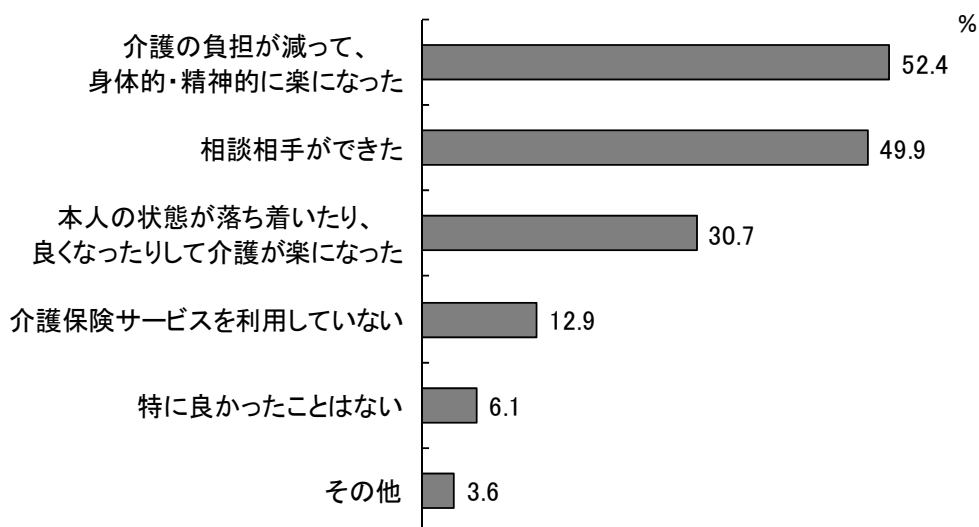
		自分の自由になる時間が持てない	サービスマスが足りない	得られない	介護することに対して、周囲の理解が	身内に介護を協力してもらえない	具体的な介護方法がわからない	本人の病状への対応がわからない	先の見通し、予定が立てられない	経済的に負担を感じる	特に負担を感じたことやつらいことはない	その他
治療中の病気	高血圧症 (N=162)	36.4	19.1	4.3	14.2	5.6	9.3	34.6	22.8	14.2	3.7	
	高脂血症 (N=43)	41.9	25.6	2.3	18.6	9.3	25.6	41.9	27.9	11.6	7.0	
	脳血管疾患 (N=79)	43.0	21.5	3.8	13.9	7.6	12.7	38.0	39.2	16.5	1.3	
	心臓病 (N=83)	37.3	21.7	6.0	9.6	4.8	8.4	34.9	31.3	12.0	1.2	
	がん(悪性新生物) (N=29)	27.6	24.1	0.0	13.8	3.4	6.9	37.9	20.7	3.4	3.4	
	糖尿病 (N=64)	42.2	25.0	4.7	15.6	4.7	9.4	40.6	32.8	3.1	3.1	
	骨折・骨粗しょう症 (N=74)	39.2	17.6	2.7	13.5	5.4	10.8	31.1	25.7	12.2	2.7	
	関節の病気 (N=48)	35.4	6.3	4.2	14.6	2.1	12.5	31.3	18.8	14.6	2.1	
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	32.0	16.0	4.0	12.0	4.0	12.0	56.0	24.0	4.0	4.0	
	眼科疾患 (N=72)	38.9	23.6	5.6	15.3	6.9	6.9	38.9	22.2	12.5	2.8	
	認知症 (N=118)	47.5	20.3	8.5	16.1	2.5	9.3	45.8	27.1	6.8	5.9	
	うつ病 (N=20)	35.0	15.0	0.0	5.0	0.0	10.0	25.0	20.0	10.0	0.0	
	うつ病以外の精神科疾患 (N=6)	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	
その他 (N=74)	48.6	24.3	4.1	16.2	2.7	8.1	41.9	32.4	10.8	1.4		

(6) 介護保険サービスを利用して良かったこと

問 44 介護保険サービスを利用して、良かったことは何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

「介護の負担が減って、身体的・精神的に楽になった（52.4%）」と回答した人が最も多く、次いで「相談相手ができた（49.9%）」であった（図表 2-85）。

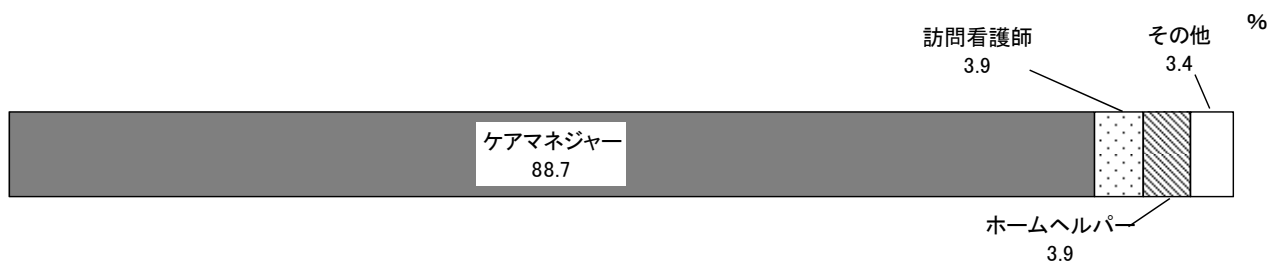
図表 2-85 介護保険サービスを利用して良かったこと（複数回答）(N=443)



問 44-1 相談相手はどなたですか？（あてはまる番号に1つ ）

問 44 で、「相談相手ができた」と回答した人にたずねた。相談相手では「ケアマネジャー（88.7%）」が約 9 割と最も多かった（図表 2-86）。

図表 2-86 相談相手 (N=203)

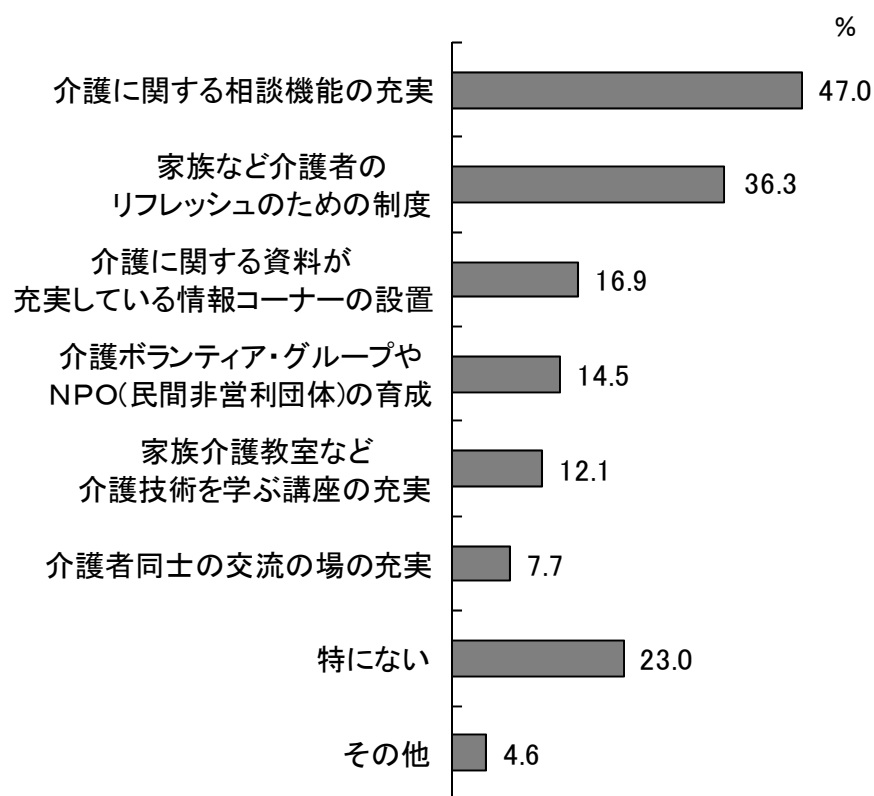


(7) 介護者への支援として新宿区に力を入れてほしいこと

問 45 介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、何ですか？
(あてはまる番号すべてに)

介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、「介護に関する相談機能の充実(47.0%)」が最も多く、続いて「家族など介護者のリフレッシュのための制度(36.3%)」「介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置(16.9%)」の順であった(図表 2-87)。

図表 2-87 介護者への支援として、新宿区に力を入れてほしいこと(複数回答)(N=413)



(8) こころの健康状況

問 46 最近 2 週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？（あてはまる番号に 1 つ）

各項目に対する回答は次の通りであった。

こころの健康状態に関するすべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が 0 個）は、25.9%であった（図表 2-88）。

		1. はい	2. いいえ	無回答
① 毎日の生活に充実感がない。	(N=495)	32.5%	59.5%	8.1%
② これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。	(N=495)	36.0%	56.8%	7.3%
③ 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。	(N=495)	52.5%	41.2%	6.3%
④ 自分は役に立つ人間だと思えない。	(N=495)	16.2%	75.6%	8.3%
⑤ わけもなく疲れたような感じがする。	(N=495)	55.2%	38.4%	6.5%

図表 2-88 こころの健康状況（5 項目に「はい」と回答した数の合計）(N=437)

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	25.9	19.7	16.2	12.8	17.2	8.2

(9) 調査対象者（ご本人）の認知症の有無、相談先

問 47 あなたが介護をしている方（ご本人）には、認知症の症状がありますか？
（あてはまる番号に 1 つ）

調査対象者（ご本人）の認知症の症状について、「ある」と回答した人は 45.1%であった（図表 2-89）。

図表 2-89 調査対象者の認知症の有無 (N=495)



図表 2-90 調査対象者の認知症の有無
(認知症の支援体制の充実に必要なこと別 / 介護をしていて感じたこと別) (%)

		ある	ない	合計
認知症の支援体制の充実に必要なこと	認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする (N=224)	49.1	50.9	100.0
	かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること (N=235)	48.9	51.1	100.0
	かかりつけ医と専門医の連携体制の充実 (N=151)	49.0	51.0	100.0
	身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること (N=178)	48.3	51.7	100.0
	認知症予防教室・講座の充実 (N=59)	59.3	40.7	100.0
	認知症のチェック票などを用いて早期発見できる体制の整備 (N=143)	51.7	48.3	100.0
	支援のための相談窓口の充実 (N=122)	50.8	49.2	100.0
	認知症サポーターが地域に増えること (N=111)	61.3	38.7	100.0
	わからない (N=55)	36.4	63.6	100.0
	その他 (N=4)	100.0	0.0	100.0
介護をしていて感じたこと	人の役に立っているという充実感がある (N=46)	39.1	60.9	100.0
	身内の介護をしている方とゆっくり話をする事ができた (N=43)	48.8	51.2	100.0
	知人・友人で介護をしている方にアドバイスできた (N=66)	47.0	53.0	100.0
	地域の高齢者支援への活動に興味があった (N=26)	42.3	57.7	100.0
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど) (N=180)	57.2	42.8	100.0
	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある (N=208)	61.5	38.5	100.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない (N=109)	61.5	38.5	100.0
	イライラして高齢者についあたってしまうことがある (N=134)	62.7	37.3	100.0
	介護を放棄したくなることもある (N=82)	65.9	34.1	100.0
	日中家を空けるのに不安を感じる (N=202)	55.0	45.0	100.0
	自分の自由になる時間が持てない (N=171)	57.3	42.7	100.0
	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない (N=74)	54.1	45.9	100.0
	介護することに対して、周囲の理解が得られない (N=22)	77.3	22.7	100.0
	身内に介護を協力してもらえない (N=64)	62.5	37.5	100.0
	具体的な介護方法がわからない (N=22)	45.5	54.5	100.0
	本人の病状への対応がわからない (N=38)	52.6	47.4	100.0
	先の見通し、予定が立てられない (N=163)	58.3	41.7	100.0
	経済的に負担を感じる (N=118)	56.8	43.2	100.0
	特に負担を感じたことやつらいことはない (N=51)	23.5	76.5	100.0
	その他 (N=18)	66.7	33.3	100.0

問 47-1 認知症の介護について、家族以外の、誰に相談していますか？
 (あてはまる番号すべてに)

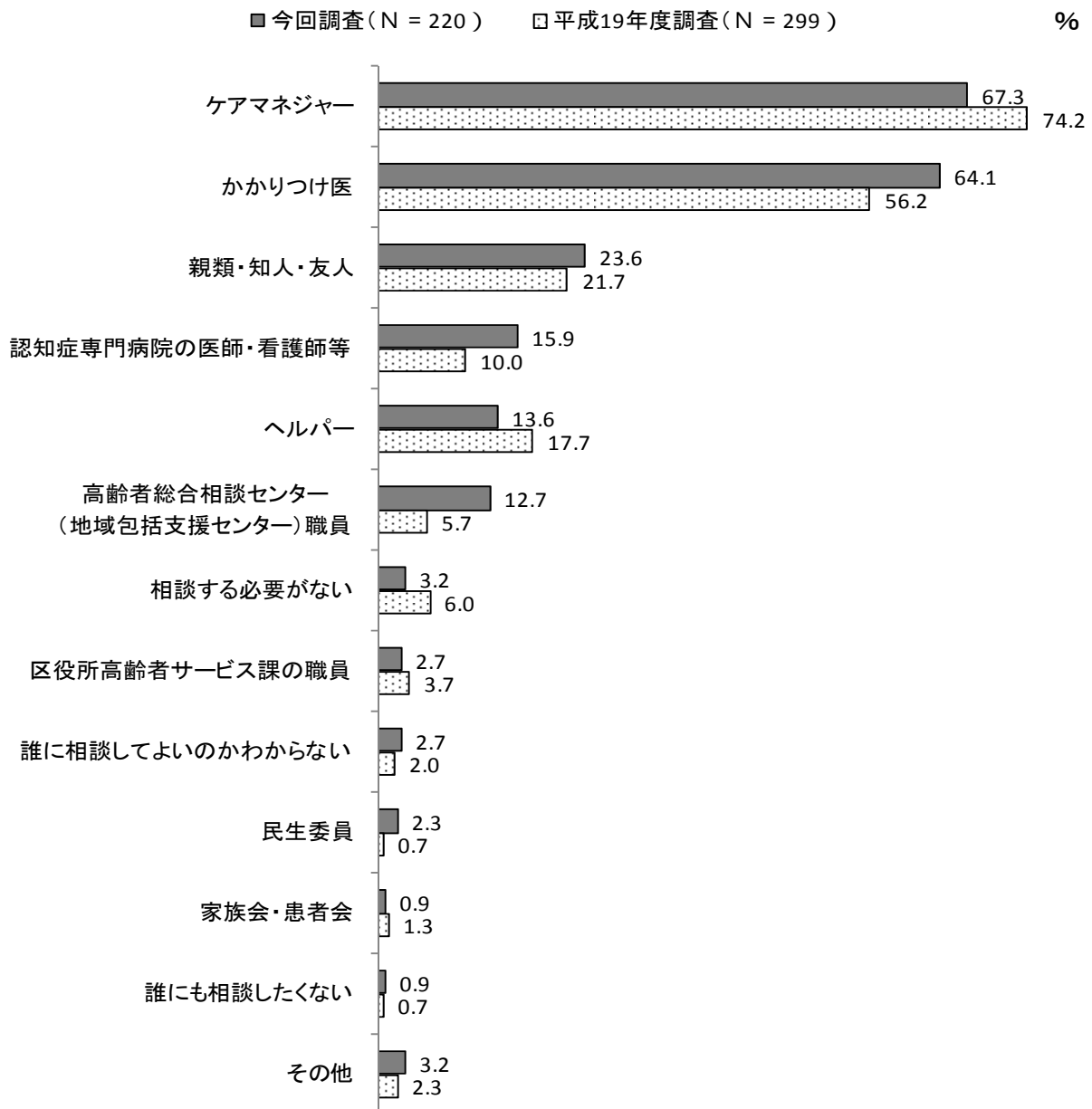
認知症の介護についての相談者では、「ケアマネジャー (67.3%)」が最も多く、次いで「かかりつけ医 (64.1%)」であった (図表 2-91)。

※なお、選択肢の「保健所・保健センター」は 0.0%であった。

(平成 19 年度調査との比較)

今回調査でも「ケアマネジャー (67.3%)」が最も多かったが、平成 19 年度調査と比較すると、「かかりつけ医」が 56.2%から 64.1%、「高齢者総合相談センター (地域包括支援センター) 職員」が、5.7%から 12.7%と大幅に増加した (図表 2-91)。

図表 2-91 認知症介護について、家族以外のだれと相談しているか (平成 19 年度調査との比較 / 複数回答)



図表 2-92 調査対象者の認知症の有無
 (介護者の支援として区に力を入れてほしいこと別)

(%)

		ある	ない	合計
区に力を入れてほしいこと	介護に関する相談機能の充実 (N=192)	46.4	53.6	100.0
	家族など介護者のリフレッシュのための制度 (N=146)	56.2	43.8	100.0
	家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実 (N=48)	50.0	50.0	100.0
	介護者同士の交流の場の充実 (N=32)	50.0	50.0	100.0
	介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置 (N=68)	48.5	51.5	100.0
	介護ボランティア・グループやNPO(民間非営利団体)の育成 (N=59)	49.2	50.8	100.0
	特にない (N=92)	39.1	60.9	100.0
	その他 (N=19)	52.6	47.4	100.0

自由記述から（居宅サービス利用者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が240件あった。主な内容は以下のとおりである。

住まいに関すること（3件）

- ・安心して住んでいられる場所が欲しい。
- ・都営住宅の入居等、情報提供。

介護保険制度・介護保険サービスについて（138件）

- ・施設を増やしてほしい。
- ・有料ホームは高すぎる。公的ホームを入りやすくしてほしい。
- ・ユニット型は料金が高すぎる。従来の特養があってもいいのではないか。
- ・現在、介護老人福祉施策への入所申請をしていますが順位がまわってこず経済的な不安を感じています。
- ・施設に入所させていただき本当に助かっています。
- ・介護保険料が高い。
- ・年金暮らしには介護保険料、ヘルパーさん支払い分、もう少し気持ちだけでよいからお安くしてもらえるといいなと勝手なことを思っております。
- ・要介護認定の方法の改善が必要。
- ・要介護2が1にされてしまったが、その際の判定方法に不満がある。デイケアを週2回から1回に減らされたため、体力の低下、外出回数の減少などが見られる。
- ・外見だけでなく、その人の生き方などからも要介護度を決めるべきだと思う。
- ・要介護のサービスを受けたくても、調査員の判断で要支援と決められてしまうのは納得いきません。希望するサービスをいつでも受けられる環境を作って欲しい。
- ・同居者がいる場合の生活支援のあり方をもう少し柔軟に対応できるようにしてほしい。高齢者夫婦にとって、他人が家に入ることの抵抗感と、いざ家事に手伝いが必要なときに手伝ってもらえる便利さのバランスを取りながら保険が使える環境が整うと良い。
- ・同居者が働いていても家事をしてもらえるようにしてほしい。
- ・要支援は家族がいる者といない者のサービスがあまりにも差がありすぎて大変困っています。
- ・栄養指導の訪問利用を出来るようにしてほしい。
- ・90歳を越えたら、介護度は軽くしないで、現状維持するためにもサービスを利用させて欲しい。
- ・要介護1で、掃除の支援が受けられない。こちらがしてほしい支援を多少費用がかかってもしただけなら良いと存じます。
- ・住宅改修費は1割の金額を振り込めば良いようにしてください。
- ・見守りをお願いしたい時、1時間は介護保険が使える。あとは無理とのこと。なんとか3時間ぐらい見てもらいたい。
- ・女房が認知症のため（ヘルパーが介護に来てくれていますが1日1時間～2時間ぐらいですのので私一人で介護しています）私自身障害者1級のため思うように介護ができません。何とかルール改訂が出来ないものですか。
- ・区報に介護関係の記事を充実してほしい。

ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること（6件）

- ・ヘルパーへの指導・教育をしっかりして欲しい。
- ・介護従事者の処遇改善を図り、雇用安定を促進して欲しい。
- ・ヘルパーとして登録している人数と実働数にかなり差があるのではないのでしょうか。ヘルパー事業者への雇用安定の助言、サポート、ヘルパーの育成が必要。

医療などに関すること（17件）

- ・医療費が高い。
- ・後期高齢者医療保険料の負担が大きい。
- ・お医者様の往診は、とてもありがたく思います。
- ・往診してくれる医者がないので教えてほしい。
- ・長期に入院できる病院が必要。
- ・病院の充実化とリハビリ施設を多く利用出来るような「しくみ」づくりを考えていただきたい。

区に対する要望など（37件）

- ・どのようなサービスが受けられるのか情報提供をもっとしっかりしてほしい。
- ・若い人にも福祉や介護、保険等の広報の充実。
- ・大きい活字で情報が欲しい。
- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・区の窓口の対応が悪い。
- ・電話の対応は老人向に。
- ・高齢者、障害者等の窓口を別々にしないで個々に担当者を決めてほしい。
- ・相談窓口の充実を希望します。
- ・高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を窓口として一本化して欲しい。
- ・区の福祉の方で個人的に担当者を決めていただければ一人暮らしの私にとって幸に思います。
- ・介護保険導入前に比べサービスはもちろん、区役所の担当の方が親切に対応してくれるようになりました。青少年、高齢者にはまだまだ手助けがあっても良い
- ・もっと専門家の育成に力を入れてほしい。いつでも相談できる場がほしい。
- ・区の高齢者サービス課介護予防係の人と心から気軽に相談出来、話し合える場があると良いと希望しています。

介護者への支援に関すること（6件）

- ・介護をする人にもサポートが必要。介護をする人が利用できる家事のサービスが欲しい。
- ・家族で介護をする場合、体力や費用の負担が大きいため、家族に対しての補助を希望いたします。

認知症高齢者の介護者リフレッシュ等支援事業に関すること（6件）

- ・サービスの時間を8時～19時くらいにしていただけるとありがたいです。
- ・リフレッシュ券の時間をもっと増やして欲しい。

- ・制度があり助かります。継続を強く希望。
- ・リフレッシュ券でストレスが解消されたと思います。

施策全般に関すること（13件）

- ・必要なときに24時間電話できるサービスがあるとよい。
- ・高齢者総合相談センターの方が月1回位でもまわってくださったらいい。
- ・月に一度位、民生委員の人に様子を見に来ていただくと相談事の問い合わせができる。
- ・身元引受人がない場合の行政上の対応がまだできていないようです。
- ・急な時に手助けしていただける人がいると安心です。
- ・高齢者本人、家族への心理的サポートの施策があれば望ましい。

その他のご意見（14件）

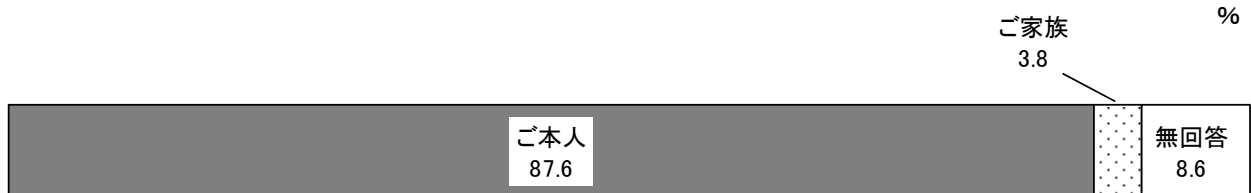
- ・非課税家族に対する細分化された新宿区の更なる助成金をお願い致します。
- ・バスの停留所に椅子を置いて欲しい。
- ・大久保通りを走るバスの本数が少ない。
- ・車いすを利用していますが、あまりに歩道の状態が悪く、危険を感じています。自転車とのすれちがいなど。輸送機関の利用がしづらい。
- ・老人家族です。防犯の点で心配。
- ・業者、業界、行政及びサービス利用者等との情報の共有を深める横の連絡網が充実すれば良い。

Ⅲ. 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査

【調査票の記入者】

記入者は、「ご本人」が87.6%と最も多かった。「ご家族」は3.8%であった（図表3-1）。

図表3-1 記入者（N=824）



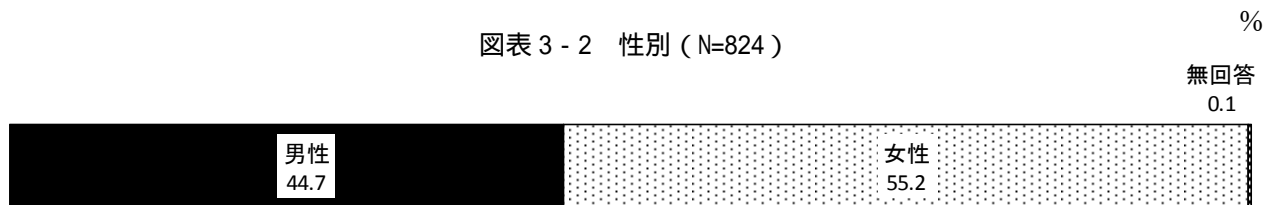
1. ご本人のこと

(1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性」が44.7%、「女性」が55.2%であった（図表3-2）。

図表3-2 性別（N=824）



(2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、40歳代が30.1%、50歳代が41.3%、60歳～64歳が27.8%であった（図表3-3）。



図表 3-4 年齢 (性別)

		(%)				
		40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳
性別	男性 (N=367)	15.0	12.5	19.9	23.2	29.4
	女性 (N=450)	16.0	16.7	20.2	20.2	26.9

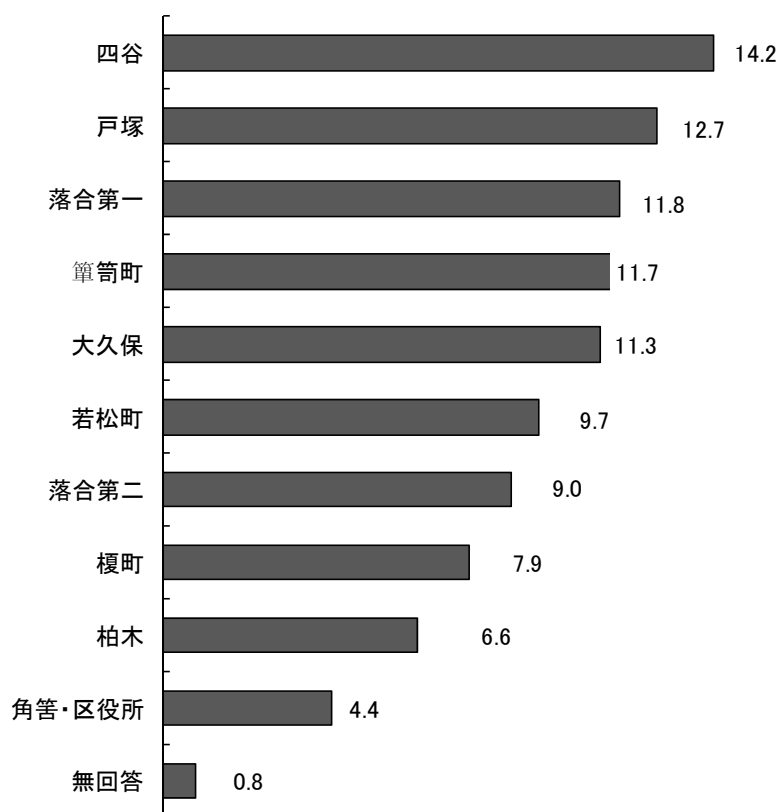
(3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「四谷（14.2%）」が最も多く、続いて「戸塚（12.7%）」「落合第一（11.8%）」の順であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（4.4%）」であった（図表3-5）。

図表3-5 居住地（N=824） %



(4) 世帯構成

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

(あてはまる番号に1つ)

あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

世帯構成は、「ひとり暮らし」が20.1%、「夫婦のみ」が23.9%、「その他」が55.6%であった(図表3-6)。

問4で「その他」と答えた人に世帯人数をたずねた。

「その他」の世帯人数は、「3人(36.7%)」が最も多く、次いで「4人(32.3%)」であった(図表3-7)。

図表 3-6 世帯構成 (N=824)



図表 3-7 世帯人数 (N=458)

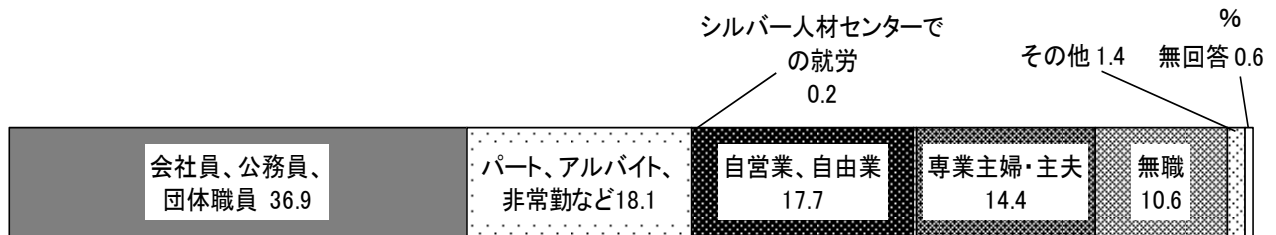


(5) 職業

問5 あなたのご職業はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

職業は、「会社員、公務員、団体職員（36.9%）」が最も多く、続いて「パート、アルバイト、非常勤など（18.1%）」「自営業、自由業（17.7%）」の順であった（図表3-8）。

図表3-8 職業（N=824）

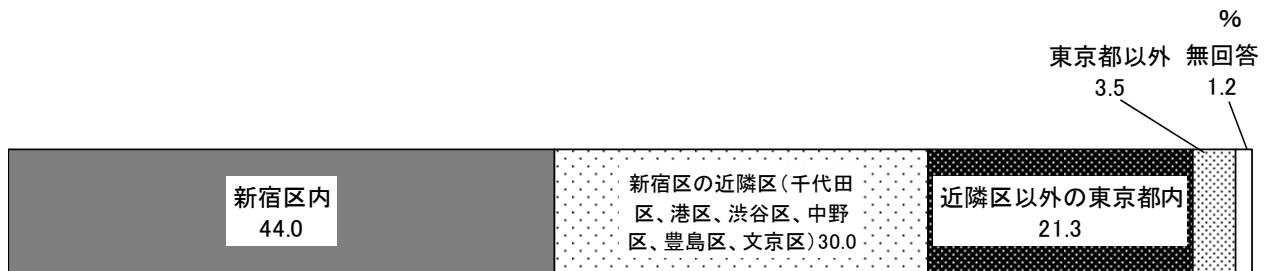


(5-1) 勤務地

問5-1 あなたの勤務地はどちらですか？（あてはまる番号に1つ）

勤務地は、「新宿区内（44.0%）」が最も多く、続いて「新宿区の近隣区（30.0%）」「近隣区以外の東京都内（21.3%）」の順であった（図表3-9）。

図表3-9 勤務地（N=601）

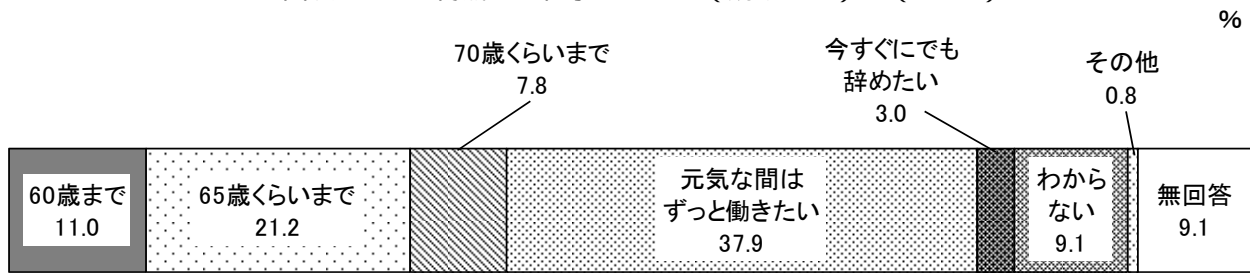


(6) 職業継続意向

問6 あなたは何歳まで仕事をしたい(続けたい)ですか?(あてはまる番号に1つ)

仕事をしたい(続けたい)年齢は、「元気な間はずっと働きたい(37.9%)」と回答した人が最も多く、続いて「65歳くらいまで(21.2%)」「60歳まで(11.0%)」の順であった(図表3-10)。

図表3-10 何歳まで仕事をしたい(続けたい)か(N=824)



(7) 暮らし向き

問7 現在の暮らし向きはどうか?(あてはまる番号に1つ)

現在の暮らし向きは、「ゆとりがある(7.2%)」「ややゆとりがある(43.3%)」と回答した人は、合わせて5割以上であった。一方、「苦しい(15.4%)」「やや苦しい(32.0%)」と回答した人は、合わせて47.4%であった(図表3-11)。

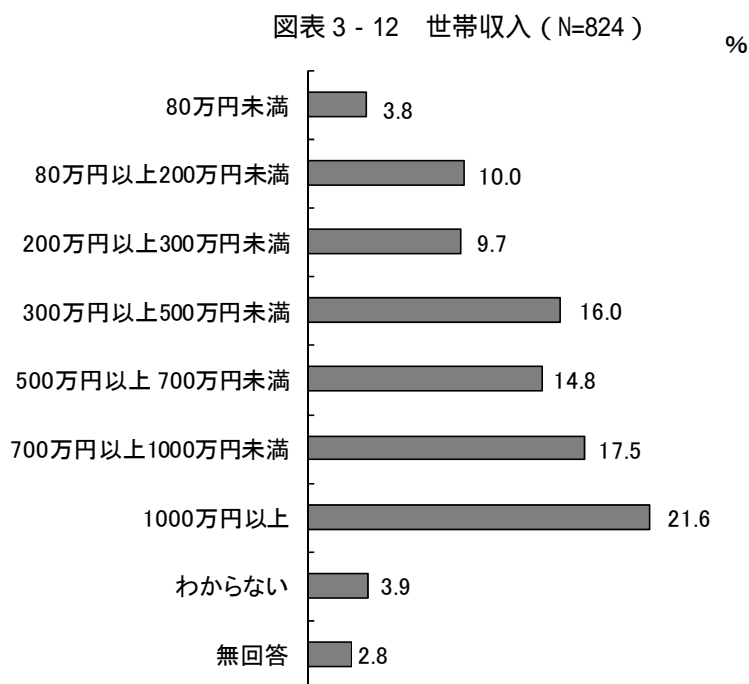
図表3-11 暮らし向き(N=824)



(8) 世帯収入

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか?
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は、「1,000万円以上(21.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「700万円以上1,000万円未満(17.5%)」「300万円以上500万円未満(16.0%)」の順であった。一方、「80万円未満」は3.8%であった(図表3-12)。



(9) 介護経験(身内)

問9 あなたは、ご高齢の方(身内の方に限る)の介護をした経験がありますか?
(あてはまる番号に1つ)

身内の高齢者の介護経験は、「介護をしたことはない(65.0%)」と回答した人が約7割であった。一方、「現在はしていないが、過去に介護したことがある」は23.3%、「現在介護している」は9.8%であった(図表3-13)。

図表3-13 介護経験(身内)の有無(N=824)



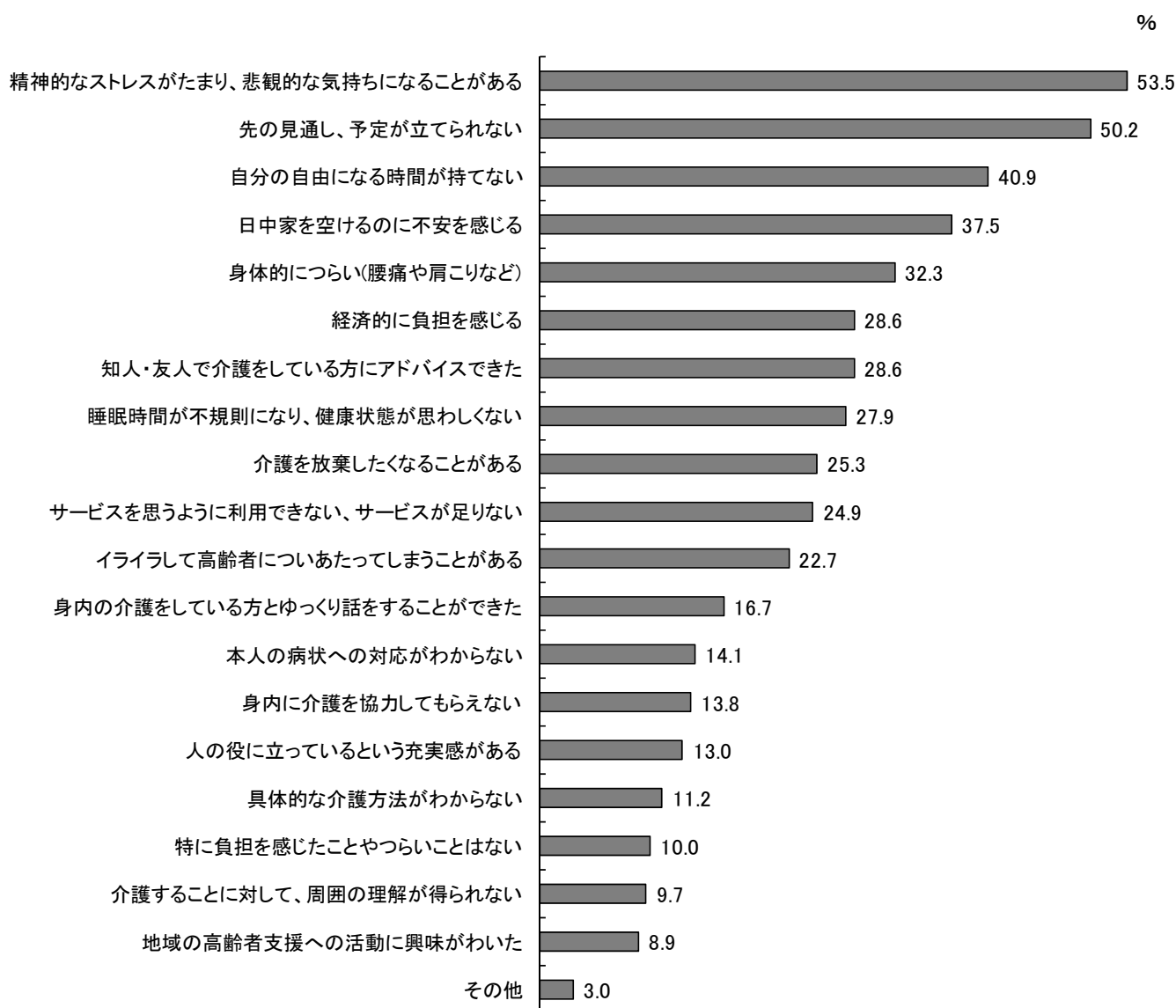
(9-1) 介護をされていて感じたこと

問9-1 介護をされていて感じたことは何ですか？(あてはまる番号すべてに)

問9で「現在介護している」「現在はしていないが、過去に介護したことがある」と回答した人に、介護をされていて感じたことをたずねた。

「精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある(53.5%)」と回答した人が最も多く、続いて「先の見通し、予定が立てられない(50.2%)」「自分の自由になる時間が持てない(40.9%)」「日中家を空けるのに不安を感じる(37.5%)」の順であった(図表3-14)。

図表3-14 介護をされていて感じたこと(複数回答)(N=270)



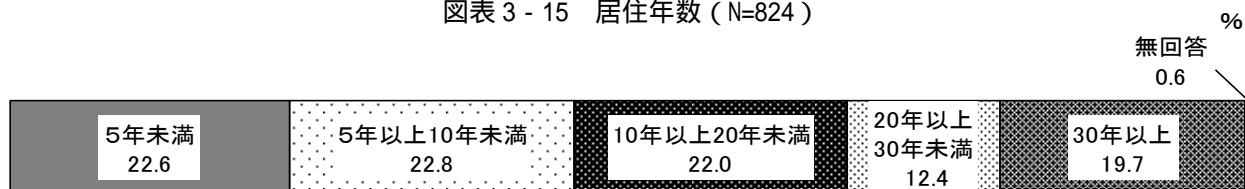
2. 住まいのこと

(1) 居住年数

問 10 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

居住年数は、「5年以上10年未満（22.8%）」「5年未満（22.6%）」「10年以上20年未満（22.0%）」「30年以上（19.7%）」「20年以上30年未満（12.4%）」が、いずれも約2割の占率であった（図表3-15）。

図表3-15 居住年数（N=824）

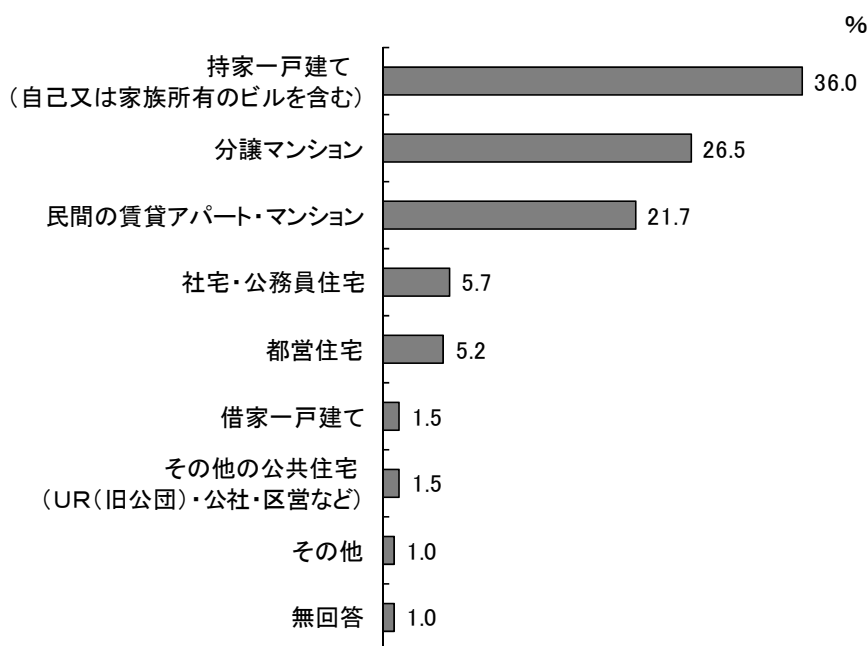


(2) 住居形態

問 11 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（36.0%）」と「分譲マンション（26.5%）」を合わせて約6割であった。また「民間の賃貸アパート・マンション」は21.7%であった（図表3-16）。

図表3-16 住居形態（N=824）



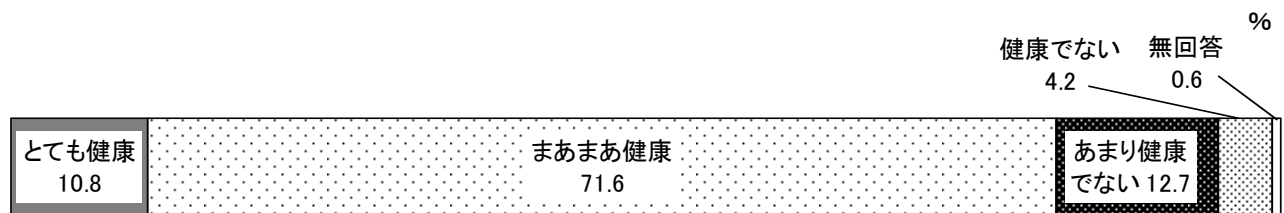
3. 健康状態

(1) 健康に関する認識

問 12 あなたは健康だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

自分が健康と思うか（主観的健康観）についてたずねた。「とても健康（10.8%）」「まあまあ健康（71.6%）」と回答した人は、合わせて約8割であった。一方、「あまり健康でない」「健康でない」と回答した人は、合わせて16.9%であった（図表3-17）。

図表3-17 健康に関する認識（N=824）

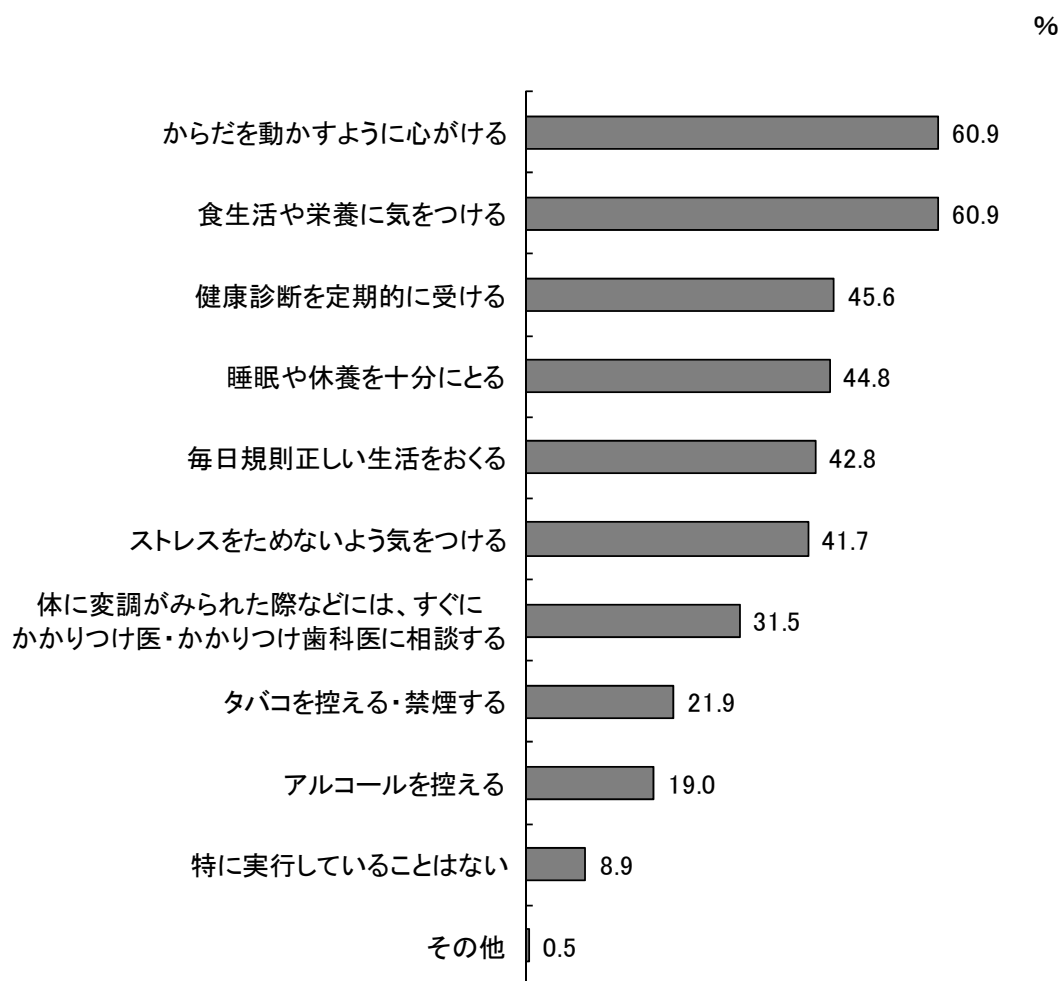


(2) 健康な生活を送るために心がけていること

問 13 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

「からだを動かすように心がける」「食生活や栄養に気をつける」と回答した人がともに 60.9%で多く、続いて「健康診断を定期的に受ける (45.6%)」「睡眠や休養を十分にとる (44.8%)」の順であった。一方、「特に実行していることはない」と回答した人は、8.9%であった(図表 3-18)。

図表 3 - 18 健康な生活を送るために心がけていること (複数回答)(N=821)

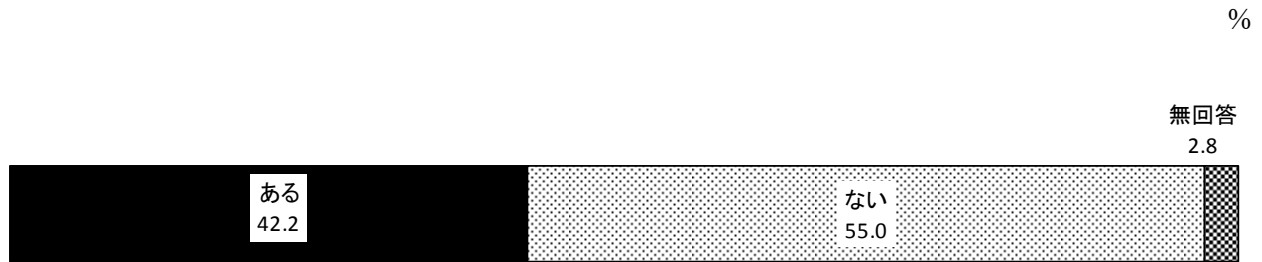


(3) 治療中の病気

問 14 現在治療中の病気がありますか？ (あてはまる番号に1つ)

現在、治療中の病気があるかについては、「ある」と回答した人が42.2%、「ない」と回答した人が55.0%であった(図表3-19)。

図表3-19 治療中の病気の有無(N=824)

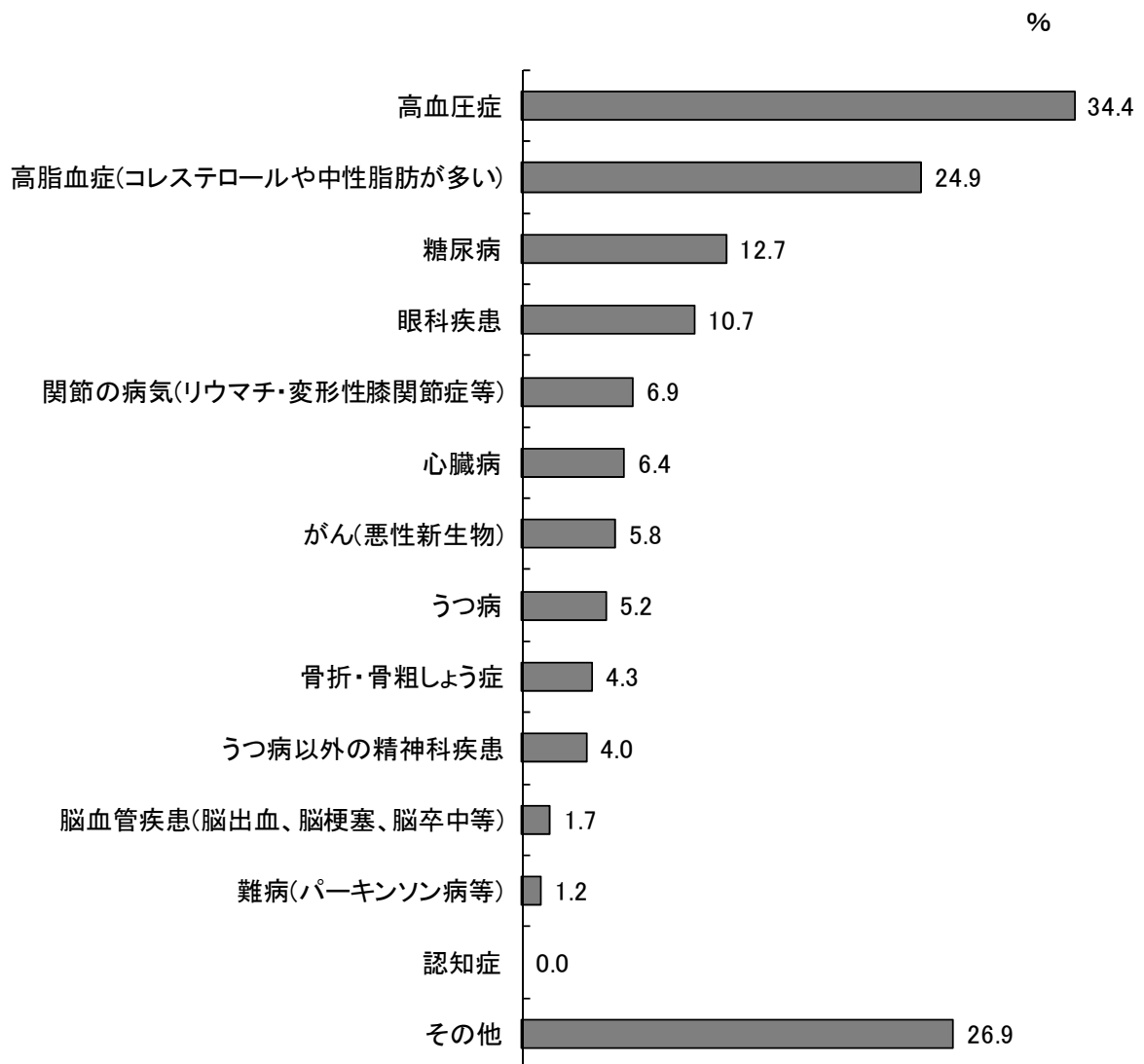


問 14-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 14 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

「高血圧症(コレステロールや中性脂肪が多い)(34.4%)」が最も多く、続いて「高脂血症(24.9%)」「糖尿病 (12.7%)」「眼科疾患 (10.7%)」の順であった(図表 3-20)。

図表 3 - 20 治療中の病気の種類(複数回答)(N=346)



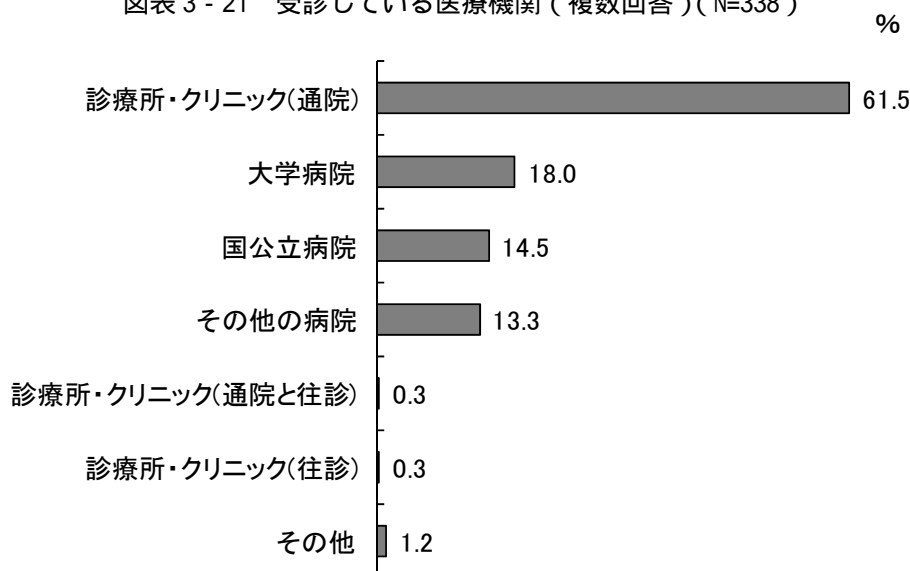
(4) 受診している医療機関

問 14-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 14 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。

「診療所・クリニック（通院）（61.5%）」が最も多く、続いて「大学病院（18.0%）」「国公立病院（14.5%）」の順であった（図表 3-21）。

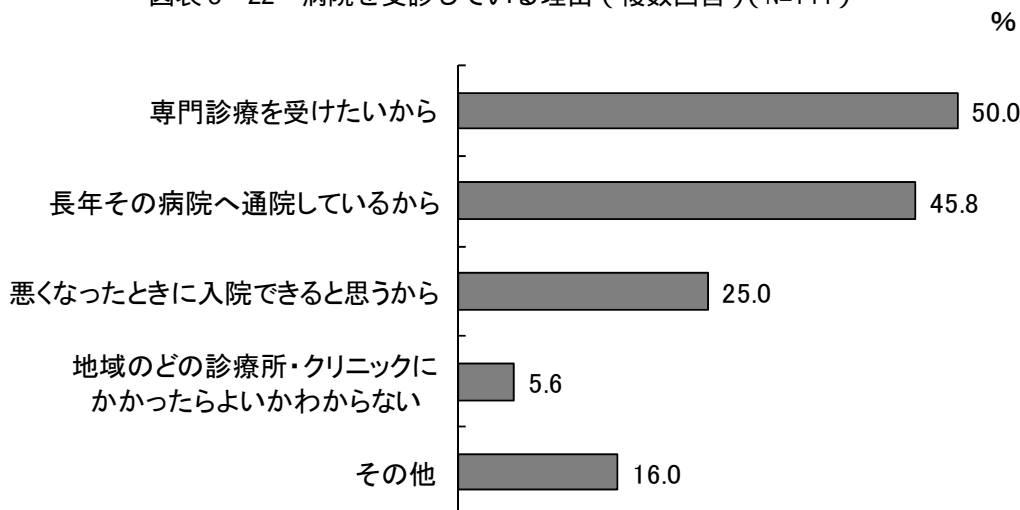
図表 3 - 21 受診している医療機関（複数回答）(N=338)



問 14-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？
（あてはまる番号すべてに）

問 14-2 で、「国公立病院」「大学病院」「その他の病院」と回答した人に、診療所やクリニック以外に病院を受診している理由をたずねたところ、「専門診療を受けたいから（50.0%）」が最も多く、続いて「長年その病院へ通院しているから（45.8%）」「悪くなったときに入院できると思うから（25.0%）」の順であった（図表 3-22）。

図表 3 - 22 病院を受診している理由（複数回答）(N=144)



(5) かかりつけ医

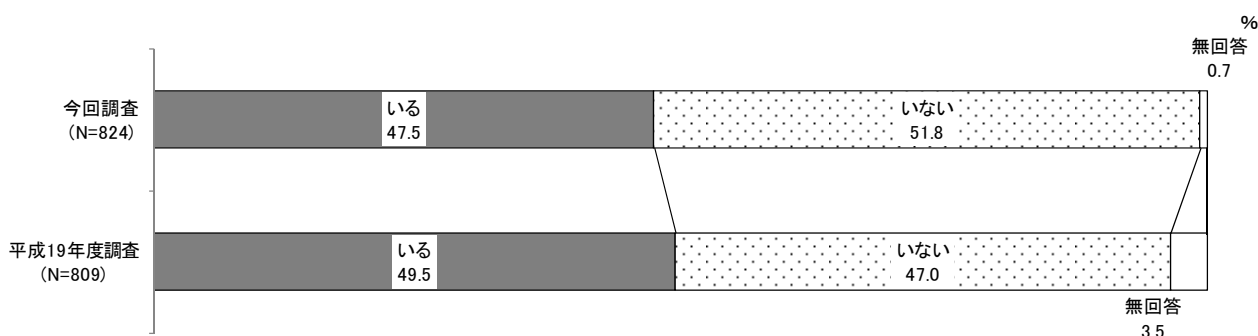
問 15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医が、「いる」と回答した人は、47.5%であった（図表 3-23）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較してみると、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、49.5%から 47.5%に減少している（図表 3-23）。

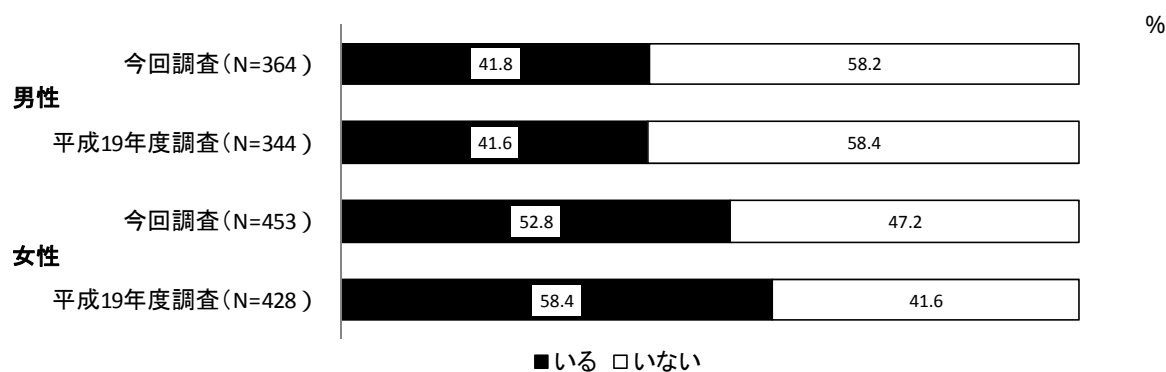
図表 3 - 23 かかりつけ医の有無（平成 19 年度調査調査との経年比較）



※ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。

性別で前回調査と比較すると、かかりつけ医が「いない」と回答した女性が増加した（図表 3-24）。

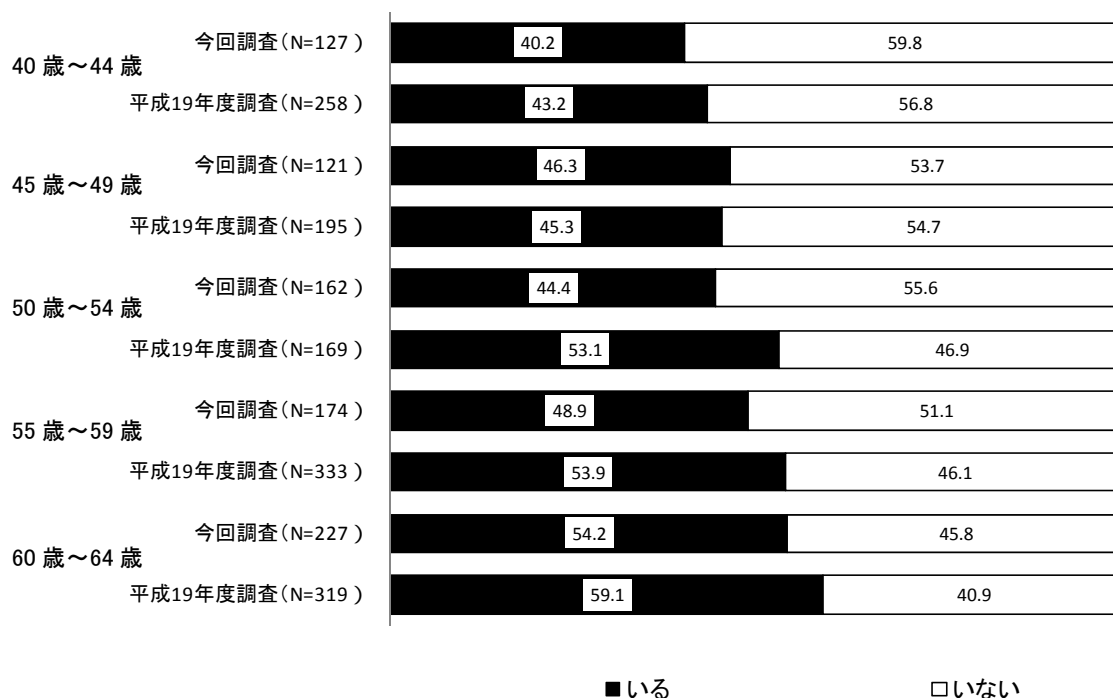
図表 3 - 24 かかりつけ医の有無（性別 / 平成 19 年度調査との経年比較）



「45歳～49歳」を除いて、どの年齢層で比較しても、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、前回調査から減少した（図表3-25）。

図表3-25 かかりつけ医の有無（年齢別 / 平成19年度調査との経年比較）

%



問16 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性について、「常に必要である（48.2%）」と回答した人は約5割であった。また「継続して治療を要する病気になったら必要となる」が40.5%であった（図表3-26）。

図表3-26 かかりつけ医の必要性（N=824）

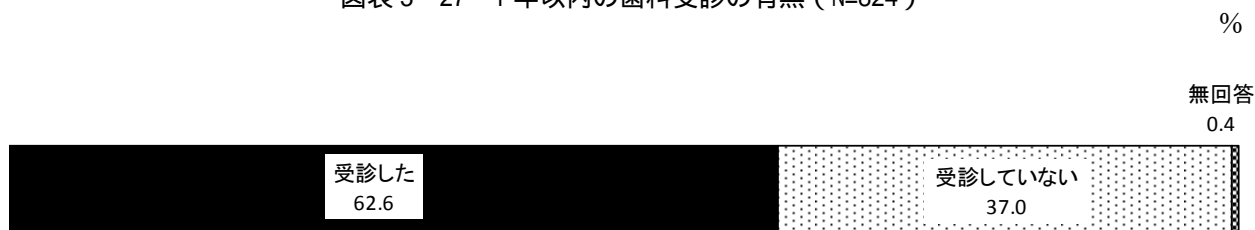


(6) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 17 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内の歯科受診の有無について、「受診した（62.6%）」と回答した人は約6割であった（図表3-27）。

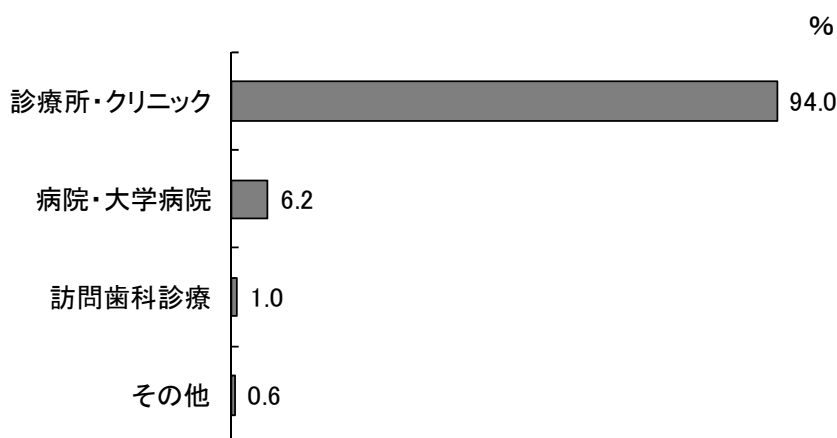
図表3-27 1年以内の歯科受診の有無（N=824）



問 17-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問17で、「受診した」と回答した人に、受診している歯科医療機関をたずねたところ、「診療所・クリニック（94.0%）」が9割以上であった。また「病院・大学病院」は6.2%であった（図表3-28）。

図表3-28 受診した歯科医療機関（複数回答）(N=514)



問 18 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？
 （あてはまる番号に1つ）

自分の歯や口、入れ歯の状態についてたずねたところ、「ほぼ満足している」が42.6%、「やや不満だが日常生活には困らない」が47.5%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」は8.4%であった（図表 3-29）。

図表 3 - 29 歯や口、入れ歯の状態（N=824）



問 19 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ歯科医の有無についてたずねたところ、「いる（62.4%）」と回答した人は約 6 割であった（図表 3-30）。

図表 3 - 30 かかりつけ歯科医の有無（N=824）



※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(7) 在宅療養等

問 20 「在宅療養」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいかについて、「そう思う（49.2%）」と回答した人と「そう思わない（44.3%）」と回答した人は、ほぼ半々であった（図表 3-31）。

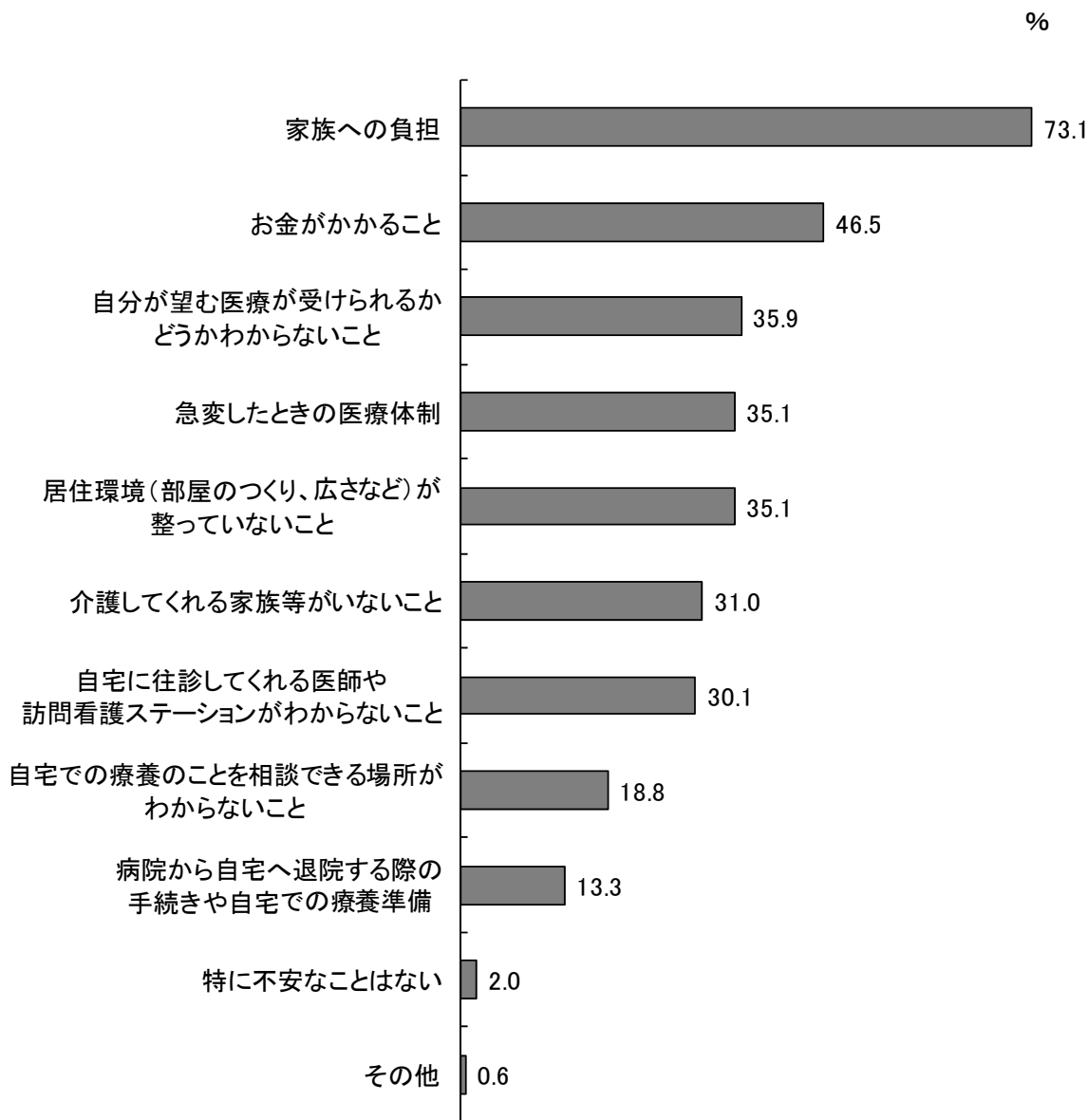
図表 3 - 31 在宅療養の希望（N=824）



**問 21 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか？
(あてはまる番号すべてに)**

在宅療養を難しくする要因では、「家族への負担(73.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「お金がかかること(46.5%)」「自分が望む医療が受けられるかどうかわからないこと(35.9%)」の順であった(図表 3-32)。

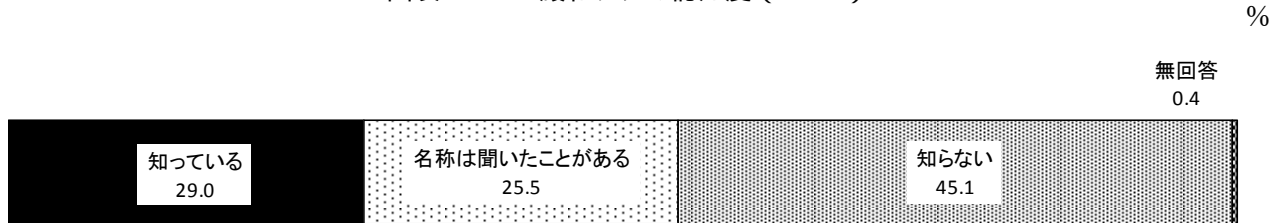
図表 3 - 32 在宅療養を難しくする要因(複数回答)(N=797)



問 22 あなたは、「緩和ケア」について知っていますか？（あてはまる番号に1つ）

「知らない」と回答した人が 45.1%と最も多かった。一方、「知っている（29.0%）」「名称は聞いたことがある（25.5%）」と回答した人は、各々約 3 割であった（図表 3-33）。

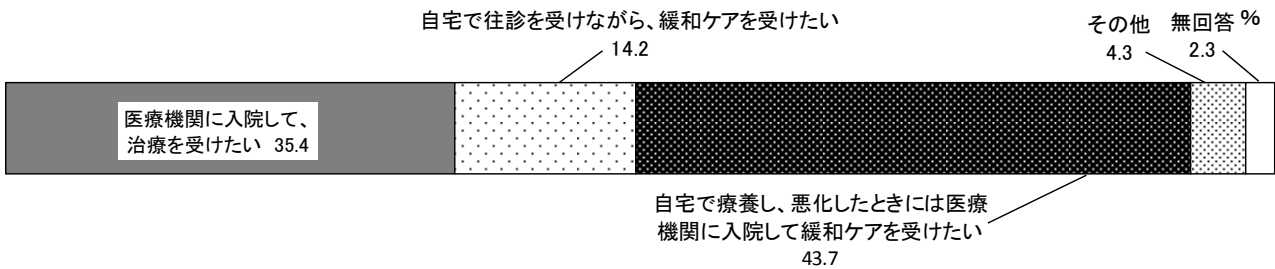
図表 3 - 33 緩和ケアの認知度（N=824）



問 23 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどこがいいですか？（あてはまる番号に1つ）

「自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい（43.7%）」と回答した人が最も多く、次いで「医療機関に入院して、治療を受けたい（35.4%）」であった（図表 3-34）。

図表 3 - 34 療養場所（N=824）



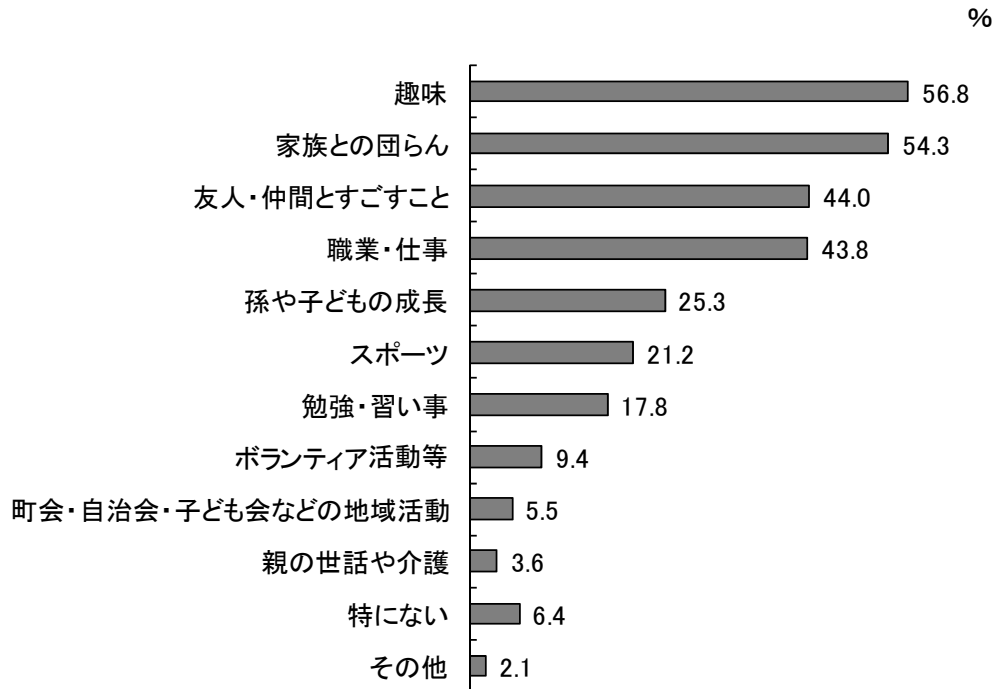
4. いきがいづくりや社会参加

(1) いきがい

問 24 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに ）

「趣味（56.8%）」と回答した人が最も多く、続いて「家族との団らん（54.3%）」「友人・仲間と過ごすこと（44.0%）」「職業・仕事（43.8%）」の順であった（図表 3-35）。

図表 3 - 35 いきがいを感ずること（複数回答）(N=822)



図表 3 - 36 いきがいを感ずること（性別 / 複数回答）

		職業・仕事	町会・自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間と過ごすこと	家族との団らん	孫や子どもの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=366)	51.1	5.2	6.8	57.4	24.6	12.0	32.2	51.4	18.6	3.8	7.7	1.4
	女性 (N=455)	37.8	5.7	11.2	56.3	18.5	22.4	53.6	56.7	30.5	3.5	5.5	2.6

(2) 地域活動やボランティア活動等の状況

問 25 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子供会など、以下同様）やボランティア活動等を行っていますか？（あてはまる番号に1つ）

「現在、継続的にしている（13.7%）」「時々している（9.2%）」と回答した人を合わせると、約2割であった。一方、「したことはない（65.2%）」と回答した人は、約7割であった（図表3-37）。

図表3-37 地域活動やボランティア活動等の状況（N=824）



図表3-38 地域活動やボランティア活動等の状況（性別）

(%)

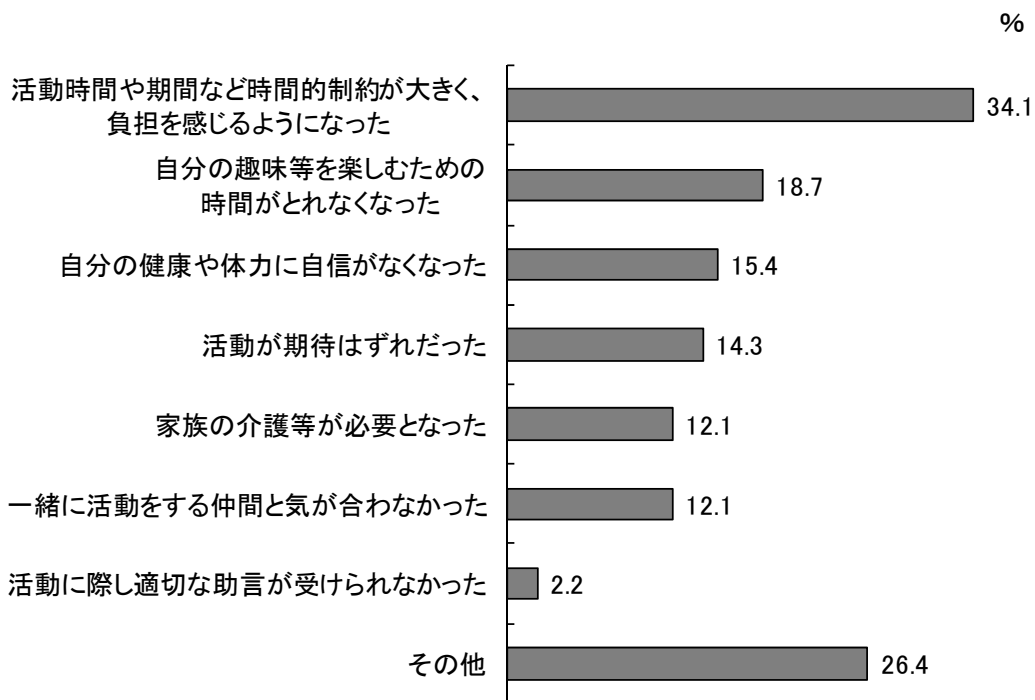
		現在、継続的にしている	時々している	以前したことがあるが、現在はほとんどしていない	したことはない	合計
性別	男性 (N=367)	12.3	7.6	9.8	70.3	100.0
	女性 (N=453)	14.8	10.6	13.0	61.5	100.0

問 25-1 現在、していない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 25 で、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」と回答した人に、現在していない理由をたずねた。

「活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった（34.1%）」が最も多く、続いて「自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった（18.7%）」「自分の健康や体力に自信がなくなった（15.4%）」の順であった（図表 3-39）。

図表 3 - 39 現在活動していない理由（複数回答）(N=91)



図表 3 - 40 現在活動していない理由（性別 / 複数回答）

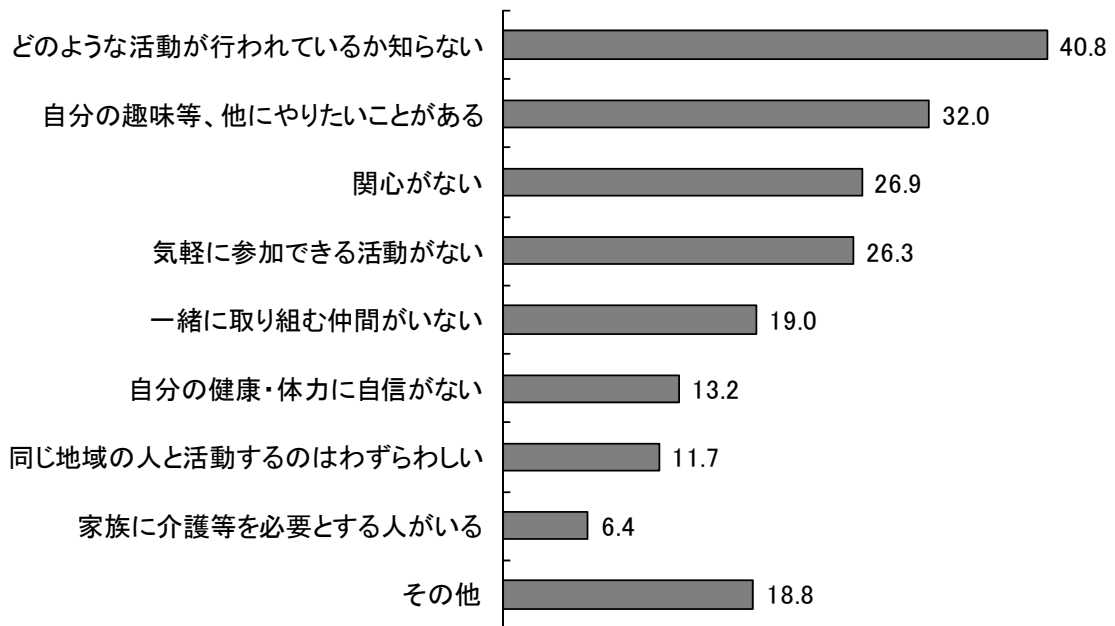
		自信がなくなったり健康や体力に	家族の介護等が必要となった	自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった	活動に際し適切な助言が受けられなかった	一緒に活動をする仲間と気が合わなかった	活動が期待はずれだった	時間的制約や期間など、負担を感じるようになった	その他
性別	男性 (N=34)	5.9	5.9	20.6	2.9	14.7	23.5	41.2	23.5
	女性 (N=57)	21.1	15.8	17.5	1.8	10.5	8.8	29.8	28.1

問 25-2 したことがない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

問 25 で、「したことはない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「どのような活動が行われているか知らない（40.8%）」が最も多く、続いて「自分の趣味等、他にやりたいことがある（32.0%）」「関心がない（26.9%）」「気軽に参加できる活動がない（26.3%）」の順であった（図表 3-41）。

図表 3 - 41 したことがない理由（複数回答）(N=532) %



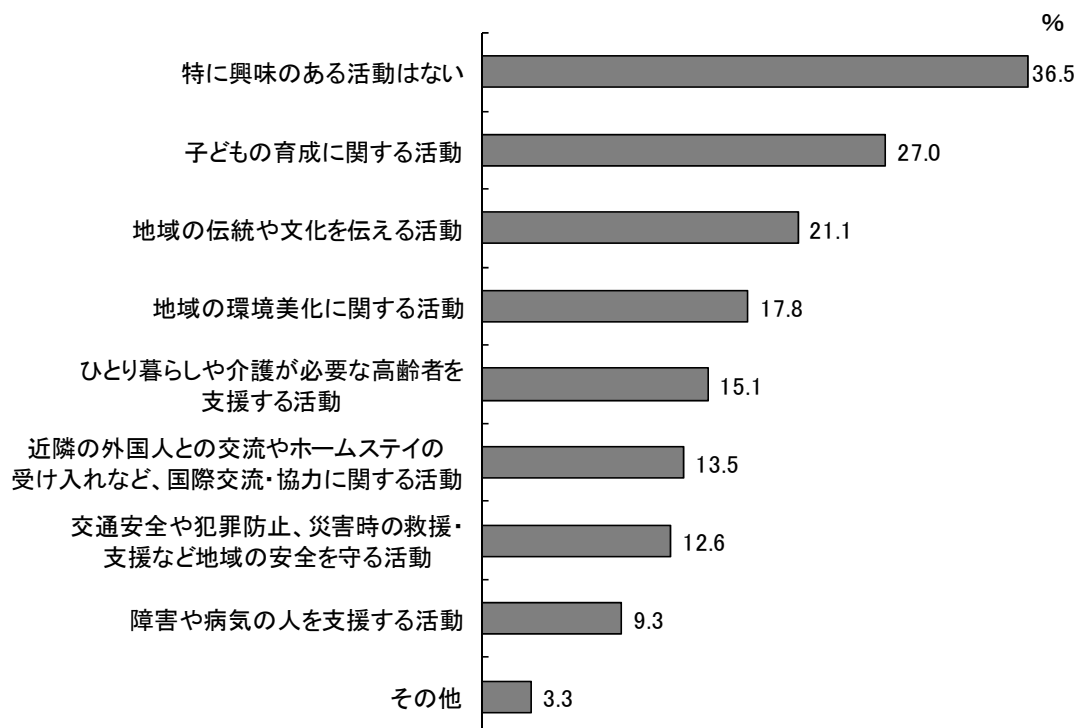
図表 3 - 42 したことがない理由（性別 / 複数回答）

		関心がない	気軽に参加できる活動がない	一緒に取り組む仲間がいない	自分の趣味等、他にやりたいことがある	自分の健康・体力に自信がない	家族に介護等を必要とする人がいる	同じ地域の人と活動するのはわずらわしい	どのような活動が行われているか知らない	その他
性別	男性 (N=255)	32.9	28.2	19.2	31.8	11.4	3.9	15.3	41.2	14.9
	女性 (N=277)	21.3	24.5	18.8	32.1	14.8	8.7	8.3	40.4	22.4

問 25-3 興味のある地域活動やボランティア活動等（実際に取り組んでいるものも含む）はありますか？（あてはまる番号すべてに ）

「特に興味のある活動はない（36.5%）」と回答した人は約 4 割であった。一方、興味のある活動では、「子どもの育成に関する活動（27.0%）」と回答した人が最も多く、続いて「地域の伝統や文化を伝える活動（21.1%）」「地域の環境美化に関する活動（17.8%）」の順であった（図表 3-43）。

図表 3 - 43 興味のある地域活動やボランティア活動等（複数回答）(N=762)



図表 3 - 44 興味ある地域活動やボランティア活動等（性別 / 複数回答）

		子どもの育成に関する活動	ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動	障害や病気の人を支援する活動	救護・支援など地域の安全を守る活動	交通安全や犯罪防止、災害時の活動	地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化に関する活動	近隣の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流・協力に関する活動	特に興味のある活動はない	その他
性別	男性 (N=342)	22.8	9.6	5.0	19.3	19.0	17.3	9.6	40.6	3.2	
	女性 (N=419)	30.5	19.6	12.9	7.2	22.9	18.4	16.7	33.2	3.1	

問 25-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか？
（あてはまる番号に1つ）

「積極的にしてみたい（5.3%）」「してみたい（29.7%）」と回答した人は、合わせて約 4 割であった（図表 3-45）。

図表 3 - 45 地域活動やボランティア活動等の意向（N=824）



図表 3 - 46 地域活動やボランティア活動等の意向（性別）

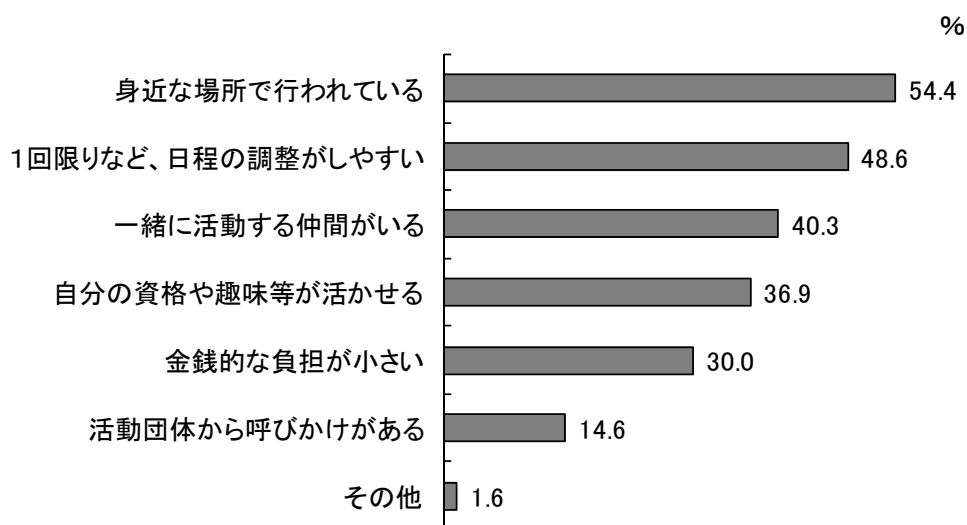
		積極的にしてみたい	してみたい	あまりしたくない	したくない	わからない	合計
性別	男性 (N=361)	6.1	27.1	20.5	17.5	28.8	100.0
	女性 (N=447)	4.7	32.9	19.0	9.8	33.6	100.0

問 25-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

参加しやすい、地域活動やボランティア活動等についてたずねた。

「身近な場所で行われている (54.4%)」と回答した人が最も多く、続いて「1 回限りなど、日程の調整がしやすい (48.6%)」「一緒に活動する仲間がいる (40.3%)」「自分の資格や趣味等が活かせる (36.9%)」の順であった (図表 3-47)。

図表 3 - 47 参加しやすい活動の形態 (複数回答) (N=761)



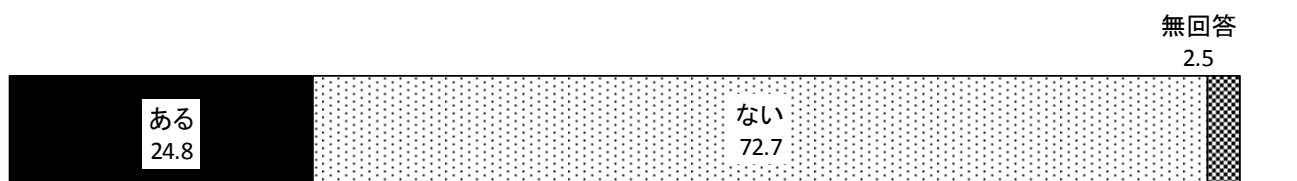
図表 3 - 48 参加しやすい活動の形態 (性別 / 複数回答)

		身近な場所で行われている	一緒に活動する仲間がいる	自分の資格や趣味等が活かせる	活動団体から呼びかけがある	金銭的な負担が小さい	1回限りなど、日程の調整がしやすい	その他
性別	男性 (N=338)	51.8	37.3	35.2	13.3	24.9	40.5	2.4
	女性 (N=422)	56.6	42.7	38.4	15.6	33.9	55.2	0.9

問 26 あなたは、地域活動やボランティア活動等に活かしたいと考えている特技・資格・経験などはありますか？
また、ある方は、その内容を具体的にご記入ください。（あてはまる番号に1つ）

地域活動やボランティア活動等に活かしたいと考えている特技・資格等について、「ある」と回答した人は 24.8%であった（図表 3-49）。

図表 3 - 49 地域活動やボランティア活動等に活かしたい特技・資格・経験などの有無（N=824）



図表 3 - 50 地域活動やボランティア活動等に活かしたい特技・資格・経験などの有無（性別）

(%)

		ある	ない	合計
性別	男性 (N=359)	21.4	78.6	100.0
	女性 (N=443)	28.4	71.6	100.0

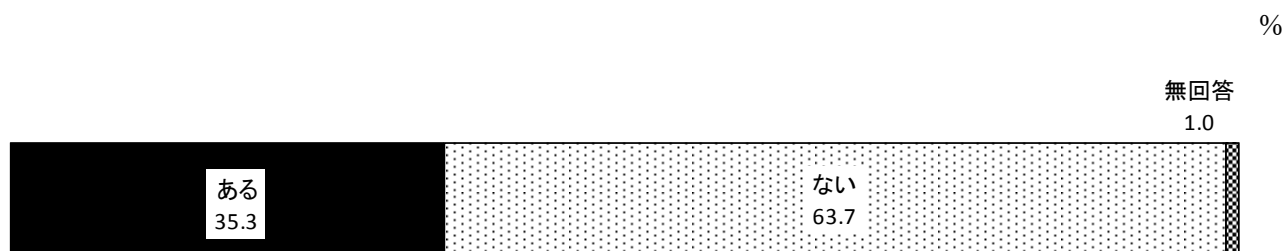
5. 認知症

(1) 記憶力等の変化

問 27 あなたは、ここ 6 カ月から 1 年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じることはありますか？（あてはまる番号に 1 つ）

ここ 6 カ月から 1 年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じる人が「ある」と回答した人は 35.3%であり、「ない」と回答した人は 63.7%であった（図表 3-51）。

図表 3 - 51 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=824）



図表 3 - 52 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（年齢別）

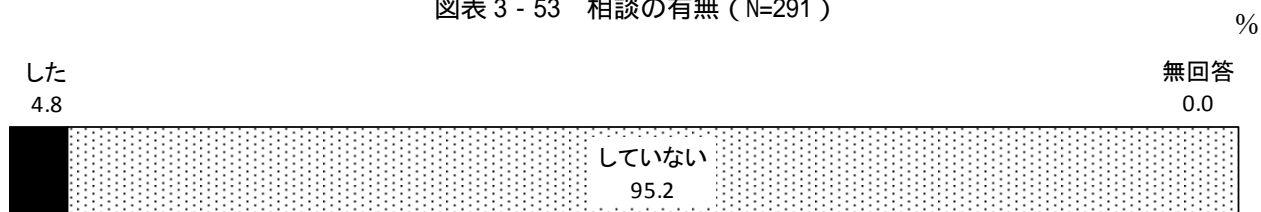
(%)

		ある	ない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	25.2	74.8	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	24.2	75.8	100.0
	50歳～54歳 (N=159)	39.0	61.0	100.0
	55歳～59歳 (N=176)	40.3	59.7	100.0
	60歳～64歳 (N=227)	41.0	59.0	100.0

問 27-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
 (あてはまる番号に1つ)

問 27 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。
 相談を「していない」と回答した人は 95.2%と、ほとんどであった(図表 3-53)。

図表 3 - 53 相談の有無 (N=291)



図表 3 - 54 記憶力等の低下などについての相談有無 (年齢別)
 (%)

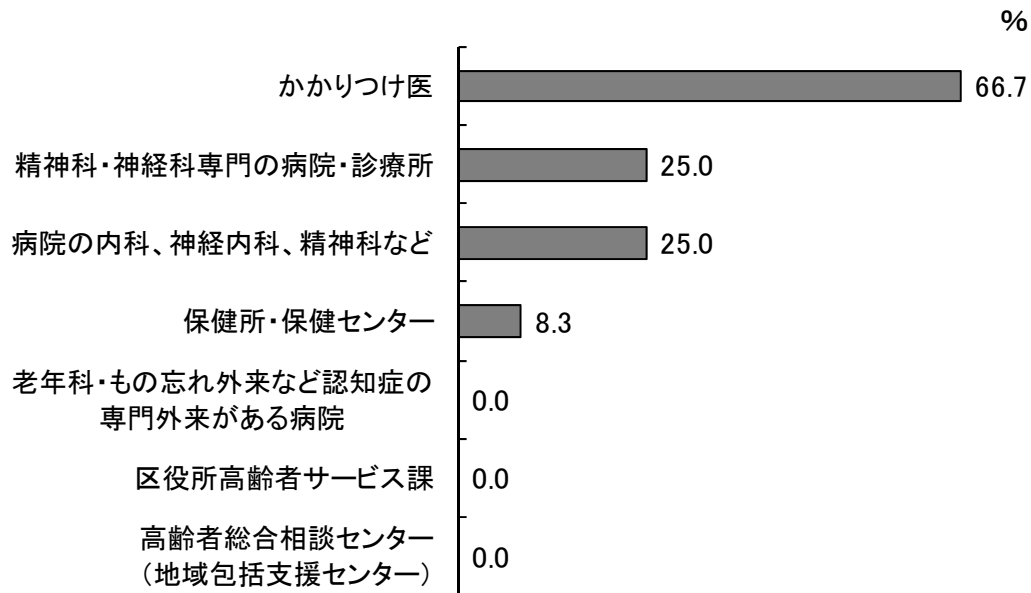
		した	していない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=32)	6.3	93.8	100.0
	45歳～49歳 (N=29)	6.9	93.1	100.0
	50歳～54歳 (N=62)	3.2	96.8	100.0
	55歳～59歳 (N=71)	4.2	95.8	100.0
	60歳～64歳 (N=93)	4.3	95.7	100.0

問 27-2 どちらに相談しましたか？（あてはまる番号すべてに ）

問 27-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。

「かかりつけ医（66.7%）」が約 7 割と最も多く、続いて「精神科・神経科専門の病院・診療所（25.0%）」「病院の内科、神経内科、精神科など（25.0%）」の順であった（図表 3-55）。

図表 3 - 55 相談先（複数回答）(N=12)

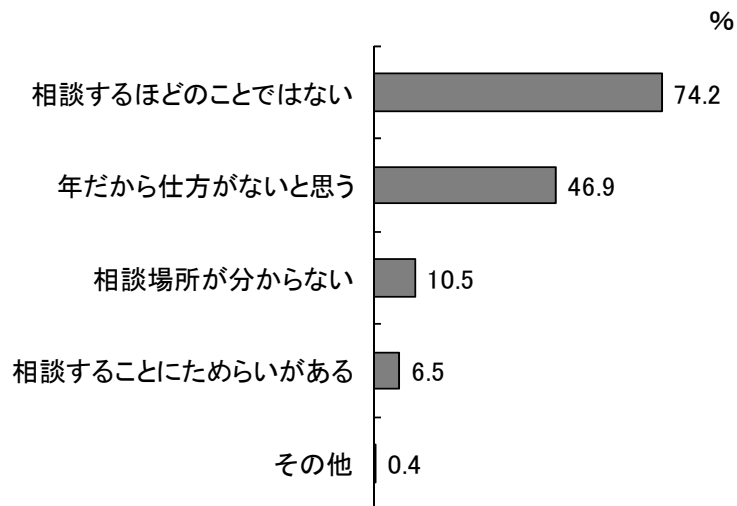


問 27-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 27-1 で相談していないと回答した人に、その理由をたずねた。

「相談するほどのことではない（74.2%）」が約 7 割と最も多く、続いて「年だから仕方がないと思う」が 46.9%であった（図表 3-56）。

図表 3 - 56 相談していない理由（複数回答）(N=275)



図表 3 - 57 相談していない理由（年齢別 / 複数回答）

		と年 思だ うか ら 仕 方 が な い	で相 談す る ほ ど の こ と	た相 め談 ら す る こ と に	分相 か談 ら な い が	そ の 他
年 齢 区 分	40歳～44歳 (N=30)	30.0	76.7	13.3	6.7	0.0
	45歳～49歳 (N=27)	29.6	81.5	0.0	11.1	0.0
	50歳～54歳 (N=60)	38.3	68.3	8.3	8.3	1.7
	55歳～59歳 (N=67)	46.3	77.6	7.5	10.4	0.0
	60歳～64歳 (N=88)	63.6	71.6	4.5	13.6	0.0

(2) 若年性認知症の認知度

問 28 あなたは、「若年性認知症」という病気をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

若年性認知症について、「知っている」と回答した人は67.2%、「知らない」と回答した人は6.1%であった（図表3-58）。

図表3-58 若年性認知症の認知度（N=824）



図表3-59 若年性認知症の認知度（年齢別）

		知っている	名称は聞いたことがある	知らない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	63.8	27.6	8.7	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	61.7	27.5	10.8	100.0
	50歳～54歳 (N=162)	72.8	23.5	3.7	100.0
	55歳～59歳 (N=175)	71.4	25.1	3.4	100.0
	60歳～64歳 (N=228)	66.2	28.1	5.7	100.0

(3) 認知症サポーター

問 29 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーターについて、「知らない（80.2%）」と回答した人は、約8割であった。一方、「知っている」と回答した人は、6.1%であった（図表3-60）。

図表3 - 60 認知症サポーターの認知度（N=824）



図表3 - 61 認知症サポーターの認知度（年齢別）

		知っている	名称は聞いたことがある	知らない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	3.1	7.1	89.8	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	5.0	7.5	87.5	100.0
	50歳～54歳 (N=162)	6.8	13.6	79.6	100.0
	55歳～59歳 (N=176)	5.1	14.2	80.7	100.0
	60歳～64歳 (N=225)	7.6	17.8	74.7	100.0

問 30 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか？
 (あてはまる番号に1つ)

認知症サポーター養成講座の受講希望について、「受講したい」と回答した人は 39.4%であった (図表 3-62)。

図表 3 - 62 認知症サポーター養成講座の受講意向 (N=824)



図表 3 - 63 認知症サポーター養成講座の受講意向 (年齢別)

		(%)			
		受講したい	受講したくない	すでに受講した	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=126)	43.7	55.6	0.8	100.0
	45歳～49歳 (N=115)	45.2	52.2	2.6	100.0
	50歳～54歳 (N=146)	43.8	54.8	1.4	100.0
	55歳～59歳 (N=170)	43.5	55.9	0.6	100.0
	60歳～64歳 (N=211)	36.5	62.6	0.9	100.0

(平成 19 年度調査との比較) ※比較可能な項目のみ

平成 19 年度調査と比較すると、「受講したい」と回答した人が、32.0%から 39.4%へ増加した(図表 3-64)。

図表 3 - 64 認知症サポーター養成講座の受講意向(平成 19 年度調査との経年比較)

		%
		受講したい
今回調査	(N=824)	39.4
平成19年度調査	(N=809)	32.0

性別で比較すると、「受講したい」と回答した人が、男女とも増加した(図表 3-65)。

図表 3 - 65 認知症サポーター養成講座の受講意向(性別/平成 19 年度調査との経年比較)

	%			
	今回調査		平成19年度調査	
男性	(N=357)	36.1	(N=354)	28.8
女性	(N=419)	46.8	(N=441)	35.1

どの年齢層で比較しても、「受講したい」と回答した方が、平成 19 年度調査から増加した(図表 3-66)。

図表 3 - 66 認知症サポーター養成講座の受講意向(年齢別/平成 19 年度調査との経年比較)

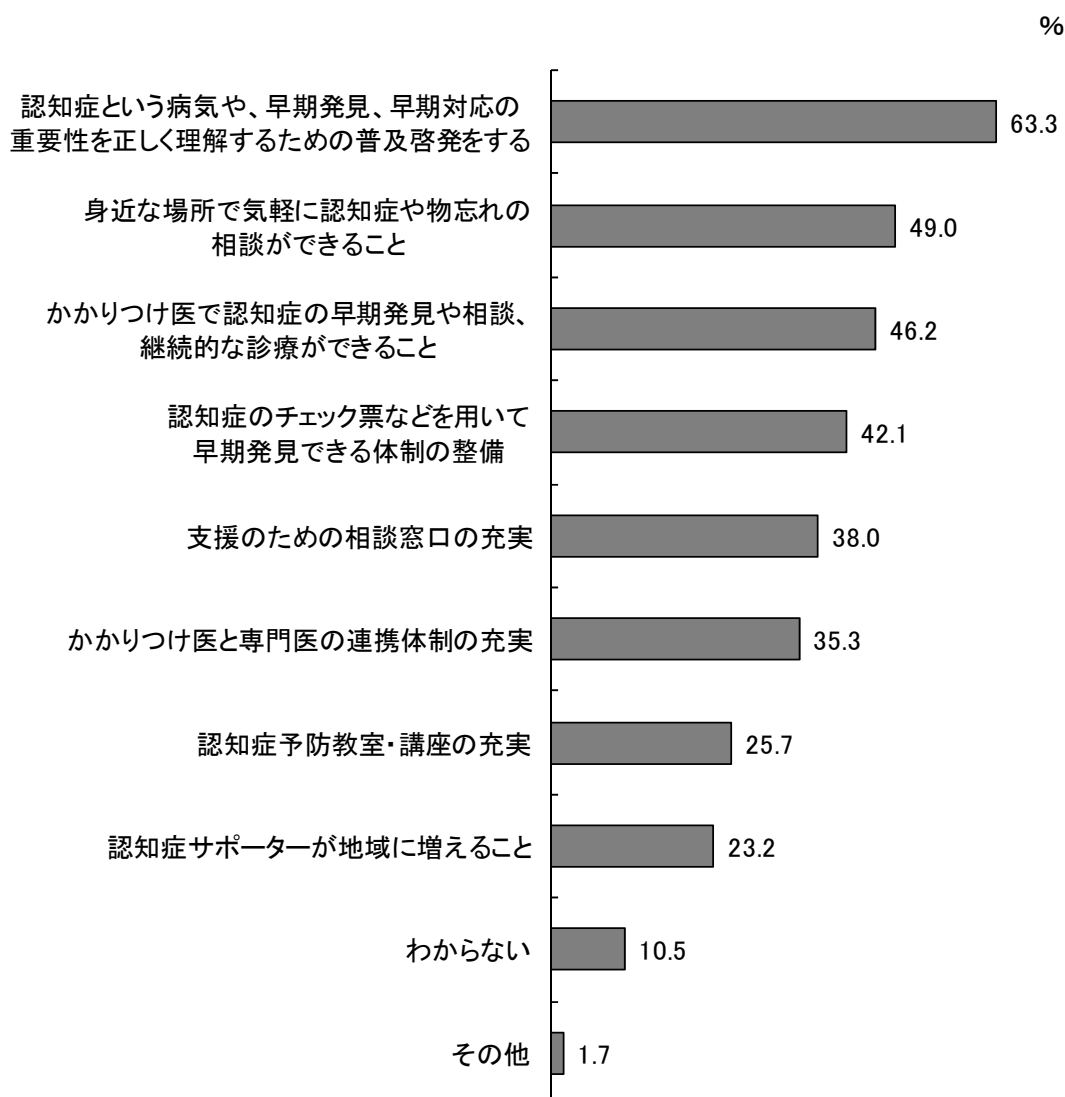
	%			
	今回調査		平成19年度調査	
40歳～44歳	(N=126)	43.7	(N=161)	36.0
45歳～49歳	(N=116)	44.8	(N=142)	31.7
50歳～54歳	(N=146)	43.8	(N=132)	30.3
55歳～59歳	(N=170)	43.5	(N=187)	31.0
60歳～64歳	(N=212)	36.8	(N=181)	31.5

(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 31 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする(63.3%)」と回答した人が最も多く、続いて「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること(49.0%)」「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること(46.2%)」の順であった(図表3-67)。

図表3-67 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと(複数回答)(N=810)



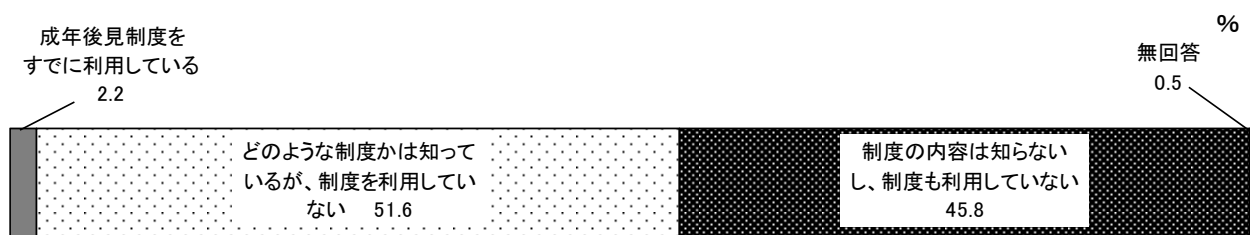
6. 権利擁護

(1) 成年後見制度の認知度

問 32 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「どのような制度かは知っているが、制度を利用してない（51.6%）」「制度の内容は知らないし、制度も利用していない（45.8%）」と回答した人が、各々約5割であった（図表 3-68）。

図表 3 - 68 成年後見制度の認知度（N=824）

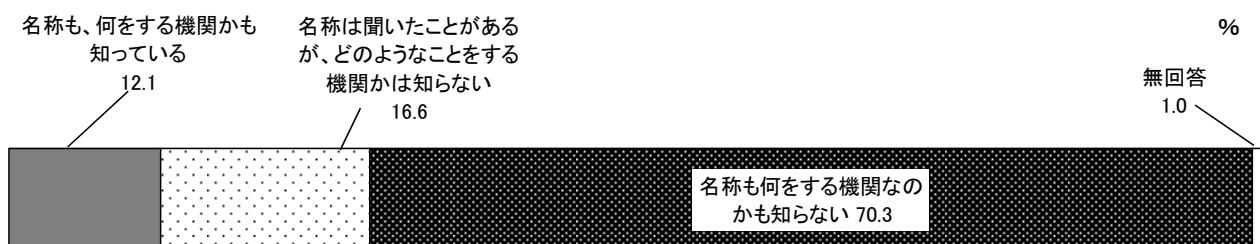


(2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 33 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も何をする機関なのかも知らない（70.3%）」と回答した人は、約7割であった。一方、「名称も、何をする機関かも知っている」と回答した人は 12.1%であった（図表 3-69）。

図表 3 - 69 新宿区成年後見センターの認知度（N=824）

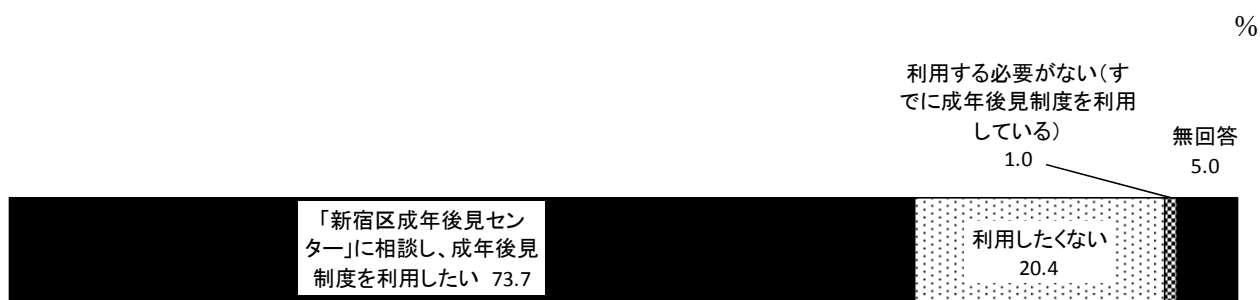


(3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 34 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業内容を説明したうえで利用意向についてたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(73.7%)」と回答した人は約7割であった(図表3-70)。

図表3-70 新宿区成年後見センターの利用意向(N=824)



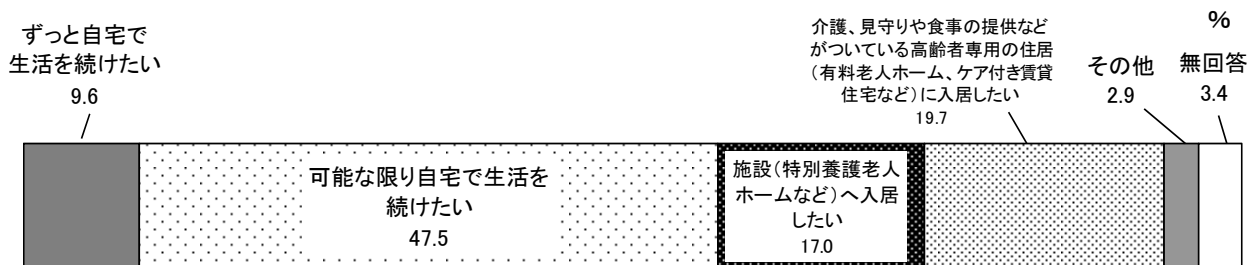
7. 介護が必要になったときのこと

(1) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか

問 35 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

介護が必要となったときの住まい方について、「ずっと自宅で生活を続けたい (9.6%)」「可能な限り自宅で生活を続けたい (47.5%)」と回答した人を合わせると、約 6 割であった。一方、「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居に入居したい」と回答した人は 19.7%、「施設 (特別養護老人ホームなど) へ入居したい」は 17.0%であった (図表 3-71)。

図表 3 - 71 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか (N=824)

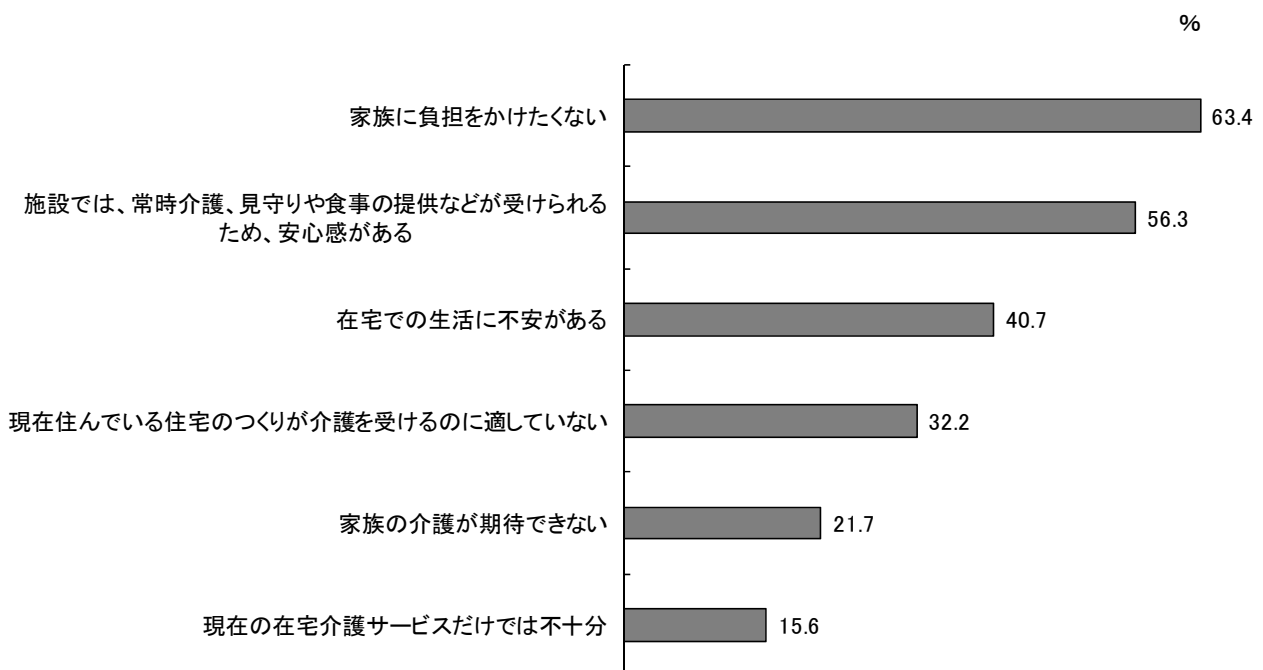


問 35-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」と回答した人にその理由をたずねた。

「家族に負担をかけたくない（63.4%）」が最も多く、次いで「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（56.3%）」であった（図表 3-72）。

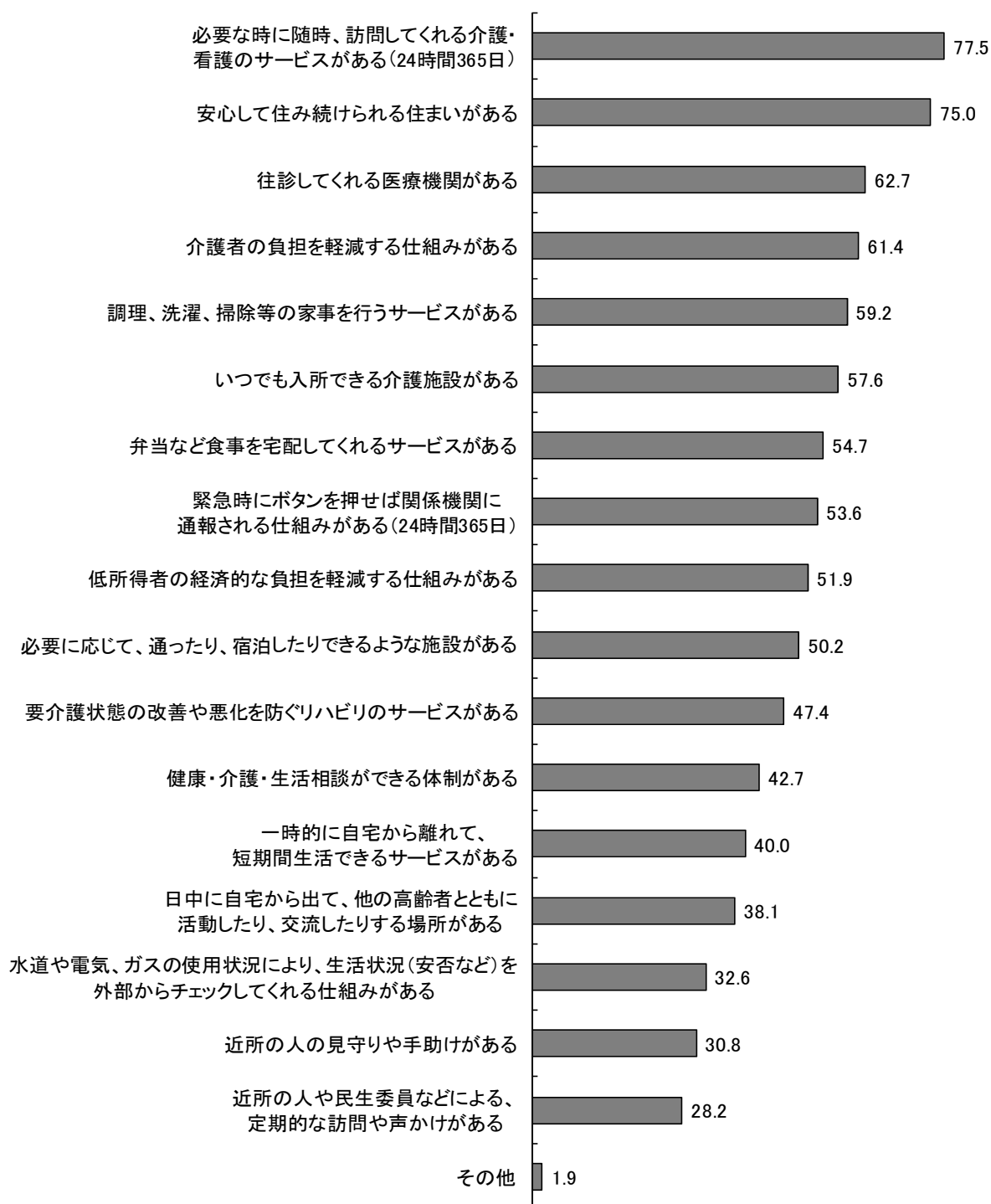
図表 3 - 72 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（複数回答）(N=295)



問 36 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？
（あてはまる番号すべてに ）

「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある（24時間365日）（77.5%）」と回答した人が最も多く、続いて「安心して住み続けられる住まいがある（75.0%）」「往診してくれる医療機関がある（62.7%）」の順であった（図表 3-73）。

図表 3 - 73 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）(N=804) %



8. 介護保険制度

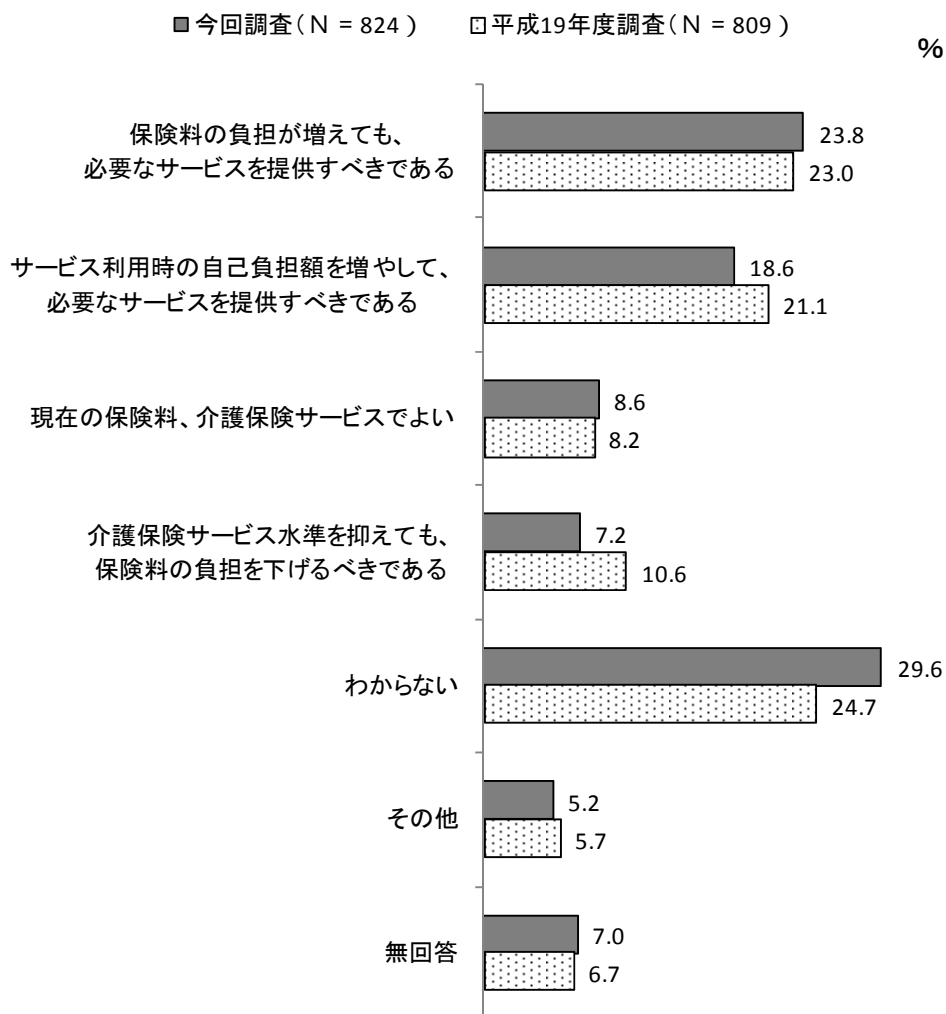
問 37 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

介護保険サービスと保険料についての考えでは、「わからない(29.6%)」と回答した人が最も多く、次いで「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである(23.8%)」であった。一方、「介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」と回答した人は、7.2%であった(図表3-74)。

(平成19年度調査との比較)

今回調査では、平成19年度調査と同様に、「わからない」と回答した人が最も多く、次いで「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである」であった(図表3-75)。

図表3-74 介護保険サービスと保険料についての考え(平成19年度調査との経年比較)



図表 3 - 75 保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		保険料の負担が増えなくても、必要なサービスを提供すべきである	サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを	現在の保険料、介護保険サービスでよい	も、介護保険サービスの負担を下げるべきである	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=28)	25.0	7.1	7.1	10.7	50.0	0.0	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=75)	18.7	8.0	6.7	13.3	44.0	9.3	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=73)	23.3	13.7	9.6	12.3	35.6	5.5	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=126)	19.8	15.1	13.5	8.7	38.1	4.8	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=111)	27.9	22.5	5.4	6.3	33.3	4.5	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=139)	28.1	24.5	7.9	6.5	25.9	7.2	100.0
	1000万円以上 (N=164)	32.3	26.2	10.4	4.9	21.3	4.9	100.0
	わからない (N=31)	16.1	29.0	3.2	6.5	35.5	9.7	100.0

9. 情報や相談

(1) 区のホームページの閲覧状況

問 38 あなたは新宿区のホームページをご覧になったことがありますか？
(あてはまる番号に1つ)

新宿区のホームページの閲覧状況について、「見たことがある」が 41.0%に対し、「見たことがない」は 57.3%であった(図表 3-76)。

図表 3 - 76 区のホームページの閲覧状況 (N=824)



(2) 高齢者総合相談センターについての認知度

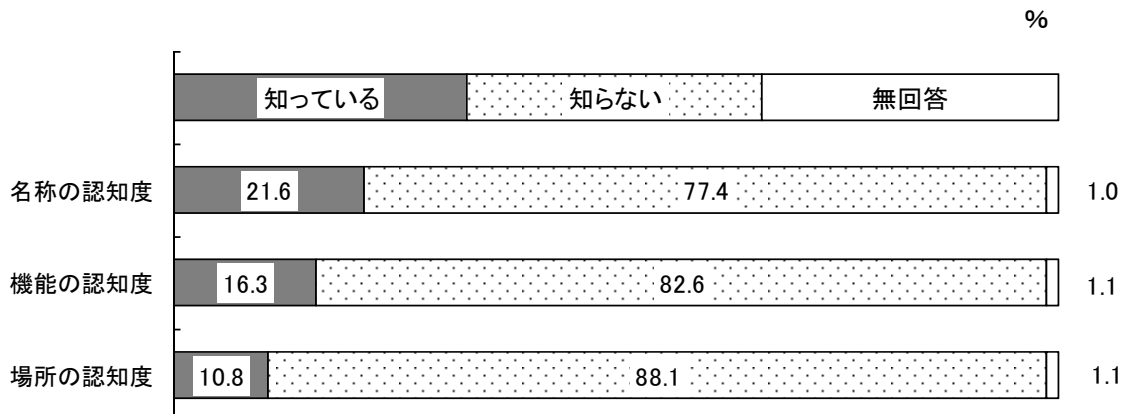
問 39-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

問 39-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

問 39-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所についてそれぞれ「知らない」と回答した人は、77.4%、82.6%、88.1%であった(図表 3-77)。

図表 3 - 77 高齢者総合相談センターの認知度(名称・機能・場所)(N=824)

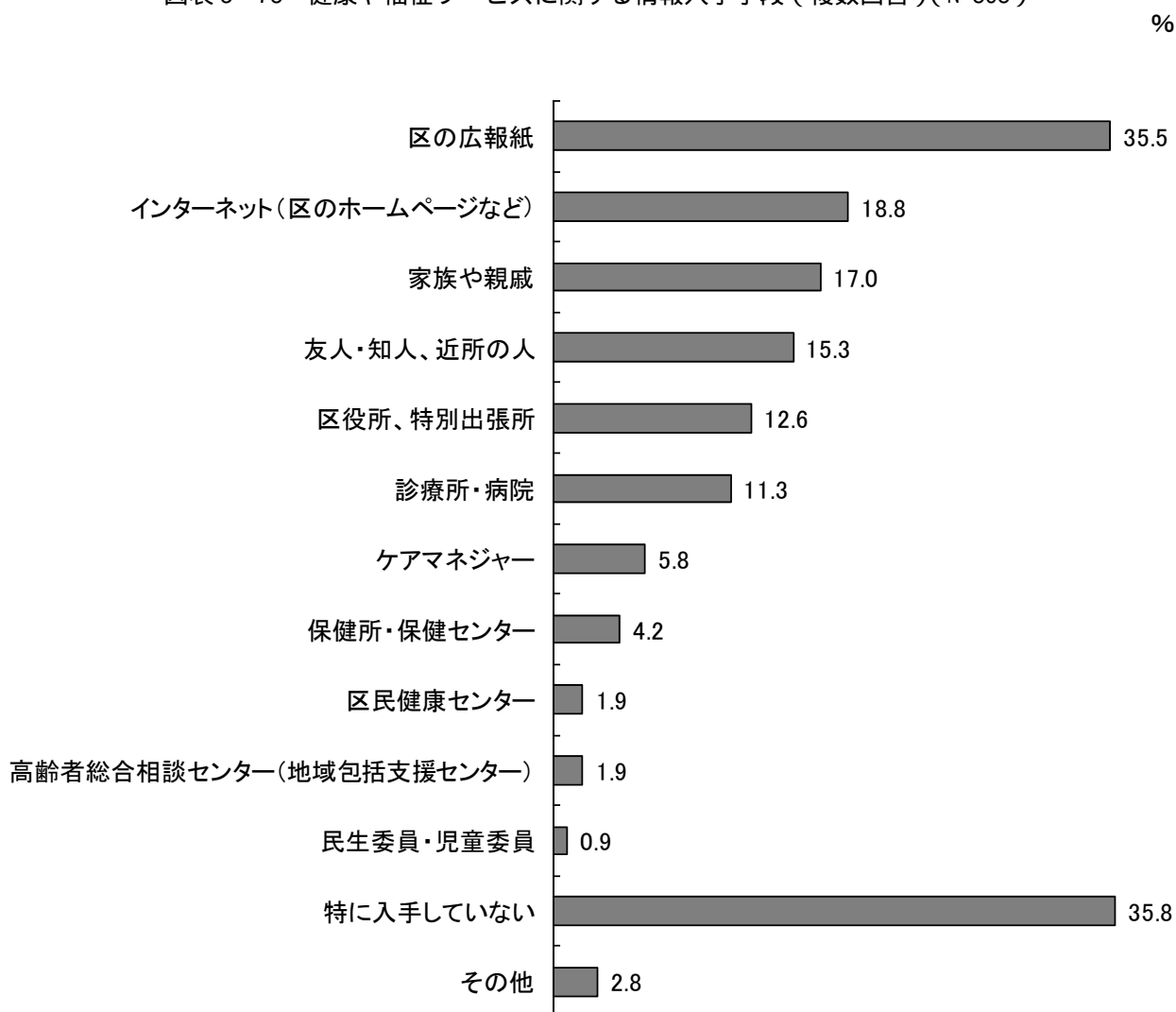


(3) 福祉や健康に関する情報入手手段

問40 あなたは日ごろ、福祉のサービスや健康に関する情報をどのような手段で入手していますか？
(あてはまる番号すべてに)

福祉サービスや健康に関する情報の入手手段では、「区の広報紙（35.5%）」と回答した人が最も多く、続いて「インターネット（区のホームページなど）（18.8%）」「家族や親戚（17.0%）」「友人・知人・近所の人（15.3%）」の順であった。一方で「特に入手していない」と回答した人は35.8%であった（図表3-78）。

図表3-78 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=808)



(4) 福祉に関する相談先

問 41 あなたは日ごろ、福祉のサービスに関して、誰（どこ）に相談していますか？
（あてはまる番号すべてに ）

福祉サービスに関する相談先では、「家族や親戚（14.7%）」と回答した人が最も多く、続いて「友人・知人、近所の人（12.0%）」、「区役所、特別出張所職員（11.2%）」の順であった。一方で「特に相談したことはない」と回答した人は64.7%であった（図表 3-79）。

図表 3 - 79 福祉サービスに関する相談先（複数回答）(N=807)

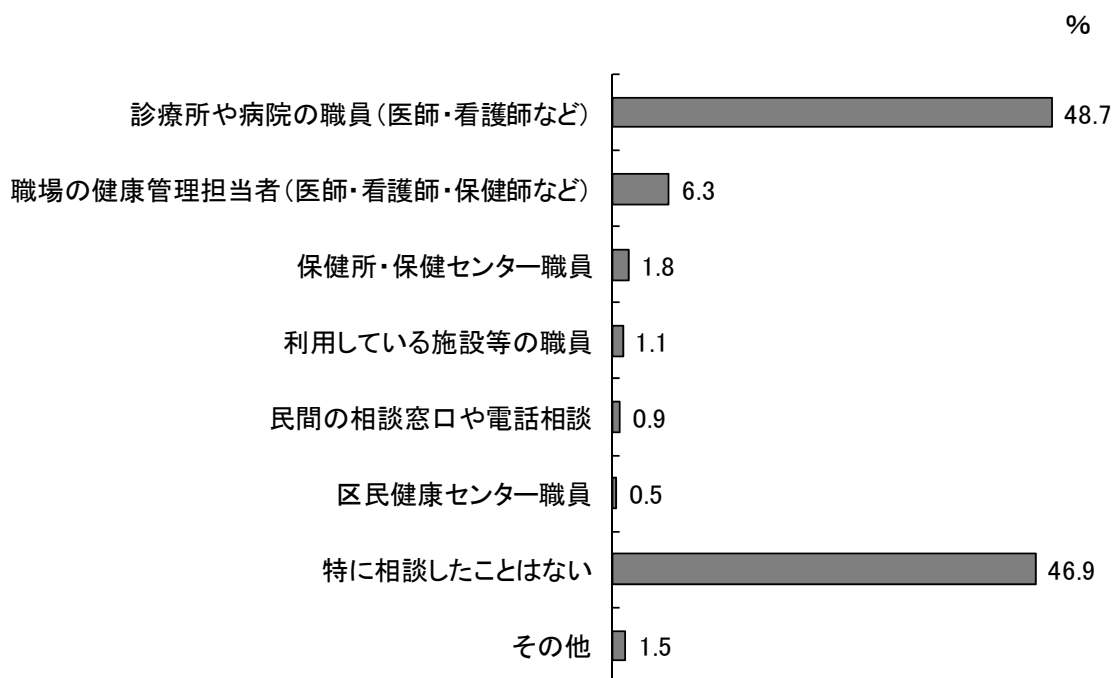


(5) 健康管理や病気に関する相談先

問 42 あなたは日ごろ、ご家族や友人、知人以外で健康管理や病気に関して、誰（どこ）に相談していますか？（あてはまる番号すべてに ）

家族や友人、知人以外で健康管理や病気に関する相談先では、「診療所や病院の職員（医師・看護師など）（48.7%）」と回答した人が約5割と最も多かった。一方、「特に相談したことはない」と回答した人も46.9%であった（図表3-80）。

図表3-80 健康管理や病気に関する相談先（複数回答）(N=811)

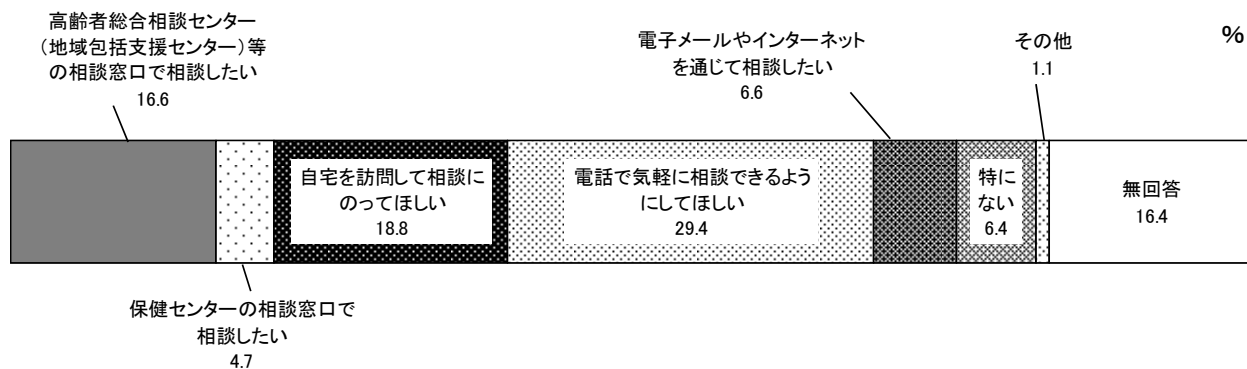


(6) 介護が必要になった場合に望む相談体制

問 43 あなたに介護が必要になった場合、どのような相談体制を望みますか？
(あてはまる番号に1つ)

介護が必要になった場合に望む相談体制では、「電話で気軽に相談できるようにしてほしい(29.4%)」と回答した人が最も多く、続いて「自宅を訪問して相談にのってほしい(18.8%)」「高齢者総合相談センター等の相談窓口で相談したい(16.6%)」の順であった(図表3-81)。

図表3-81 健康管理や病気に関する相談先(N=824)



自由記述から（第2号被保険者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が149件あった。主な内容は以下のとおりである。

住まいに関すること（7件）

- ・近隣の小学校などの廃校の教室を改良して個室をつくり、老人用の住まいにしてはいかがか。保育所が併設されればなお良い。
- ・ケア付き賃貸住宅が必要。
- ・身寄りのない高齢者が一緒に暮らせるような区の施設を多く作ってください。
- ・女性の単身者が入れる住居が少なく大変困っている。毎回都営住宅に申込みはするものの全て落選。高齢者の住宅対策に力を入れてほしい。

介護保険制度・介護保険サービスに関すること（55件）

- ・要支援の人が地域包括支援センター、要介護の人は居宅介護支援事業者という制度に矛盾を感じる。そのたびにケアマネが変わることになり継続的な支援ができない。加齢による様々な衰えを周囲の人々が暖かく見守り、寄り添っていく、地域全体で支える社会を作れないでしょうか。死生観等の教育も必要。
- ・自治体が率先して統計的試算を実行し数種類の条件（例 人口推移、税収、就労年数変化など）別に介護の財源、組織の確保方法を検討すべき。そして短期の内に結論を出し実行することが不可欠。100点満点の施策を5年後に実行するよりも60点の試策（施策）を1年後から実践する意識を持つべき。介護保険は効率的な資源配分（人・物・金）を可視化チェックできる仕掛けが必須。
- ・介護保険の仕組みと具体的なサービス内容をやさしく書いた冊子等がほしい。
- ・保険料を支払っているのに、自己負担が必要と言う事が、納得いかない。
- ・介護保険の負担等が増えても仕方ないので、高齢者への福祉サービスを充実して欲しいです。
- ・お金が無くても介護サービスが受けられるようにして欲しい。年収の低い人から介護保険料を取らないで欲しい。
- ・介護会社に払う料金と介護会社で介護する人に払う料金の差額が大きすぎる。
- ・施設を増やしてほしい。
- ・緊急時に預ってもらえるショートステイ先が確保できるとよい。
- ・大規模でない区立の特養やグループホームなどを区内に点在させ、家族が気軽に訪問できるような老人用施設を増やして欲しい。空き家、空き地をうまく活用。公＝区と共同＝協力して、財源は区（建物とメンテナンスなど）と入居者（運営、人件費など）が半々にするなどして介護保険を含めてすべての既存の体制にとらわれないシステムが出来ないか。
- ・介護認定が毎年違っていて、認定基準が曖昧です。
- ・利用される高齢者の方々の人数のわりにはスタッフの人数は十分とは言えず、不満を持っております。

ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること（4件）

- ・介護に係わる人やヘルパーさんの労働に対する待遇改善が必要と思います。
- ・介護家族にとってその情報源の一番身近なところは病院等のケースワーカーとケアマネジャーである。ケースワーカーは、プロ意識が高く本当に夜おそくまで様々な情報をあつめ提供してくれるが、ケアマネジャーが力不足であったり、情報収集能力がなかったりとして、結果介護で疲れきっている家族が奔走しなければならないのが現状。サービスの充実も大切だが導くべきしっかりしたシステムと人材が必要。

医療などに関すること（11件）

- ・医療費を上げないでほしい。
- ・一律負担ではなく、係わった者の実費負担にして、健康保険料を軽減する方向へ転換して頂きたい。
- ・在宅で療養する時に不安があると思います。具合が悪くなった時、いつでも対応してもらえる様になると安心できると思います。（往診してもらえる、緊急入院させてもらえる）
- ・認知症に対する知識や実態を専門家の人達が知らなすぎる。認知症を専門とする医者、病院が少ない。

区に対する要望など（24件）

- ・気軽に相談できる体制があると良い。
- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・区の窓口の対応が悪い。
- ・行政の担当の方たちが腰をすえて長いスパンで仕事できるような体制を望む。
- ・情報提供をもっとしっかりしてほしい。
- ・インターネットを使用したコミュニケーションの場を設けて欲しい。
- ・もっと広報に力を入れてほしい。
- ・もっと身近に福祉の問題を若い人にもわかりやすく説明してほしい。

施策全般に関すること（16件）

- ・一人暮らしになっても安心して暮らせる住宅、環境、福祉サービス、医療サービスの充実を切に望む。そのためなら消費税が上がっても納得できる。
- ・さらに高齢者が住みやすいような福祉に重点をおいてほしい。
- ・子育て支援と併せた高齢者への「生きがい支援」を充実させ、孤独や寝たきりを防ぐ取り組みや倒れた場合の支援を細かく見直すことが必要。
- ・新宿区は大企業がたくさんあります。税金も多く入ると思います。福祉を他区より充実する先頭になり、福祉のお手本の区政をして下さい。
- ・自治体、公的機関が高齢者の生存権を保障し尊厳ある人生を最後まで送れるように様々な手段と具体的な政策をとって欲しい。
- ・成年後見制度の充実。

- ・他の区より安心、充実したサービスを受けられる差別化が絶対に必要かと思います。保険料を多少負担してでも、負担した分住民に還ってくる無償サービスがあったら最高。若い年代にボランティアしたらポイント化して、高齢者になったらポイント分サービス受けられるシステムも必要。

就労や地域活動などに関すること（9件）

- ・元気な人に対する仕事の確保など社会環境の整備にもっと真剣に取り組むべき。
- ・身近な所でお手伝いできる様なお知らせがポストに入れば、皆、参加されると思います。
- ・介護などに積極的に活動している方々も多いと聞きますので、そうした活動や団体に対して補助金を出し、サポートすることには賛成です。
- ・高齢者、障害者の方々へのボランティア活動については、一日でもという空いている時間を利用して、地域のボランティア活動をさせていただくというシステムがあるといい。
- ・80歳代の人を70歳代の人が、70歳代の人を60歳代の人が介護支援する（ボランティアあるいは少額の手当てで）仕組みを考えてはどうか。保育園児、幼稚園児と高齢者との交流の機会を増やしたらどうか。
- ・民生委員、区役所担当部、マンション管理組合とのコミュニケーションが必要。

施設等に関すること（5件）

- ・高齢者がどんどん子どもの施設（児童館や学校など）へ入っていける仕組みがあると良いと思います。
- ・病気になるに安いに安いスポーツ教室を近所に作ってほしい。徒歩で行ける距離に、高齢者の利用する施設をもっと作ってほしい。
- ・歩道、施設をバリアフリー化

その他のご意見（18件）

- ・子供が少なく高齢者が多く、若い者に負担が多すぎる。
- ・健康な人への表彰制度を考えてほしい。
- ・今はまだお世話になることもありませんが、将来的にはとても不安は感じます。自分の希望とは別に子供にはあまり迷惑はかけたくありませんし、身体が不自由になった時にすぐに入れる施設はあるのでしょうか。
- ・色々な相談手段（窓口）があることがわかりよかった。しかしそれが具体的かつ迅速に一応でも解決してくれるのかと言うと大いに疑問だ。
- ・この機会に保険や福祉について関心を持ちたいと思いました。
- ・高齢者と子供が幸せということは、他の年代の人間も住みやすいはず。

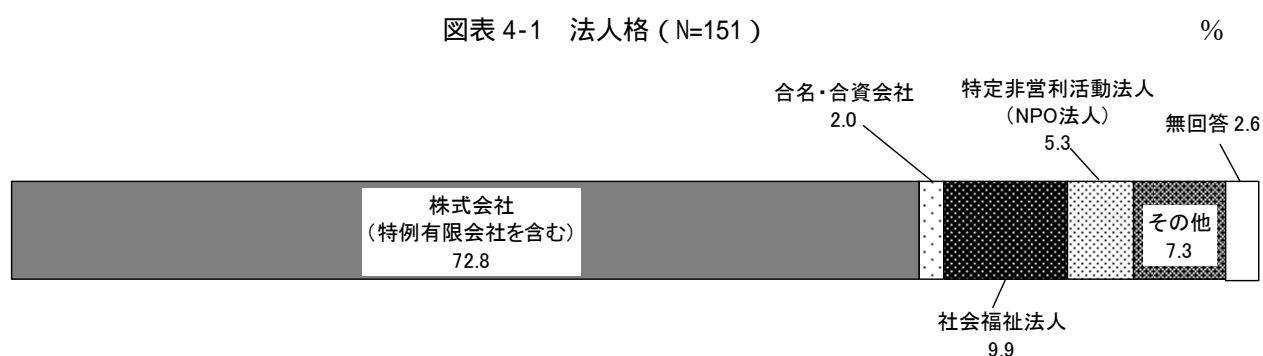
IV. ケアマネジャー調査

1. 勤務先の事業所の概要

(1) 法人格

問1 あなたが所属する事業所の組織(法人格)はどれですか？ (あてはまる番号に1つ)

所属する事業所の組織は、「株式会社(72.8%)」が最も多く、約7割であった(図表4-1)。

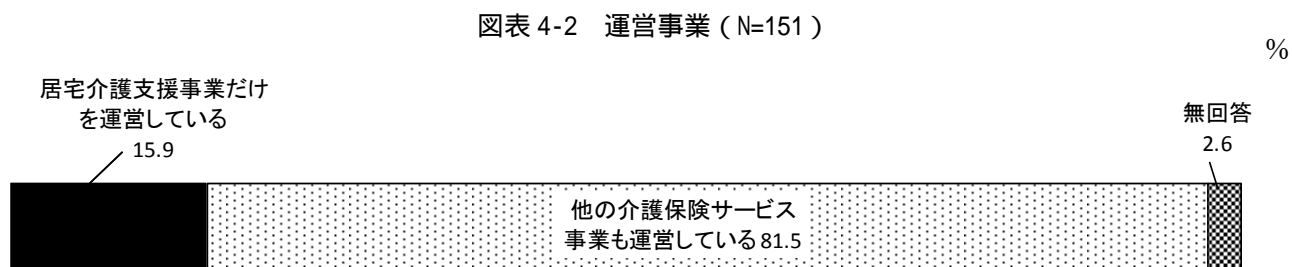


※なお、選択肢の「社団法人」「財団法人」「医療法人」は0.0%であった。

(2) 運営事業

問2 あなたの所属する事業所は、居宅介護支援事業の他に介護保険サービス事業を運営していますか？ なお、同じ所在地内に限ります。(あてはまる番号に1つ)

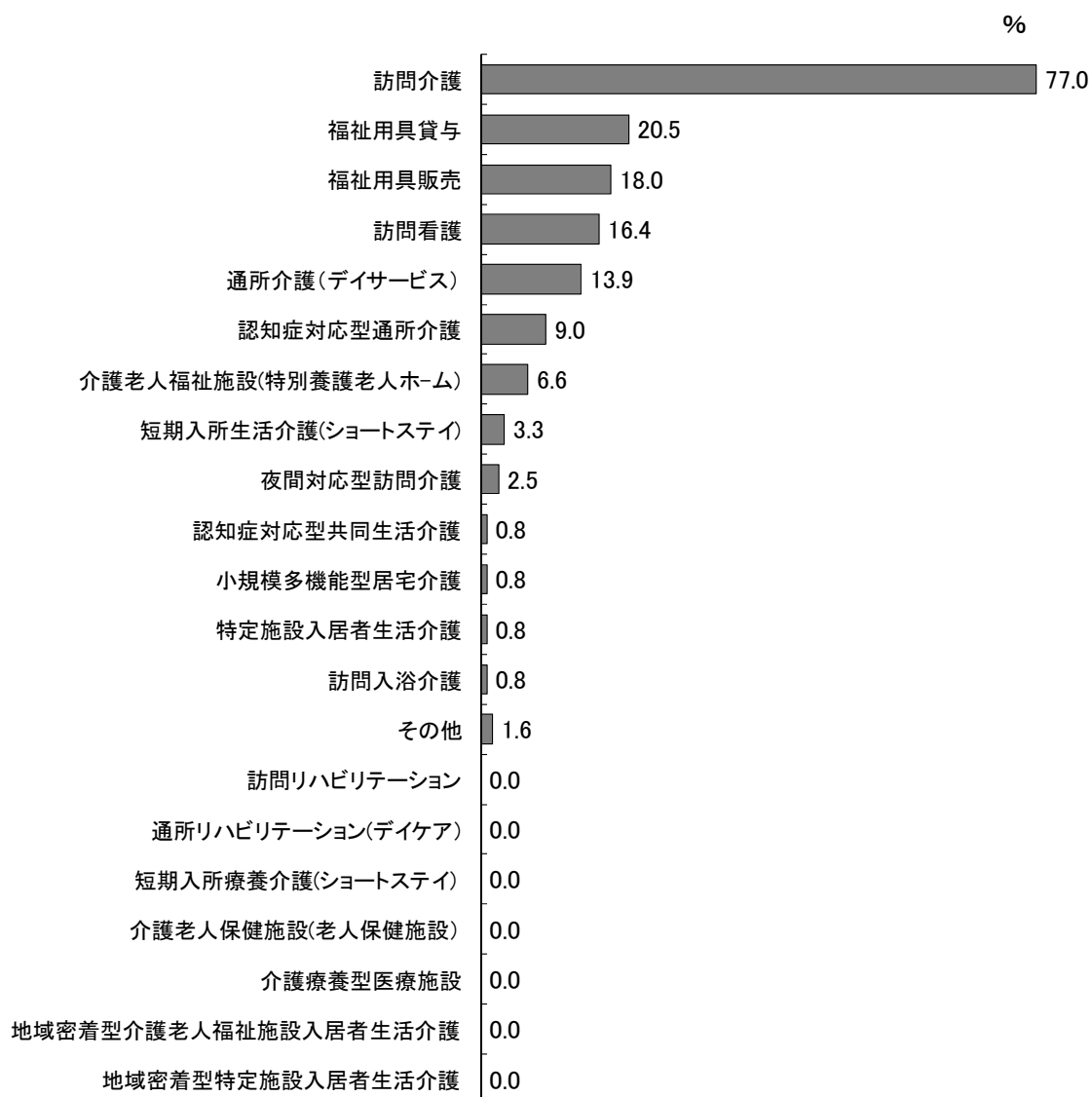
所属する事業所の形態は、「他の介護保険サービス事業も運営している(81.5%)」が、約8割であった(図表4-2)。



問 2-1 運営しているサービス内容はどれですか。(あてはまる番号すべてに)
 下記サービスには介護予防も含めてお答えください。

運営しているサービス内容についてたずねたところ、「訪問介護（77.0%）」が最も多く、続いて「福祉用具貸与（20.5%）」、「福祉用具販売（18.0%）」、「訪問看護（16.4%）」の順であった（図表 4-3）。

図表 4-3 運営しているサービス（複数回答）(N=122)



(3) ケアマネジャー数

問3 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか？
勤務形態等を問わず、実人数を記入してください。

所属している居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数は、「6人以上（31.8%）」が最も多く、続いて「3人（21.9%）」「1人（12.6%）」の順であった（図表4-4）。

図表4-4 ケアマネジャー数（N=151）

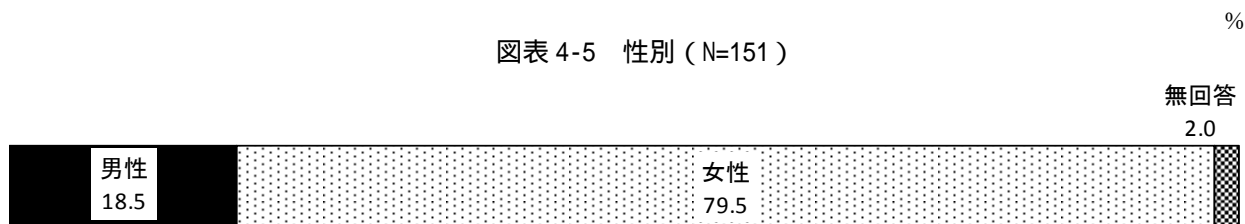


2. あなた（ケアマネジャー）ご本人のこと

(1) 性別

問4 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

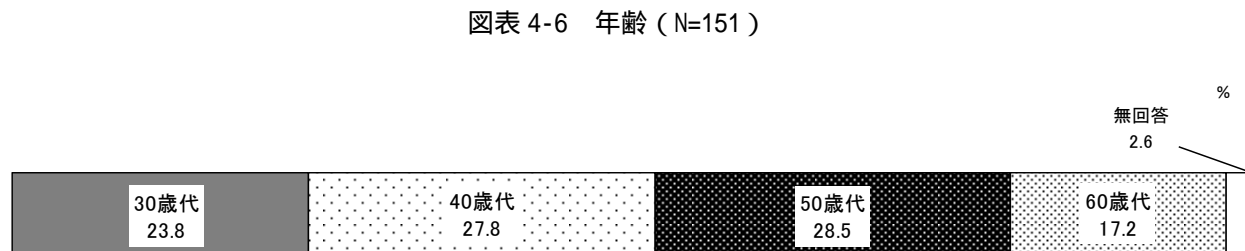
性別は、「女性（79.5%）」が約8割であった（図表4-5）。



(2) 年齢

問5 おいくつですか？（あてはまる番号に1つ）

年齢は、「50歳代（28.5%）」が最も多く、次いで「40歳代（27.8%）」、「30歳代（23.8%）」の順であった（図表4-6）。



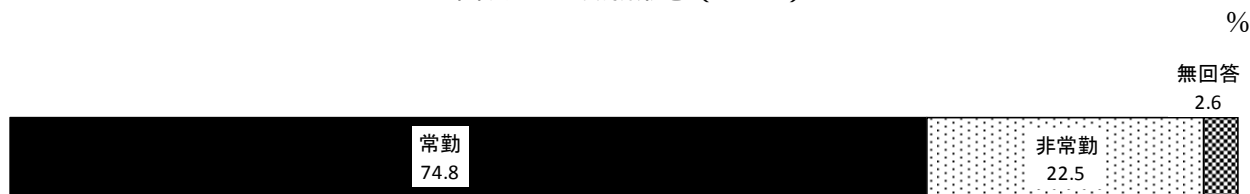
※なお、選択肢の「20歳代」「70歳以上」は0.0%であった。

(3) 勤務形態

問6 勤務形態はどちらですか？（あてはまる番号に1つ）

勤務形態は、「常勤（74.8%）」が約7割と、「非常勤（22.5%）」を大きく上回っている（図表4-7）。

図表4-7 勤務形態（N=151）

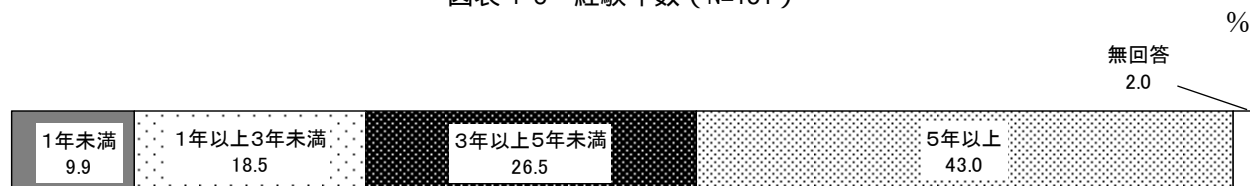


(4) 経験年数

問7 ケアマネジャーの経験年数はどれくらいですか？（あてはまる番号に1つ）

経験年数は、「5年以上（43.0%）」が最も多く、続いて「3年以上5年未満（26.5%）」「1年以上3年未満（18.5%）」の順であった（図表4-8）。

図表4-8 経験年数（N=151）

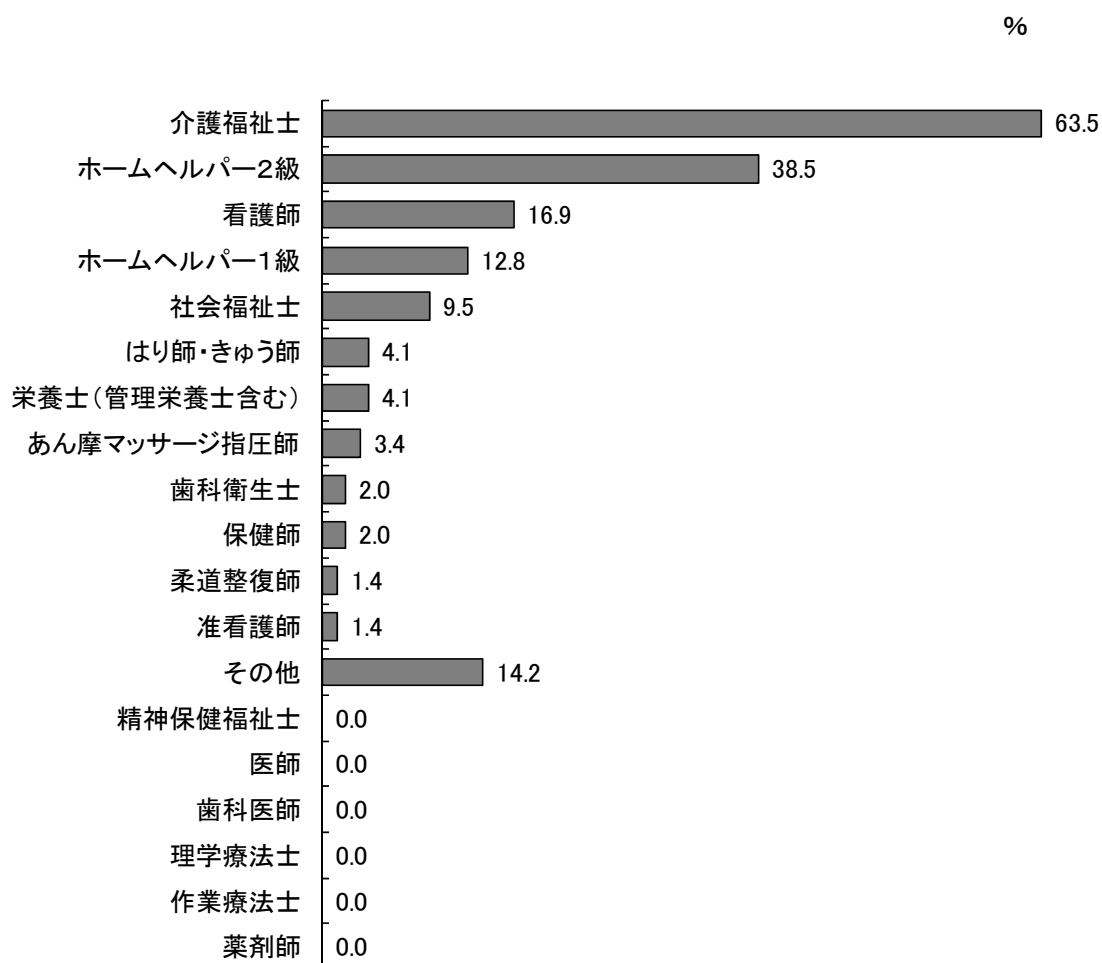


(5) 資格

問8 介護支援専門員以外に、お持ちの資格は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

介護支援専門員以外に持っている資格は、「介護福祉士（63.5%）」が最も多く、次いで「ホームヘルパー2級（38.5%）」「看護師（16.9%）」の順であった（図表4-9）。

図表4-9 資格（複数回答）(N=148)



3. ケアマネジメントの状況について

(1) 担当利用者数

問9 あなたが担当している利用者数は何人ですか？

担当している予防利用者数は、「0人（38.4%）」が最も多く、続いて「5人以上（15.9%）」「2人（10.6%）」の順であった（図表4-10）。

担当している介護利用者数は、「25人以上（51.7%）」が最も多く、続いて「1～4人（11.3%）」「5～9人（9.9%）」の順であった（図表4-11）。

図表 4-10 予防利用者数 (N=151)



図表 4-11 介護利用者数 (N=151)



(2) アセスメントについて

問 10 あなたは課題を導きだすなど、十分なアセスメントが実施できていますか？
(あてはまる番号に1つ)

アセスメントの実施状況については、「一部できていない利用者があると思う(53.6%)」と回答した人が約5割であった(図表4-12)。

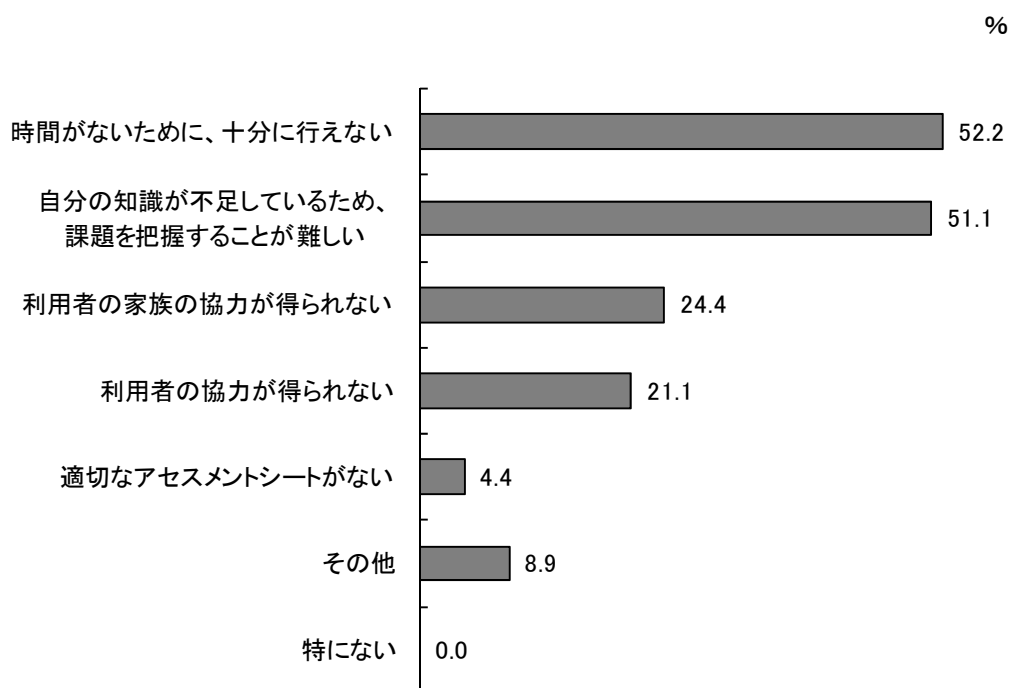
図表4-12 アセスメントについて(N=151)



問 10-1 十分に実施できなかった理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

問10で「一部できていない利用者があると思う」「できていないと思う」と答えた方に、アセスメントを十分に実施できなかった理由をたずねた。理由のなかでは、「時間がないために、十分に行えない(52.2%)」と「自分の知識が不足しているため、課題を把握することが難しい(51.1%)」が、各々約5割と多かった(図表4-13)。

図表4-13 できなかった理由(複数回答)(N=90)

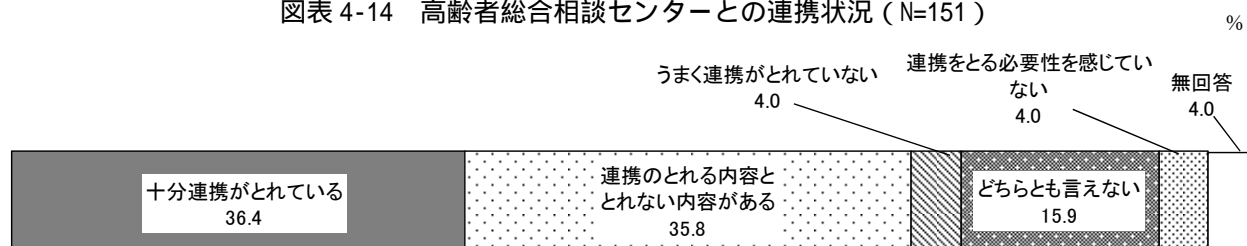


(3) 高齢者総合相談センターとの連携

問 11 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携はとれていますか？
（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携状況は、「十分連携がとれている（36.4%）」と「連携のとれる内容のとれない内容がある（35.8%）」と回答した人が、各々約4割であった（図表 4-14）。

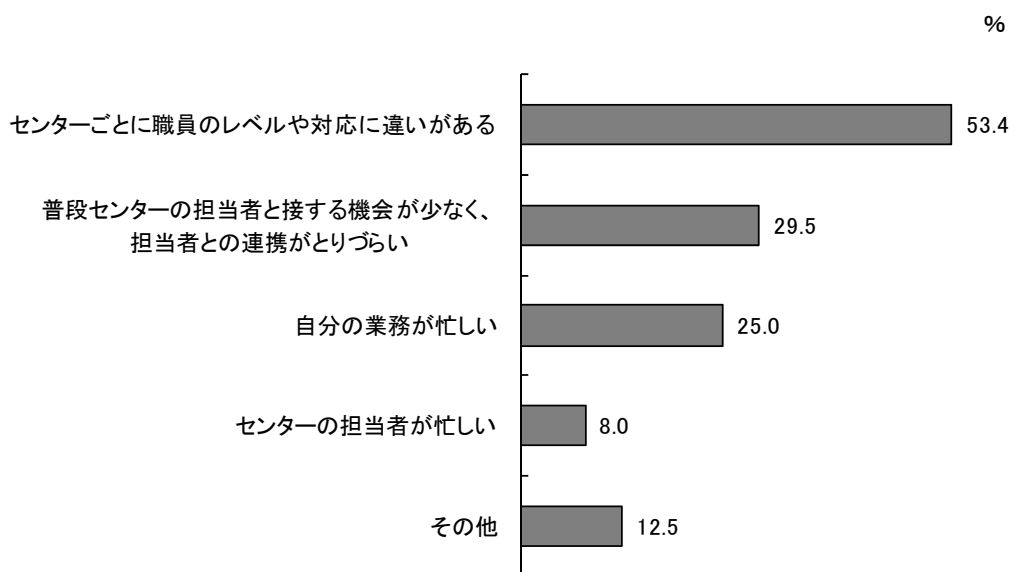
図表 4-14 高齢者総合相談センターとの連携状況（N=151）



問 11-1 連携がとれない理由をお聞かせください。（あてはまる番号すべてに）

連携がとれない理由については、「センターごとに職員のレベルや対応に違いがある（53.4%）」と回答した人が、約5割と最も多かった（図表 4-15）。

図表 4-15 高齢者総合相談センターと連携のとれない理由（複数回答）（N=88）

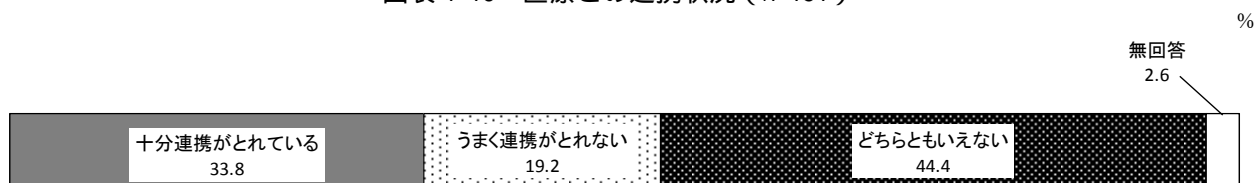


(4) 医療との連携

問 12 医療との連携はとれていますか？ (あてはまる番号に1つ)

医療との連携については、「どちらともいえない(44.4%)」と回答した人が最も多かった(図表 4-16)。

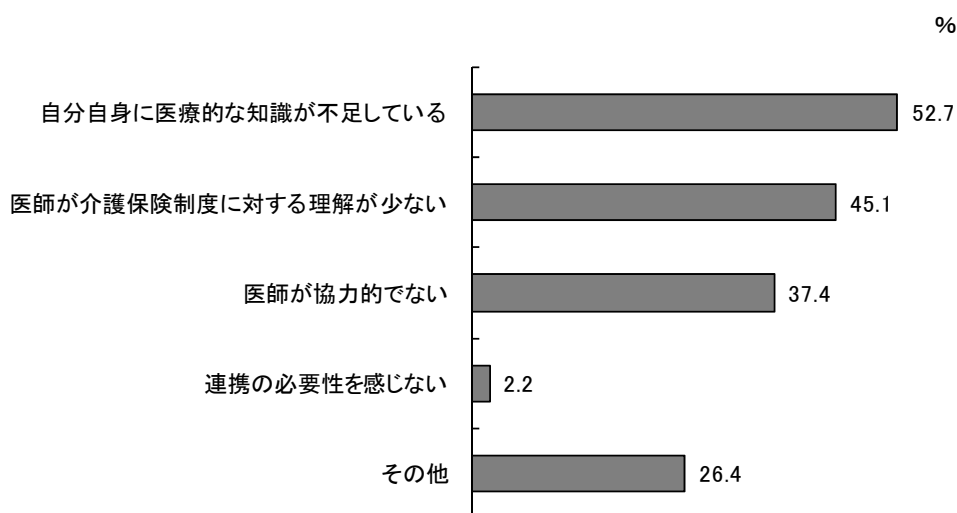
図表 4-16 医療との連携状況 (N=151)



問 12-1 連携がとれない理由をお聞かせください。(あてはまる番号すべてに)

連携がとれない理由については、「自分自身に医療的な知識が不足している(52.7%)」と回答した人が約5割と最も多く、次いで「医師が介護保険制度に対する理解が少ない(45.1%)」、「医師が協力的でない(37.4%)」の順であった(図表 4-17)。

図表 4-17 医療との連携がとれない理由(複数回答)(N=91)



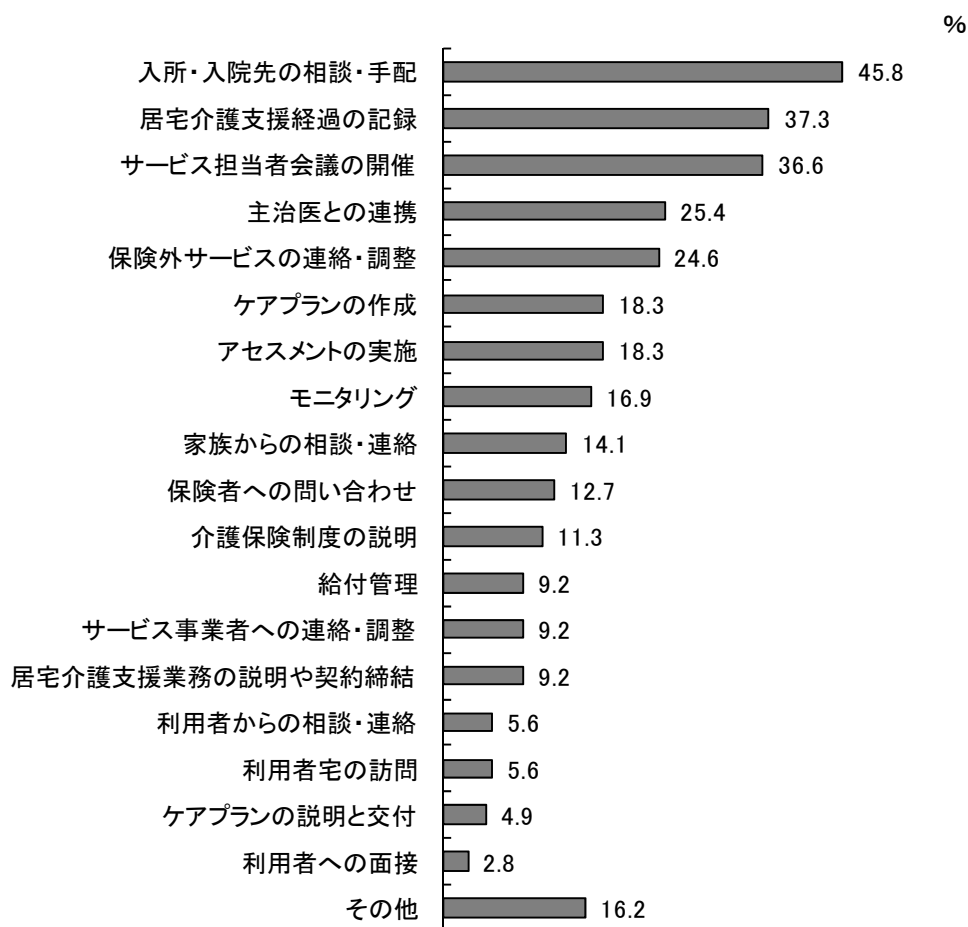
(5) 負担になっている業務

問 13 あなたにとって、ケアマネジメントで負担になっている業務はどれですか？
(あてはまる番号すべてに)

ケアマネジメントで負担になっている業務についてたずねた。

「入所・入院先の相談・手配 (45.8%)」と回答した人が最も多く、次いで「居宅介護支援経過の記録 (37.3%)」、「サービス担当者会議の開催 (36.6%)」の順であった (図表 4-18)。

図表 4-18 負担になっている業務 (複数回答)(N=142)

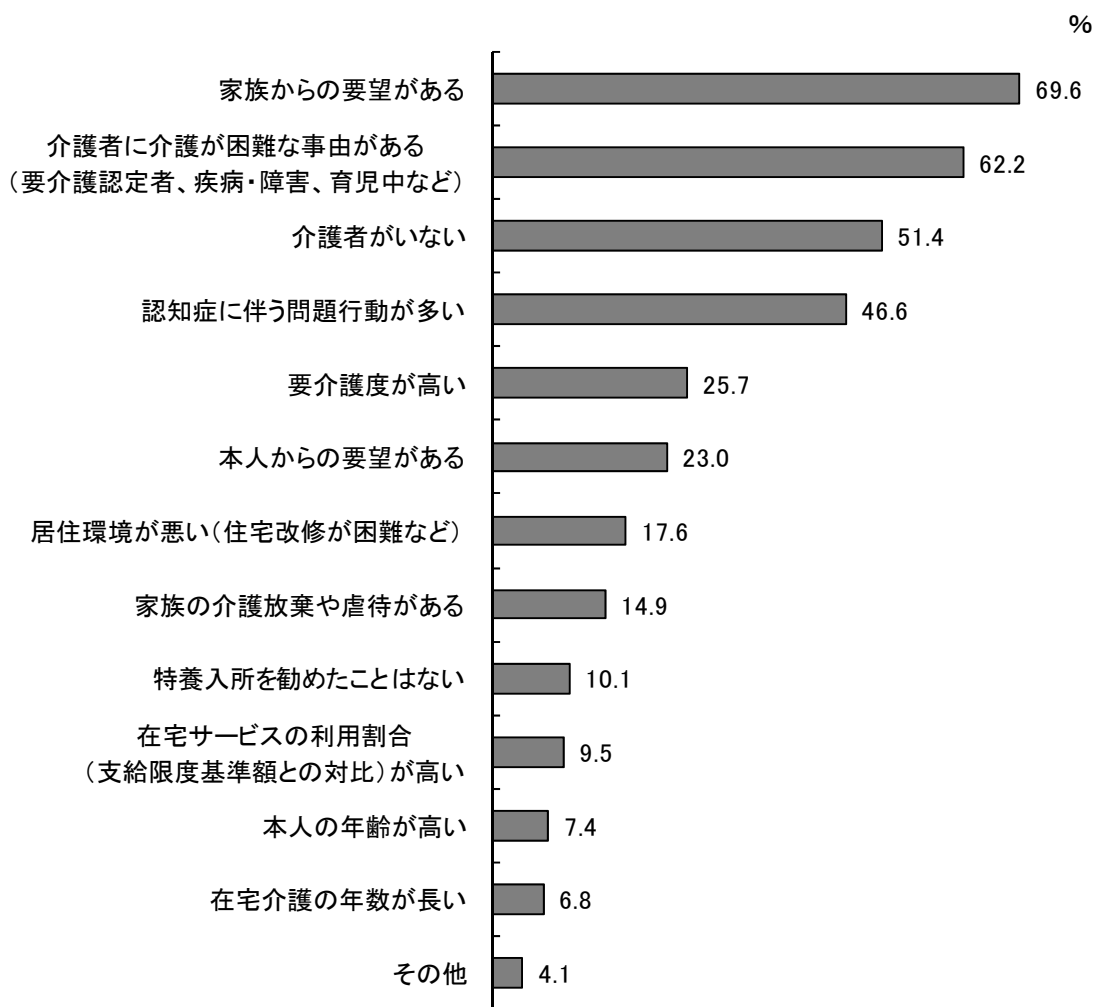


(6) 特養への入所申し込みケースについて、入所申し込みの理由

問 14 今までに、特養への入所申し込みをしたケースについてうかがいます。
その理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

「家族からの要望がある（69.6%）」と回答した人が最も多く、続いて「介護者に介護が困難な事由がある（62.2%）」、「介護者がいない（51.4%）」の順であった（図表 4-19）。

図表 4-19 入所申し込みの理由（複数回答）(N=148)



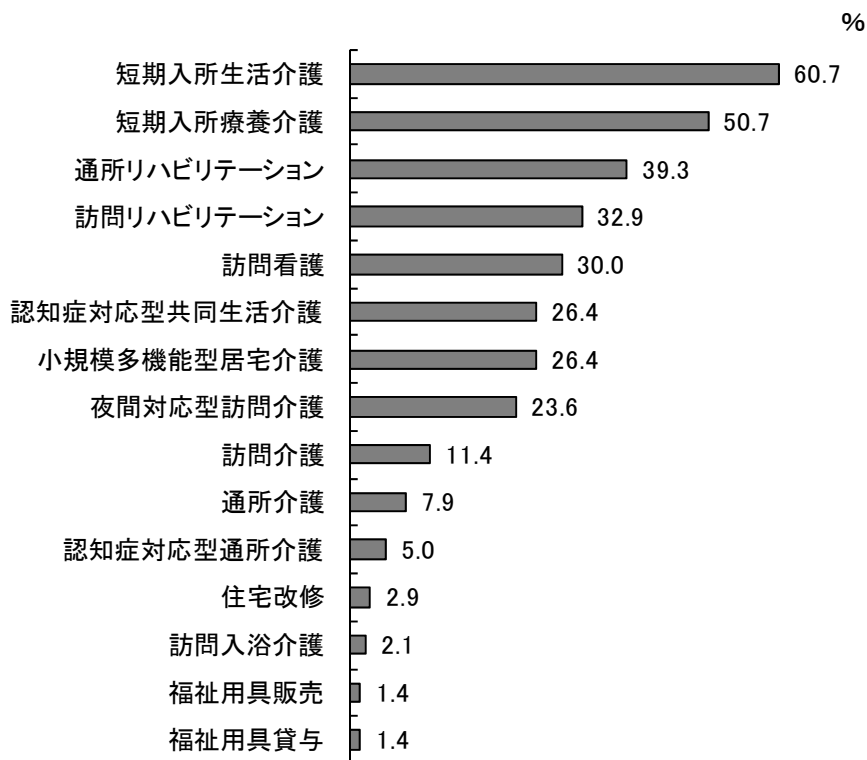
(7) ケアプランに組み込みにくいと思う介護保険のサービス

問 15 あなたは、ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険のサービスはどれですか？ また、その理由は何ですか？
下記サービスには介護予防も含めてお答えください。

	ケアプランに組み込みにくいと思うサービス (あてはまるサービスに○)	組み込みにくいと思う理由 (あてはまる番号すべてに○)			
		1. サービスが不足している	2. サービス内容に関する自身の知識が不足している	3. サービスを提供している事業所との連携が薄い	4. その他
1. 訪問介護	16 件	62.5%	0.0%	0.0%	50.0%
2. 訪問入浴介護	3 件	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
3. 訪問看護	42 件	78.6%	16.7%	7.1%	11.9%
4. 訪問リハビリテーション	46 件	84.8%	4.3%	17.4%	15.2%
5. 通所介護(デイサービス)	11 件	45.5%	0.0%	9.1%	54.5%
6. 通所リハビリテーション(デイケア)	55 件	81.8%	3.6%	5.5%	20.0%
7. 福祉用具貸与	2 件	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
8. 福祉用具販売	2 件	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
9. 短期入所生活介護(ショートステイ)	85 件	84.3%	4.8%	6.0%	12.0%
10. 短期入所療養介護(ショートステイ)	71 件	75.7%	8.6%	1.4%	20.0%
11. 夜間対応型訪問介護	33 件	48.5%	33.3%	18.2%	24.2%
12. 小規模多機能型居宅介護	37 件	16.7%	47.2%	44.4%	25.0%
13. 認知症対応型通所介護	7 件	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%
14. 認知症対応型共同生活介護	37 件	37.8%	24.3%	29.7%	29.7%
15. 住宅改修	4 件	0.0%	50.0%	0.0%	75.0%

ケアプランに組み込みにくい介護保険のサービスでは、「短期入所生活介護（60.7%）」と回答した人が最も多く、続いて「短期入所療養介護（50.7%）」「通所リハビリテーション（39.3%）」の順であった（図表 4-20）。

図表 4-20 ケアプランに組み込みにくいと思う介護保険のサービス（複数回答）(N=151)
 下記グラフは、割合で表示

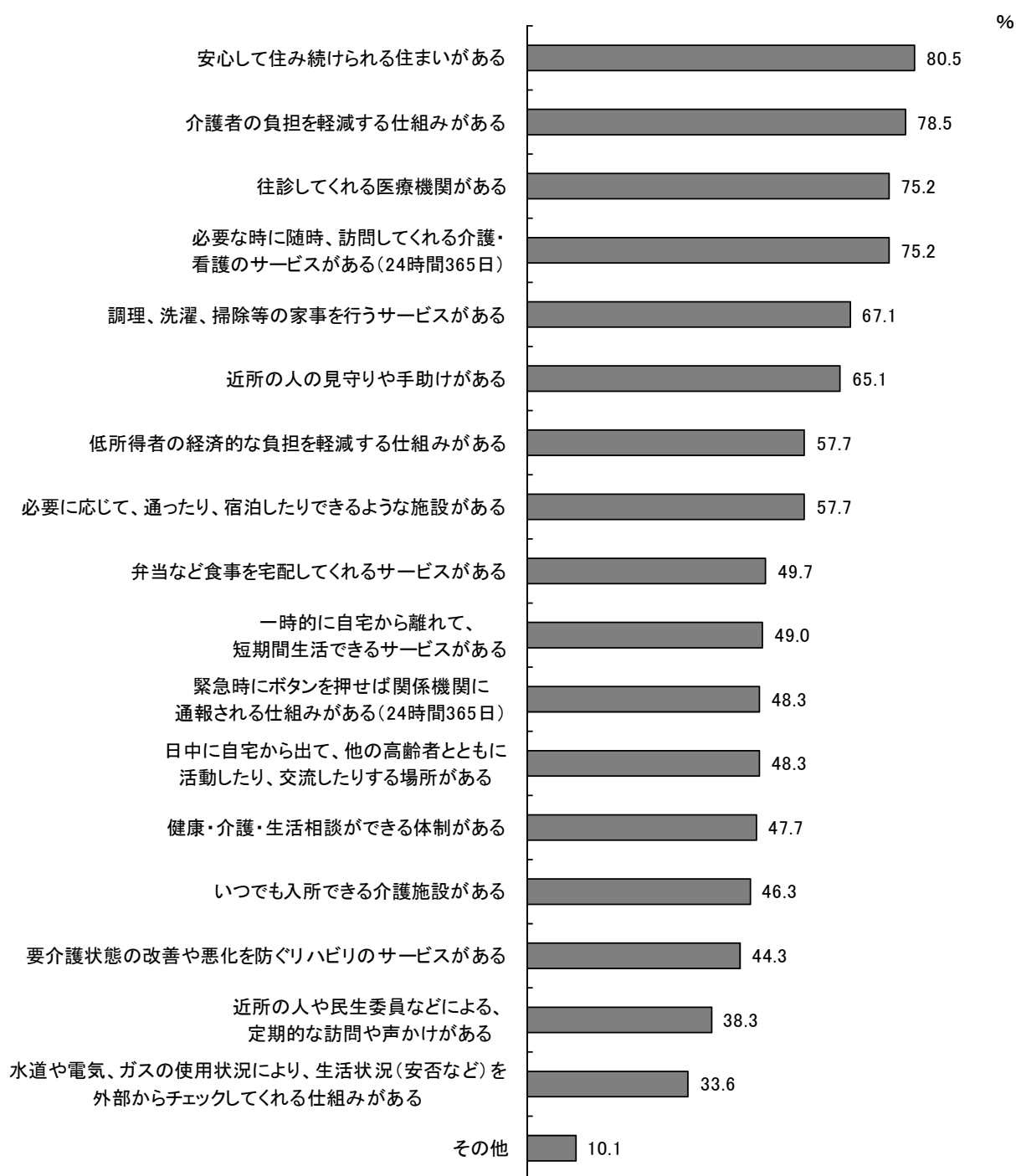


(8) 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと

問 16 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なことは、何だと思えますか？
(あてはまる番号すべてに)

「安心して住み続けられる住まいがある (80.5%)」と回答した人が最も多く、続いて「介護者の負担を軽減する仕組みがある (78.5%)」、「往診してくれる医療機関がある (75.2%)」の順であった (図表 4-21)。

図表 4-21 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと (複数回答)(N=149)

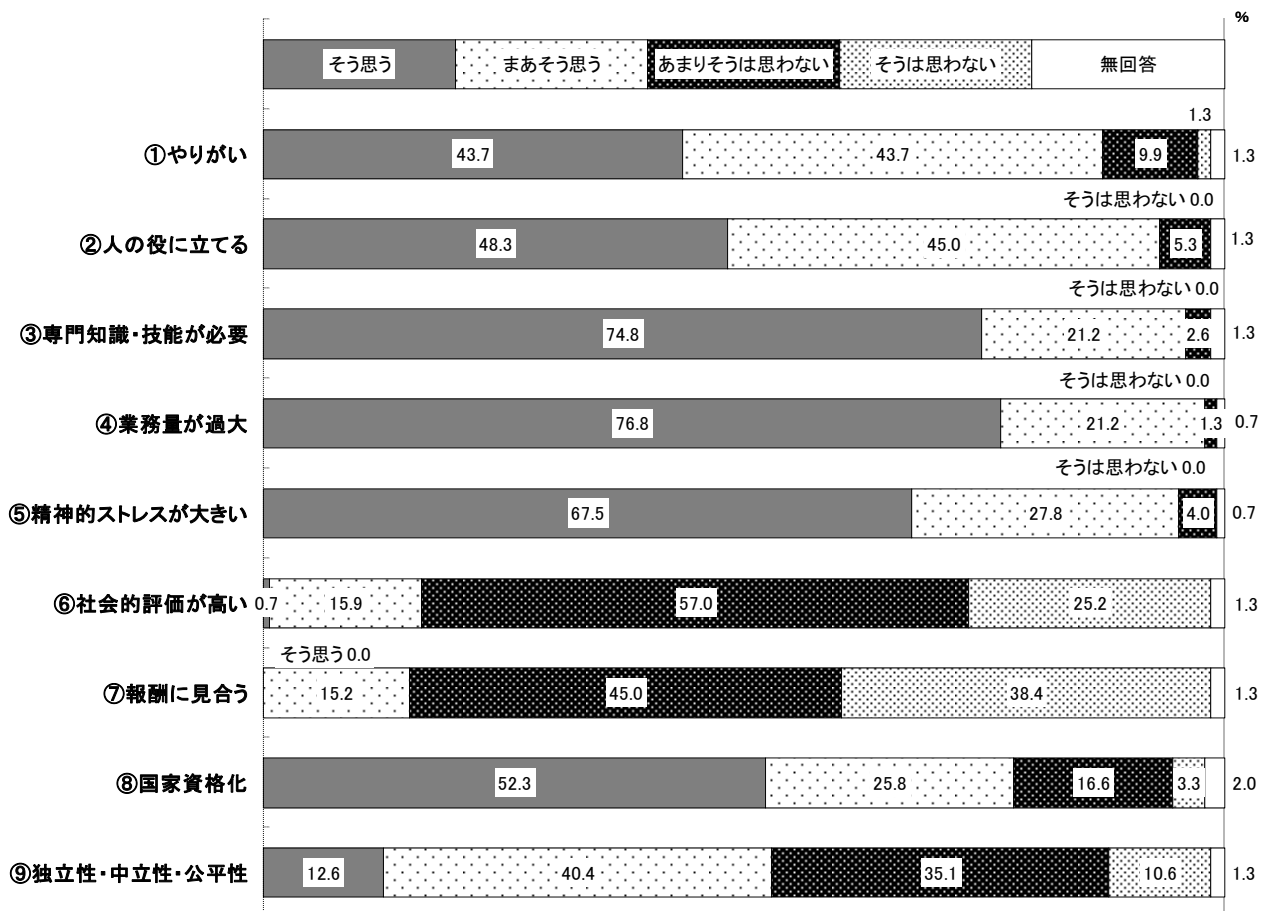


4. ケアマネジャーの仕事について

問 17 あなたはケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか？
 (それぞれ、あてはまる番号に1つ)

ケアマネジャーの仕事について、「社会的評価は高いと思いますか」「報酬は業務に見合っていると思いますか」の質問には、8割以上の方が「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と回答した(図表 4-22)。

図表 4-22 ケアマネジャーの仕事について (N=151)

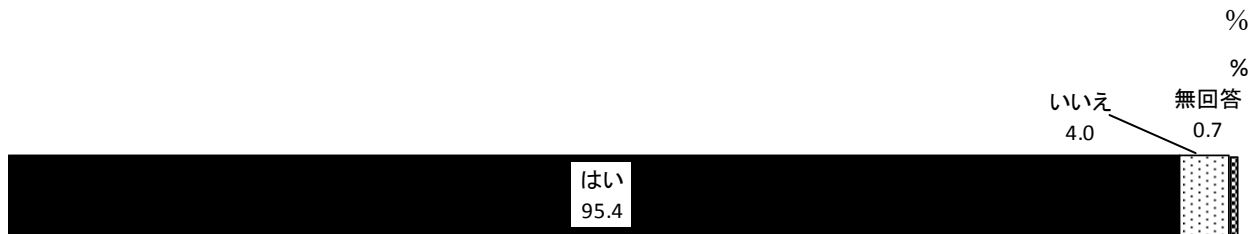


5. スキルアップについて（研修）

問 18 あなたは研修に参加していますか？（あてはまる番号に1つ）

研修の参加状況では、「はい（95.4%）」と回答した人が、9割以上であった（図表 4-23）。

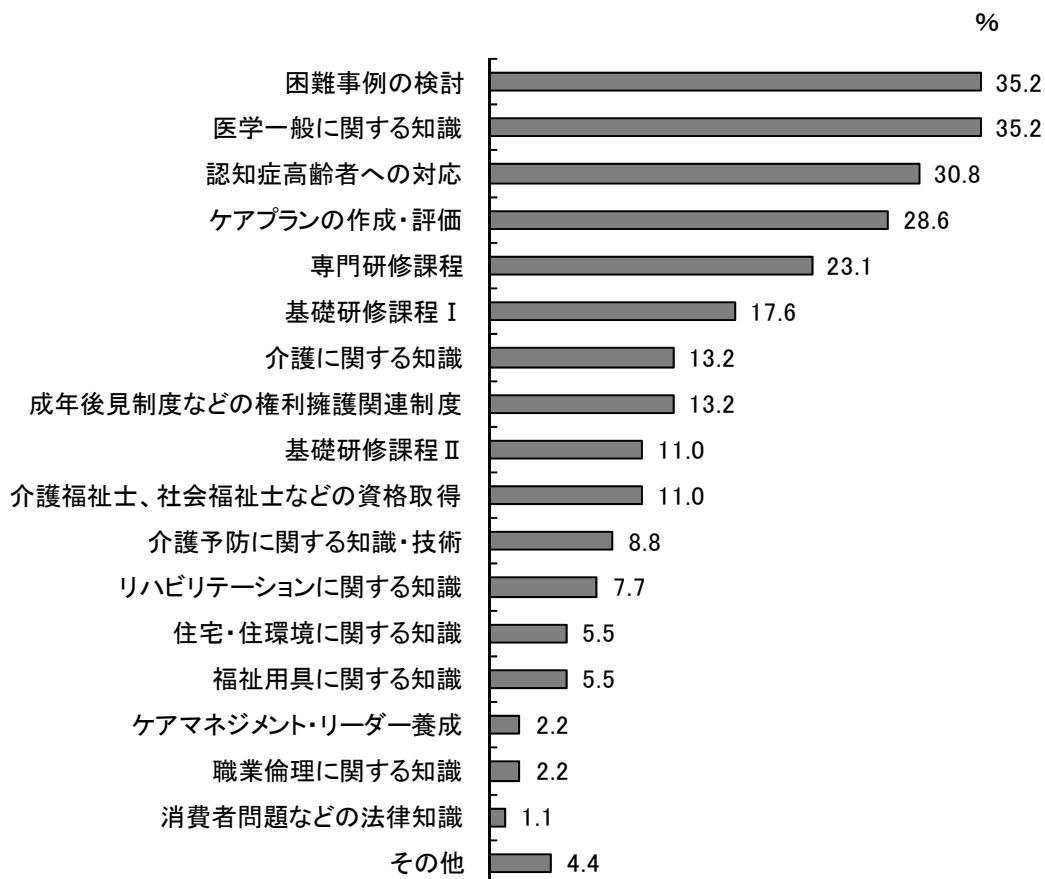
図表 4-23 研修への参加状況（N=151）



問 18-1 どのような研修があなたのスキルアップにつながりましたか？
（あてはまる番号に3つまで）

スキルアップにつながった研修では、「困難事例の検討（35.2%）」、「医学一般に関する知識（35.2%）」、「認知症高齢者への対応（30.8%）」と回答した人が多かった（図表 4-24）。

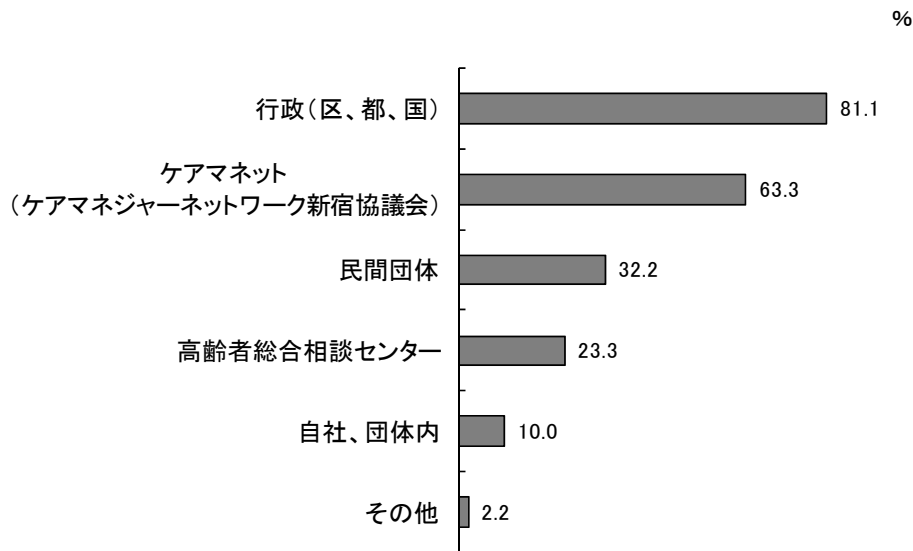
図表 4-24 スキルアップにつながった研修（複数回答）(N=91)



問 18-2 研修の主催はどこですか？（あてはまる番号すべてに ）

研修の主催は、「行政（区、都、国）（81.1%）」が最も多く、続いて「ケアマネット（ケアマネジャーネットワーク新宿協議会）（63.3%）」、「民間団体（32.2%）」の順であった（図表 4-25）。

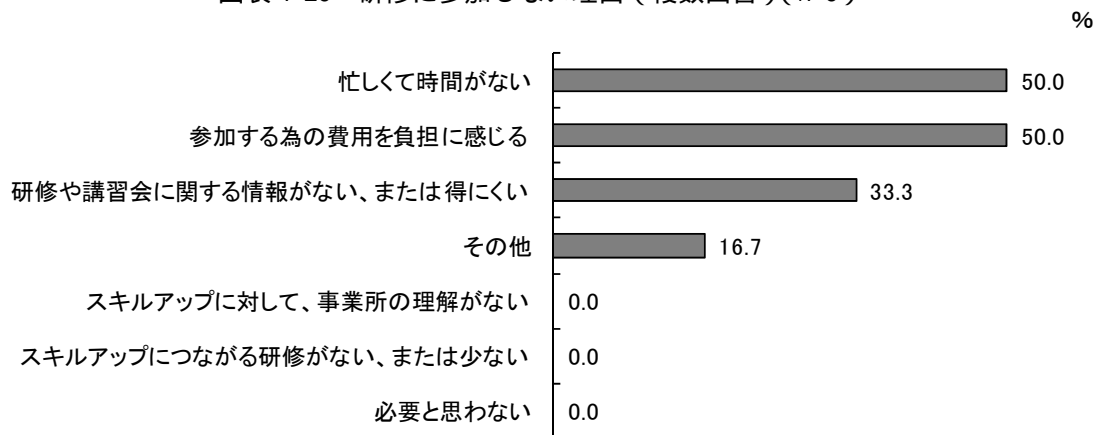
図表 4-25 研修の主催（複数回答）(N=90)



問 18-3 研修に参加しない理由をお聞かせください。（あてはまる番号すべてに ）

研修に参加しない理由については、「忙しくて時間がない」と「参加する為の費用を負担に感じる」がともに 50.0%であった（図表 4-26）。

図表 4-26 研修に参加しない理由（複数回答）(N=6)



6. 今後の意向について

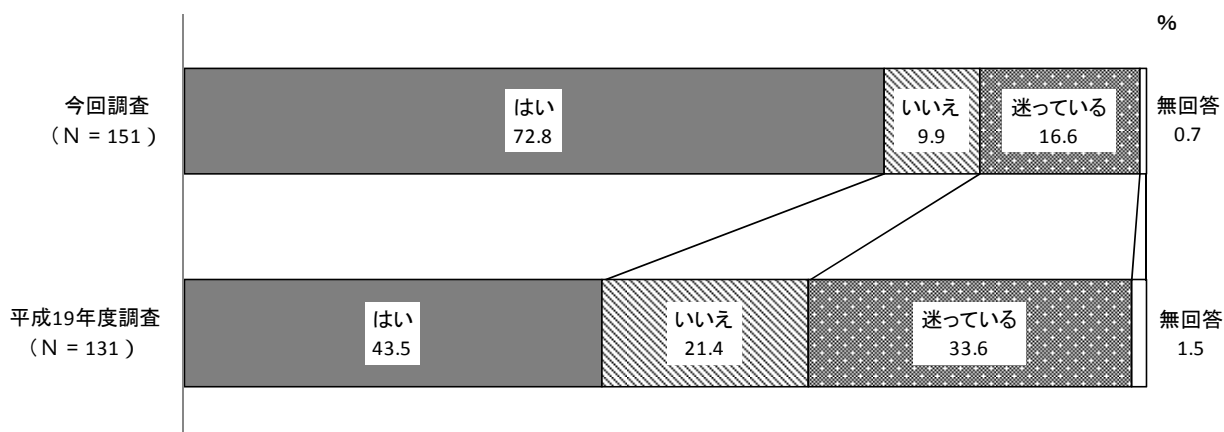
問 19 あなたはこれからもケアマネジャーを続けたいと思いますか？
（あてはまる番号に1つ）

ケアマネジャーを続けたいかどうかについて、「はい（72.8%）」と回答した人が約 7 割と最も多く、次いで「迷っている（16.6%）」であった（図表 4-27）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較すると、今回調査では、「はい」（続けたいという方）が 43.5%から 72.8%と大幅に増加した（図表 4-27）。

図表 4-27 継続意向（平成 19 年度調査との比較）



問 19-1 今後、「主任ケアマネジャー」の資格を取得したいと思いますか？
（あてはまる番号に1つ）

問 19 のこれからもケアマネジャーを続けたいかに「はい」と答えた方の「主任ケアマネジャー」の資格の取得意向は、「はい」が 50.0%であった（図表 4-28）。

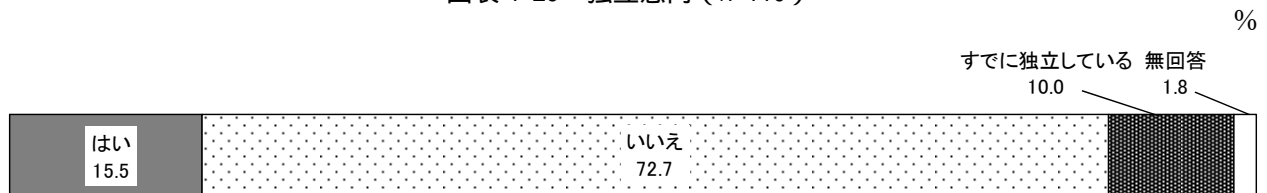
図表 4-28 「主任ケアマネジャー」の資格の取得意向 (N=110)



問 19-2 今後、独立して仕事をしたいと思えますか？（あてはまる番号に1つ）

「独立して仕事をしたい」という回答は、「いいえ」が72.7%であった（図表 4-29）。

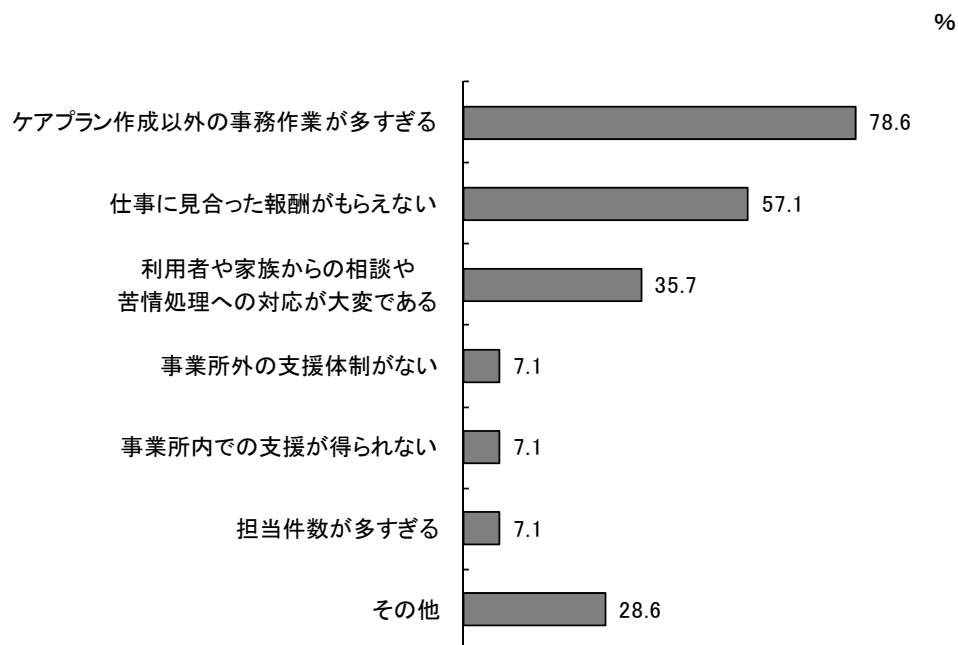
図表 4-29 独立意向（N=110）



問 19-3 ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は何ですか？
（あてはまる番号すべてに）

問 19 でこれからもケアマネジャーを続けたいかに「いいえ」と回答した方にケアマネジャーを続けたくないと思う理由についてたずねた。「ケアプラン作成以外の事務作業が多すぎる(78.6%)」が最も多く、次いで「仕事に見合った報酬がもらえない(57.1%)」であった（図表 4-30）。

図表 4-30 続けたくないと思う理由（複数回答）(N=14)



問 19-4 ケアマネジャーを続けることを迷っている理由

理 由	
業務量が多いにもかかわらず、報酬が低い	・他の仕事と比べると事務作業が多すぎ、仕事に見合った報酬がもらえないから。
	・業務量が過大、会社側からの圧力でかなりの精神的ストレスをかかえている。
	・社会的にも、役所からも評価されていない。自分の所属する会社からも「収入が上がらない」と責められる。良いケアにはコミュニケーションが不可欠だが、コミュニケーションには時間が掛かり、その結果、受け持ち件数が減り、収入が得られず、負担だけが増える。
	・報酬が少なく将来が不安。資格そのものの社会的評価が低い。
	・ケアプランに縛られすぎて人間らしい支援ができにくい。
	・生活のために続けたいと思うが、報酬が少なく忙しい。
	・困難事例などの相談は、どこも適当に返事をして終わりで親身になってもらえない。
	・業務が多すぎて休めない。
	・やりがいはあるが、書類の作成等事務に追われる。
	・家庭生活との両立及び経済的問題（収入が少なすぎる）
・今後、制度改正の度に、介護報酬等の事業収入が厳しくなっていくと考えるので、将来性を感じることは難しい。	
兼任している他の職務の業務に追われている(魅力を感じる)	・兼任のため、もう1つの仕事のほうの役割が大きくなっている
	・訪問看護の仕事もしており、そちらの方に大きな魅力を感じる。ケアマネジャーはなんでもできる反面、何もできないように感じる場面もある。
ケアマネジャーの職務に対する矛盾	・所属している会社は、売上至上主義であり、ケアマネジャーにも売上げを求め、売上げのランキングまで出し、やる気が失われた。今後もっと質の良い職場で、ケアマネジャー業務について、きちんと話しあえる職場であれば続けようとは思う。
	・利用者にプラスに動く事が、介護保険制度の理念と事業所の収益向上に反する事が多く、現制度上でのケアマネジャーの位置づけに疑問がある。
	・利用者や家族の意向をケアマネジャーとして自分が受容できないと思うことが増大しており、自分自身精神的に破綻しそうな不安を感じているため。
	・公正、中立、独立性と言ってもサービスの自社率やノルマがあり、続けていく意欲が下がる。
	・思っていたのと現実との違いあり。介護保険制度に疑問を感じた。
経験が浅く、続けられるか不安	・ケアマネジャー歴半年ですが、先輩ケアマネジャーの仕事を見ていると私にも出来るか不安になり、この先続けられるかどうか不安です。
	・介護現場で経験が無く、プラン作成やアドバイスに自信がもてない。
その他	・更新研修が3年後に控えているため、その時どうするか迷っている。
	・年齢的に引退の時期

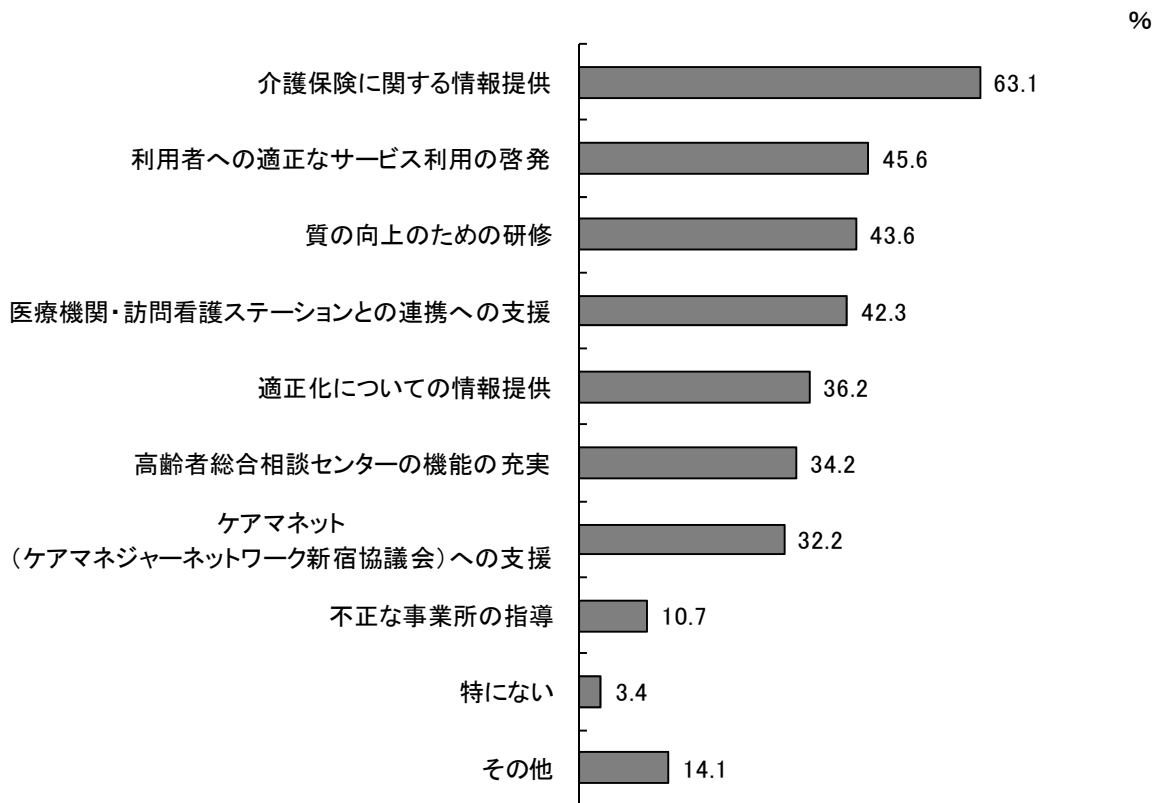
7. 新宿区への要望について

問 20 ケアマネジャーの立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか？
(あてはまる番号すべてに)

ケアマネジャーとして新宿区に望むことをたずねた。

「介護保険に関する情報提供（63.1%）」が最も多く、続いて「利用者への適正なサービス利用の啓発（45.6%）」「質の向上のための研修（43.6%）」「医療機関・訪問看護ステーションとの連携への支援（42.3%）」の順であった（図表 4-31）。

図表 4-31 新宿区への要望について（複数回答）(N=149)



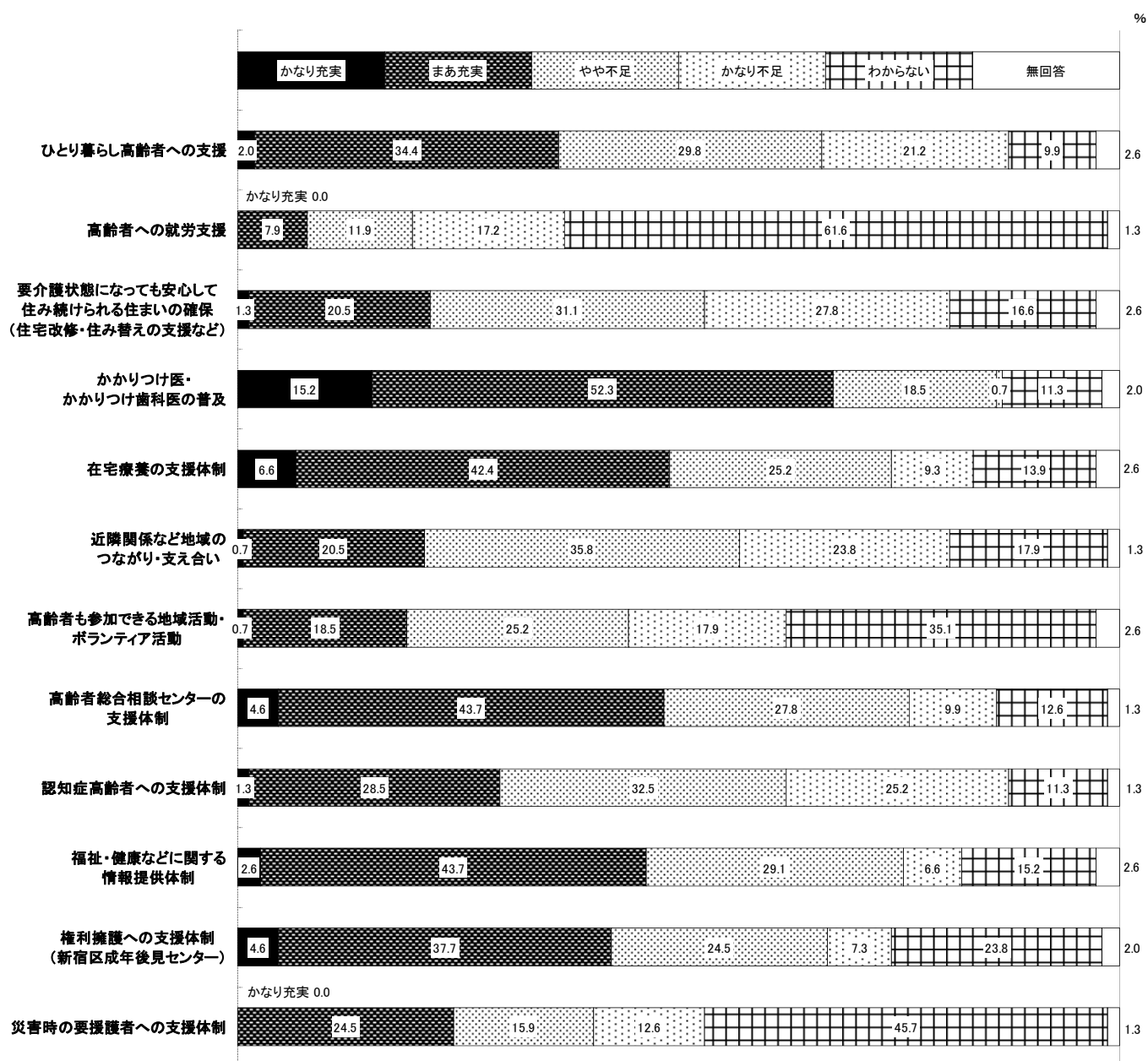
問 21 ケアマネジャーの立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか？
 (あてはまる番号それぞれ1つに)

	1. かなり充実	2. まあ充実	3. やや不足	4. かなり不足	5. わからない	
1. ひとり暮らし高齢者への支援	2.0%	35.4%	30.6%	21.8%	10.2%	(N=147)
2. 高齢者への就労支援	0.0%	8.1%	12.1%	17.4%	62.4%	(N=149)
3. 要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいの確保(住宅改修・住み替えの支援など)	1.4%	21.1%	32.0%	28.6%	17.0%	(N=147)
4. かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及	15.5%	53.4%	18.9%	0.7%	11.5%	(N=148)
5. 在宅療養の支援体制	6.8%	43.5%	25.9%	9.5%	14.3%	(N=147)
6. 近隣関係など地域のつながり・支え合い	0.7%	20.8%	36.2%	24.2%	18.1%	(N=149)
7. 高齢者も参加できる地域活動・ボランティア活動	0.7%	19.0%	25.9%	18.4%	36.1%	(N=147)
8. 高齢者総合相談センターの支援体制	4.7%	44.3%	28.2%	10.1%	12.8%	(N=149)
9. 認知症高齢者への支援体制	1.3%	28.9%	32.9%	25.5%	11.4%	(N=149)
10. 福祉・健康などに関する情報提供体制	2.7%	44.9%	29.9%	6.8%	15.6%	(N=147)
11. 権利擁護への支援体制(新宿区成年後見センター)	4.7%	38.5%	25.0%	7.4%	24.3%	(N=148)
12. 災害時の要援護者への支援体制	0.0%	24.8%	16.1%	12.8%	46.3%	(N=149)

新宿区の高齢者支援について、充実(「かなり充実」「まあ充実」と回答した人は、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及(68.9%)」「在宅療養の支援体制(50.3%)」では、5割を超えている。

一方で不足(「やや不足」「かなり不足」と回答した人は、「要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいの確保(住宅改修・住み替えの支援など)(60.6%)」「近隣関係など地域のつながり・支え合い(60.4%)」「認知症高齢者への支援体制(58.4%)」「ひとり暮らし高齢者への支援(52.4%)」では、5割を超えている(図表 4-32)。

図表 4-32 新宿区の高齢者支援の状況



問 23 介護保険制度に関するケアマネジャーからの自由意見（主なもの）

項 目	自 由 意 見										
事務処理・書類の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーの書類が多すぎて忙しすぎる。 ・業務を簡素にして欲しい。 ・書類の作成量が多い。 ・事務処理の簡素化。1つのサービスに対してファイルが多すぎる。 										
要介護認定	<ul style="list-style-type: none"> ・区分変更申請は新規又は更新申請とは別枠で結果が早く出るようにしてほしい。 ・サービス利用のない要支援 1、2 の人へ自動的に更新の通知を出して、「お守り」の様に認定を受けさせている現状は税金のムダだと思う。 										
ショートステイの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療度の高い人（気切、吸引、胃ろう）はショートステイが利用できない。 ・ショートステイ利用時他区は送迎してくれる施設があるが、新宿区はしてくれず、また、医療処置のある利用者の受け入れ施設が無い。 ・ショートステイ事業所によって受け入れ条件が異なり、利用出来ない事が多い。 ・高度な技術・経験・知識を持った専門ショートが必要。現状では重介護者ほど支援の受入先が無く、本当に助けが必要な人が救われていない。 										
横出しサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険に該当しない部分に区独自のサービスがもっとあったら良いと思う。（例：要介護や要支援状態の人が趣味活動等で外出する時の移動支援を一部補助等） ・独居世帯の多い新宿区としては横出しサービスを充実して欲しいと思います。 										
介護職員の処遇改善	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでたっても、介護現場の質の向上が見られない。専門職として確立出来るだけの環境が整備されない（給与、待遇、社会認識）。高齢社会に向けては、介護保険制度の充実は、絶対必要。 ・介護の質の向上、ケアマネジャーのスキルアップと言われて10年経過したが、働く職員の報酬や仕事体制の厳しさは大きく変わっていないと思う。 ・介護事業の従事期間に応じた年金額の上乗せ等、退職後の保障の充実により、人材の増加につなげることは出来ないか。 										
ケアマネジャーの中立・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の適正化と中立をケアマネジャーに託すのであれば、公務にすべき。営利を追求しつつ、中立・公正は無理な話です。 ・ケアマネジャーは、法人に所属していないと仕事ができないが、中立・公平性は保たれない。独立型での所属であれば、一人ひとりの方の相談にのって、よりよい在宅生活の質が保たれる。 										
その他	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="233 1451 443 1574">見守りサービスの整備</td> <td data-bbox="443 1451 1442 1574"> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から「結局使えるサービスがない」と言われることも少なくないので、見えやすい制度になるといい。特に“見守り”ができないのは利用しにくい。（ターミナルの人、認知症の人の家族にとって意味が大きいと思う。） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1574 443 1731">認知症高齢者の介護者リフレッシュ等事業について</td> <td data-bbox="443 1574 1442 1731"> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュ事業のサービス提供時間が17:00までというのは現実に則していないと思う。せめて20:00にしてほしい。 ・リフレッシュ事業は時間数が少ないですが使い勝手はいいです。認知症の方に長時間の見守りサービスが必要です。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1731 443 1854">訪問看護の人材不足</td> <td data-bbox="443 1731 1442 1854"> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の人材不足は深刻。病院と連携し、一定期間ずつ在宅の看護師として勤務（病院の配置転換の様に）する等、企業ないしは行政独自のシステムの構築が出来ると良いと思う。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1854 443 1933">保険外サービスの充実</td> <td data-bbox="443 1854 1442 1933"> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳未満の利用者（若年性認知症等）に対する保険外サービスが少ない。制度の狭間で何も利用できない方への支援について検討をお願いしたい。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1933 443 2042">成年後見人が決定するまでのフォロー体制の整備</td> <td data-bbox="443 1933 1442 2042"> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度を申請し、後見人が決定するまでの数ヶ月を独居で身寄りがいない場合のフォロー体制が充実していないと思う。 </td> </tr> </table>	見守りサービスの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から「結局使えるサービスがない」と言われることも少なくないので、見えやすい制度になるといい。特に“見守り”ができないのは利用しにくい。（ターミナルの人、認知症の人の家族にとって意味が大きいと思う。） 	認知症高齢者の介護者リフレッシュ等事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュ事業のサービス提供時間が17:00までというのは現実に則していないと思う。せめて20:00にしてほしい。 ・リフレッシュ事業は時間数が少ないですが使い勝手はいいです。認知症の方に長時間の見守りサービスが必要です。 	訪問看護の人材不足	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の人材不足は深刻。病院と連携し、一定期間ずつ在宅の看護師として勤務（病院の配置転換の様に）する等、企業ないしは行政独自のシステムの構築が出来ると良いと思う。 	保険外サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳未満の利用者（若年性認知症等）に対する保険外サービスが少ない。制度の狭間で何も利用できない方への支援について検討をお願いしたい。 	成年後見人が決定するまでのフォロー体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度を申請し、後見人が決定するまでの数ヶ月を独居で身寄りがいない場合のフォロー体制が充実していないと思う。
見守りサービスの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から「結局使えるサービスがない」と言われることも少なくないので、見えやすい制度になるといい。特に“見守り”ができないのは利用しにくい。（ターミナルの人、認知症の人の家族にとって意味が大きいと思う。） 										
認知症高齢者の介護者リフレッシュ等事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュ事業のサービス提供時間が17:00までというのは現実に則していないと思う。せめて20:00にしてほしい。 ・リフレッシュ事業は時間数が少ないですが使い勝手はいいです。認知症の方に長時間の見守りサービスが必要です。 										
訪問看護の人材不足	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の人材不足は深刻。病院と連携し、一定期間ずつ在宅の看護師として勤務（病院の配置転換の様に）する等、企業ないしは行政独自のシステムの構築が出来ると良いと思う。 										
保険外サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳未満の利用者（若年性認知症等）に対する保険外サービスが少ない。制度の狭間で何も利用できない方への支援について検討をお願いしたい。 										
成年後見人が決定するまでのフォロー体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度を申請し、後見人が決定するまでの数ヶ月を独居で身寄りがいない場合のフォロー体制が充実していないと思う。 										

独居の重度の要介護者への特別限度額の設定	・独居の要介護 5 の利用者に対して、特別限度額のような設定は出来ないものか。経済的に余裕があっても毎月 14～15 万円もの 10 割負担分は、重くのしかかっていると思う。
通所系施設の不足	・通所系の施設の片寄りがあり、西新宿にはなく、いつも困っている。
通所リハビリでの入浴サービス対応	・通所リハビリで入浴のサービスを行っていないのは困る。
65 歳以下の方が利用できる通所サービスの不足	・若年（65 歳以下）の利用者が利用できる通所サービスがない。
身寄りのないひとり暮らし高齢者への対応	・新宿区は身寄りのない独居利用者が多く、身の振り方に苦慮してしまいます。 ・認知症の人や生保の人には後見人、ワーカーさんなどついてくれますが、独居で身寄りのない方、家族と関係の薄い方の緊急対応に悩む。
小・中学校跡地の施設への転用	・小・中学校跡地に「中間施設（要介護度 2～4 くらいの方のいるところ）」を作る。24 時間連絡のとれる常駐職員と、食事提供が出来る集合住宅にすれば、総体的に費用は抑えられると思う。
介護サービスと負担のバランス	・要介護度 4、5 の方は毎日のように各種のサービスを使っているが、一律 1 割負担ではなく、2 割又は 3 割負担に変更した方がと思っています。利用最大単位を使いサービスを受けて、1 割負担だからと考えているご家族もいる。（低所得の方は別として）
地域支援事業の明確化	・要支援と要介護との間に横たわる生活援助への可否の判断、不明瞭な点を明確にしてもらいたい。
介護専門職と地域住民との連携強化	・現状、区内において、研修関係は豊富だが、地域包括ケアシステムが構築しておらず、地域の中で地域住民及び専門職との連携形成が薄くソーシャルワークの土壌が確立していないことも垣間見える。
地域包括支援センターの職員の資質の向上	・機能強化整備中の地域包括支援センター職員の資質が低下している事も散見される。虐待対応、緊急時対応等についての認識の薄さがあり、スーパーバイザー役にはなれていない。
地域包括ケアシステムの地域住民への啓発	・区のスローガンである「安心して住み続けられる地域づくり」というテーマを掲げているが、在宅の認知症利用者に周辺症状が出現すると近隣住民から苦情が相次ぎ認知症への理解の乏しさが露呈している。区も地域包括支援センターと連携し地域の中に入りアウトリーチによる出前講座等を地域住民（自治会等）に対して実施していく必要がある。
介護予防プランの事務量と介護報酬のバランス	・予防プランは介護のプランと変わりなく、事務量が多いのに報酬が少なく、事業所内ではプランの 1 件にカウントされないので、受けたくない。
区による介護サービス内容の説明	・訪問介護サービスの利用で制限の内容をケアマネジャーだけに説明させるのではなく、区や国も説明して欲しい。
視覚障害者のサービス対応	・障害と介護保険との間で、どちらも利用できなくなってしまう視覚障害者のサービスを考えてほしい。（外出支援等）

問 23 「ケアマネジャーに対する支援として新宿区に期待すること」の自由意見（主なもの）

項 目	自 由 意 見				
研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーとして必要な研修を夜間帯でなく、かつ無料で多く開いてほしい。 ・研修方法や資料については、事例の利用やわかりやすく見やすい工夫をしてもらいたい。 ・地域包括支援センターによる生活圏域ごとに別れて地域ケア会議や高齢者虐待チーム等のケアマネジャー後方支援システムの確立を強く願う。また事例検討会や行政からのタイムリーな情報、懇親会、勉強会等の企画を実施する事で、連携が拡がり効果的なチームアプローチを実践する事ができる。 ・地域包括支援センターの後方支援体制として区に高齢者虐待防止チーム等も設けてほしい。 				
区の相談窓口の対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが気持ち良く働けるよう、業務面の指導以外に、待遇面の指導もしてほしい。 ・ケアマネジャーは区職員の管理下に置かれている、と感じる事が多い。対等な関係は望めないのか？ ・国や保険者の方からケアマネジャーの仕事の範囲について、利用者、家族への情報発信を行って欲しい。 ・介護保険課に相談しても「ケアマネジャーの判断で」とか「アセスメントで考えなさい」と言われてしまう。具体的な返事がほしい。 ・夜遅くまで出勤する事が求められる時が多々ある。夜間の支援相談窓口をつくってもらいたい 				
適正化に関する情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・適正化についても情報提供をしてほしい ・上司から、担当件数の増や自社のサービス利用を言われることもある 				
認定調査の区での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・更新時の認定調査は区の職員にしてもらいたい。 ・結果が利用者の思い通りでない調査は我々にクレームがきて非常に辛い。 				
困難事例に対する支援強化	<ul style="list-style-type: none"> ・困難事例に対しては、もっと柔軟な対応をお願いしたい。 ・困難ケースやクレーム家族への対応など、包括の対応でも難しい場合、区に支援して欲しい。 ・特殊ケースは区がプランを持つことが望ましい。ケアマネジャーを孤立させないような支援を希望する。 				
利用者宅への訪問時の交通費加算	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者宅へ何度も訪問して相談しなければならない時に加算をつけてもらいたい。担当者会議の開催についてもなんらかの加算が欲しい。 				
関係者との広範な情報交流	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる分野の方との交流もできるような機会をつくってもらいたい。（医療、リハビリ、サービス提供責任者の方） 				
その他	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">緊急時のショートステイ利用手続きの簡素化</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急ショートステイが、もっと手続きに時間がかからず利用できると助かる。介護者の緊急な入院等で、利用者の受入れ先を探す必要がある事が多々あるが、診療情報提供書で血液検査やX線が必須になっており、実質緊急時には利用できないので、困ってしまう。なんとか、緊急時の受け入れ体制を整えてもらいたい。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">区内横出しサービスの新設</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・独居、老々介護の人を最後まで在宅で支えるためには、今の給付の限度額では絶対不足している。在宅を推進していくには、区独自に上乗せ横出しの制度を新たに創設してもらいたい。 </td> </tr> </table>	緊急時のショートステイ利用手続きの簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急ショートステイが、もっと手続きに時間がかからず利用できると助かる。介護者の緊急な入院等で、利用者の受入れ先を探す必要がある事が多々あるが、診療情報提供書で血液検査やX線が必須になっており、実質緊急時には利用できないので、困ってしまう。なんとか、緊急時の受け入れ体制を整えてもらいたい。 	区内横出しサービスの新設	<ul style="list-style-type: none"> ・独居、老々介護の人を最後まで在宅で支えるためには、今の給付の限度額では絶対不足している。在宅を推進していくには、区独自に上乗せ横出しの制度を新たに創設してもらいたい。
緊急時のショートステイ利用手続きの簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急ショートステイが、もっと手続きに時間がかからず利用できると助かる。介護者の緊急な入院等で、利用者の受入れ先を探す必要がある事が多々あるが、診療情報提供書で血液検査やX線が必須になっており、実質緊急時には利用できないので、困ってしまう。なんとか、緊急時の受け入れ体制を整えてもらいたい。 				
区内横出しサービスの新設	<ul style="list-style-type: none"> ・独居、老々介護の人を最後まで在宅で支えるためには、今の給付の限度額では絶対不足している。在宅を推進していくには、区独自に上乗せ横出しの制度を新たに創設してもらいたい。 				

V. 介護保険サービス事業所調査

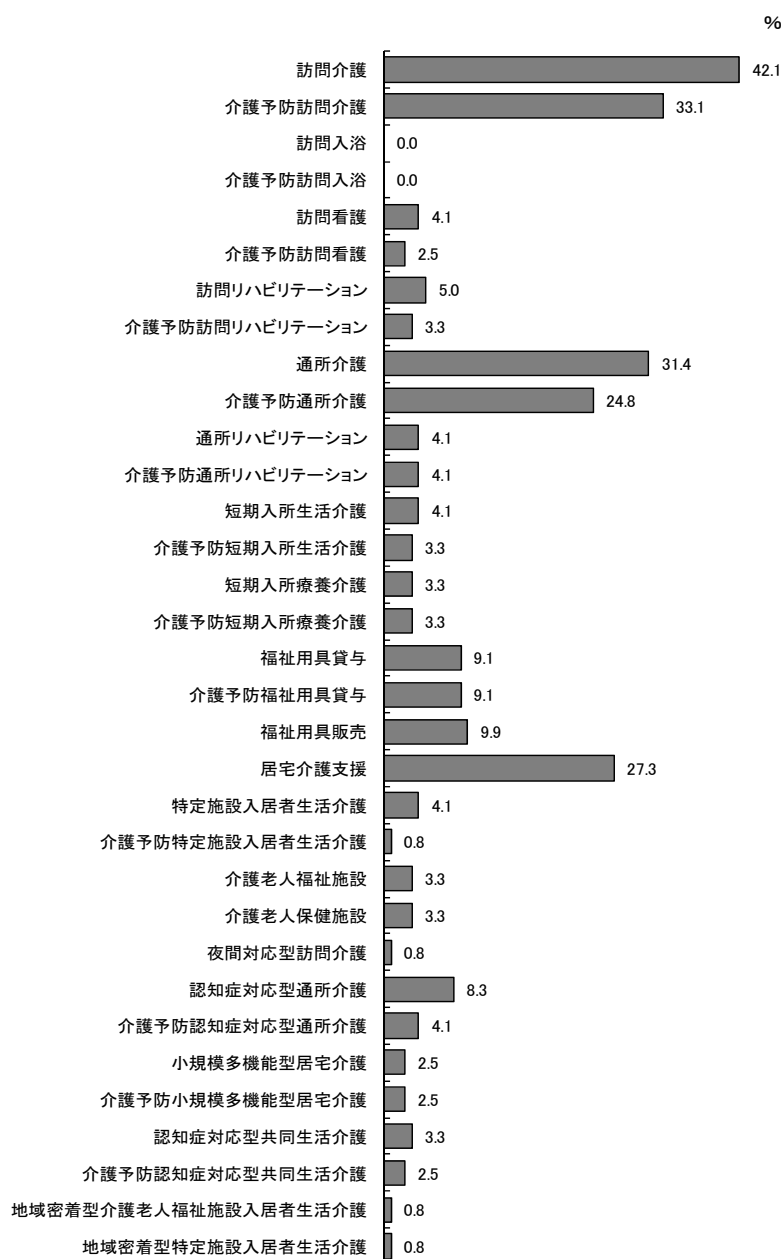
1. 事業所の概要

(1) 指定を取得しているサービス

問1 貴事業所が、指定を受けているサービスについて、利用申込者への対応状況、経営状況、今後4年間における事業展開の意向についておたずねします。

指定を取得しているサービスでは、「訪問介護（42.1%）」が最も多く、続いて「介護予防訪問介護（33.1%）」「通所介護（31.4%）」の順であった（図表5-1）。

図表5-1 指定を取得しているサービス（N=121）

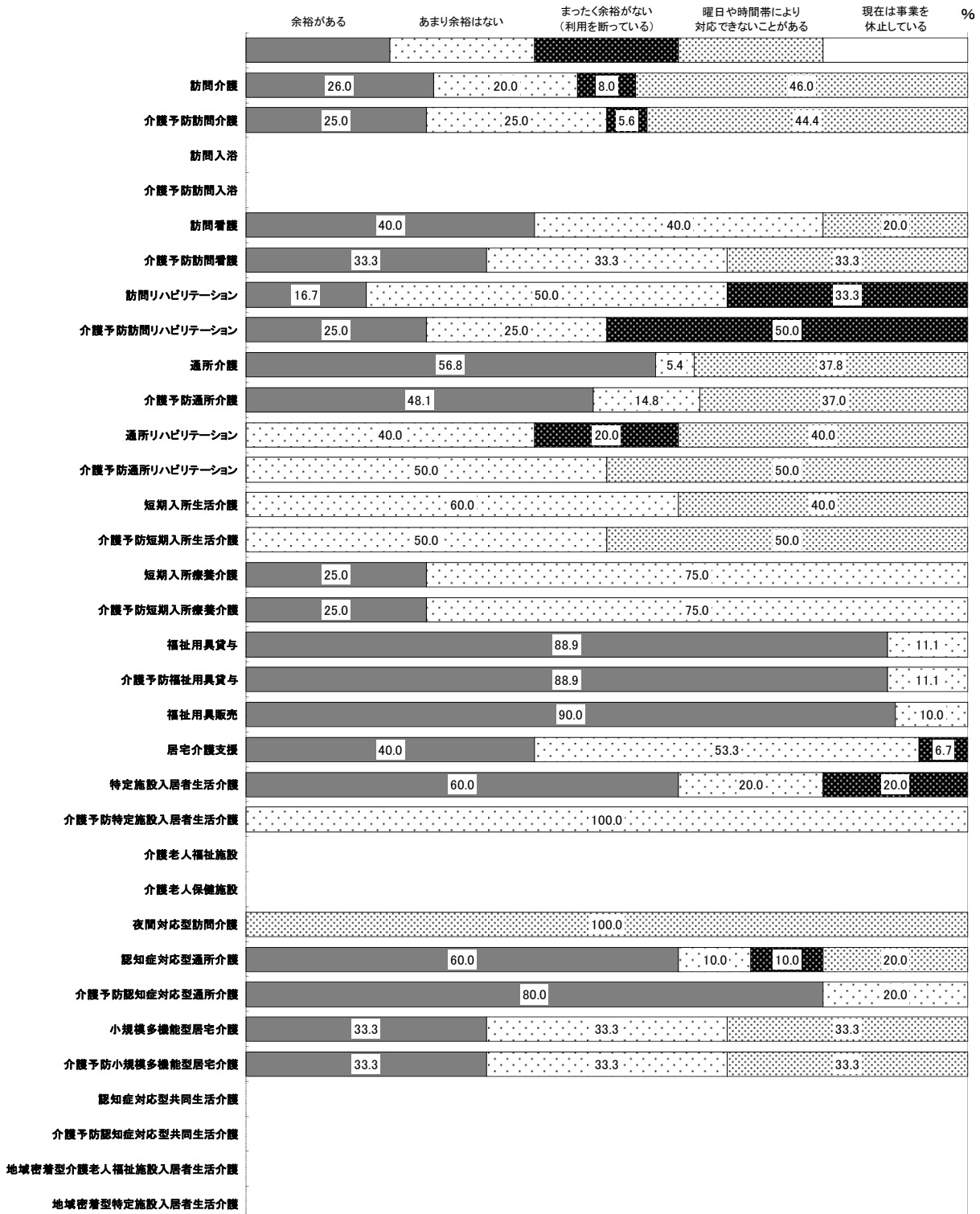


(2) 現在の事業体制での利用申込者への対応状況

「福祉用具販売（90.0%）」「福祉用具貸与（88.9%）」「介護予防福祉用具貸与（88.9）」のサービスについては、約9割の事業所が「余裕がある」と回答した。

一方、「訪問リハビリテーション（83.3%）」「介護予防訪問リハビリテーション（75.0%）」「短期入所生活介護（60.0%）」「短期入所療養介護（75.0%）」「介護予防短期入所療養介護（75.0%）」「居宅介護支援（60.0%）」では、6割以上の事業所が「余裕がない」（「あまり余裕はない」「まったく余裕がない」）との回答であった（図表5-2）。

図表5-2 現在の事業体制での利用申込者への対応状況（N=121）

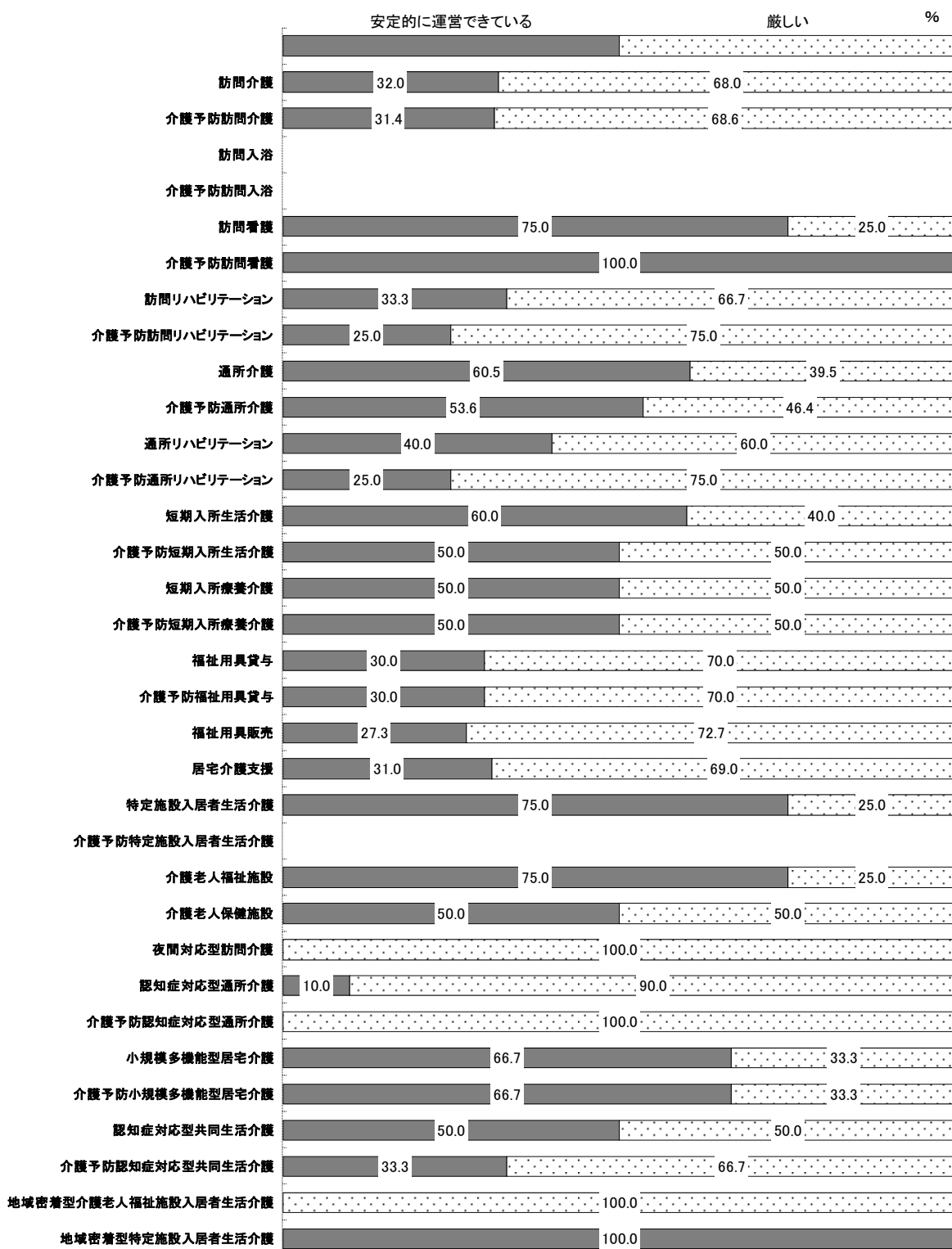


(3) 経営状況

「通所介護（60.5%）」「介護予防通所介護（53.6%）」では、5割以上の事業所が「安定的に運営できている」と回答した。

一方、「訪問介護（68.0%）」「介護予防訪問介護（68.6%）」「福祉用具貸与（70.0%）」「介護予防福祉用具貸与（70.0%）」「福祉用具販売（72.7%）」「居宅介護支援（69.0%）」「認知症対応型通所介護（90.0%）」では、5割以上の事業所が「厳しい」との回答であった（図表5-3）。

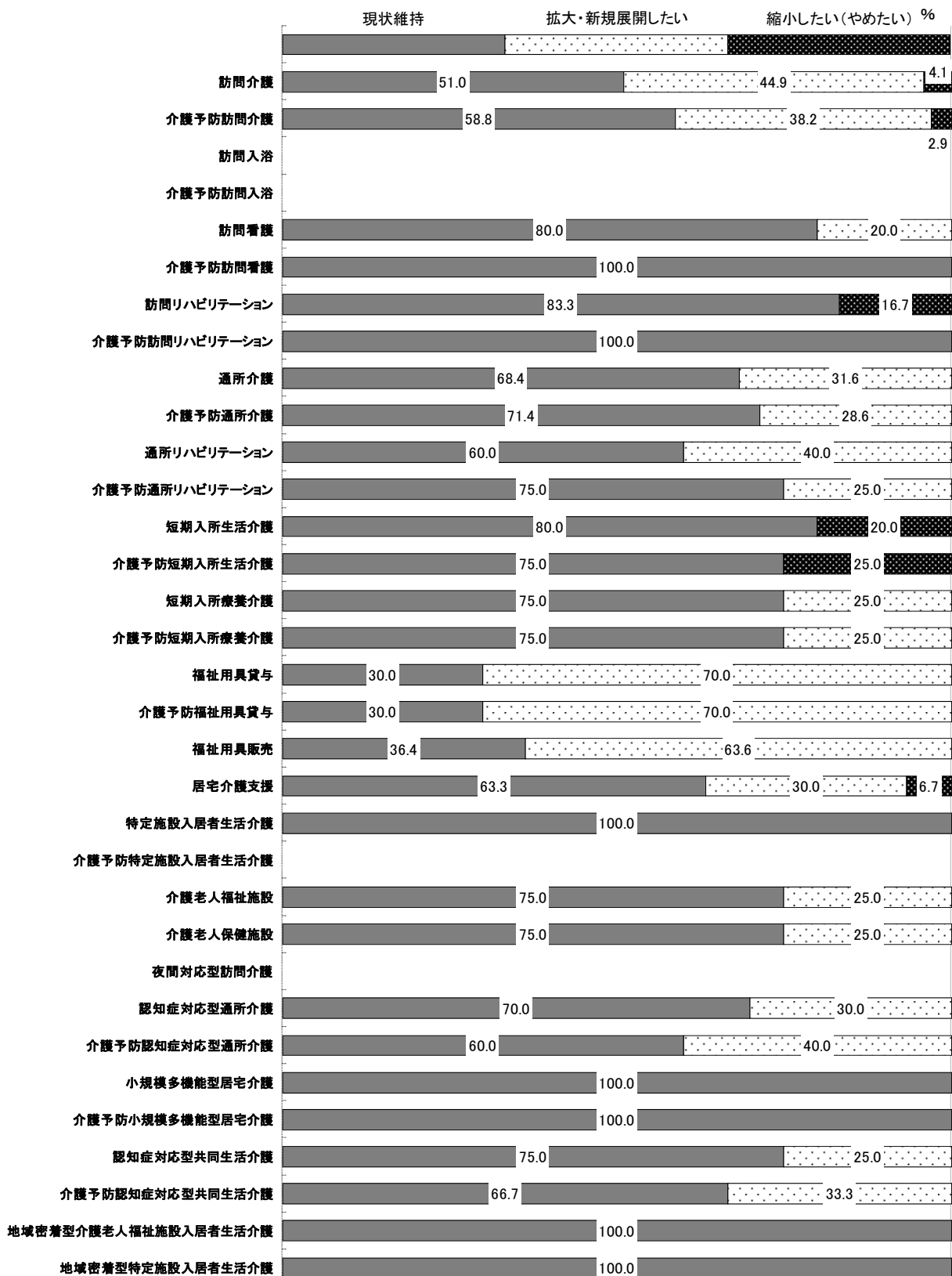
図表5-3 経営状況（N=121）



(4) 今後4年間(平成26年度まで)の新宿区内での事業規模の意向

全般的に、いずれのサービスも「現状維持」と回答した事業所が多いが、「福祉用具貸与(70.0%)」「介護予防福祉用具貸与(70.0%)」「福祉用具販売(63.6%)」では、「拡大・新規展開したい」と回答した事業所が多い(図表5-4)。

図表5-4 今後4年間(平成26年度まで)の新宿区内での事業規模の意向(N=121)

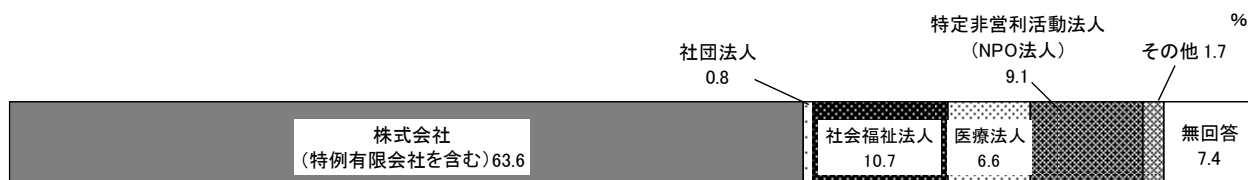


(5) 法人格

問 20 貴事業所の法人格はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

事業所の法人格は、「株式会社（特例有限会社を含む）」が最も多く、63.6%であった（図表 5-5）。

図表 5 - 5 法人格 (N=121)



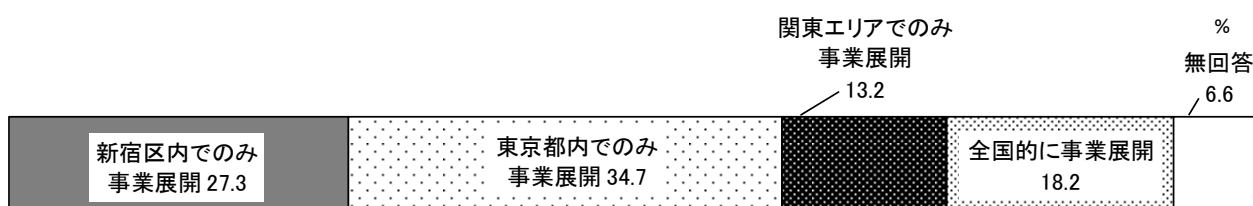
※なお、選択肢の「合名・合資会社」「財団法人」は0.0%であった。

(6) 法人の事業エリア

問 21 貴事業所の属する法人の事業エリアは、どれですか？（あてはまる番号に1つ）

事業エリアは、「東京都内でのみ事業展開（34.7%）」が最も多く、続いて「新宿区内でのみ事業展開（27.3%）」、「全国的に事業展開（18.2%）」の順であった（図表 5-6）。

図表 5 - 6 事業エリア (N=121)



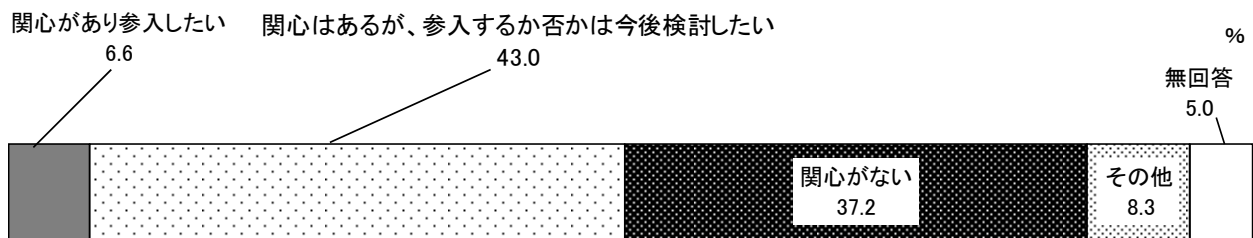
2. 今後の参入意向

(1) 小規模多機能型居宅介護への参入意向

問2 貴事業所は、小規模多機能型居宅介護の参入意向についてどのようにお考えですか？
(あてはまる番号に1つ)

「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい(43.0%)」と回答した事業所が最も多く、次いで「関心がない(37.2%)」であった(図表5-7)。

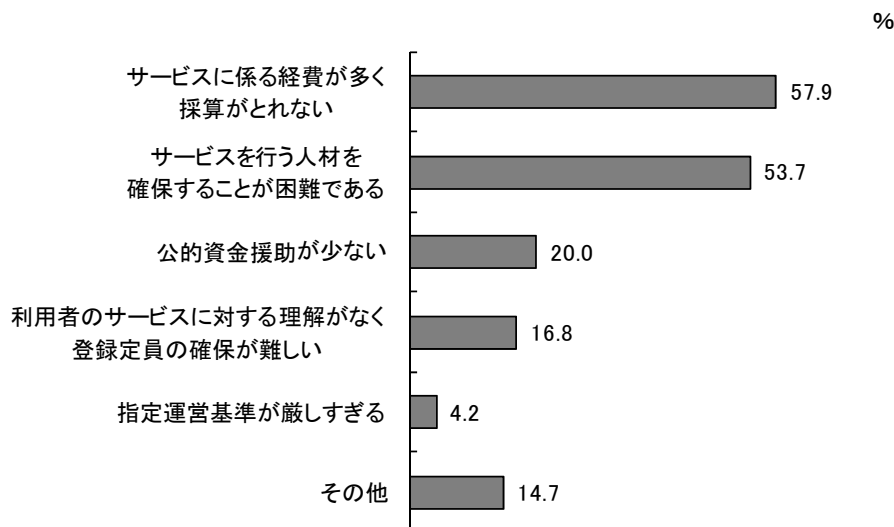
図表5-7 小規模多機能型居宅介護への参入意向(N=121)



問2-1 小規模多機能型居宅介護への参入の課題を、どうお考えですか？
(あてはまる番号すべてに)

小規模多機能型居宅介護への参入の課題は、「サービスに係る経費が多く採算がとれない(57.9%)」と回答した事業所が最も多く、次いで「サービスを行う人材を確保することが困難である(53.7%)」であった(図表5-8)。

図表5-8 小規模多機能型居宅介護への参入課題(複数回答)(N=95)

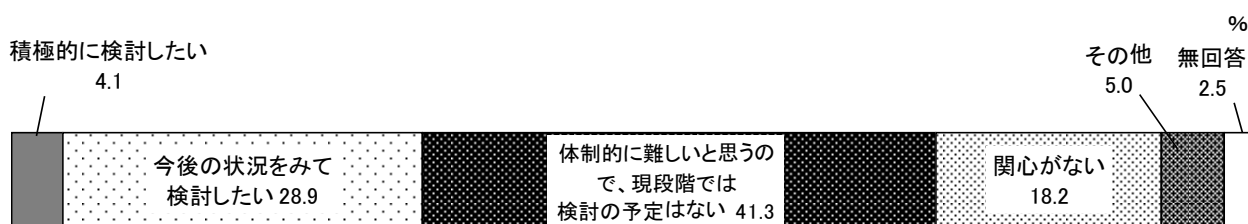


(2) 「宿泊付デイサービス」への参入意向

問3 現在、国（社会保障審議会介護保険部会）では、宿泊が可能なデイサービスセンターとして「宿泊付デイサービス」の創設を検討しています。
 貴事業所は、「宿泊付デイサービス」への参入を、どうお考えですか？
 （あてはまる番号に1つ）

「体制的に難しいと思うので、現段階では検討の予定はない（41.3%）」と回答した事業所が最も多く、次いで「今後の状況をみて検討したい（28.9%）」であった（図表5-9）。

図表5-9 宿泊付デイサービスへの参入意向（N=121）

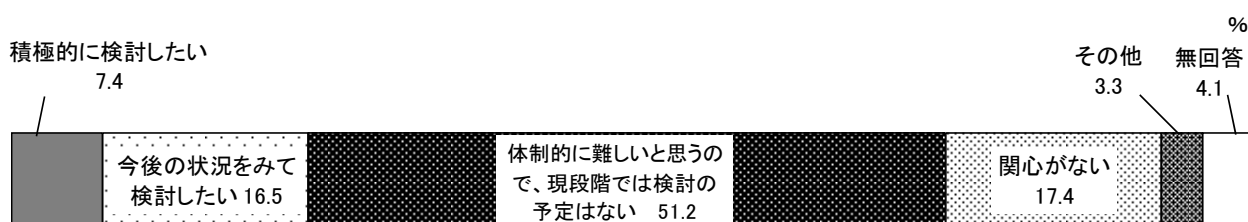


(3) 「24時間地域巡回型訪問サービス」への参入意向

問4 現在、国（社会保障審議会介護保険部会）では、在宅においても24時間365日対応可能なサービス提供体制を確保するとの観点から「24時間地域巡回型訪問サービス」の創設を検討しています。
 貴事業所では、「24時間地域巡回型訪問サービス」への参入を、どうお考えですか？
 （あてはまる番号に1つ）

「体制的に難しいと思うので、現段階では検討の予定はない（51.2%）」と回答した事業所が最も多く、次いで「興味がない（17.4%）」となっている（図表5-10）。

図表5-10 24時間地域巡回型訪問サービスへの参入意向（N=121）

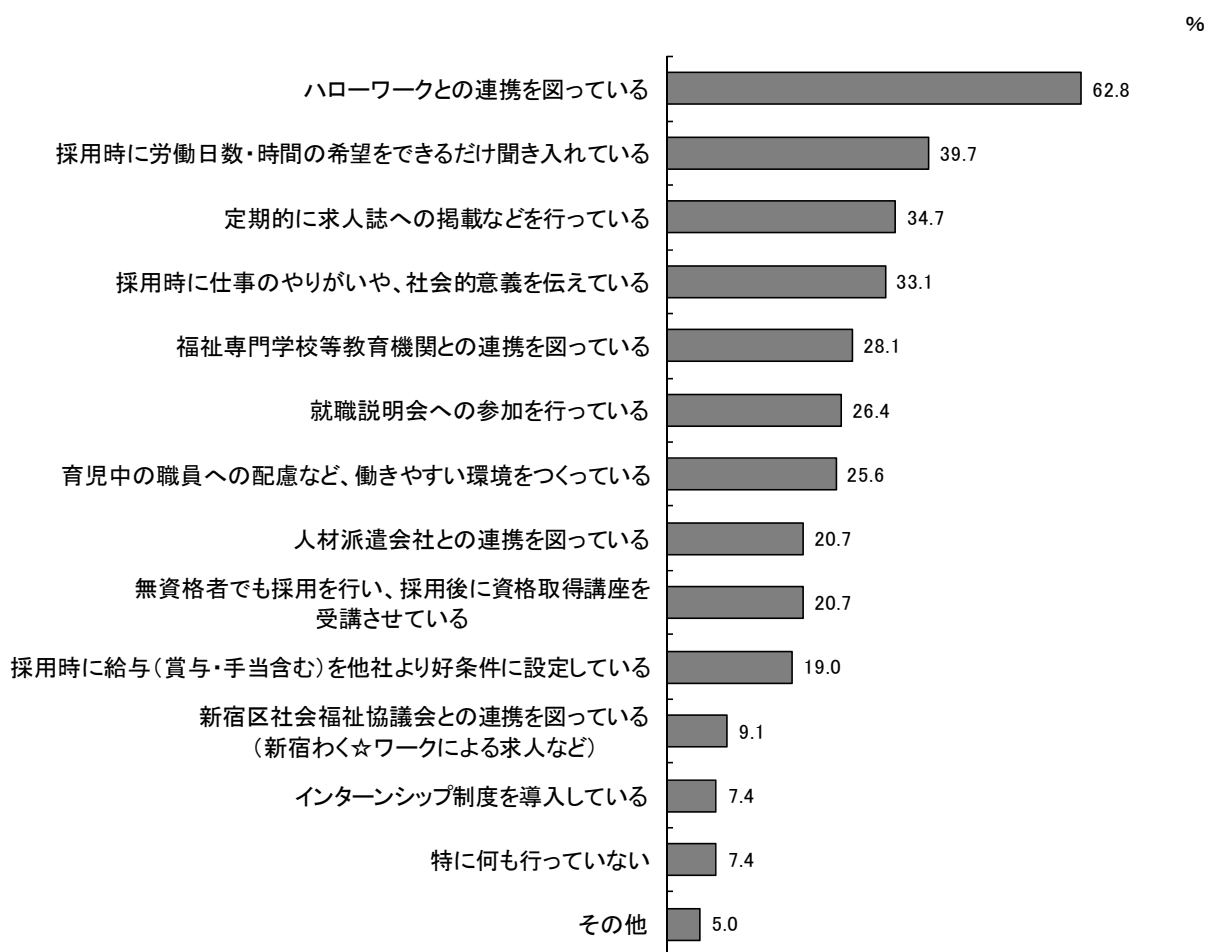


3. 新規人材の確保について

問5 貴事業所では、新規人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか？
 (あてはまる番号すべてに)

「ハローワークとの連携を図っている(62.8%)」と回答した事業所が最も多く、続いて「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている(39.7%)」、「定期的に求人誌への掲載などを行っている(34.7%)」の順であった(図表5-11)。

図表5-11 新規人材確保のための取り組み(複数回答)(N=121)



また差し支えなければ、新規人材の確保について、貴事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。

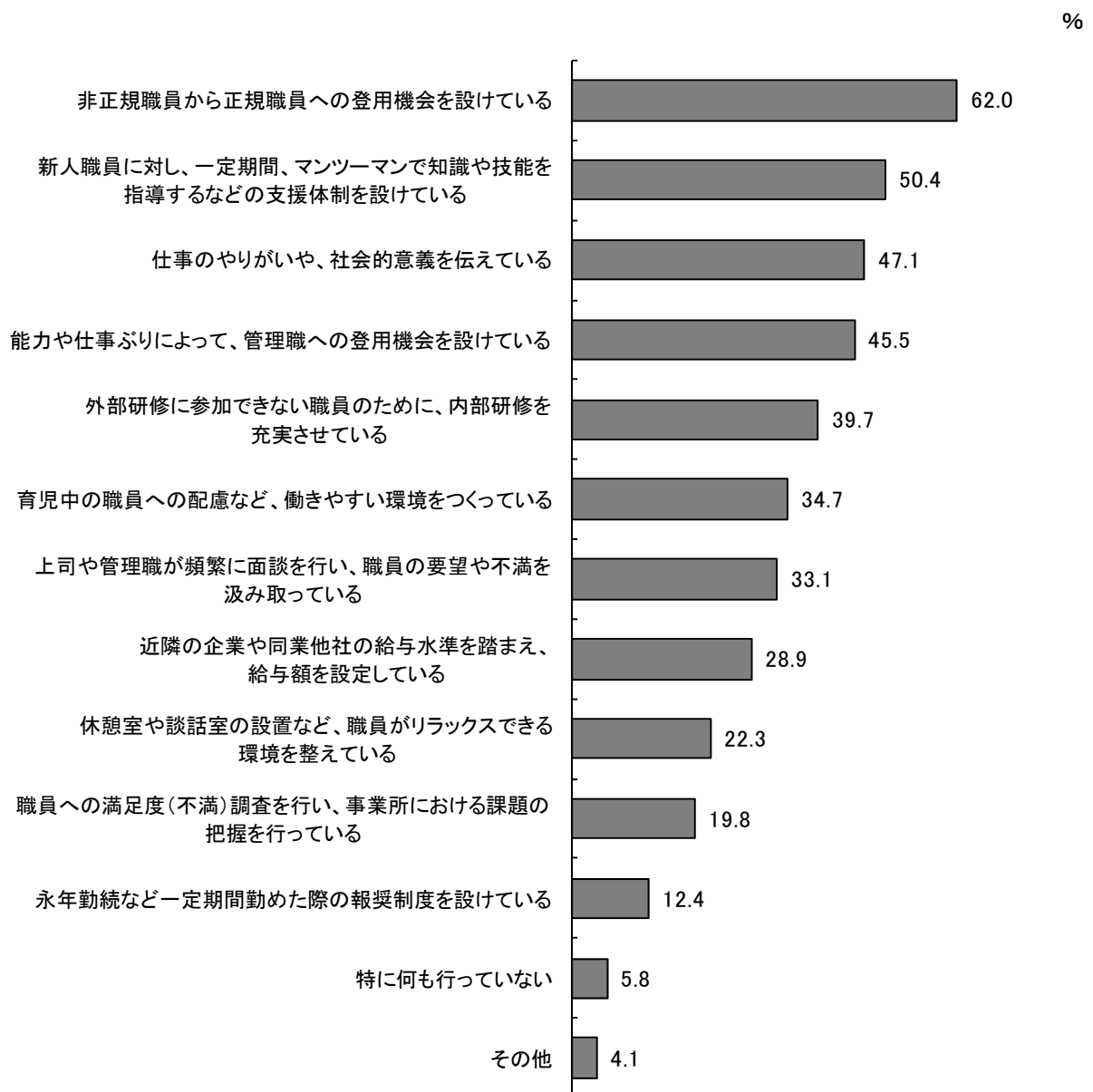
具体的取り組み
・知人、友人からの紹介。
・現在働いているヘルパーの口コミや利用者さんからの情報で採用している。
・信頼できる在職中のスタッフからの紹介で採用する
・事業所単位ではなく、法人単位で行っている。
・研修生の受け入れを行っている。
・介護雇用プログラム、未経験者の雇用等、各種介護職への就労支援プログラムに参画。
・職場環境を快適にしている。清潔・整理整頓・備品の充実等。
・欠員が生じた場合は、ハローワーク、人材派遣会社へ求人依頼を行う。教育機関に関しては、アルバイト(学生)等を募集している。
・福祉専門学校へ求人票を提出、インターンシップ制度を行う。
・大学生、ボランティアサークルなどから介護に興味のある学生を募り、ヘルパー2級資格を取ってもらい、登録ヘルパーとして雇用する。
・講座を開催し、ヘルパー資格を取得した方を採用している。
・フリーペーパー等にたよっている。
・実習に来ている学生を採用することが多い。
・介護保険適用外での自費サービス及び家事サポートサービスも運営しており、介護資格が無資格の者に対しても採用できる体制を整えている。本人が希望する場合は、資格取得の支援をしている。
・正社員、常勤パート、登録型ヘルパーと3つの働き方を提示しています。 新宿エリアに関しては、登録型ヘルパーの採用が特に難しく、紹介キャンペーンや精勤手当、皆勤手当など、働きがいのある環境作りに取り組んでいる。
・バーンアウト予防、リフレッシュの目的もあり、夏に1~2週間の休みを順番に取っている。職員のライフスタイルに合わせて、勤務時間を決めている。
・お互いに良く話せる雰囲気の良い職場づくり。事業所として目指すものを共有化している。
・介護のあり方を聞くと共に事業所側の意向も伝えている。
・ケアマネジャーの採用では、同行訪問や行動もともにするなど、丁寧に育成している。
・当法人で看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士の養成所を運営しており、当該校より採用に努めている。
・外部、内部の研修への参加。専門に、行政書士を配置し、職員のトラブル、苦情にも対応。
・立ち上げ時は法人で就職説明会を月1回実施。インターネットの求人サイトで情報提供。
・採用前に必ず見学してもらい、その上で双方の条件が合った人だけ採用している。

4. 人材の定着・育成（離職の防止）について

問6 貴事業所では、人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取り組みを行っていますか？（あてはまる番号すべてに）

「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている(62.0%)」と回答した事業所が最も多く、続いて「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている(50.4%)」「仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている(47.1%)」の順であった(図表5-12)。

図表5-12 人材の定着・育成（離職の防止）のための取り組み（複数回答）(N=121)



また差し支えなければ、人材の定着・育成（離職の防止）について、貴事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。

具体的取り組み
・働きやすい雰囲気づくり、休暇を取りやすい雰囲気づくりをしている。
・月2回のヘルパー会議において各人が上下関係なく意見交換を行っている。
・非常勤でも賞与を出している。
・登録ヘルパーが安心して働けるように、身体介護ケアの要望があれば、自信をもって出来るまで職員が同行又は個別に技術指導している。
・仕事を共にしながら、コミュニケーションをよく図り、不満や不安など聞き取りをしている。
・スキルアップのために積極的に外部研修の参加を行っている。
・チームで利用者さんを支援しているという意識を持ってもらい、コミュニケーションがうまくいくように事務所で調理し、みんなで昼食を取るようになっている。健康面を考慮し、おいしい食事を提供しています。
・義母の介護で悩んでいる職員に、8月1ヵ月の休みを取ってもらいました。（有給休暇と代休を含め）
・残業を少なく有休を全常勤が消化。
・職員の意向を汲み取るため、毎月1回職員会議を実施。
・春・秋に全員参加の旅行実施。（経費は全部会社負担）
・仕事に必要な資料・器材はできるだけ確保し、働きやすい環境を整えている。作業衣等は、職員参加で決めている。
・パート採用し希望があれば3ヶ月後に正社員への登用を行っている。（フル勤務、週5日の場合）
・入社後1ヵ月、3ヶ月、6ヶ月の時点で面談を行い、不満や不安を聞き対応している。
・サービス提供責任者と訪問介護員との頻繁なコミュニケーション。
・介護支援専門員の研修。（特に医療との連携）
・訪問介護員の時間単価アップ、利用者都合による当日キャンセル分の手当（事業所負担）など、非常勤登録型ヘルパーに対してもキメ細やかな対応をすることによりモチベーション向上を図っている。
・キャリアパス制度を創設し、自分と会社の目標を、面談により設定し、評価（自己、他者）に結びつけている。
・今年度より職層別研修も開始し、期待される役割についてグループディスカッションや講義から学んでいる。
・ヘルパー向けの現場研修では、事業所単位で実技などの研修を行っている。また、今年度より所長との定例面談を開始し、部下とのコミュニケーションの充実化を図っている。
・同行を基準に、二人で担当し、安定したら移行しています。プランの点検とできるだけ多くの院外研修等で知識経験を積み重ねられる様にしています。交流会も意識的にしています。
・法人傘下の病院、診療所、老人保健施設、有料老人ホームにおける独自の給与体系で整合性を期待している。（同業他社の給与水準は余り考慮していない。）
・職員の福利厚生に力点を置いている。（全員参加を目標としている　～　は夜勤等もあり各2回実施）
一泊旅行
ディズニーランド
観劇
南志賀高原・湯沢に厚生施設を自営
・チームや職員間で情報交換や情報の共有ができるように毎日のケース検討会の他、日常的に事業所での申し送りや留意事項の伝達を行っている。また、個々の職員の状況に応じた技術指導を行っている。

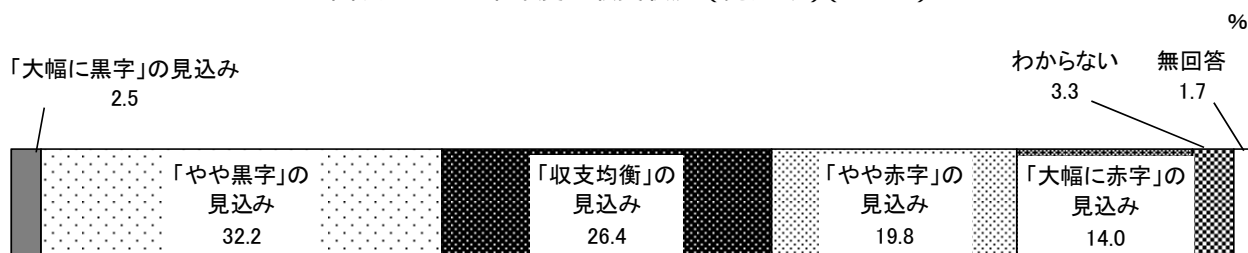
5. 収支状況・処遇改善

(1) 本年度（見込み）

問7 貴事業所の、本年度の収支状況（見込み）はどうか？
（あてはまる番号に1つ）

本年度の収支状況（見込み）は、「大幅に黒字（2.5%）」「やや黒字（32.2%）」と回答した事業所が合わせて約3割、「大幅に赤字（14.0%）」「やや赤字（19.8%）」と回答した事業所が合わせて約3割と、ほぼ同数であった（図表5-13）。

図表5-13 本年度の収支状況（見込み）(N=121)

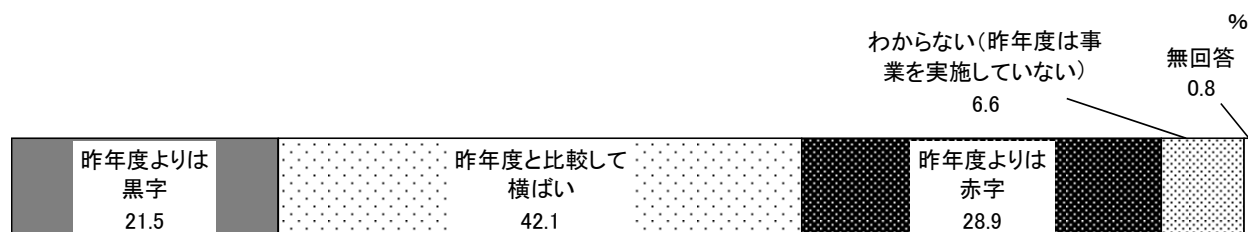


(2) 昨年度との比較

問8 貴事業所の、昨年度と比較した収支状況はどうか？（あてはまる番号に1つ）

昨年度と比較した収支状況では、「昨年度と比較して横ばい（42.1%）」の事業所が最も多く、続いて「昨年度よりは赤字（28.9%）」「昨年度よりは黒字（21.5%）」の順であった（図表5-14）。

図表5-14 昨年度と比較した収支状況 (N=121)

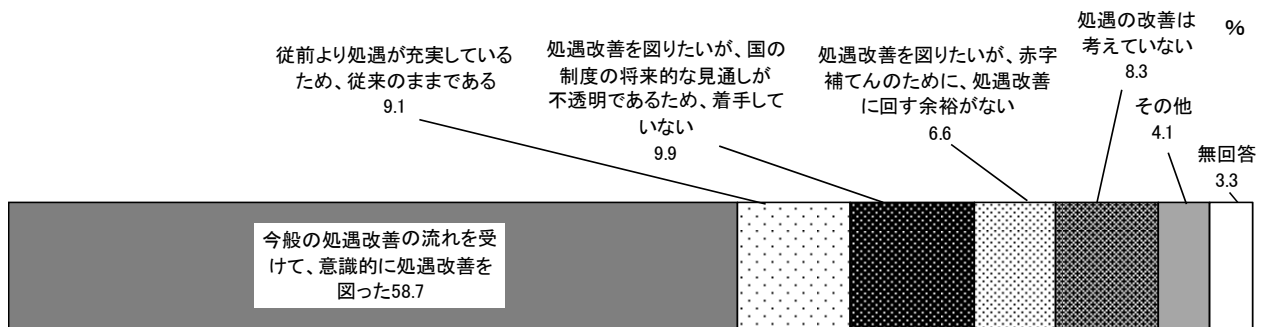


(3) 処遇改善の取り組み

問9 国では、介護従事者の処遇改善を目的に、報酬を改定するなど、様々な取り組みをおこなっています。貴事業所では、処遇改善（給与や時給単価のアップなど）を図りましたか？
（あてはまる番号に1つ）

介護従事者の処遇改善に向けた取り組みでは、「今般の処遇改善の流れを受けて、意識的に処遇改善を図った（58.7%）」と回答した事業所が、約6割と最も多かった（図表5-15）。

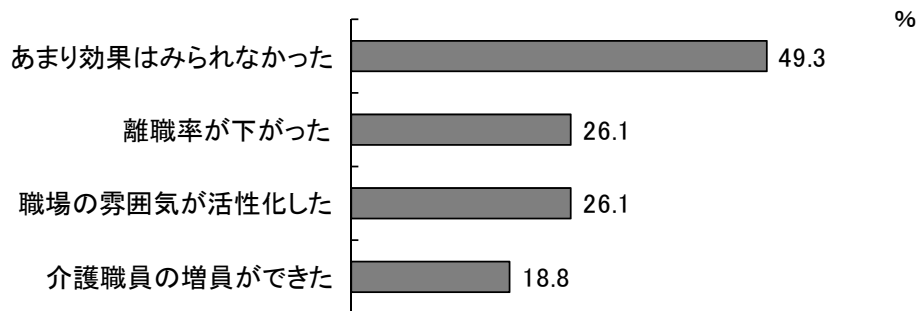
図表5-15 処遇改善の状況（N=121）



問9-1 貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか？
（あてはまる番号すべてに）

処遇改善の効果については、「あまり効果はみられなかった（49.3%）」と回答した事業所が、約5割と最も多かった（図表5-16）。

図表5-16 処遇改善の効果（複数回答）(N=69)

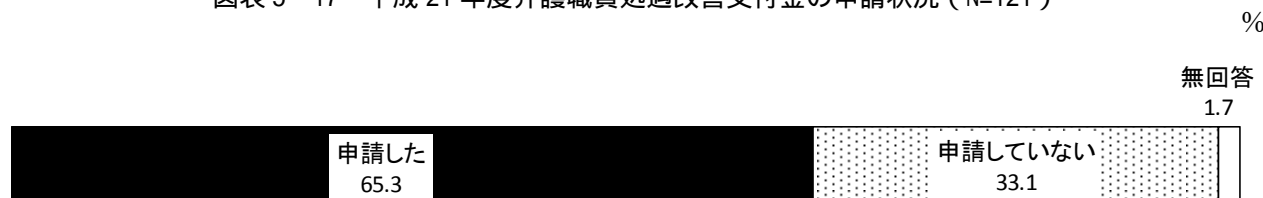


(4) 平成21年度介護職員処遇改善交付金の申請状況

問10 貴事業所では、平成21年度介護職員処遇改善交付金の申請をしましたか？
(あてはまる番号に1つ)

平成21年度に介護職員処遇改善交付金を「申請した」と回答した事業所は、65.3%であった(図表5-17)。

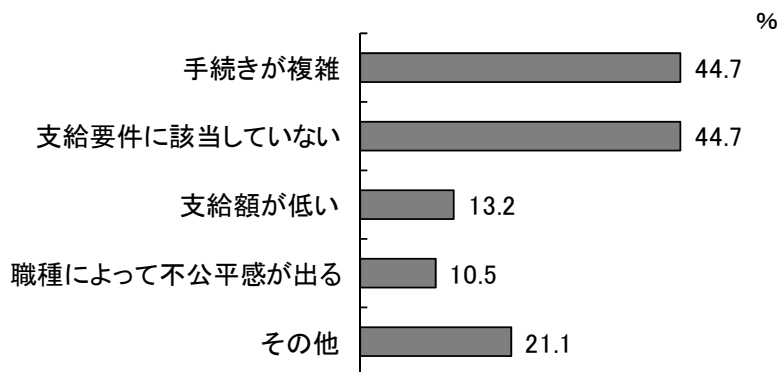
図表5-17 平成21年度介護職員処遇改善交付金の申請状況(N=121)



問10-1 申請しない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

平成21年度に介護職員処遇改善交付金を「申請していない」理由では、「手続きが複雑」と「支給要件に該当していない」が、ともに44.7%であった(図表5-18)。

図表5-18 申請しない理由(平成21年度)(複数回答)(N=38)

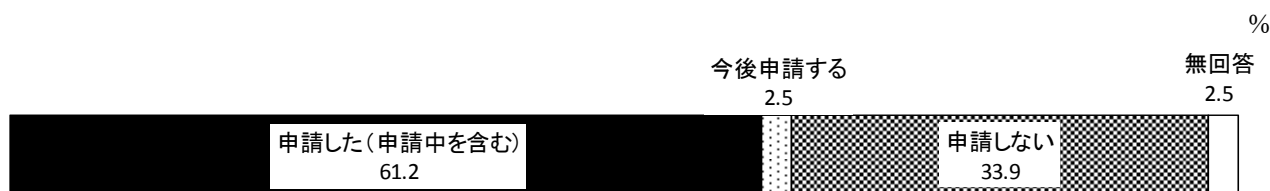


(5) 平成22年度介護職員処遇改善交付金の申請状況

問11 貴事業所では、平成22年度介護職員処遇改善交付金（キャリアパス要件が必要）の申請を
しましたか？（あてはまる番号に1つ）

平成22年度に介護職員処遇改善交付金を「申請した（申請中を含む）」と回答した事業所は、61.2%であった（図表5-19）。

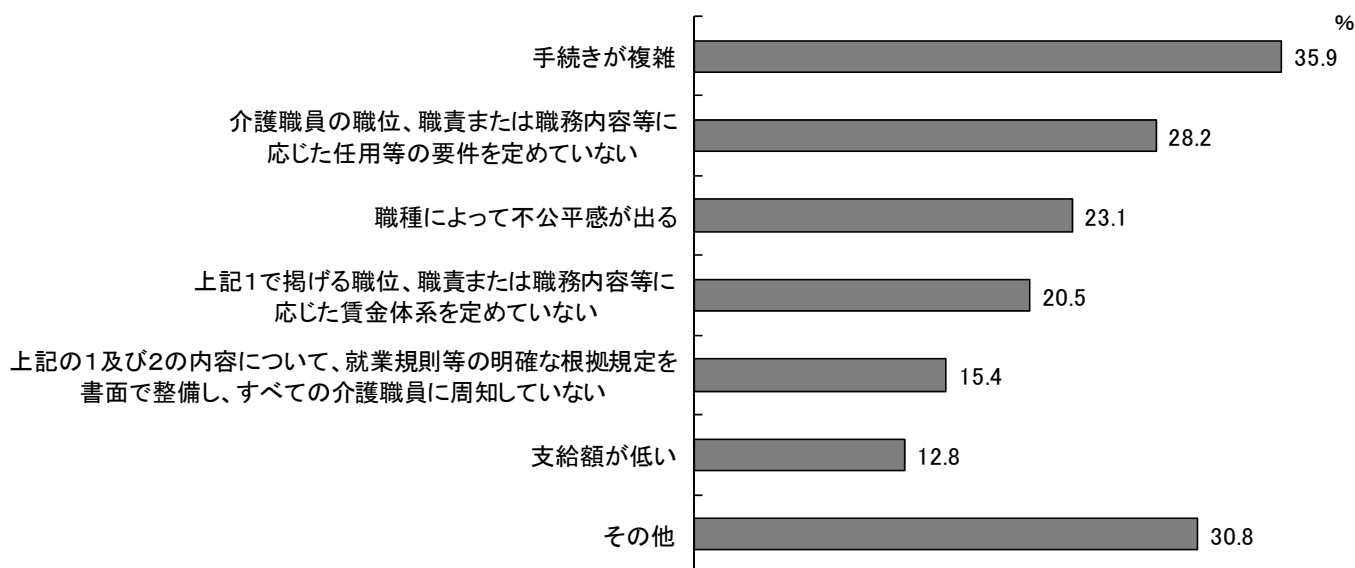
図表5-19 平成22年度介護職員処遇改善交付金の申請状況（N=121）



問11-1 申請しない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

平成22年度に介護職員処遇改善交付金を「申請しない」理由では、「手続きが複雑（35.9%）」が最も多く、次いで「介護職員の職位、職責または職務内容等に応じた任用等の要件を定めていない（28.2%）」であった（図表5-20）。

図表5-20 申請しない理由（平成22年度）（複数回答）（N=39）

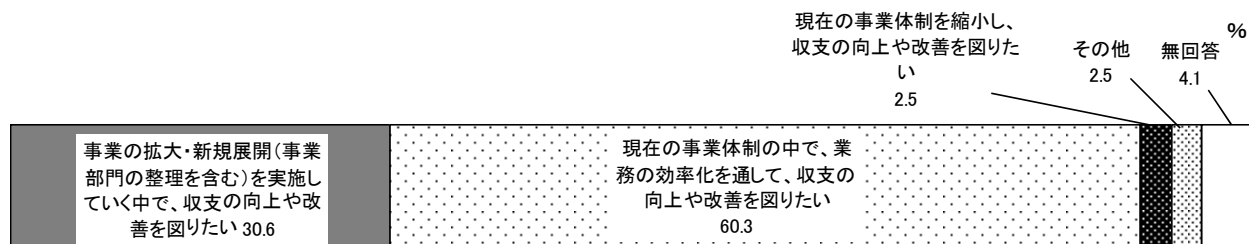


(6) 事業所の収支の向上や改善についての考え方

問 12 収支の向上や改善について、貴事業所の考えに近いものはどちらですか？
(あてはまる番号に1つ)

収支の向上や改善についての考え方では、「現在の事業体制の中で、業務の効率化を通して、収支の向上や改善を図りたい(60.3%)」と回答した事業所が最も多く、次いで「事業の拡大・新規展開(事業部門の整理を含む)を実施していく中で、収支の向上や改善を図りたい(30.6%)」であった(図表5-21)。

図表5-21 収支の向上や改善についての考え方(N=121)

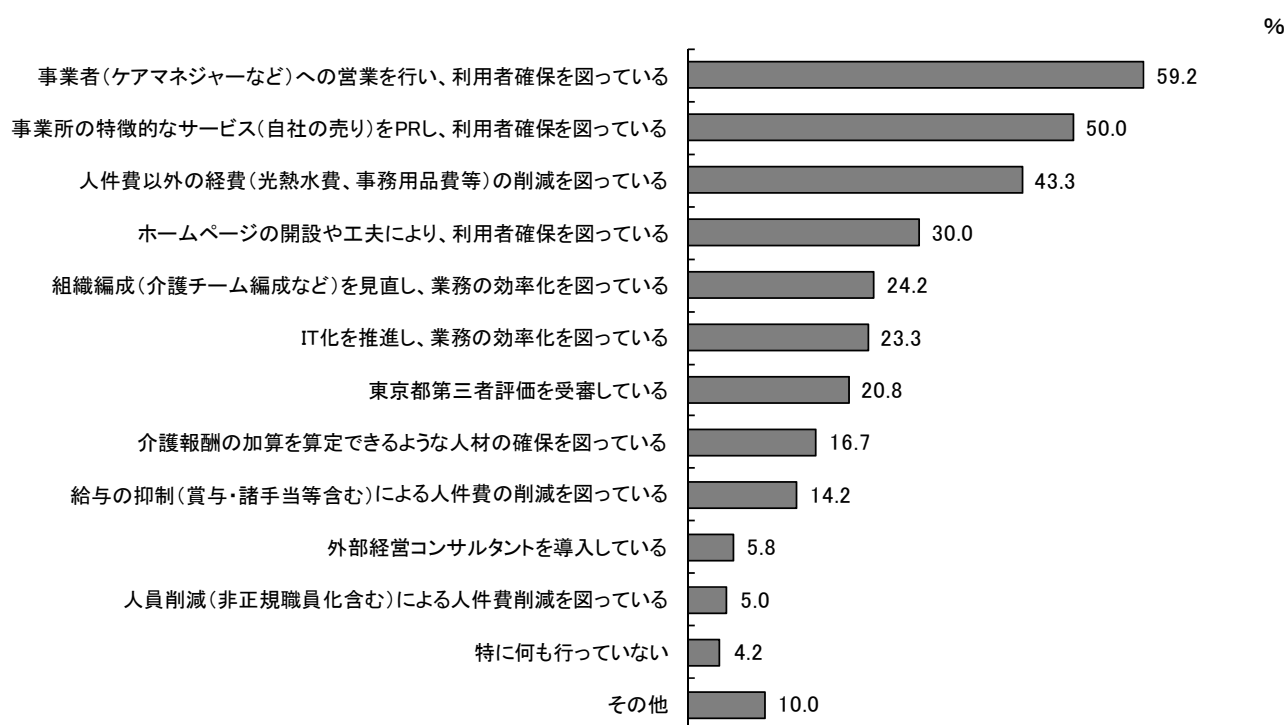


(7) 事業所の収支の向上や改善の取り組み

問 13 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。
(あてはまる番号すべてに)

収支の向上や改善に向けての取り組みでは、「事業者（ケアマネジャーなど）への営業を行い、利用者確保を図っている（59.2%）」と回答した事業所が最も多く、続いて「事業所の特徴的なサービス（自社の売り）をPRし、利用者確保を図っている（50.0%）」「人件費以外の経費（光熱水費、事務用品費等）の削減を図っている（43.3%）」の順であった（図表 5-22）。

図表 5 - 22 収支の向上や改善の取り組み（複数回答）(N=120)



また差し支えなければ、収支の向上や改善に向けた、實事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。

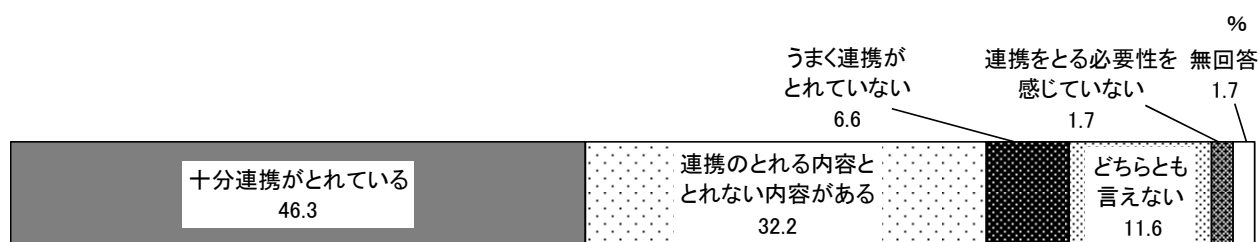
具体的取り組み
・日常生活やイベントの見学を行い、事業所の取組みを理解していただくように心がけている。
・職員の資格取得の推奨。
・補助金の申請を行っている。
・役員報酬の削減。
・人員を増やして訪問件数を伸ばしたいと考えている。
・地域での他職種の集まりにも積極的に参加し、事業所の活動を伝えている。
・依頼がある時は、困難と思われる人も、ケアできる体制がある時は受けています。
・近隣の住居に対し、見学者募集のビラを配布している。
・ケースカンファレンスや研修等、様々な側面から人材の育成とケアの質の向上を図っている。
・介護保険外としての料金は他社と比べて比較的安く設定（NPO法人として地域貢献を優先とするため）していることをアピール。
・ホームページ内に「暮らしの風景」というブログがあり、ホーム内での日常生活を載せている。
・介護チームの再編を行い、リーダーシップのとれる人間を大幅に抜擢し、組織の活性化を図っている。統率力のあるリーダーのもとで営業活動を行い、収入拡大をすすめている。また、効率の良い事業運営のために、介護ソフトの変更を行い、事務負担の軽減に努めている。
・特に光熱水費については、節電、節水のため効率的な補助機械器具を設置するとともに職員に協力を要請している。
・効率的な機器の設置や職員の協力による水光熱費の節約。
・社内研修（ケアマネジャー2月に1回、サービス提供責任者は、毎月）を実施し、問題を共有しサービスの質の向上を図る様、努力している。口コミで利用が増えることを期待している。
・アンケート調査による情報収集とサービスへの反映。
・講師の依頼を積極的に受けて副収入を得る。

6. 高齢者総合相談センターとの連携

問 14 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携がとれていますか？
（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携状況では、「十分連携がとれている（46.3%）」と回答した事業所が最も多かった。一方、「連携のとれる内容ととれない内容がある」は32.2%、「うまく連携がとれていない」は6.6%であった（図表 5-23）。

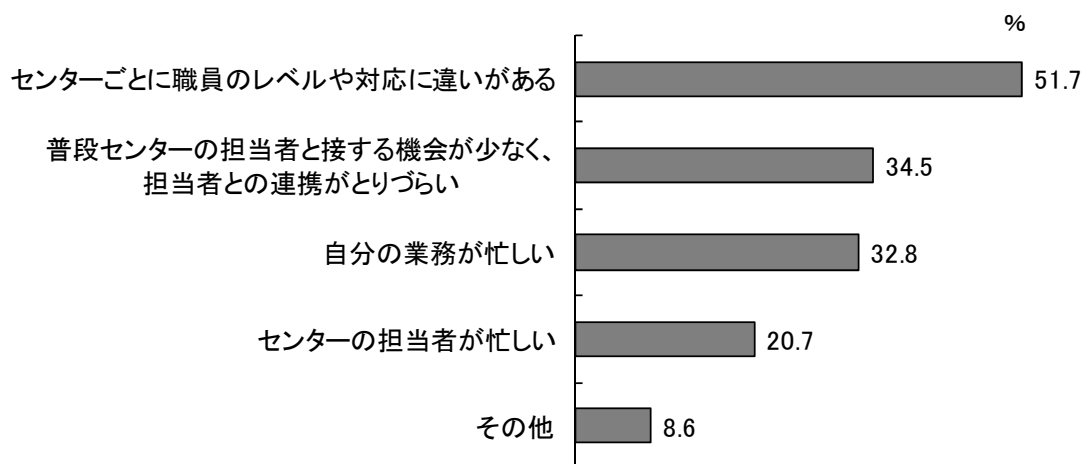
図表 5 - 23 高齢者総合相談センターとの連携状況（N=121）



問 14-1 連携がとれていない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

連携がとれていない理由については、「センターごとに職員のレベルや対応に違いがある（51.7%）」と回答した事業所が最も多く、次いで「普段センターの担当者と接する機会が少なく、担当者との連携がとりづらい（34.5%）」であった（図表 5-24）。

図表 5 - 24 連携がとれていない理由（高齢者総合相談センター）（複数回答）（N=58）

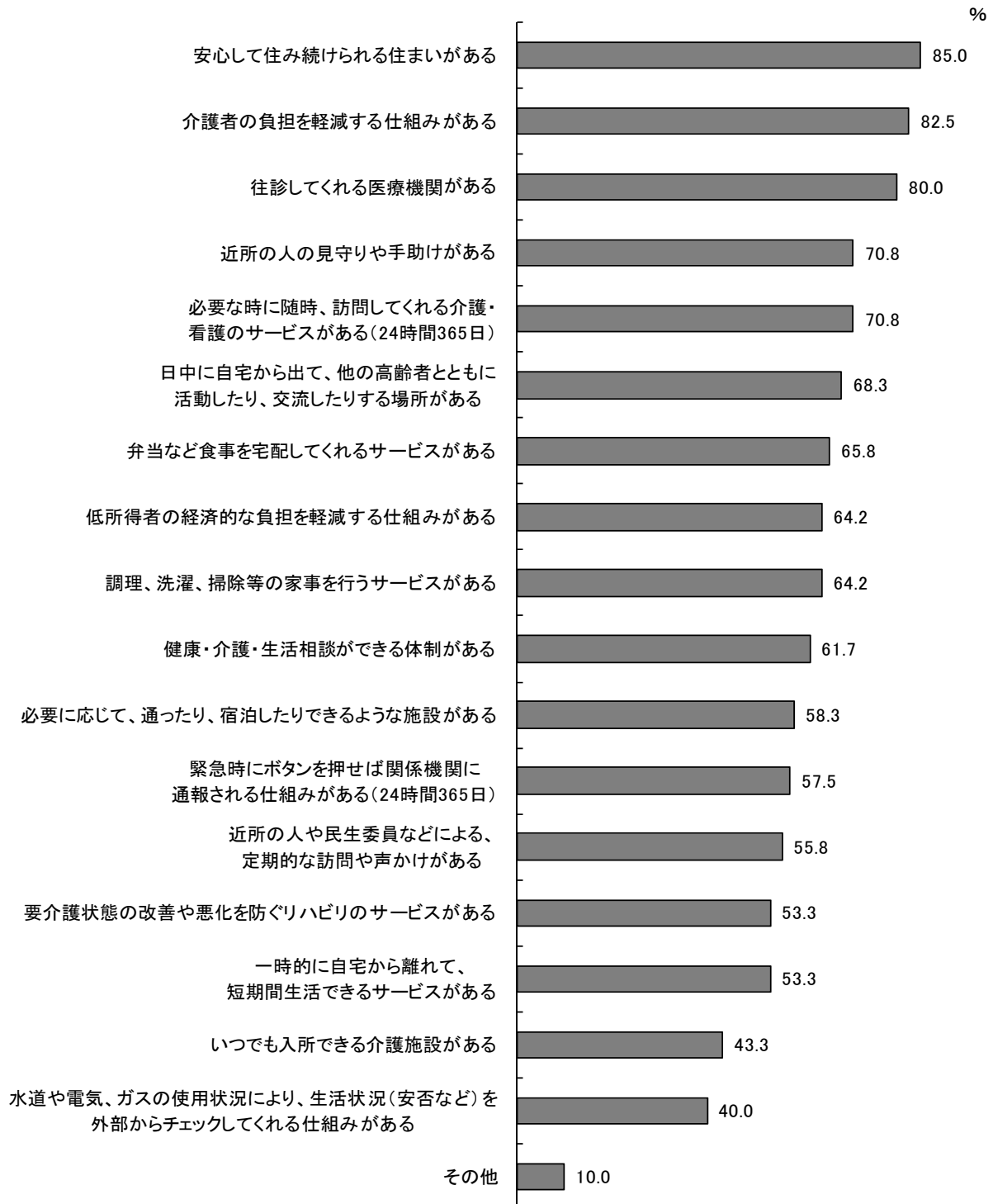


7. 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なこと

問 15 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なことは、何だと思えますか？
 (あてはまる番号すべてに)

要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なことでは、「安心して住み続けられる住まいがある(85.0%)」と回答した事業所が最も多く、続いて「介護者の負担を軽減する仕組みがある(82.5%)」「往診してくれる医療機関がある(80.0%)」の順であった(図表 5-25)。

図表 5 - 25 在宅で暮らし続けるために必要なこと(複数回答)(N=120)

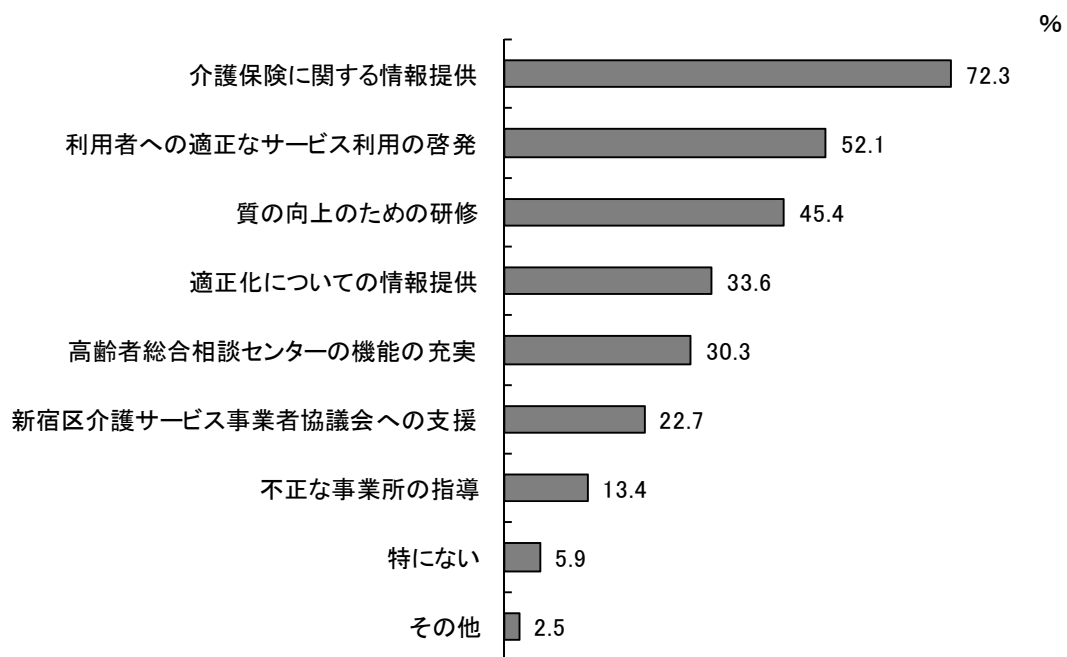


8. 新宿区への要望について

問 16 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか？
(あてはまる番号すべてに)

新宿区への要望では、「介護保険に関する情報提供（72.3%）」と回答した事業所が最も多く、続いて「利用者への適正なサービス利用の啓発（52.1%）」「質の向上のための研修（45.4%）」の順であった（図表 5-26）。

図表 5 - 26 新宿区に望むこと（複数回答）(N=119)

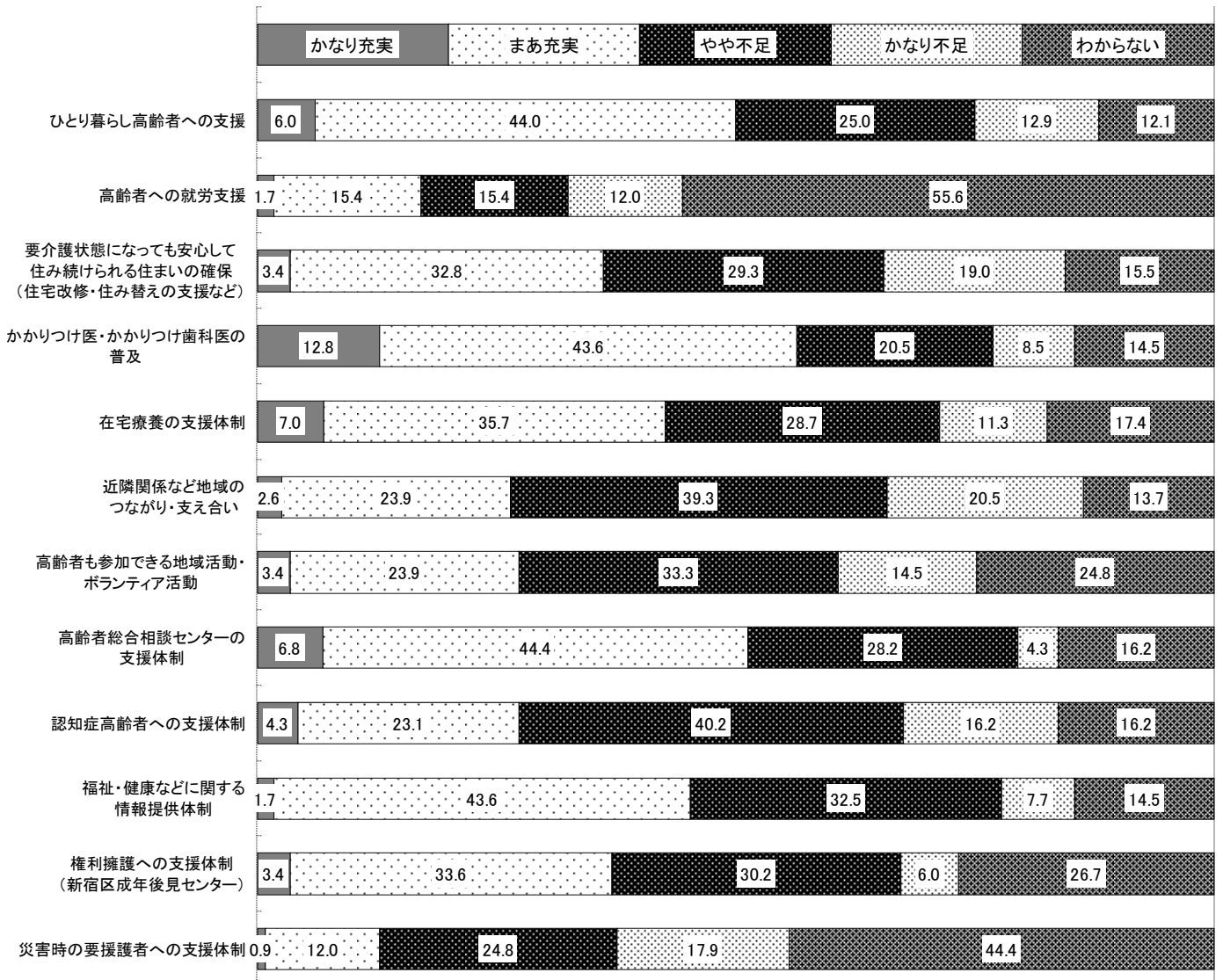


問 17 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか？
 (あてはまる番号それぞれ1つに)

	1. かなり充実	2. まあ充実	3. やや不足	4. かなり不足	5. わからない	
1. ひとり暮らし高齢者への支援	6.0%	44.0%	25.0%	12.9%	12.1%	(N=116)
2. 高齢者への就労支援	1.7%	15.4%	15.4%	12.0%	55.6%	(N=117)
3. 要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいの確保(住宅改修・住み替えの支援など)	3.4%	32.8%	29.3%	19.0%	15.5%	(N=116)
4. かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及	12.8%	43.6%	20.5%	8.5%	14.5%	(N=117)
5. 在宅療養の支援体制	7.0%	35.7%	28.7%	11.3%	17.4%	(N=115)
6. 近隣関係など地域のつながり・支え合い	2.6%	23.9%	39.3%	20.5%	13.7%	(N=117)
7. 高齢者も参加できる地域活動・ボランティア活動	3.4%	23.9%	33.3%	14.5%	24.8%	(N=117)
8. 高齢者総合相談センターの支援体制	6.8%	44.4%	28.2%	4.3%	16.2%	(N=117)
9. 認知症高齢者への支援体制	4.3%	23.1%	40.2%	16.2%	16.2%	(N=117)
10. 福祉・健康などに関する情報提供体制	1.7%	43.6%	32.5%	7.7%	14.5%	(N=117)
11. 権利擁護への支援体制(新宿区成年後見センター)	3.4%	33.6%	30.2%	6.0%	26.7%	(N=116)
12. 災害時の要援護者への支援体制	0.9%	12.0%	24.8%	17.9%	44.4%	(N=117)

新宿区の高齢者支援の状況について、「充実」(「かなり充実」「まあ充実」と回答した割合は、「ひとり暮らし高齢者への支援(50.0%)」「かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及(56.4%)」「高齢者総合相談センターの支援体制(51.2%)」について5割を超えていた。一方で「不足」(「かなり不足」「やや不足」と回答した割合は、「近隣関係など地域のつながり・支え合い(59.8%)」「認知症高齢者への支援体制(56.4%)」で5割を超えていた(図表5-27)。

図表 5 - 27 新宿区の高齢者支援の状況



問 19 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、新宿区や、東京都・国へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。(自由意見)

項目	自由意見
介護職員の処遇改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の処遇改善を足がかりとして国をあげて「誰でもできる仕事」から「プロの仕事」というイメージ定着に努めていただきたい。賃金もさることながら、社会的な地位向上も考えていかなければ、特に若い世代はますます離れていくと思う。 ・制度の規定等の縛りにキリキ舞いといた状況を感じる。特に介護支援専門員の業務は過酷。余裕がなく魅力のある職業とは思えない。 ・サービス残業の毎日疲れ果てる現状をどうにかして欲しい。現在のやり方では子育て中の人をマンパワーとして取り込みにくい。(子供の事で休みがち、時間の制限ありなど) 子育て中の主婦層にサービス提供責任者の職は重圧。 ・介護の仕事は、身体介助の技術など明確に評価できる業務は限定され、対人援助の技術(例:話し方、レクの進め方、調理方法などどれをとっても個人の要望や必要性に応じた対応)を要求される部分も多く、それについては明確な基準もなく、また個別に合わせた臨機応変な対応も多いため評価はあいまいになりがちだ。限られた(決められた)人員配置の中、職員は日中の介護業務に追われ、事務仕事は時間外が当たり前、当然満足に残業代も出ないなかで働いている。この業界全体の待遇というのは不当に低いと感じる。3年に1回の介護報酬の改定も毎回ただ単に予算の振り分けの仕方を変えただけでは働く側の不安解消にはつながらない。介護する側の安定はサービスの質、利用者状態の安定につながる。この先希望がもてるような国としての方向性を示してほしい。 ・有給休暇や年末年始・祭日の代休もなかなか消化できない状態。事務の簡素化ができれば、余裕をもって仕事ができると思う。 ・登録ヘルパーも高齢化してきて厳しい状況である。若い登録ヘルパーの確保は収入が不安定で難しいため、採用するほうも自信をもって採用できない。やりがいをもって仕事に従事するためには、ヘルパーの社会的地位向上とまた安定した収入の保証が必要と思われるが、経営面からみると難しい状況。現在の状況が続くなら、訪問介護事業所の減少と人材の確保という観点から訪問介護サービスを受け在宅で安心して生活できるためのサービスの供給が出来ず、介護難民が増加する。 ・ケアマネジャーの必要性がどんどん低くなり、収入面も低くなるばかり。先々は不安が多い、ただお金を多くもらいたいというだけではないが、人並の扱いを求める。 ・介護報酬が上がらないと良い人材は集まらない。 ・介護職員処遇改善交付金の期間延長を要望する。
介護サービスの地域格差是正	<ul style="list-style-type: none"> ・住む地域によって介護サービスの格差があるのが気になる。 例:住宅改修工事+設備改修工事で新宿では浴槽交換などできますが、茨城県ではできない。 ・地域密着型サービスは小さい単位でしか事業が行えないため、介護保険の地域格差是正を早急をお願いしたい。グループホームなどの在宅サービスも重度化に対応できるように制度設計されていないので、見直してほしい。利用されている方が、レベル低下すると、報酬単価が低いため、正規職員を多く雇用できず、対応できなくなる。利用者にとっては、グループホームに入所 終の棲家と同じと考えており、出てほしいと伝えても行く所がないのが現状。 ・事業者にとっても人件費比率が70%を超えてしまい、厳しい状況が続いている。国では小さい単位のサービスを推進しているはずだが、大規模施設が収益をあげられているのはおかしい。あくまで、利用者側に立った制度設計をお願いする。

介護保険制度の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・改定のたびに制度そのものが益々複雑化している。この10年の改定は、対症療法的で制度は厳しく複雑になる一方である。「利用者本位サービス」どころか利用しにくい制度となっている。事業所にとっても改定のたびに加算などで事務作業が煩雑になり、人と向き合うという本来の業務に力を注ぐことができにくい状況がある。シンプルな制度にすべきである。 ・介護保険の目的である「介護の社会化」からはずれてきている。同居家族がいる場合は生活援助を制限するという問題にも象徴されるように、まだまだ家族ありきの介護になっている。 ・訪問看護を受けるに当たって請求先（医療なのか介護なのか）がとても複雑で何とかわかりやすくしてもらいたい。
事業所用地対策	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なアドバイスをいただけるシステムがあればすぐに飛んで行きたい。事業所で介護の仕事を続けた人もいつかは老いていく。介護職員が老いても一人になっても安心して暮らしていける地域であるため、事業所として何ができるか考えると、まず住むところ。例えば空き家の活用。土地を安く貸してくれる。等々。地域的に地代が高いところでもあり大変苦慮している。 ・新宿区は事業所の確保が難しく、改正された消防法などの関係で非常に設置が困難。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は必要がない。3年は義務付けてもそれ以上は受けなくてもいいとか？考える必要がある
その他	
特養での医療ケアの充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームにおける医療的ケアの方向を示して欲しい。将来的に医療ケアを有する高齢者はここでケアをするのか。いかにして生活の場としての環境を維持するのか。生活の場での看取りをどのようにして推し進めるのか。特養のケアは介護職を主に考えていきたい。 ・住宅街や町中にある特養は、地域で支える仕組みが必要。近隣に住む方が気軽にヘルパー2級や介護福祉士が取得できる機会を提供する。様々な活動を有するボランティア（シニアグループ含む）が日中特養に通い、日中活動を推し進める手助けをするなど、地域の資源・財産にしていくことが必要。
適切なアドバイスが可能なファシリテーターの存在	<ul style="list-style-type: none"> ・難病、障害、高齢者（ALS、脳性マヒなど）に対する介護保険と障害福祉サービスの連携。在宅におけるケアの内容や医療との関わりについても全体を理解して当事者家族と援助者との橋わたし。一緒に考え良い方向を探っていくためのファシリテーターがいてほしい。
送迎車両等の駐車場確保	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問入浴車両やデイ送迎車両など、一時的に車両から離れる際に駐車取締をされてしまう。
公表制度	<ul style="list-style-type: none"> ・「公表制度」で毎年2,3万円も請求されるが、当事業所には何の役にも立っていない。むしろ、介護を知らない人が調査するのは不快である。
専門医の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のメンタルケアのできる専門医が不足している。(医師への研修を希望します。)
介護者の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者への負担を軽減するための対策が少ないと思います。できるだけ長く在宅での生活を、というのであれば、負担の減は優先課題だと思います。
サービスの適用範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつ費用助成は、要介護3からにしてもらいたい。 ・ちょっと困りごと援助サービスは、独居の要介護者で65歳からにしていだけたらと思います。 ・世田谷区のように、夜間対応コールの昼間の時間帯を補助していただければ、在宅がより安心になる。

參考資料

調查票

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査のお願い

日頃より新宿区の高齢者保健福祉行政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることができよう「高齢者保健福祉計画」及び「介護保険事業計画」を策定し、区のめざすべき基本的な目標や施策の方向性を明らかにしています。

来年度、これらの計画の見直しを行うにあたり、その検討の基礎資料とするため、調査を実施します。

この調査は、新宿区内にお住まいの65歳以上の方で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方を対象に、日頃の生活や保健福祉サービスについてのお考えをお伺いするものです。調査をさせていただく方は、無作為抽出により選ばせていただきます。

調査票にはお名前を書いていただく必要はありません。また、回答の内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されるようなことはありません。調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ながら、**12月6日(月)までに、同封の返信用封筒にてご返送ください**ますようお願いいたします(切手を貼る必要はありません)。

平成22年11月
新宿区福祉部地域福祉課

この調査は宛名のご本人がお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合は、ご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。また、下の枠の中から調査票を記入した人につけてください。

1. ご本人 2. ご家族 3. その他(具体的に:)

この調査は、11月1日現在の情報でお送りしています。
ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに つけ、同封の封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. 死亡
5. その他(具体的に:)

- ご記入にあたっては、以下の点にご注意ください。
- ・この調査は、平成22年11月1日現在の状況でお答えください。
 - ・回答は、あてはまる番号に つけてください。
 - ・の数はそれぞれの質問の指示に従ってください。
 - ・質問の回答が「その他」に該当する場合は()内に具体的に記入してください。
 - ・調査内容についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】

新宿区福祉部地域福祉課 担当: 永井・須藤
〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03-5273-3517(直)

あなた(宛名ご本人)のことをおたずねします

問1 あなたの性別は? (あてはまる番号に1つ)

1. 男性 2. 女性

問2 あなたはおいくつですか? 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

満()歳 数字を記入してください

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか? (あてはまる番号に1つ)

地域は封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷 5. 大久保 9. 柏木
2. 雑司町 6. 戸塚 10. 角管・区役所
3. 榎町 7. 落合第一
4. 若松町 8. 落合第二

問4 あなたは、ひとり暮らしですか? それとも夫婦のみでお暮らしですか?
なお、「3. その他」の場合は、世帯の人数もご記入ください。

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

(あてはまる番号に1つ)

1. ひとり暮らし(問4-2に進んで下さい)
2. 夫婦のみ
3. その他 [あなたを含めた世帯の人数を右にご記入ください](人)

問4-1 同居されている方はおいくつですか? (あてはまる番号に1つ)

1. 全員65歳以上である
2. 65歳未満の方もいる

(問5に進んで下さい。)

(問4で「1.ひとり暮らし」と答えたとおたずねします。)

問4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？
(あてはまる番号に1つ。)

1. 頻繁に連絡をとっている
2. 2週間に1回位連絡をとっている
3. 1か月に1回位連絡をとっている
4. 1年に数回連絡をとっている
5. ほとんど連絡をとっていない
6. 家族や親族はいない
7. その他〔具体的に： 〕

問4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所(30分以内程度の距離)に
手助けを頼める人がいますか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. いる
2. いない (問5に進んで下さい。)

問4-4 手助けを頼める人はどなたですか？ (あてはまる番号すべてに。)

1. 子
2. 孫
3. 兄弟姉妹
4. 友人・知人
5. その他
〔具体的に： 〕

(全員におたずねします。)

問5 あなたは、収入のある仕事についていますか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. 収入のある仕事にはついていない
2. 会社員、公務員、団体職員
3. パート、アルバイト、非常勤など
4. 自営業、自由業
5. シルバー人材センターでの就労
6. その他〔具体的に： 〕

問5-1 仕事についていない理由は何ですか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. 仕事をする必要がない
2. からだの具合が悪く、仕事につけない
3. 仕事をしたいが、仕事がない
4. 仕事をする意思がない
5. その他〔具体的に： 〕

(全員におたずねします。)

問6 あなたご本人の収入源はどれですか？ (あてはまる番号すべてに。)

1. 給料などの収入
2. 自営業等の収入
3. 公的年金(老齢年金等)
4. 家賃・不動産収入
5. 株などの配当、預貯金の利子・利息など
6. 仕送り
7. 生活保護
8. その他〔具体的に： 〕

問7 現在の暮らし向きはどうですか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. ゆとりがある
2. ややゆとりがある
3. やや苦しい
4. 苦しい

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか？
(あてはまる番号に1つ。)

1. 80万円未満
2. 80万円以上200万円未満
3. 200万円以上300万円未満
4. 300万円以上500万円未満
5. 500万円以上700万円未満
6. 700万円以上1000万円未満
7. 1000万円以上
8. わからない

お住まいについておたずねします

問9 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満
4. 20年以上30年未満
5. 30年以上

問10 お住まいはどれですか？ (あてはまる番号に1つ。)

1. 持家一戸建て(自己又は家族所有のビルを含む)
2. 分譲マンション
3. 借家一戸建て
4. 都営住宅
5. その他の公共住宅(UR(旧公団)・公社・区営など)
6. 民間の賃貸アパート・マンション
7. 社宅・公務員住宅
8. その他〔具体的に： 〕

問 11 お住まい(主に生活する部屋)は、2階以上にありますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. はい () 2. いいえ () 問 12 に進んで下さい。

(エレベーターの有無 : 1. あり 2. なし) あてはまる番号に1つ

問 12 あなたは、現在のお住まいから住み替え(引っ越しを含む)をお考えですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 今すぐにも、住み替えをしたいと考えている ()
 2. 今のところ必要ないが、将来は住み替えを検討したいと思っている ()
 3. 住み替えは考えていない () 問 13 に進んで下さい。

→ 問 12-1 住み替え先として、どちらをお考えですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 賃貸のアパート・マンション・一戸建てを借りる ()
 2. 公共住宅 (UR (旧公団)・公社・都営・区営など) を借りる ()
 3. 家族や親せきの家で暮らす ()
 4. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居 (有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など) に入居する ()
 5. 新たに住居 (分譲マンション、一戸建て) を購入する ()
 6. その他 (具体的に:)

問 13 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 家の大きさ (広すぎる、狭すぎるなど) ()
 2. 段差がある (玄関、居室、トイレなど) ()
 3. 階段の勾配 (傾斜) がきつい ()
 4. 手すりが無い ()
 5. 風呂がない又は使いにくい ()
 6. 設備が古く使いにくい (台所、トイレなど) ()
 7. 家が老朽化している ()
 8. 一人で落ちつける部屋がない ()
 9. 家賃が高い ()
 10. 地震による建物の倒壊や家具の転倒 ()
 11. 立ち退きを迫られている ()
 12. 新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない ()
 13. 新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる ()
 14. 特に不便や不安を感じていることはない ()
 15. その他 (具体的に:)

問 14 あなたは健康だと思いますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. とても健康 2. まあまあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない

問 15 現在治療中の病気がありますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. ある () 2. ない () 問 16 に進んで下さい。

問 15-1 治療中の病気はどれですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 高血圧症 9. 難病 (パーキンソン病等) ()
 2. 高脂血症 (コレステロールや中性脂肪が多い) 10. 眼科疾患 ()
 3. 脳血管疾患 (脳出血、脳梗塞、脳卒中等) 11. 認知症 ()
 4. 心臓病 12. うつ病 ()
 5. がん (悪性新生物) 13. うつ病以外の精神科疾患 ()
 6. 糖尿病 14. その他 ()
 7. 骨折・骨粗しょう症 (具体的に:)
 8. 関節の病気 (リウマチ・変形性膝関節症等) ()

() () 問 15-2 に進んで下さい。

問 15-2 受診している医療機関はどれですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 診療所・クリニック(通院) ()
 2. 診療所・クリニック(往診) () 問 16 に進んで下さい。
 3. 診療所・クリニック(通院と往診) ()
 4. 国公立病院 ()
 5. 大学病院 ()
 6. その他の病院 (具体的に:) ()
 7. その他 (具体的に:) () 問 16 に進んで下さい。

問 15-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 専門診療を受けたいから ()
 2. 悪くなったときに入院できるところから ()
 3. 長年その病院へ通院しているから ()
 4. 地域のどの診療所・クリニックにかかったらよいかわからない ()
 5. その他 (具体的に:)

(全員におたずねします。)

問 16 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いつきなどに気軽に相談できる「かかりつけ医()」がいますか?

ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。「かかりつけ医」の役割として、地域において日常的な医療を提供したり、健康相談を行うことが挙げられます。

(あてはまる番号に1つ)

1. いる 2. いない

問 17 「かかりつけ医」の必要性を、どう考えですか? (あてはまる番号に1つ)

1. 常に必要である
2. 継続して治療を要する病気になったら必要となる
3. 必要でない
4. どちらともいえない
5. その他(具体的に:)

問 18 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか? (あてはまる番号に1つ)

1. 受診した 2. 受診していない(問19に進んで下さい)

問 18-1 受診している歯科医療機関はどれですか? (あてはまる番号すべてに)

1. 診療所・クリニック 3. 訪問歯科診療
2. 病院・大学病院 4. その他(具体的に:)

問 19 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか? (あてはまる番号に1つ)

1. ほぼ満足している
2. やや不満だが日常生活には困らない
3. 不自由や苦痛を感じている

問 20 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医()」がいますか? (あてはまる番号に1つ)

ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

1. いる 2. いない

問 21 「在宅療養()」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか? (あてはまる番号に1つ)

1. そう思う 2. そう思わない 3. その他(具体的に:)

在宅療養

在宅療養とは、在宅で、往診などの医療や介護のサービスを受けながら生活することです。

問 22 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか? (あてはまる番号すべてに)

1. 介護してくれる家族等がないこと
2. 家族への負担
3. 自宅に往診してくれる医師や訪問看護ステーションがわからないこと
4. 急変したときの医療体制
5. 自分が望む医療が受けられるかどうかかわからないこと
6. 病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養準備
7. 居住環境(部屋のつくり、広さなど)が整っていないこと
8. 自宅での療養のことを相談できる場所がわからないこと
9. お金がかかること
10. 特に不安なことはない
11. その他(具体的に:)

問 23 あなたは、「緩和ケア()」について知っていますか? (あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

緩和ケア

緩和ケアとは、がんなどの病気や治療に伴う「体のつらさ」「心のつらさ」「生活のつらさ」など、さまざまな「つらさ」を抱えた患者さんとそのご家族を、総合的に支えるケアのことです。

問 24 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどがいいですか? (あてはまる番号に1つ)

1. 医療機関に入院して、治療を受けたい
2. 自宅で往診を受けながら、緩和ケアを受けたい
3. 自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい
4. その他(具体的に:)

日ごろの生活についておたずねします

問 25 あなたの毎日の生活についておたずねします。
質問が多くなっていますが、すべての質問にお答えください。

(あてはまる番号 1. はい 2. いいえ にそれぞれ をつけてください。)

1. バスや電車を使って一人で外出できますか (自分で車を運転することも可)	1. はい	2. いいえ
2. 日用品の買い物ができますか	1. はい	2. いいえ
3. 自分で食事の用意ができますか	1. はい	2. いいえ
4. 請求書の支払いができますか	1. はい	2. いいえ
5. 預貯金の出し入れができますか	1. はい	2. いいえ
6. 年金などの書類が書けますか	1. はい	2. いいえ
7. 新聞を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
8. 本や雑誌を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
9. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	2. いいえ
10. 友人の家を訪ねることがありますか	1. はい	2. いいえ
11. 家族や友人の相談にのることがありますか	1. はい	2. いいえ
12. 病人を見舞うことができますか	1. はい	2. いいえ
13. 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい	2. いいえ
14. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1. はい	2. いいえ
15. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが、 楽しめなくなりました	1. はい	2. いいえ
16. (ここ2週間) 以前は楽しんでできていたことが、今では おっくうに感じられる	1. はい	2. いいえ
17. (ここ2週間) 自分は役に立つ人間だと思えない	1. はい	2. いいえ
18. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	2. いいえ

問 26 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？

(あてはまる番号すべてに)

1. 毎日規則正しい生活をおくる	
2. 食生活や栄養に気を付ける	
3. からだを動かすように心がける	
4. 健康診断を定期的に受ける	
5. アルコールを控える	
6. タバコを控える・禁煙する	
7. 睡眠や栄養を十分に取る	
8. ストレスをためないよう気をつける	
9. 体に体調がみられた際などには、すぐにかかりつけ医・かかりつけ歯科医に相談する	
10. 特に実行していることはない	
11. その他(具体的に))

問 27 あなたは、どの程度外出しますか？ (あてはまる番号に1つ)

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週に2～3日程度
- 3. 1か月に2～3回
- 4. ほとんどしない

問 28 昨年と比べて、あなたの外出の回数は変わりましたか？ (あてはまる番号に1つ)

- 1. 増えた
- 2. 変わらない
- 3. 減った

問 29 どのようなときに、外出しますか？ (あてはまる番号すべてに)

- 1. 日用品の買い物
- 2. 通院
- 3. 散歩
- 4. 別居している家族(子・孫など)と会う
- 5. 友人・知人と会う
- 6. 趣味
- 7. スポーツ
- 8. 地域活動・ボランティア活動
- 9. 仕事
- 10. 銀行など金融機関でのお金の出し入れや手続き
- 11. その他

問 30 外出の際に不便に感じることや外出を控えることがあるとしたらその理由は何ですか？

(あてはまる番号すべてに)

- 1. 体に不安がある(体力の低下、足腰の痛み、目や耳の障害、尿漏れなど)
- 2. 移動や電車・バスに乗ることに不安がある
- 3. 知らない人と会うことに不安がある
- 4. 外出の準備が大変である(戸締まりなど)
- 5. 集合住宅で生活しているが、エレベーターがないため
- 6. 特に不便を感じていることはない
- 7. その他(具体的に)

問 31 あなたは、日常生活の場面において、以下のような困りごとがありますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 日用品の買い物をするお店が遠い
2. 重い荷物が持たない(例えば、重いものの買い物、布団干し、家具の移動など)
3. 食事の内容が偏る
4. 郵送される役所などの書類の手続や書き方がわからない
5. 高い所にあるものの作業(例えば、電球交換、掃除、カーテン交換など)
6. 腰や膝を曲げての作業(例えば、トイレ掃除、拭き掃除など)
7. 階段の昇り降り
8. 特に困っていることはない
9. その他(具体的に:)

問 32 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 家の行き来をするなど、親しく近所づきあいをしている
2. 立ち話をする程度のつきあいが多い
3. あいさつ(会釈)をする程度のつきあいが多い
4. 近所の人の顔はわかるが、あいさつ(会釈)はしない
5. 近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからぬ)

問 33 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合い
など)は必要だと思いませんか？ (あてはまる番号に1つ)

1. とても必要だと思う
2. どちらかといえば必要だと思う
3. どちらかといえば必要ないと思う
4. 必要ないと思う

いきがいつくりや社会参加についておたずねします

問 34 あなたは、どのようなことにいきがを感じていますか？
(あてはまる番号すべてに)

1. 職業・仕事
2. 町会・自治会・子ども会などの地域活動
3. ボランティア活動等
4. 趣味
5. スポーツ
6. 勉強・習い事
7. 友人・仲間とすごすこと
8. 家族との団らん
9. 孫や子どもの成長
10. 親の世話や介護
11. 特になし
12. その他
(具体的に:)

問 35 あなたは、現在、地域活動(町会、自治会、子供会など、以下同様)やボランティア活動をしていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 現在、継続的にしている
2. 時々している
3. 以前したことがあるが、現在はほとんどしていない
4. したことはない

問 35-1 現在、していない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 自分の健康や体力に自信がなくなった
2. 家族の介護等が必要となった
3. 自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった
4. 活動に際し適切な助言が受けられなかった
5. 一緒に活動をする仲間と気が合わなかった
6. 活動が期待はずれだった
7. 活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった
8. その他(具体的に:)

(問 35-3 に進んで下さい。)

問 35-2 したことがない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 関心がない
2. 気軽に参加できる活動がない
3. 一緒に取り組む仲間がいない
4. 自分の趣味等、他にやりたいことがある
5. 自分の健康・体力に自信がない
6. 家族に介護等を必要とする人がいる
7. 同じ地域の人と活動するのはわずらわしい
8. どのような活動が行われているか知らない
9. その他(具体的に:)

(問 35-3 に進んで下さい。)

(全員におたずねします。)

問 35-3 興味のある地域活動やボランティア活動等(実際に取り組んでいるものも含む)はありますか？
(あてはまる番号すべてに)

1. 子どもの育成に関する活動
2. ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動
3. 障害や病気の人を支援する活動
4. 交通安全や犯罪防止、災害時の救援・支援など地域の安全を守る活動
5. 地域の伝統や文化を伝える活動
6. 地域の環境美化に関する活動
7. 近隣の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流・協力に関する活動
8. 特に興味のある活動はない
9. その他(具体的に:)

問 35-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか？
(あてはまる番号に1つ)

- 1. 積極的にしてみたい
- 2. してみたい
- 3. あまりしたくない
- 4. したくない
- 5. わからない

問 35-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか？ (あてはまる番号すべてに)

- 1. 身近な場所で行われている
- 2. 一緒に活動する仲間がいる
- 3. 自分の資格や趣味等が活かせる
- 4. 活動団体から呼びかけがある
- 5. 金銭的な負担が小さい
- 6. 1回限りなど、日程の調整がしやすい
- 7. その他(具体的に:)

介護予防についておたずねします

問 36 あなたは、「介護予防()」について関心がありますか？

(あてはまる番号に1つ)

- 1. とても関心がある
- 2. 関心がある
- 3. 関心がない
- 4. どちらともいえない

介護予防

介護予防とは、高齢者が介護の必要な状態になることをできる限り予防し、また介護の必要な方もできるだけ悪化しないようにすることです。住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく、元気でいきいきと暮らしていくために、早めに老化のサインに気づき、介護予防に取り組むことが大切です。新宿区では、介護予防に関するセミナーや出張講座、各種介護予防のための教室を開催しています。

問 37 以下の介護予防のための教室で、通ってみたいものはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

- 1. 「筋力向上教室」: 眠っている筋肉と神経を覚まし、日常生活に必要な身体能力を向上させる教室
- 2. 「転倒予防教室」: 筋力、バランス、柔軟性、歩行能力を改善し、転倒しにくい体をつくる教室
- 3. 「栄養改善教室」: 食事の工夫を学び、それを実践するプログラムを通して栄養の改善を図る教室
- 4. 「口腔機能向上教室」: いつまでも美味しく安全に食べられるために、口腔ケアや顔面体操等を行い、お口の健康度を高める教室
- 5. 「尿もれ改善教室」: くしゃみや咳、走った時など腹圧がかかったときに尿が漏れる腹圧性尿失禁を予防・改善する教室
- 6. 「認知症予防教室」: 認知機能を高めるプログラムと脳の血流を良くする運動プログラム等を通じて、脳の活性化を図る教室
- 7. その他(具体的に:)
- 8. 特にない

介護が必要になった時のことについておたずねします

区には、高齢者を総合的にサポートする身近な相談機関として、区内各地域に「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」が設置されています。

問 38-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 38-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関をご存じですか？

(あてはまる番号に1つ)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 38-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 39 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. ずっと自宅で生活を続けたい } (問40に進んで下さい)
 2. 可能な限り自宅で生活を続けたい }
 3. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい }
 4. 介護、見守りや食事の提供などがついでにしている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付賃貸住宅など)に入居したい }
 5. その他 (下記記入の上、問40に進んで下さい。)
 [具体的に:]

問 39-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由は何ですか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 在宅での生活に不安がある
 2. 現在住んでいる住宅のつくりが介護を受けるのに適していない
 3. 現在の在宅介護サービスだけでは不十分
 4. 施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある
 5. 家族に負担をかけたくない
 6. 家族の介護が期待できない
 7. その他 [具体的に:]

(全員におたずねします。)

問 40 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けたいためには、何が重要だと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 安心して住み続けられる住まいがある
 2. 近所の人の見守りや手助けがある
 3. 必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)
 4. 日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする場所がある
 5. 要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある
 6. 一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある
 7. 必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある
 8. いつでも入所できる介護施設がある
 9. 往診してくれる医療機関がある
 10. 弁当など食事を宅配してくれるサービスがある
 11. 調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある
 12. 健康・介護・生活相談ができる体制がある
 13. 近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある
 14. 水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況(安否など)を外部からチェックして
 くれる仕組みがある
 15. 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある(24時間365日)
 16. 介護者の負担を軽減する仕組みがある
 17. 低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある
 18. その他 [具体的に:]

介護保険制度についておたずねします

介護保険制度は、介護サービス総費用に対する保険料、公費(税)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり総費用が増加すれば、保険料もそれに応じて上昇する仕組みです。今後もサービス利用量の増加に伴い、保険料は上がることが見込まれています。

問 41 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 保険料の負担が増えども、必要なサービスを提供すべきである
 2. サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである
 3. 現在の保険料、介護保険サービスでよい
 4. 介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げべきである
 5. わからない
 6. その他 [具体的に:]

認知症についておたずねします

問 42 あなたは、ここ6カ月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じることはありませんか？ (あてはまる番号に1つ)

1. ある
 2. ない (問43に進んで下さい)

問 42-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. した
 2. していない

問 42-2 どちらに相談しましたか？ (あてはまる番号すべてに)

1. かかりつけ医
 (「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします)
 2. 病院の内科、神経内科、精神科など
 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
 4. 精神科・神経科専門の病院・診療所
 5. 保健所・保健センター
 6. 区役所高齢者サービス課
 7. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)
 8. その他 [具体的に:]

問 42-3 相談していない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 年だから仕方がないと思う
 4. 相談場所が分からない
 2. 相談するほどのことではない
 5. その他
 3. 相談することにしためらいがある [具体的に:]

(全員におたずねします。)

問 43 あなたは、「若年性認知症 ()」という病気を ご存じですか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

若年性認知症

若年性認知症とは、65歳未満で発生する認知症を指します。原因になる疾患は、アルツハイマー病、脳血管障害、前頭側頭葉変性症等様々ですが、働き盛りに発症するために本人や家族は、経済面や心理面等において負担は大きいといえます。

区では、地域のみなさんを対象として「認知症サポーター」(認知症について正しい理解を持ち、認知症の人の応援者としてご本人やご家族を温かく見守る人)になるための講座を開催しています。認知症サポーター養成講座は、90分を1回受講します。だれでも受講することができ、受講後に認知症サポーターのしるしである「オレンジリング」を差し上げます。受講料は無料です。

問 44 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

問 45 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いませんか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 受講したい 2. 受講したくない 3. すでに受講した

問 46 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実のために、何が必要だと思いませんか？

(あてはまる番号すべてに)

1. 認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする
2. かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること
3. かかりつけ医と専門医の連携体制の充実
4. 身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること
5. 認知症予防教室・講座の充実
6. 認知症のチェック票などを用いて早期発見できる体制の整備
7. 支援のための相談窓口の充実
8. 認知症サポーターが地域に増えること
9. わからない
10. その他 (具体的に：)

権利擁護についておたずねします

問 47 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度 ()」をご存じですか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 成年後見制度をすでに利用している
2. どのような制度かは知っているが、制度を利用していない
3. 制度の内容は知らないし、制度も利用していない

成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。具体的には、成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、その人らしい生活を守るため、法律面や生活面で支援するしくみです。

具体的には次のような支援があります

- ・介護サービスや医療を受ける際の手続きの支援
- ・預貯金の引き出しなど日常生活における金銭管理等の支援
- ・財産管理の支援
- ・物事の判断がなくなっても安心して任せられる人の選定

なお、区では成年後見制度の身近な相談窓口として新宿区社会福祉協議会の中に「新宿区成年後見センター」を設置しています。

「成年後見センター」

専門家の協力のもと、成年後見制度の説明や申し立て手続きのお手伝い、後見活動の相談やその活動の支援を行っています。

問 48 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 名称も、何をされる機関かも知っている
2. 名称は聞いたことがあるが、どのようなことをする機関かは知らない
3. 名称も何をされる機関なのかも知らない

問 49 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いませんか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したい
2. 利用したくない
3. 利用する必要がない(すでに成年後見制度を利用している)

緊急時の避難などについておたずねします

問 50 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで避難できると思えますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. できる (問51に進んで下さい。)
2. できない

問 50-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

1. 日中、援助してくれる家族がいない
2. 夜間、援助してくれる家族がいない
3. 日中、援助してくれる近所の方がいない
4. 夜間、援助してくれる近所の方がいない
5. 身体的に移動することが難しい
6. ひとりで判断することが難しい
7. その他(具体的に:)

(全員におたずねします。)

区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守る事が困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立てます。

問 51 あなたは、このような制度をご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

問 52 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい
2. 知らせたくない
3. わからない

健康・福祉サービスの情報入手についておたずねします

問 53 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をごどのような手段で入手していますか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 家族や親戚 8. ケアマネジャー
2. 友人・知人、近所の人 9. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)
3. 民生委員・児童委員 10. 区の広報紙
4. 区役所、特別出張所 11. インターネット(区のホームページなど)
5. 保健所・保健センター 12. 特に入手していない
6. 区民健康センター 13. その他
7. 診療所・病院 (具体的に:)

問 54 最後に、高齢者の健康と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

----- ご協力ありがとうございました -----

ご記入が済みましたら同封の返信用封筒(切手不要)で、お早めにご返送ください。

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査のお願い

日頃より新宿区の高齢者保健福祉行政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らしていくために、「高齢者保健福祉計画」及び「介護保険事業計画」を策定し、区のめざすべき基本的な目標や施策の方向性を明らかにしています。

来年度、これらの計画の見直しを行うにあたり、その検討の基礎資料とするため、調査を実施します。

この調査は、介護保険の要支援・要介護認定を受けている在宅の方及び介護者の方にサービスのご利用の状況やご希望をお伺いするものです。調査をさせていただく方は、無作為抽出により選ばせていただきます。

調査票にはお名前を書いていただく必要はありません。また、回答の内容はすべて統計的に処理をしますので、個人が特定されるようなことはありません。調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ながら、**12月6日(月)までに、同封の返信用封筒にてご返送ください**ますようお願いいたします(切手を貼る必要はありません)。

平成22年11月
新宿区福祉部地域福祉課

この調査は宛名のご本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合は、ご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。また、下の枠の中から調査票を記入した人を見つけるください。

1. ご本人 2. ご家族 3. その他(具体的に:)

問39～問47は介護者の方への質問ですので、介護者の方の記入をお願いします。なお、介護者のいない方は記入する必要はありません。

この調査は、11月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに をつけ、同封の封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. 死亡
5. その他(具体的に:)

ご記入にあたっては、以下の点にご注意ください。

- ・この調査は、平成22年11月1日現在の状況でお答えください。
- ・回答は、あてはまる番号に をつけてください。
- ・ の数はそれぞれの質問の指示に従ってください。
- ・質問の回答が「その他」に該当する場合は()内に具体的に記入してください。
- ・調査内容についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

(お問合せ先) 新宿区福祉部地域福祉課 担当: 永井・須藤
〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03-5273-3517(直)

あなた(宛名ご本人)のことをおたずねします

問1 あなたの性別は? (あてはまる番号に1つ)

1. 男性 2. 女性

問2 あなたはおいくつですか? 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

満()歳 数字を記入してください

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか? (あてはまる番号に1つ)

地域は封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷 5. 大久保 9. 柏木
2. 算碓町 6. 戸塚 10. 角筈・区役所
3. 櫻町 7. 落合第一
4. 若松町 8. 落合第二

問4 あなたは、ひとり暮らしですか? それとも夫婦のみでお暮らしですか? なお、「3. その他」の場合は、世帯の人数もご記入ください。

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

(あてはまる番号に1つ)

1. ひとり暮らし(問4-2に進んで下さい)
2. 夫婦のみ
3. その他 (あなたを含めた世帯の人数を右にご記入ください)(人)

問4-1 同居されている方はおいくつですか? (あてはまる番号に1つ)

1. 全員65歳以上である
2. 65歳未満の方もいる

(問5に進んで下さい。)

(問4で「1.ひとり暮らし」と答えられた方におたずねします。)

問4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 頻繁に連絡をとっている
2. 2週間に1回位連絡をとっている
3. 1か月に1回位連絡をとっている
4. 1年に数回連絡をとっている
5. ほとんど連絡をとっていない
6. 家族や親族はいない
7. その他(具体的に:)

問4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所(30分以内程度の距離)に
手助けを頼める人がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. いる
2. いない (問5に進んで下さい。)

問4-4 手助けを頼める人はどなたですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 子
2. 孫
3. 兄弟姉妹
4. 友人・知人
5. その他 (具体的に:)

(全員におたずねします。)

問5 あなたご本人の収入源はどれですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 給料などの収入
2. 自営業等の収入
3. 公的年金(老齢年金等)
4. 家賃・不動産収入
5. 株などの配当、預貯金の利子・利息など
6. 仕送り
7. 生活保護
8. その他(具体的に:)

問6 現在の暮らし向きはどうですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. ゆとりがある
2. ややゆとりがある
3. やや苦しい
4. 苦しい

問7 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 80万円未満
2. 80万円以上200万円未満
3. 200万円以上300万円未満
4. 300万円以上500万円未満
5. 500万円以上700万円未満
6. 700万円以上1000万円未満
7. 1000万円以上
8. わからない

お住まいについておたずねします

問8 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満
4. 20年以上30年未満
5. 30年以上

問9 お住まいはどれですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 持家一戸建て(自己又は家族所有のビルを含む)
2. 分譲マンション
3. 借家一戸建て
4. 都営住宅
5. その他の公共住宅(UR(旧公団)・公社・区営など)
6. 民間の賃貸アパート・マンション
7. 社宅・公務員住宅
8. その他(具体的に:)

問10 お住まい(主に生活する部屋)は、2階以上にありますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ (問11に進んで下さい。)

(エレベーターの有無 : 1.あり 2.なし) あてはまる番号に1つ

問 11 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 家の大きさ (広すぎる、狭すぎるなど)
2. 段差がある (玄関、居室、トイレなど)
3. 階段の勾配 (傾斜) がきつい
4. 手すりが無い
5. 風呂がない又は使いにくい
6. 設備が古く使いにくい (台所、トイレなど)
7. 家が老朽化している
8. 一人で落ちつける部屋がない
9. 家賃が高い
10. 地震による建物の倒壊や家具の転倒
11. 立ち退きを迫られている
12. 新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない
13. 新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる
14. 特に不便や不安を感じていることはない
15. その他 (具体的に :)

日ごろの生活についておたずねします

問 12 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 家の行き来をするなど、親しく近所づきあいをしている
2. 立ち話をする程度のつきあいが多い
3. あいさつ(会釈)をする程度のつきあいが多い
4. 近所の人の顔はわかるが、あいさつ(会釈)はしない
5. 近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからない)

問 13 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)は必要だと思いますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. とても必要だと思う
2. どちらかといえば必要だと思う
3. どちらかといえば必要ないと思う
4. 必要ないと思う

いきがいがづくりや社会参加についておたずねします

問 14 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 職業・仕事
2. 町会・自治会・子ども会などの地域活動
3. ボランティア活動等
4. 趣味
5. スポーツ
6. 勉強・習い事
7. 友人・仲間とすごすこと
8. 家族との団らん
9. 孫や子どもの成長
10. 親の世話や介護
11. 特になし
12. その他
 (具体的に :)

要介護認定についておたずねします

問 15 あなたの現在の要介護度はどれですか？ (あてはまる番号に1つ)

この問は重要ですので、おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねになり必ず記入してください。

1. 要支援 1
2. 要支援 2
3. 要介護 1
4. 要介護 2
5. 要介護 3
6. 要介護 4
7. 要介護 5

問 16 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因はどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、脳卒中等)
2. 骨折・転倒
3. 高齢による衰弱
4. 心臓病
5. 関節の病気(リウマチ・変形性膝関節症等)
6. 認知症
7. 雑病(パーキンソン病等)
8. がん(悪性新生物)
9. 呼吸器疾患
10. 糖尿病
11. 脊髄損傷
12. 視覚・聴覚障害
13. 不明
14. その他
 (具体的に :)

問 17 あなたが、初めて要介護認定の申請をしたときの動機はどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 介護保険サービスが必要になったため(自分の意思で)
2. 知識として知っていたから(自分の意思で)
3. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)での相談から
4. 区役所窓口(高齢者サービス課や介護保険課)での相談から
5. 医師にすすめられて
6. 家族や知人に勧められて
7. その他(具体的に :)

医療機関の受診等についておたずねします

問 18 現在治療中の病気がありますか？（あてはまる番号に1つ）

1. ある
2. ない（問 19 に進んで下さい。）

問 18-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 高血圧症
2. 高脂血症(コレステロールや中性脂肪が多い)
3. 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、脳卒中等)
4. 心臓病
5. がん(悪性新生物)
6. 糖尿病
7. 骨折・骨粗しょう症
8. 関節の病気(リウマチ・変形性膝関節症等)
9. 難病(パーキンソン病等)
10. 眼科疾患
11. 認知症
12. うつ病
13. うつ病以外の精神科疾患
14. その他
〔具体的に：〕

（問 18-2 に進んで下さい。）

問 18-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 診療所・クリニック(通院)（問 19 に進んで下さい。）
2. 診療所・クリニック(往診)
3. 診療所・クリニック(通院と往診)（問 18-4 に進んで下さい。）
4. 国公立病院
5. 大学病院
6. その他の病院
7. その他〔具体的に：〕（問 19 に進んで下さい。）

問 18-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？
（あてはまる番号すべてに）

1. 専門診療を受けたいから
2. 悪くなったときに入院できると思ってから
3. 長年その病院へ通院しているから
4. 地域のどの診療所・クリニックにかかったらよいかわからない
5. その他〔具体的に：〕
（問 19 に進んで下さい。）

（問 18-2 で「2. 診療所・クリニック(往診)」 「3. 診療所・クリニック(通院と往診)」と答えた方におたずねします。）

問 18-4 在宅医療を受けている中で困っている（困った）ことがありますか？
（あてはまる番号すべてに）

1. ささまざまな医療処置があり大変
2. 医療処置があるために、ショートステイが使えないことがあった
3. 夜間・休日の往診や訪問看護がしてもらえないことがあった
4. 病状が悪化したときに入院できないことがあった
5. お金がかかる
6. その他〔具体的に：〕
7. 特に困っていることはない

（全員におたずねします。）

問 19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談でき
る「かかりつけ医（ ）」がいますか？

ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。「かかりつけ医」の役割として、地域において日常的な医療を提供したり、健康相談を行うことが挙げられます。
（あてはまる番号に1つ）

1. いる
2. いない

問 20 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

1. 常必要がある
2. 継続して治療を要する病気になったら必要となる
3. 必要でない
4. どちらともいえない
5. その他〔具体的に：〕

問 21 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1. 受診した
2. 受診していない（問 22 に進んで下さい。）

問 21-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 診療所・クリニック
2. 病院・大学病院
3. 訪問歯科診療
4. その他〔具体的に：〕

問22 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. ほぼ満足している
2. やや不満だが日常生活には困らない
3. 不自由や苦痛を感じている

問23 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医()」がいますか？(あてはまる番号に1つ)
ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

1. いる
2. いない

問24 最近2週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？

毎日の生活に充実感がない。(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。
(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

以前は案にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。
(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

自分は役に立つ人間だと思えない。

(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

わけもなく疲れたような感じがする。

(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

認知症についておたずねします

問25 あなたは、ここ6カ月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じるがありますか？(あてはまる番号に1つ)

1. ある
2. ない (問26に進んで下さい。)

問25-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
(あてはまる番号に1つ)

1. した
2. していない

問25-2 どちらに相談しましたか？(あてはまる番号すべてに)

1. かかりつけ医
(「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします)
2. 病院の内科、神経内科、精神科など
3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
4. 精神科・神経科専門の病院・診療所
5. 保健所・保健センター
6. 区役所高齢者サービス課
7. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)
8. その他(具体的に:)

問25-3 相談していない理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

1. 年だから仕方がないと思う
2. 相談するほどではない
3. 相談することのためにためらいがある (具体的に:)
4. 相談場所が分からない
5. その他

(全員におたずねします。)

問26 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実のために、何が必要だと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

1. 認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする
2. かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること
3. かかりつけ医と専門医の連携体制の充実
4. 身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること
5. 認知症予防教室・講座の充実
6. 認知症のチェック票などを用いて早期発見できる体制の整備
7. 支援のための相談窓口の充実
8. 認知症サポーターが地域に増えること
9. わからない
10. その他(具体的に:)

問 27 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度（ ）」をご存じですか？
（あてはまる番号に1つ）

1. 成年後見制度をすでに利用している
2. どのような制度かは知っているが、制度を利用していない
3. 制度の内容は知らないし、制度も利用していない

成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。具体的には、成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、その人らしい生活を守るため、法律面や生活面で支援するしくみです。

具体的には次のような支援があります

- ・介護サービスや医療を受ける際の手続きの支援
- ・預貯金の引き出しなど日常生活における金銭管理等の支援
- ・財産管理の支援
- ・物事の判断がつかなくなっても安心して任せられる人の選定

なお、区では成年後見制度の身近な相談窓口として新宿区社会福祉協議会の中に「新宿区成年後見センター」を設置しています。

「成年後見センター」

専門家の協力のもと、成年後見制度の説明や申し立て手続きのお手伝い、後見活動の相談やその活動の支援を行っています。

問 28 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

1. 名称も、何をする機関かも知っている
2. 名称は聞いたことがあるが、どのようなことをする機関かは知らない
3. 名称も何をする機関のかも知らない

問 29 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いませんか？
（あてはまる番号に1つ）

1. 「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したい
2. 利用したくない
3. 利用する必要がない（すでに成年後見制度を利用している）

問 30 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか？（あてはまる番号に1つ）

1. 利用している
2. 利用していない

問 30-1 介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの状況は変わりましたか？（あてはまる番号すべてに）

1. 要介護度が軽くなった
2. 誰かが手伝ってくれられると思うと、不安な気持ち薄れた
3. いつでも相談や話ができるようになり、安心した
4. 話し相手ができて楽しくなった
5. 毎日の生活のリズムができた
6. 生活にはりあいができた
7. 不便に感じていたことが減った
8. 利用することで自宅での生活が続けられた
9. 家事や雑事の負担が減って楽になった
10. 経費の負担が減った
11. 特に変わらなかった
12. 悪くなった（具体的に： ）
13. その他（具体的に： ）

（問 30-3 に進んで下さい）

問 30-2 介護保険サービスを利用していない、または利用をやめた理由は次のうちどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1. できるだけ他人の世話にはなりたくないから
2. 家族等の介護で十分だから
3. 利用料金が高いから
4. 介護サービス事業者の対応がよくないから
5. 近所に利用したい介護サービス事業者がないから
6. 介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから
7. 介護保険以外のサービスを利用しているから
8. 入院のため
9. 家族や医師に勧められ認定申請をしたが、現在は介護保険サービスを受ける必要がないから
10. その他（具体的に： ）

（問 30-3 に進んで下さい）

問 30-3 介護保険サービスについておたずねします。
下表の の設問についてお答えください。

介護保険サービス名	現在利用しているサービスをつけてください	現在利用しているサービスの満足度を数字でご記入ください 1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満	今後新たに利用してみたいサービスをつけてください
訪問介護	ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、日常生活上の介護を受ける		
訪問看護	看護師などに自宅を訪問してもらい、必要な診療の補助等看護を受ける		
訪問リハビリテーション	理学療法士等に自宅を訪問してもらい、リハビリテーションを行う		
訪問入浴	移動入浴車に自宅を訪問してもらい、入浴の介護を受ける		
通所介護（デイサービス）	デイサービスセンターなどに通って、食事、入浴などの介護や日常生活上の機能訓練などを受ける		
通所リハビリテーション（デイケア）	老人保健施設などに通って、リハビリテーションなどを受ける		
夜間対応型訪問介護	ホームヘルパーが定期的または必要に応じて夜間に自宅を訪問してもらい、日常生活上の介護を受ける		
認知症対応型通所介護	認知症高齢者を対象に、デイサービスセンターなどにおいて日常生活上の機能訓練などを行う		
小規模多機能型居宅介護	通所を中心に、泊まり、訪問を組み合わせて利用する		
認知症対応型共同生活介護	認知症の高齢者が5～9人で共同生活をし、日常生活の支援や機能訓練などを受ける		
短期入所生活介護（ショートステイ）	特別養護老人ホームなどに一時的に入所して、食事、入浴などの介護や日常生活上の機能訓練を受ける		
短期入所療養介護（ショートステイ）	老人保健施設などに一時的に入所して、介護や日常生活上の機能訓練などを受ける		
特別養護老人ホーム	入所者（常時介護が必要で、自宅で介護を受けることが困難な方）に対し、入浴、排泄、食事などの介護、その他日常生活上の世話などを行う	-	
介護老人保健施設	入所者（病状が安定し、入院よりリハビリ、看護、介護が必要な方）に対し、看護、医学的管理のもとに介護や機能訓練、日常生活の世話などを行う	-	
介護療養型医療施設	入所者（急性期の治療が終わり、長期の療養を必要とする方）に対し、療養上の管理、看護、医学的管理のもとに介護その他必要な医療を行う	-	
福祉用具貸与	車いすやベッドなどの福祉用具の貸与を受ける		
福祉用具購入費の支給			
住宅改修費の支給			
24時間地域巡回型訪問サービス	24時間いつでも必要な時に介護職員等によって自宅に必要なサービスを受けることができる	-	

上記のサービスは介護予防も含む

問 31 あなたは、これから、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
（あてはまる番号に1つ）

1. ずっと自宅で生活を続けたい } (問32に連んで下さい。)

2. 可能な限り自宅で生活を続けたい } (問32に連んで下さい。)

3. 施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい } (問32に連んで下さい。)

4. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい } (問32に連んで下さい。)

5. その他（下記ご記入の上、問32に連んで下さい。）
[具体的に：]

問 31-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由とはどれですか？
（あてはまる番号すべてに）

1. 在宅での生活に不安がある

2. 現在住んでいる住宅のつくりが介護を受けるのに適していない

3. 現在の在宅介護サービスだけでは不十分

4. 施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある

5. 家族に負担をかけたくない

6. 家族の介護が期待できない

7. その他 [具体的に：]

(全員におたずねします。)

問 32 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けたいためには、何が必要だと思いますか？
（あてはまる番号すべてに）

1. 安心して住み続けられる住まいがある

2. 近所の人の見守りや手助けがある

3. 必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある（24時間 365日）

4. 日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする場所がある

5. 要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある

6. 一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある

7. 必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある

8. いつでも入所できる介護施設がある

9. 往診してくれる医療機関がある

10. 弁当など食事を宅配してくれるサービスがある

11. 調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある

12. 健康・介護・生活相談ができる体制がある

13. 近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある

14. 水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況（安否など）を外部からチェックしてくれる仕組みがある

15. 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある（24時間 365日）

16. 介護者の負担を軽減する仕組みがある

17. 低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある

18. その他 [具体的に：]

区には、高齢者を総合的にサポートする身近な相談機関として、区内各地域に「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」が設置されています。

問 33-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 33-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？
（あてはまる番号に1つ）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 33-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか
ご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

介護保険制度についておたずねします

介護保険制度は、介護サービス総費用に対する保険料、公費（税）の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなると総費用が増加すれば、保険料もそれに応じて上昇する仕組みです。今後もサービス利用量の増加に伴い、保険料は上がることが見込まれています。

問 34 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
（あてはまる番号に1つ）

1. 保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである
2. サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである
3. 現在の保険料、介護保険サービスでよい
4. 介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである
5. わからない
6. その他（具体的に： _____ ）

緊急時の避難などについておたずねします

問 35 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで、避難できると思いますか？
（あてはまる番号に1つ）

1. できる（問36に進んで下さい）
2. できない

問 35-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 日中、援助してくれる家族がいない
2. 夜間、援助してくれる家族がいない
3. 日中、援助してくれる近所の方がいない
4. 夜間、援助してくれる近所の方がいない
5. 身体的に移動することが難しい
6. ひとりで判断することが難しい
7. その他（具体的に： _____ ）

（全員におたずねします。）

区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守る事が困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立っています。

問 36 あなたは、このような制度をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

1. 知っている	2. 名称は聞いたことがある	3. 知らない
----------	----------------	---------

問 37 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？
（あてはまる番号に1つ）

1. 住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい
2. 知らせたくない
3. わからない

健康・福祉サービスの情報入手についておたずねします

問 38 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか？（あてはまる番号に1つ）

1. 家族や親戚
2. 友人・知人、近所の人
3. 民生委員・児童委員
4. 区役所、特別出張所
5. 保健所・保健センター
6. 区民健康センター
7. 診療所・病院
8. ケアマネジャー
9. 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）
10. 区の広報紙
11. インターネット（区のホームページなど）
12. 特に入手していない
13. その他
〔具体的に： 〕

以下の設問（問 39～問 47）は、介護者の方がお答えください。

— 介護者がいない方は、問 48 にお進みください。 —

介護者の方におたずねします

（介護者がいない方は問 48 にお進みください）

問 39 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

1. 男性
2. 女性

問 40 あなたと調査対象者（ご本人）との関係はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

1. ご本人の配偶者
2. ご本人の娘
3. ご本人の息子
4. ご本人の娘・息子の配偶者（嫁・婿）
5. ご本人の兄弟姉妹
6. ご本人の親
7. その他の親戚
8. その他
〔具体的に： 〕

問 41 あなたはおいくつですか？ 平成 22 年 11 月 1 日現在の年齢でお答えください。

満（ ）歳 数字を記入してください

問 42 あなたは、調査対象者（ご本人）を、何年介護していますか？（あてはまる番号に1つ）

1. 1 年未満
2. 1 年以上 3 年未満
3. 3 年以上 5 年未満
4. 5 年以上 10 年未満
5. 10 年以上

問 43 あなたが、介護していて感じていたことは何ですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 人の役に立っているという充実感がある
2. 身内の介護をしている方とゆっくり話をする事ができた
3. 知人・友人で介護をしている方にアドバイスできた
4. 地域の高齢者支援への活動に興味があった
5. 身体的につらい（腰痛や肩こりなど）
6. 精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある
7. 睡眠時間が不規則になり、健康状態が悪わしくない
8. イライラして高齢者についてあたってしまっていることがある
9. 介護を放棄したくなることがある
10. 日中家を空けるのに不安を感じる
11. 自分の自由になる時間が持てない
12. サービスを思うように利用できない、サービスが足りない
13. 介護することに対して、周囲の理解が得られない
14. 身内に介護を協力してもらえない
15. 具体的な介護方法がわからない
16. 本人の病状への対応がわからない
17. 先の見通し、予定が立てられない
18. 経済的に負担を感じる
19. 特に負担を感じたことやつらいことはない
20. その他〔具体的に： 〕

問 44 介護保険サービスを利用して、良かったことは何ですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 介護の負担が減って、身体的・精神的に楽になった
2. 本人の状態が落ち着いたり、良くなったりして介護が楽になった
3. 相談相手があった
4. 特に良かったことはない
5. 介護保険サービスを利用していない
6. その他〔具体的に： 〕

→ 問 44-1 相談相手はどなたですか？（あてはまる番号に1つ）

1. ケアマネジャー
2. 訪問看護師
3. ホームヘルパー
4. その他〔具体的に： 〕

問 45 介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、何ですか？
(あてはまる番号すべてに)

1. 介護に関する相談機能の充実
2. 家族など介護者のリフレッシュのための制度
3. 家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実
4. 介護者同士の交流の場の充実
5. 介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置
6. 介護ボランティア・グループやNPO(民間非営利団体)の育成
7. 特になし
8. その他(具体的に:)

問 46 最近2週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？

毎日の生活に充実感がない。(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。
(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。
(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

自分は役に立つ人間だと思えない。(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

わけもなく疲れたような感じがする。(あてはまる番号に1つ)

1. はい
2. いいえ

問 47 あなたが介護をしている方(ご本人)には、認知症の症状がありますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. ある
2. ない (問 48 に進んで下さい。)

問 47-1 認知症の介護について、家族以外の、誰に相談していますか？
(あてはまる番号すべてに)

1. かかりつけ医
2. 認知症専門病院の医師・看護師等
3. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)職員
4. 区役所高齢者サービス課の職員
5. 保健センター保健師
6. 家族会・患者会
7. ケアマネジャー
8. ヘルパー
9. 民生委員
10. 親類・知人・友人
11. 誰に相談してよいかかわからない
12. 誰にも相談したくない
13. 相談する必要がある
14. その他(具体的に:)

(全員におたずねします。)

問 48 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

—— ご協力ありがとうございました ——
ご記入が済みましたら同封の返信用封筒(切手不要)で、お早めにご返送ください。

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査のお願い

日頃より新宿区の高齢者保健福祉行政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らしていくために、「高齢者保健福祉計画」及び「介護保険事業計画」を策定し、区のめざすべき基本的な目標や施策の方向性を明らかにしています。
来年度、これらの計画の見直しを行うにあたり、その検討の基礎資料とするため、調査を実施します。

この調査は、新宿区内にお住まいの40～64歳の方(介護保険の第2号被保険者)で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方を対象に行うものです。介護保険の第2号被保険者として介護保険料をご負担している皆様方から、日頃の生活や保健福祉サービスについてのお考えをお伺いするものです。調査をさせていただきます方は、無作為抽出により選ばせていただきます。

調査票にはお名前を書いていただく必要はありません。また、回答の内容はすべて統計的に処理をしますので、個人が特定されるようなことはありません。調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ながら、**12月6日(月)までに、同封の返信用封筒にてご返送ください**ますようお願いいたします(切手を貼る必要はありません)。

平成22年11月
新宿区福祉部福祉課

この調査は宛名のご本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合は、ご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。また、下の枠のいずれかに をつけ、同封の封筒で調査票を返送してください。

1. ご本人 2. ご家族 3. その他(具体的に:)

この調査は、11月1日現在の情報でお送りしています。
ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに をつけ、同封の封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. 死亡
5. その他(具体的に:)

ご記入にあたっては、以下の点にご注意ください。

- ・この調査は、平成22年11月1日現在の状況でお答えください。
- ・回答は、あてはまる番号に をつけてください。
- ・ の数はそれぞれの質問の指示に従ってください。
- ・質問の回答が「その他」に該当する場合は()内に具体的に記入してください。
- ・調査内容についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】 新宿区福祉部福祉課 担当: 永井・須藤
〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03-5273-3517(直)

あなた（宛名ご本人）のことをおたずねします

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 男性
- 2. 女性

問2 あなたはおいくつですか？平成 22 年 11 月 1 日現在の年齢でお答えください。

満（ ）歳 数字を記入してください

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

地域は封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

- 1. 四谷
- 2. 算碓町
- 3. 櫻町
- 4. 若松町
- 5. 大久保
- 6. 戸塚
- 7. 落合第一
- 8. 落合第二
- 9. 柏木
- 10. 角管・区役所

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？それとも夫婦のみでお暮らしですか？なお、「3. その他」の場合は、世帯の人数もご記入ください。

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。（あてはまる番号に1つ）

- 1. ひとり暮らし
- 2. 夫婦のみ
- 3. その他（あなたを含めた世帯の人数を右にご記入ください）（ _____人）

問5 あなたのご職業はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 会社員、公務員、団体職員
 - 2. パート、アルバイト、非常勤など
 - 3. 自営業、自由業
 - 4. シルバー人材センターでの就労
 - 5. 専業主婦・主夫
 - 6. 無職
 - 7. その他
- 〔具体的に： _____〕

問5-1 あなたの勤務地はどちらですか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 新宿区内
- 2. 新宿区の近隣区（千代田区、港区、渋谷区、中野区、豊島区、文京区）
- 3. 近隣区以外の東京都内
- 4. 東京都以外

問6 あなたは何歳まで仕事をしたい（続けたい）ですか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 60歳まで
- 2. 65歳くらいまで
- 3. 70歳くらいまで
- 4. 元気な間はずっと働きたい
- 5. 今すぐにも辞めたい
- 6. わからない
- 7. その他〔具体的に： _____〕

問7 現在の暮らし向きはどうですか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. ゆとりがある
- 2. ややゆとりがある
- 3. やや苦しい
- 4. 苦しい

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 80万円未満
- 2. 80万円以上200万円未満
- 3. 200万円以上300万円未満
- 4. 300万円以上500万円未満
- 5. 500万円以上700万円未満
- 6. 700万円以上1000万円未満
- 7. 1000万円以上
- 8. わからない

問9 あなたは、高齢の方（身内の方に限る）の介護をした経験がありますか？（あてはまる番号に1つ）

- 1. 現在介護している
 - 2. 現在はしていないが、過去に介護したことがある
 - 3. 介護をしたことはない
- （ _____ ）
- （ _____ ）
- （ _____ ）

(問9で「1.現在介護している」「2.現在はしていないが、過去に介護したことがある」と答えた方におたずねします。)

問9-1 介護をしていて感じたことは何ですか？(あてはまる番号に1つ)

1. 人の役に立っているという充実感がある
2. 介護を受けている身内の方とゆっくり話をすることができる
3. 知人・友人で介護をしている方にアドバイスできる
4. 地域の高齢者支援の活動に興味をわく
5. 身体的につらい(腰痛や肩こりなど)
6. 精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある
7. 睡眠時間が不規則になり、健康状態が悪くならない
8. イライラして高齢者についてあたってしまったことがある
9. 介護を放棄したくないことがある
10. 日中家を空けるのに不安を感じる
11. 自分の自由になる時間が持てなかった
12. サービスを思うように利用できない、サービスの足りないことがある
13. 介護することに対して、周囲の理解が得られない
14. 身内に介護を協力してもらえない
15. 具体的な介護方法がわからない
16. 本人の病状への対応がわからない
17. 先の見通し、予定が立てられない
18. 経済的に負担を感じる
19. 特に負担を感じたことやつらいことはない
20. その他〔具体的に： _____ 〕

お住まいについておたずねします

問10 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？(あてはまる番号に1つ)

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満
4. 20年以上30年未満
5. 30年以上

問11 お住まいはどれですか？(あてはまる番号に1つ)

1. 持家一戸建て(自己又は家族所有のビルを含む)
2. 分譲マンション
3. 借家一戸建て
4. 都営住宅
5. その他の公共住宅(UR(旧公団)・公社・区営など)
6. 民間の賃貸アパート・マンション
7. 社宅・公務員住宅
8. その他〔具体的に： _____ 〕

健康状態などについておたずねします

問12 あなたは健康だと思いますか？(あてはまる番号に1つ)

1. とても健康
2. まあまあ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問13 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？(あてはまる番号すべてに)

1. 毎日規則正しい生活をおくる
2. 食生活や栄養に気をつける
3. からだを動かすように心がける
4. 健康診断を定期的に受ける
5. アルコールを控える
6. タバコを控える・禁煙する
7. 睡眠や休養を十分にとる
8. ストレスをためないよう気をつける
9. 体に変調がみられた際には、すぐにかかりつけ医・かかりつけ歯科医に相談する
10. 特に実行していることはない
11. その他〔具体的に： _____ 〕

問14 現在治療中の病気がありますか？(あてはまる番号に1つ)

1. ある
2. ない (問15に進んで下さい。)

問14-1 治療中の病気はどれですか？(あてはまる番号すべてに)

1. 高血圧症
 2. 高脂血症(コレステロールや中性脂肪が多い)
 3. 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、脳卒中等)
 4. 心臓病
 5. がん(悪性新生物)
 6. 糖尿病
 7. 骨折・骨粗しょう症
 8. 関節の病気(リウマチ・変形性膝関節症等)
 9. 難病(パーキンソン病等)
 10. 眼科疾患
 11. 認知症
 12. うつ病
 13. うつ病以外の精神科疾患
 14. その他
- (具体的に： _____)

(問14-2に進んで下さい。)

問 14-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 診療所・クリニック(通院) } (問 15 に進んで下さい。)
 2. 診療所・クリニック(往診)
 3. 診療所・クリニック(通院と往診)
 4. 国公立病院
 5. 大学病院
 6. その他の病院
 7. その他 (具体的に：) (問 15 に進んで下さい。)

問 14-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 専門診療を受けたいから
 2. 悪くなったときに入院できると思うから
 3. 長年その病院へ通院しているから
 4. 地域のどの診療所・クリニックにかかったらよいかわからない
 5. その他 (具体的に：)

(全員におたずねします。)

問 15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？

ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。「かかりつけ医」の役割として、地域において日常的な医療を提供したり、健康相談を行うことが挙げられます。
 (あてはまる番号に1つ)

1. いる 2. いない

問 16 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 常に必要である
 2. 継続して治療を要する病気になる必要とならなければならない
 3. 必要でない
 4. どちらともいえない
 5. その他 (具体的に：)

問 17 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 受診した 2. 受診していない (問 18 に進んで下さい。)

問 17-1 受診している歯科医療機関はどれですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 診療所・クリニック 3. 訪問歯科診療
 2. 病院・大学病院 4. その他 (具体的に：)

問 18 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのよう感じていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. ほぼ満足している
 2. やや不満だが日常生活には困らない
 3. 不自由や苦痛を感じている

問 19 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

1. いる 2. いない

問 20 「在宅療養」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. そう思う 2. そう思わない 3. その他 (具体的に：)

在宅療養とは、在宅で、往診などの医療や介護のサービスを受けながら生活することです。

問 21 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 介護してくれる家族等がいないこと
 2. 家族への負担
 3. 自宅に往診してくれる医師や訪問看護ステーションがわからないこと
 4. 急変したときの医療体制
 5. 自分が望む医療が受けられるかどうかかわからないこと
 6. 病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養準備
 7. 居住環境(部屋のつくり、広さなど)が整っていないこと
 8. 自宅での療養のことを相談できる場所がわからないこと
 9. お金がかかること
 10. 特に不安なことはない
 11. その他 (具体的に：)

問22 あなたは、「緩和ケア（ ）」について知っていますか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

緩和ケア

緩和ケアとは、がんなどの病氣や治療に伴う「体のつらさ」「心のつらさ」「生活のつらさ」など、さまざま「つらさ」を抱えた患者さんとそのご家族を、総合的に支えるケアのことです。

問23 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどこがいいですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 医療機関に入院して、治療を受けたい
2. 自宅で往診を受けながら、緩和ケアを受けたい
3. 自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい
4. その他〔具体的に： 〕

いきがいつくりや社会参加についておたずねします

問24 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？
(あてはまる番号すべてに)

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1. 職業・仕事 | 8. 家族との団らん |
| 2. 町会・自治会・子ども会などの地域活動 | 9. 孫や子どもの成長 |
| 3. ボランティア活動等 | 10. 親の世話や介護 |
| 4. 趣味 | 11. 特になし |
| 5. スポーツ | 12. その他 |
| 6. 勉強・習い事 | 〔具体的に： 〕 |
| 7. 友人・仲間とすごすこと | |

問25 あなたは、現在、地域活動(町会、自治会、子供会など、以下同様)やボランティア活動等をしていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 現在、継続的にしている } (問25-3に進んで下さい。)
2. ときどき、している }
3. 以前したことがあるが、現在はほとんどしていません }
4. したことはない }

問25-1 現在、していない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 自分の健康や体力に自信がなくなった
2. 家族の介護等が必要となった
3. 自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった
4. 活動に際し適切な助言が受けられなかった
5. 一緒に活動をする仲間と気が合わなかった
6. 活動が期待はずれだった
7. 活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった
8. その他〔具体的に： 〕

(問25-3に進んで下さい。)

問25-2 したことがない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 関心がない
2. 気軽に参加できる活動がない
3. 一緒に取り組む仲間がいない
4. 自分の趣味等、他にやりたいことがある
5. 自分の健康・体力に自信がない
6. 家族に介護等を必要とする人がいる
7. 同じ地域の人と活動するのはわづらわしい
8. どのような活動が行われているか知らない
9. その他〔具体的に： 〕

(問25-3に進んで下さい。)

(全員におたずねします。)

問 25-3 興味のある地域活動やボランティア活動等(実際に取り組んでいるものも含む)はありますか?
(あてはまる番号すべてに)

1. 子どもの育成に関する活動 2. ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動 3. 障害や病気の人を支援する活動 4. 交通安全や犯罪防止、災害時の救援・支援など地域の安全を守る活動 5. 地域の伝統や文化を伝える活動 6. 地域の環境美化に関する活動 7. 近隣の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流・協力に関する活動 8. 特に興味のある活動はない 9. その他〔具体的に:]

問 25-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか?
(あてはまる番号に1つ)

1. 積極的にしてみたい 2. してみたい 3. あまりしてみたくない 4. してみたくない 5. わからない

問 25-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思えますか? (あてはまる番号すべてに)

1. 身近な場所で行われている 2. 一緒に活動する仲間がいる 3. 自分の資格や趣味等が活かせる 4. 活動団体から呼びかけがある 5. 金銭的な負担が小さい 6. 1回限りなど、日程の調整がしやすい 7. その他〔具体的に:]
--

問 26 あなたは、地域活動やボランティア活動等に活かしたいと考えている特技・資格・経験などはありますか?
また、ある方は、その内容を具体的に記入ください。
(あてはまる番号に1つ)

1. ある〔具体的に:] 2. ない

認知症についておたずねします

問 27 あなたは、ここ6か月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感ずることがありますか? (あてはまる番号に1つ)

1. ある 2. ない (問28に進んで下さい。)

問 27-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか?
(あてはまる番号に1つ)

1. した 2. していない

問 27-2 どちらに相談しましたか? (あてはまる番号すべてに)

1. かかりつけ医 (「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします) 2. 病院の内科、神経内科、精神科など 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院 4. 精神科・神経科専門の病院・診療所 5. 保健所・保健センター 6. 区役所高齢者サービス課 7. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター) 8. その他〔具体的に:]
--

問 27-3 相談していない理由はどれですか? (あてはまる番号すべてに)

1. 年だから仕方がないと思う 2. 相談するほどのことではない 3. 相談することのためにためらいがある〔具体的に:] 4. 相談場所が分からない 5. その他
--

(全員におたずねします。)

問 28 あなたは、「若年性認知症()」という病気をご存じですか?
(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

若年性認知症

若年性認知症とは、65歳未満で発生する認知症を指します。原因になる疾患は、アルツハイマー病、脳血管障害、前頭側頭葉変性症等様々ですが、働き盛りに発症するために本人や家族は、経済面や心理面等において負担は大きいといえます。

区では、地域のみなさんを対象として「認知症サポーター」(認知症について正しい理解を持ち、認知症の人の応援者としてご本人やご家族を温かく見守る人)になるための講座を開催しています。認知症サポーター養成講座は、90分を1回受講します。だれでも受講することができ、受講後に認知症サポーターのしるしである「オレンジリング」を差し上げます。受講料は無料です。

問 29 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

問 30 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 受講したい 2. 受講したくない 3. すでに受講した

問 31 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実のために、何が必要だと思いますか？

(あてはまる番号すべてに)

1. 認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする
 2. かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること
 3. かかりつけ医と専門医の連携体制の充実
 4. 身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること
 5. 認知症予防教室・講座の充実
 6. 認知症の手エック票などを用いて早期発見できる体制の整備
 7. 支援のための相談窓口の充実
 8. 認知症サポーターが地域に増えること
 9. わからない
 10. その他(具体的に:)

問 32 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度()」をご存じですか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 成年後見制度をすでに利用している
 2. どのような制度かは知っているが、制度を利用していない
 3. 制度の内容は知らないし、制度も利用していない

成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。具体的には、成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、その人らしい生活を守るため、法律面や生活面で支援するしくみです。

具体的には次のような支援があります

- ・介護サービスや医療を受ける際の手続きの支援
- ・預貯金の引き出しなど日常生活における金銭管理等の支援
- ・財産管理の支援
- ・物事の判断がなくなっても安心して任せられる人の選定

なお、区では成年後見制度の身近な相談窓口として新宿区社会福祉協議会の中に「新宿区成年後見センター」を設置しています。

「成年後見センター」

専門家の協力のもと、成年後見制度の説明や申し立て手続きのお手伝い、後見活動の相談やその活動の支援を行っています。

問 33 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 名称も、何をやる機関かも知っている
 2. 名称は聞いたことがあるが、どのようなことをやる機関かは知らない
 3. 名称も何をやる機関のかも知らない

問 34 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いませんか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したい
 2. 利用したくない
 3. 利用する必要がある(すでに成年後見制度を利用している)

介護が必要になった時のことについておたずねします

問 35 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いませんか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. ずっと自宅で生活を続けたい } (問36に進んで下さい。)
 2. 可能な限り自宅で生活を続けたい }
 3. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい }
 4. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい }
 5. その他 (下記記入の上、問36に進んで下さい。)
 [具体的に:]

→ 問 35-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 在宅での生活に不安がある
 2. 現在住んでいる住宅のつくりが介護を受けるのに適していない
 3. 現在の在宅介護サービスだけでは不十分
 4. 施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある
 5. 家族に負担をかけたくない
 6. 家族の介護が期待できない
 7. その他(具体的に:)

(全員におたずねします。)

問 36 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

1. 安心して住み続けられる住まいがある
 2. 近所の人の見守りや手助けがある
 3. 必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)
 4. 日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする場所がある
 5. 要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある
 6. 一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある
 7. 必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある
 8. いつでも入所できる介護施設がある
 9. 往診してくれる医療機関がある
 10. 弁当など食事を宅配してくれるサービスがある
 11. 調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある
 12. 健康・介護・生活相談ができる体制がある
 13. 近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある
 14. 水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況(安否など)を外部からチェックして
 くれる仕組みがある
 15. 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある(24時間365日)
 16. 介護者の負担を軽減する仕組みがある
 17. 低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある
 18. その他(具体的に:)

介護保険制度についておたずねします

介護保険は、40歳以上の区民の方が負担する保険料と公費(税金)を財源とする社会連帯の仕組みです。

介護保険料は、医療保険料と合わせて給与から差し引かれ、お支払いいただいています。介護保険制度は、介護サービス総費用に対する保険料、公費(税)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり総費用が増加すれば、保険料もそれに応じて上昇する仕組みです。今後もサービス利用量の増加に伴い、保険料は上がることが見込まれています。

問 37 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである
 2. サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである
 3. 現在の保険料、介護保険サービスでよい
 4. 介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである
 5. わからない
 6. その他(具体的に:)

情報や相談についておたずねします

問 38 あなたは新宿区のホームページをご覧になったことがありますか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 見たことがある
 2. 見たことがない

区には、高齢者を総合的にサポートする身近な相談機関として、区内各地域に「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」が設置されています。

問 39-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている
 2. 知らない

問 39-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？
 (あてはまる番号に1つ)

1. 知っている
 2. 知らない

問 39-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

1. 知っている
 2. 知らない

問 40 あなたは日ごろ、福祉のサービスや健康に関する情報をどのような手段で入手していますか？

(あてはまる番号すべてに)

1 . 家族や親戚	8 . ケアマネジャー
2 . 友人・知人、近所の人	9 . 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）
3 . 民生委員・児童委員	10 . 区の広報紙
4 . 区役所、特別出張所	11 . インターネット（区のホームページなど）
5 . 保健所・保健センター	12 . 特に入手していない
6 . 区民健康センター	13 . その他
7 . 診療所・病院	[具体的に：]

問 41 あなたは日ごろ、福祉のサービスに関して、誰（どこ）に相談していますか？

(あてはまる番号すべてに)

1 . 家族や親戚	9 . 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）職員
2 . 友人・知人、近所の人	10 . 民間の相談窓口や電話相談
3 . 民生委員・児童委員	11 . ケアマネジャー
4 . 区役所、特別出張所職員	12 . インターネットの相談サイト
5 . 保健所・保健センター職員	13 . 誰も相談する相手がいない
6 . 区民健康センター職員	14 . 特に相談したことはない
7 . 診療所や病院の医師	15 . その他 [具体的に：]
8 . 福祉施設・病院の職員	

問 42 あなたは日ごろ、ご家族や友人、知人以外で健康管理や病気にに関して、誰（どこ）に相談していますか？（あてはまる番号すべてに)

1 . 診療所や病院の職員（医師・看護師など）
2 . 職場の健康管理担当者（医師・看護師・保健師など）
3 . 利用している施設等の職員
4 . 民間の相談窓口や電話相談
5 . 保健所・保健センター職員
6 . 区民健康センター職員
7 . 特に相談したことはない
8 . その他 [具体的に：]

問 43 あなたに介護が必要になった場合、どのような相談体制を望みますか？

(あてはまる番号に1つ)

1 . 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）等の相談窓口で相談したい
2 . 保健センターの相談窓口で相談したい
3 . 自宅を訪問して相談にのってほしい
4 . 電話で気軽に相談できるようにしてほしい
5 . 電子メールやインターネットを通じて相談したい
6 . 特にない
7 . その他 [具体的に：]

問 44 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がございましたらご自由に記入ください。

--

—— ご協力ありがとうございました ——

ご記入が済みましたら同封の返信用封筒（切手不要）で、お早めにご返送ください。

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査のお願い

日頃より新宿区の高齢者保健福祉行政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、新宿区では高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の見直しの基礎資料とするため、調査を実施します。

この調査は、新宿区内の事業所で活動している介護支援専門員（ケアマネジャー）の皆様を対象に、サービスの現状やこれからの課題などについて伺います。

調査回答の内容はすべて統計的に処理をします。個人が特定されるようなことはありません。調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ながら、12月6日(月)まで、同封の返信用封筒にてご返送くださいますようお願いいたします(切手を貼る必要はありません)。

平成22年11月
新宿区福祉部地域福祉課

《ご記入にあたっては、以下の点にご注意ください》

回答については、ケアマネジャーの方が記入し、それぞれ同封の返信用封筒で返送してください。

この調査は、平成22年11月1日現在の状況でお答えください。

回答は、あてはまる番号に つけてください。

の数はそれぞれの質問の指示に従ってください。

質問の回答が「その他」に該当する場合は〔 〕内に具体的に記入してください。調査内容についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

〔お問合せ先〕

調査の全般については、

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

新宿区福祉部地域福祉課 担当：永井・須藤

電話 03-5273-3517(直)

調査の内容については、

新宿区福祉部介護保険課 担当：砂田・舟木

電話 03-5273-4596(直)

問1 あなたが所属する事業所の組織(法人格)はどれですか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 株式会社(特別有限会社を含む)	5. 財団法人
2. 合名・合資会社	6. 医療法人
3. 社団法人	7. 特定非営利活動法人(NPO 法人)
4. 社会福祉法人	8. その他
	[具体的に:]

問2 あなたの所属する事業所は、居宅介護支援事業の他に介護保険サ-ビス事業を運営していますか？ なお、同じ所在地内に限ります。
(あてはまる番号に1つ)

1. 居宅介護支援事業だけを運営している
2. 他の介護保険サ-ビス事業も運営している

問2-1 運営しているサ-ビス内容はどれですか。(あてはまる番号すべてに)
下記サ-ビスには介護予防も含めてお答えください。

1. 訪問介護	12. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホ-ム)
2. 訪問入浴介護	13. 介護老人保健施設(老人保健施設)
3. 訪問看護	14. 介護療養型医療施設
4. 訪問リハビリテーション	15. 夜間対応型訪問介護
5. 通所介護(デイサ-ビス)	16. 小規模多機能型居宅介護
6. 通所リハビリテーション(デイケア)	17. 認知症対応型通所介護
7. 福祉用具貸与	18. 認知症対応型共同生活介護
8. 福祉用具販売	19. 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護
9. 短期入所生活介護(ショートステイ)	20. 地域密着型特定施設入居者生活介護
10. 短期入所療養介護(ショートステイ)	21. その他
11. 特定施設入居者生活介護	[具体的に:]

問3 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか？

勤務形態等を問わず、実人数を記入してください。

() 人

問4 あなたの性別は？ (あてはまる番号に1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問5 おいくつですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 20 歳代	4. 50 歳代
2. 30 歳代	5. 60 歳代
3. 40 歳代	6. 70 歳以上

問6 勤務形態はどちらですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 常勤	2. 非常勤
-------	--------

問7 ケアマネジャーの経験年数はどれくらいですか？ (あてはまる番号に1つ)

1. 1 年未満
2. 1 年以上 3 年未満
3. 3 年以上 5 年未満
4. 5 年以上

問8 介護支援専門員以外に、お持ちの資格は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

1. 社会福祉士	11. 作業療法士
2. 介護福祉士	12. 栄養士(管理栄養士含む)
3. 精神保健福祉士	13. あん摩マッサージ指圧師
4. 医師	14. はり師・きゆう師
5. 歯科医師	15. 柔道整復師
6. 保健師	16. 薬剤師
7. 看護師	17. ホームヘルパー 1 級
8. 准看護師	18. ホームヘルパー 2 級
9. 歯科衛生士	19. その他
10. 理学療法士	[具体的に:]

ケアマネジメントの状況について

問9 あなたが担当している利用者数は何人ですか？

数字をご記入ください。

予防利用者数	()人
介護利用者数	()人

問10 あなたは課題を導きだすなど、十分なアセスメントが実施できていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. どの利用者に対してもできていると思う
2. 一部できていない利用者があると思う
3. できていないと思う

問10-1 十分に実施できなかつた理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

1. 適切なアセスメントシートがない
2. 自分の知識が不足しているため、課題を把握することが難しい
3. 利用者の協力が得られない
4. 利用者の家族の協力が得られない
5. 時間がないために、十分に行えない
6. 特にならない
7. その他(具体的に:)

問11 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)との連携はとれていますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. 十分連携がとれている
2. 連携のとれる内容ととれない内容がある
3. うまく連携がとれていない
4. どちらとも言えない
5. 連携をとる必要性を感じていない

問11-1 連携がとれない理由をお聞かせください。(あてはまる番号すべてに)

1. 自分の業務が忙しい
2. センターの担当者が忙しい
3. センターごとに職員のレベルや対応の違いがある
4. 普段センターの担当者や接する機会が少なく、担当者との連携がとりづらい
5. その他(具体的に:)

問12 医療との連携はとれていますか？(あてはまる番号に1つ)

1. 十分連携がとれている
2. うまく連携がとれない
3. どちらともいえない

問12-1 連携がとれない理由をお聞かせください。(あてはまる番号すべてに)

1. 自分自身に医療的な知識が不足している
2. 医師が協力的でない
3. 医師が介護保険制度に対する理解が少ない
4. 連携の必要性を感じない
5. その他(具体的に:)

問13 あなたにとって、ケアマネジメントで負担になっている業務はどれですか？
(あてはまる番号すべてに)

1. 利用者への面接
2. 居宅介護支援業務の説明や契約締結
3. 介護保険制度の説明
4. アセスメントの実施
5. ケアプランの作成
6. ケアプランの説明と交付
7. サービス担当者会議の開催
8. サービス事業者への連絡・調整
9. 保険外サービスの連絡・調整
10. 主治医との連携
11. 利用者宅の訪問
12. 利用者からの相談・連絡
13. 家族からの相談・連絡
14. モニタリング
15. 居宅介護支援経過の記録
16. 給付管理
17. 入所・入院先の相談・手配
18. 保険者への問い合わせ
19. その他(具体的に:)

問14 今までに、特養への入所申し込みをしたケースについてうかがいます。
その理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

1. 要介護度が高い
2. 本人の年齢が高い
3. 認知症に伴う問題行動が多い
4. 介護者がいない
5. 介護者に介護が困難な理由がある(要介護認定者、疾病・障害、育児中など)
6. 在宅介護の年数が長い
7. 居住環境が悪い(住宅改修が困難など)
8. 在宅サービスの利用割合(支給限度基準額との対比)が高い
9. 家族の介護放棄や虐待がある
10. 本人からの要望がある
11. 家族からの要望がある
12. 特養入所を勧めたことはない
13. その他(具体的に:)

問 15 あなたは、ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険のサービスはどれですか？ また、その理由は何ですか？

下記サービスには介護予防も含めてお答えください。

	ケアプランに組み込みにくいと思うサービス (あてはまるサービスに)	組み込みにくいと思う理由 (あてはまる番号すべてに)			
		1. サービスが不足している	2. サービス内容に関する知識が不足している	3. サービスを提供している事業所との連携が薄い	4. その他
1. 訪問介護		1	2	3	4
2. 訪問入浴介護		1	2	3	4
3. 訪問看護		1	2	3	4
4. 訪問リハビリテーション		1	2	3	4
5. 通所介護(デイサービス)		1	2	3	4
6. 通所リハビリテーション(デイケア)		1	2	3	4
7. 福祉用具貸与		1	2	3	4
8. 福祉用具販売		1	2	3	4
9. 短期入所生活介護(ショートステイ)		1	2	3	4
10. 短期入所療養介護(ショートステイ)		1	2	3	4
11. 夜間対応型訪問介護		1	2	3	4
12. 小規模多機能型居宅介護		1	2	3	4
13. 認知症対応型通所介護		1	2	3	4
14. 認知症対応型共同生活介護		1	2	3	4
15. 住宅改修		1	2	3	4

組み込みにくいと思う理由で「4.その他」に つづけた方は下表に具体的に記入してください。

サービス番号	その他具体的に

問 16 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なことは、何だと思えますか？
(あてはまる番号すべてに)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 安心して住み続けられる住まいがある 2. 近所の人の見守りや手助けがある 3. 必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日) 4. 日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする場所がある 5. 要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある 6. 一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある 7. 必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある 8. いつでも入所できる医療施設がある 9. 往診してくれる医療機関がある 10. 弁当など食事を宅配してくれるサービスがある 11. 調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある 12. 健康・介護・生活相談ができる体制がある 13. 近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある 14. 水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況(安否など)を外部からチェックしてくれる仕組みがある 15. 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある(24時間365日) 16. 介護者の負担を軽減する仕組みがある 17. 低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある 18. その他(具体的に:) |
|---|

問 17 あなたはケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか？
 (それぞれ、あてはまる番号に1つ)

やりがいがあると思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

人の役に立てる仕事だと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

専門知識・技能の必要な仕事だと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

業務量が過大な仕事だと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

精神的ストレスの大きい仕事だと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

社会的評価は高いと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

報酬は業務に見合っていると思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

介護福祉士や社会福祉士のような国家資格化は必要だと思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

ケアマネジャーの独立性・中立性・公平性は保たれていると思いますか？

1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそうは思わない 4. そうは思わない

問 18 あなたは研修に参加していますか？ (あてはまる番号に1つ)

1. はい 2. いいえ

問 18-1 どのような研修があなたのスキルアップにつながりましたか？
 (あてはまる番号に3つまで)

- 1. 基礎研修課程
- 2. 基礎研修課程
- 3. 専門研修課程
- 4. ケアマネジメント・リーダー養成
- 5. 困難事例の検討
- 6. ケアプランの作成・評価
- 7. 介護に関する知識
- 8. 介護予防に関する知識・技術
- 9. リハビリテーションに関する知識
- 10. 医学一般に関する知識
- 11. 住宅・住環境に関する知識
- 12. 福祉用具に関する知識
- 13. 認知症高齢者への対応
- 14. 成年後見制度などの権利擁護関連制度
- 15. 消費者問題などの法律知識
- 16. 介護福祉士、社会福祉士などの資格取得
- 17. 職業倫理に関する知識
- 18. その他
 (具体的に)

問 18-2 研修の主権はどこですか？ (あてはまる番号すべてに)

- 1. 行政(区、都、国)
- 2. 高齢者総合相談センター
- 3. ケアマネット(ケアマネジャーネットワーク新宿協議会)
- 4. 民間団体
- 5. 自社、団体内
- 6. その他(具体的に:)

(問 19 に進んで下さい。)

問 18-3 研修に参加しない理由をお聞かせください。
 (あてはまる番号すべてに)

- 1. 忙しくて時間が無い
- 2. スキルアップに対して、事業所の理解がない
- 3. スキルアップにつながる研修がない、または少ない
- 4. 研修や講習会に関する情報がない、または得にくい
- 5. 参加する為の費用を負担に感じる
- 6. 必要と思わない
- 7. その他(具体的に:)

(問 19 に進んで下さい。)

今後の意向について

問 19 あなたはこれからケアマネジャーを続けたいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

1. はい	2. いいえ	3. 迷っている
-------	--------	----------

(問 19-3 に選んで下さい。)

→ 問 19-1 今後、「主任ケアマネジャー」の資格を取得したいと思いませんか？
(あてはまる番号に1つ)

1. はい	2. いいえ	3. すでに取得している
-------	--------	--------------

→ 問 19-2 今後、独立して仕事をしたいと思いませんか？ (あてはまる番号に1つ)

1. はい	2. いいえ	3. すでに独立している
-------	--------	--------------

問 19-3 ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は何ですか？
(あてはまる番号すべてに)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当件数が多すぎる 2. ケアプラン作成以外の事務作業が多すぎる 3. 仕事に見合った報酬がもらえない 4. 利用者や家族からの相談や苦情処理への対応が大変である 5. 事業所内での支援が得られない 6. 事業所外の支援体制がない 7. その他〔具体的に：

問 19-4 迷っている理由をお聞かせください。

新宿区への要望について

問 20 ケアマネジャーの立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか？
(あてはまる番号すべてに)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険に関する情報提供 2. 質の向上のための研修 3. 不正な事業所の指導 4. 利用者への適正なサービス利用の啓発 5. 適正化についての情報提供 6. 高齢者総合相談センターの機能の充実 7. ケアマネット(ケアマネジャーネットワーク新宿協議会)への支援 8. 医療機関・訪問看護ステーションとの連携への支援 9. 特になし 10. その他〔具体的に：
--

問 21 ケアマネジャーの立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか？
(あてはまる番号それぞれ1つに)

	1	2	3	4	5
1. ひとり暮らし高齢者への支援	かなり充実	まあ充実	やや不足	かなり不足	わからない
2. 高齢者への就労支援	1	2	3	4	5
3. 要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいの確保(住宅改修・住み替えの支援など)	1	2	3	4	5
4. かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及	1	2	3	4	5
5. 在宅療養の支援体制	1	2	3	4	5
6. 近隣関係など地域のつながり・支え合い	1	2	3	4	5
7. 高齢者も参加できる地域活動・ボランティア活動	1	2	3	4	5
8. 高齢者総合相談センターの支援体制	1	2	3	4	5
9. 認知症高齢者への支援体制	1	2	3	4	5
10. 福祉・健康などに関する情報提供体制	1	2	3	4	5
11. 権利擁護への支援体制(新宿区成年後見センター)	1	2	3	4	5
12. 災害時の要介護者への支援体制	1	2	3	4	5

問22 あなたが、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で感じる、地域別の
 なお、地域区分が不明な場合や、区全体の課題などがございましたら、区全体欄に、
 地域
 課題など

(例) ボランティア活動が活発、町会や自治会の活動が活発、
 社会資源が足りない、高齢者総合相談センターと連携が

特性や課題などがございましたら、是非お聞かせください。
 ご記入をお願いします。

住居に不便を感じている利用者が多い、日常生活で困りごとを抱えている利用者が多い、
 とりにくい、地域のつながりが薄いなど

	【区全体】
1. 四谷特別出張所管轄	
2. 箕輪町特別出張所管轄	
3. 穂町特別出張所管轄	
4. 若松町特別出張所管轄	
5. 大久保特別出張所管轄	
6. 戸塚特別出張所管轄	
7. 落合第一特別出張所管轄	
8. 落合第二特別出張所管轄	
9. 柏木特別出張所管轄	
10. 角善特別出張所管轄	

問23 介護保険制度や日ごろ考えていることなど、ご意見をご自由にお書きください。
(自由意見等)

<p>(ケアマネジャーに対する支援として新宿区に期待すること)</p>

—— ご協力ありがとうございました ——

ご記入が済みましたら同封の返信用封筒(切手不要)で、お早めにご返送ください。

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査のお願い

日頃より新宿区の高齢者保健福祉行政にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、新宿区では高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の見直しの基礎資料とするため、調査を実施します。

この調査は、新宿区内で介護保険サービスを実施しているすべての事業所の皆様に、サービスの現状と、今後の事業展開等についてのお考えをお伺いするものです。

調査結果は計画見直しの基礎資料としてのみ使用します。また結果は、すべて統計的に処理しますので、公表するにあたっては貴事業所のお考えが特定されることはありません。

ご多忙の折、大変恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、誠に勝手ながら、12月6日(月)までに、同封の返信用封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。(切手を貼る必要はありません)。

平成22年11月
新宿区福祉部福祉課

《記入に際してのお願い》

この調査票は、同一所在地にある代表事業所に送らせていただいています。

同一所在地にある各事業所の状況を取りまとめお答えください。

また、問1～問4（事業運営状況など）は事業所単独では回答し難いものもあります。お手数ですが、この質問に関しては、貴事業所の運営主体の法人と調整のうえ、お答えください。

《記入方法について》

この調査は、平成22年11月1日現在の状況でお答えください。

回答は、あてはまる番号に をつけてください。

の数はそれぞれの質問の指示に従ってください。

質問の回答が「その他」に該当する場合は〔 〕内に具体的に記入してください。調査内容についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】

調査の全般については、

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

新宿区福祉部福祉課 担当：永井・須藤

電話 03-5273-3517(直)

調査の内容については、

新宿区福祉部介護保険課 担当：砂田・舟木

電話 03-5273-4596(直)

問1 貴事業所が、指定を受けているサービスについて、利用申込者への対応状況、

事業所 が、指定を 取得してい るサービス	現在の事業体制での (あてはまる)	
	1. 余裕が ある	2. あまり、 余裕はない
1 訪問介護	1	2
2 介護予防訪問介護	1	2
3 訪問入浴	1	2
4 介護予防訪問入浴	1	2
5 訪問看護	1	2
6 介護予防訪問看護	1	2
7 訪問リハビリテーション	1	2
8 介護予防訪問リハビリテーション	1	2
9 通所介護(デイサービス)	1	2
10 介護予防通所介護(デイサービス)	1	2
11 通所リハビリテーション(デイケア)	1	2
12 介護予防通所リハビリテーション(デイケア)	1	2
13 短期入所生活介護(ショートステイ)	1	2
14 介護予防短期入所生活介護(ショートステイ)	1	2
15 短期入所療養介護(ショートステイ)	1	2
16 介護予防短期入所療養介護(ショートステイ)	1	2
17 福祉用具貸与	1	2
18 介護予防福祉用具貸与	1	2
19 福祉用具販売	1	2
20 居宅介護支援(ケアマネ)	1	2
21 特定施設入居者生活介護	1	2
22 介護予防特定施設入居者生活介護	1	2
23 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)		
24 介護老人保健施設(老人保健施設)		
25 夜間対応型訪問介護	1	2
26 認知症対応型通所介護	1	2
27 介護予防認知症対応型通所介護	1	2
28 小規模多機能型居宅介護	1	2
29 介護予防小規模多機能型居宅介護	1	2
30 認知症対応型共同生活介護		
31 介護予防認知症対応型共同生活介護		
32 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護		
33 地域密着型特定施設入居者生活介護		

経営状況、今後4年間に於ける事業展開の意向についておたずねします。

利用申込者への対応状況 番号に1つ)	経営状況 (あてはまる番号に1つ)		今後4年間(平成26年度まで)の 新宿区内での事業規模の意向 (あてはまる番号に1つ)			
	3. 全く 余裕がない (利用を 断っている)	4. 曜日や 時間帯により 対応できない ことがある		5. 現在は 事業を休止 している		
1	3	4	5	1	2	3
2	3	4	5	1	2	3
3	3	4	5	1	2	3
4	3	4	5	1	2	3
5	3	4	5	1	2	3
6	3	4	5	1	2	3
7	3	4	5	1	2	3
8	3	4	5	1	2	3
9	3	4	5	1	2	3
10	3	4	5	1	2	3
11	3	4	5	1	2	3
12	3	4	5	1	2	3
13	3	4	5	1	2	3
14	3	4	5	1	2	3
15	3	4	5	1	2	3
16	3	4	5	1	2	3
17	3	-	5	1	2	3
18	3	-	5	1	2	3
19	3	-	5	1	2	3
20	3	-	5	1	2	3
21	3	-	5	1	2	3
22	3	-	5	1	2	3
23				1	2	3
24				1	2	3
25	3	4	5	1	2	3
26	3	4	5	1	2	3
27	3	4	5	1	2	3
28	3	4	5	1	2	3
29	3	4	5	1	2	3
30				1	2	3
31				1	2	3
32				1	2	3
33				1	2	3

問6 貴事業所では、人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取り組みを行っていますか？

また差し支えなければ、貴事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。

(あてはまる番号すべてに)

1. 近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している
2. 永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている
3. 能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている
4. 非正規職員から正規職員への登用機会を設けている
5. 外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている
6. 新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている
7. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている
8. 休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている
9. 上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている
10. 仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている
11. 職員への満足度（不満）調査を行い、事業所における課題の把握を行っている
12. 特に何も行っていない
13. その他

[]

【上記について(それ以外でもかまいません)具体的な貴事業所の取り組みをお聞かせください。】

問7 貴事業所の、本年度の収支状況（見込み）はどうですか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 「大幅に黒字」の見込み
2. 「やや黒字」の見込み
3. 「収支均衡」の見込み
4. 「やや赤字」の見込み
5. 「大幅に赤字」の見込み
6. わからない

問8 貴事業所の、昨年度と比較した収支状況はどうですか？

(あてはまる番号に1つ)

1. 昨年度よりは黒字
2. 昨年度と比較して横ばい
3. 昨年度よりは赤字
4. わからない(昨年度は事業を実施していない)

問9 国では、介護従事者の処遇改善を目的に、報酬を改定するなど、様々な取り組みをおこなっています。貴事業所では、処遇改善（給与や時給単価のアップなど）を図りましたか？（あてはまる番号に1つ)

1. 今般の処遇改善の流れを受けて、意識的に処遇改善を図った
2. 従前より処遇が充実しているため、従来そのままである
3. 処遇改善を図りたいが、国の制度の将来的な見通しが不透明であるため、着手していない
4. 処遇改善を図りたいが、赤字補てんのために、処遇改善に回す余裕がない
5. 処遇の改善は考えていない
6. その他(具体的に:)

問9-1 貴事業所の従業員にどのような効果があったと思えますか？

(あてはまる番号すべてに)

1. 離職率が下がった
2. 職場の雰囲気活性化した
3. 介護職員の増員ができた
4. あまり効果はみられなかった
5. その他(具体的に:)

問 14 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携がとれていますか？

（あてはまる番号に1つ）

1. 十分連携がとれている
2. 連携のとれる内容ととれない内容がある
3. うまく連携がとれていない
4. どちらとも言えない
5. 連携をとる必要性を感じていない

→ 問 14-1 連携がとれていない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

1. 自分の業務が忙しい
2. センターの担当者が忙しい
3. センターごとに職員のレベルや対応に違いがある
4. 普段センターの担当者とは接する機会が少なく、担当者との連携がとりづらい
5. その他（具体的に：）

問 15 要介護者等が、在宅で暮らし続けるために必要なことは、何だと思えますか？

（あてはまる番号すべてに）

1. 安心して住み続けられる住まいがある
2. 近所の人の見守りや手助けがある
3. 必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある（24時間 365日）
4. 日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする場所がある
5. 要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある
6. 一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある
7. 必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある
8. いつでも入所できる介護施設がある
9. 往診してくれる医療機関がある
10. 弁当など食事を宅配してくれるサービスがある
11. 調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある
12. 健康・介護・生活相談ができる体制がある
13. 近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある
14. 水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況（安否など）を外部からチェックしてくれる仕組みがある
15. 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある（24時間 365日）
16. 介護者の負担を軽減する仕組みがある
17. 低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある
18. その他（具体的に：）

問 16 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか？

（あてはまる番号すべてに）

1. 介護保険に関する情報提供
2. 質の向上のための研修
3. 不正な事業所の指導
4. 利用者への適正なサービス利用の啓発
5. 適正化についての情報提供
6. 高齢者総合相談センターの機能の充実
7. 新宿区介護サービス事業者協議会への支援
8. 特になし
9. その他（具体的に：）

問 17 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか？

（あてはまる番号それぞれ1つに）

	1	2	3	4	5
	かなり充実	まあ充実	やや不足	かなり不足	わからない
1. ひとり暮らし高齢者への支援	1	2	3	4	5
2. 高齢者への就労支援	1	2	3	4	5
3. 要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいの確保（住宅改修・住み替えの支援など）	1	2	3	4	5
4. かかりつけ医・かかりつけ歯科医の普及	1	2	3	4	5
5. 在宅療養の支援体制	1	2	3	4	5
6. 近隣関係など地域のつながり・支え合い	1	2	3	4	5
7. 高齢者も参加できる地域活動・ボランティア活動	1	2	3	4	5
8. 高齢者総合相談センターの支援体制	1	2	3	4	5
9. 認知症高齢者への支援体制	1	2	3	4	5
10. 福祉・健康などに関する情報提供体制	1	2	3	4	5
11. 権利擁護への支援体制（新宿区成年後見センター）	1	2	3	4	5
12. 災害時の要介護者への支援体制	1	2	3	4	5

問 18 貴事業所が、介護保険事業を新宿区内で展開している際に、地域別の特性や課題

なお、地域区分は、おおまかな目安でかまいません。地域が不明な場合や、

<p>地域(日常生活圏域) 課題など (例)ボランティア活動が活発、町会や自治会の活動が活発、車が入りにくい、地域のつながりが薄いなど</p>	
<p>東地区 (新宿 1~5 丁目、四谷、雑司町、権町、市谷、神楽坂など)</p>	
<p>中央地区 (戸山、大久保、戸塚町、新宿 6~7 丁目、高田馬場、西早稲田、百人町など)</p>	
<p>西地区 (西新宿、北新宿、落合など)</p>	

などがございましたら、是非お聞かせください。

区全体の課題などがございましたら、区全体の欄に、ご記入をお願いします。

<p>渋滞が多い、オートロックの建物が多く、社会資源が多い、関係機関との連携がとりにくい、</p>	<p>【区全体】</p>

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査報告書

印刷物作成番号 2010-16-2901

平成 23 年 3 月

発行：新宿区福祉部地域福祉課

〒160 - 8484 新宿区歌舞伎町一丁目 4 番 1 号

電話 03 - 5273 - 3517(直)

調査機関：株式会社 明治安田生活福祉研究所

〒100 - 0005 千代田区丸の内二丁目 1 番 1 号

電話 03 - 3283 - 8044